

課 稅 價 格

千圓以下の金額	千分の十	相續人が直系卑屬なるとき	千分の十	相續人が直系卑屬なるとき
千圓を超過する金額	千分の十二	相續人が配偶者又は直系尊屬なるとき	千分の十二	相續人が其他の者なるとき
五千圓を超過する金額	千分の十四		千分の十四	
一萬圓を超過する金額	千分の十七		千分の十七	
二萬圓を超過する金額	千分の二十		千分の二十	
三萬圓を超過する金額	千分の二十五		千分の二十五	
四萬圓を超過する金額	千分の三十五		千分の三十五	
五萬圓を超過する金額	千分の四十五		千分の四十五	
七萬圓を超過する金額	千分の五十五		千分の五十五	
十萬圓を超過する金額	千分の六十五		千分の六十五	
十五萬圓を超過する金額	千分の七十五		千分の七十五	
二十萬圓を超過する金額	千分の八十五		千分の八十五	
三十萬圓を超過する金額	千分の九十五		千分の九十五	
四十萬圓を超過する金額	千分の百五		千分の百五	
五十萬圓を超過する金額	千分の百二十五		千分の百二十五	
七十萬圓を超過する金額	千分の百三十五		千分の百三十五	
百萬圓を超過する金額	千分の百五十五		千分の百五十五	
二百萬圓を超過する金額	千分の百七十五		千分の百七十五	
三百萬圓を超過する金額	千分の百九十五		千分の百九十五	
五百萬圓を超過する金額	千分の百八十五		千分の百八十五	

遺 産 相 續 稅 率

七二四

甲 糖分を蔗糖として計算したる重量全重量の百分の七十を超えざるもの	百斤に付 二圓七十錢
乙 其他のもの	糖分を蔗糖として計算したる重量百斤に付七圓七十五錢の割合を以て算出したる金額

第二種 其他の糖蜜

甲 糖分を蔗糖として計算したる重量全重量の百分の六十を超えざるもの	百斤に付 九十錢
乙 其他のもの	百斤に付 貳圓二十五錢

三、糖水 百斤に付 六圓七十五錢

印紙稅

左に掲ぐる證書、帳簿に關しては證書は一冊毎に、帳簿は一冊一年以内の附込に對し不動産、鐵道財團、軌道財團又は船舶の所有權移轉に關する證書 五百圓以下 貳拾錢 消費貸借に關する證書 千圓以下 貳拾錢 請負に關する證書 一萬圓以上 壹圓 運送に關する證書 記載金高なきもの 參錢 備船契約書 記載金高なきもの 參錢

委 任 狀

約束手形  
爲替手形  
銀行預金證書  
産業組合又は産業組合聯合會の發する貯金證書  
産業組合聯合會、漁業組合、漁業聯合會、商業組合、工業組合聯合會、輸出組合又は輸出組合聯合會の發する出資證券  
船荷證券  
運送貨物引換證  
倉庫證券  
保險證券  
株 券  
債 券  
相互保險會社の發する基金證券、株式申込證  
社債申込證  
地上權、永小作權又は地役權に關する證書  
使用貸借、賃貸借、雇傭、寄託又は定期金に關する證書  
信託行爲に關する證書  
無盡に關する證書

貳 錢

參 錢

定款又は組合契約書  
權利の變更に關する證書  
追認又は承認に關する證書  
物品切手  
受取書  
質權、抵當權に關する證書  
前各號以外の證書、預金通帳  
預金通帳以外の通帳  
判 取 帳

五 錢  
五 拾 錢

登 録 稅

(一) 不動産に關する登記(第二條)

一 相續に因る所有權の取得  
不動産價格 千分の五

二 遺言、贈與其他無償名義に因る所有權の取得  
不動産價格 千分の四十五  
但し神社、寺院、祠宇、佛堂又は民法第三十四條に依り設立したる法人が無償名義又は寄附行爲に因り所有權を取得したるときは  
不動産價格 千分の三十五

三 前各號以外の原因に因る所有權の取得  
不動産價格 千分の三十三

四 所有權の保存  
不動産價格 千分の五

五 共有物の分割

分割に因りて受くる不動産の價格 千分の五

六 地上權、永小作權又は賃借權の取得

イ 存續期間十年以上のもの  
不動産價格 千分の一

ロ 同 二十年以下のもの  
不動産價格 千分の二

ハ 同 三十年以下のもの  
不動産價格 千分の四

ニ 同 五十年以下のもの  
不動産價格 千分の七

ホ 同 七十年以下のもの  
不動産價格 千分の十

ヘ 同 百年以下のもの  
不動産價格 千分の十五

ト 同 百年を超過するもの  
不動産價格 千分の二十

チ 存續期間の定めなきもの  
不動産價格 千分の一

リ 存續期間の定めなきものにして民法第二百六十八條若は第二百七十八條の規定の適用あるもの又は借地法第二條第一項の規定の適用あるもの  
不動産價格 千分の四

ヌ 相續に因る取得にして存續期間三



十年を超ゆるもの

不動産価格 千分の五  
權利移轉に因る取得の場合に於ては既に経過した期間を存続期間より控除し其の残期間を以て存続期間と看做す

七 地役權の取得

要役地價格 千分の一  
華族世襲財産の設定

九 先取特權の保存又は取得

債權金額又は不動産工事費用豫算金額 千分の五・五

十 質權、抵當權の取得

債權金額 千分の五・五

十一 信託の登記

イ 所有權に付ては

不動産價格 千分の四  
所有權以外の權利に付ては

十二 競賣・強制管理の申立

債權金額 千分の五・五

十三 假差押、假處分

債權金額 千分の四  
抵當ある債權の差押

債權金額 千分の五・五

十四 相續財産の分離

イ 所有權に付ては

不動産價格 千分の五・五  
所有權以外の權利に付ては

十六 滞納處分以外の原因に因る權利の處分の制限にして特に掲げざるもの

債權金額 千分の四

十七 抹消したる登記の回復

不動産每一箇 金四拾錢  
假登記 不動産每一箇 金四拾錢

十八 附記登記

不動産每一箇 金貳拾錢  
但し一件に付稅額金二圓を超ゆるときは二圓とす

十九 登記の更正、變更又は抹消

但し一件に付稅額金二圓を超ゆるときは二圓とす

二十 前項第一號乃至第三號の場合に於て共有物持分の取得に係るものは其の持分の價格に依る

(二) 船舶に關する登記(第三條)

一 相續に因る所有權の取得

船舶價格 千分の三  
遺言、贈與其他無償名義に因る所有

二十一 權の取得

船舶價格 千分の三・五  
前各號以外の原因に因る所有權の取得

二十二 委付

船舶價格 千分の三  
所有權の保存

二十三 質借權の取得

船舶價格 千分の三  
抵當權の取得

二十四 信託の登記

イ 所有權に付ては 船舶價格 千分の三  
所有權以外の權利に付ては

二十五 競賣の申立

債權金額 千分の五・五  
假差押、假處分

二十六 抵當ある債權の差押

債權金額 千分の五・五  
滞納處分以外の原因に因る權利の處分の制限にして特に掲げざるもの

二十七 登記證書を提出せずして受けたる特別登記簿の登記を登記簿に移す場合に於ける登記

債權金額 千分の四

移す場合に於ける所有權取得の登記(第三條の四)

一 不動産 不動産價格 千分の四・五  
但し神社、寺院、祠宇、佛堂又は

民法第三十四條に依り設立したる法人が元本の受益者又は歸屬權利者なるときは

船舶價格 千分の三・五

二 船舶 船舶價格 千分の三・五  
受託者より受益者又は歸屬權利者に不動産又は船舶を移す場合に於ける所有權取得の登記に付ては前項に該當する場合の外登録稅を課せず

三 鐵道抵當原簿又は軌道抵當原簿登録(第三條の五)

一 抵當權の取得

債權金額 千分の一

二 信託の登録

債權金額 千分の一

三 強制競賣、強制管理の申立

債權金額 千分の一

四 登録の更正、變更又は抹消

每一件 金貳圓

五 工場財團登記簿、鑛業財團登記簿又は漁業財團登記簿の登記(第三條の六)

一 抵當權の取得

債權金額 千分の一

船舶每一箇 金壹圓

抹消したる登記の回復

船舶每一箇 金四拾錢

假登記 船舶每一箇 金四拾錢

附記登記 船舶每一箇 金貳拾錢

登記の更生、變更又は抹消

船舶每一箇 金貳拾錢

前項第一號乃至第三號の場合に於て共有物持分の取得に係るものは其の持分の價格に依る

(三) 信託財産たる不動産又は船舶を委託者より受託者に移す場合に於ける所有權取得の登記(第三條の一)

一 委託者が元本の歸屬權利者にして委託者以外の者又は委託者と委託者以外

の者との受益者たる信託

不動産價格 千分の四

二 船舶 船舶價格 千分の三

委託者が收益の受益者にして委託者以外の者又は委託者と委託者以外

の者との受益者又は歸屬權利者なる信託にして信託財産の處分を目的とするもの

不動産價格 千分の四・五  
但し神社、寺院、祠宇、佛堂又は民法第三十四條に依り設立したる

便覽



- 二 信託の登記 債権金額 千分の一
  - 三 競賣、強制管理の申立 債権金額 千分の一
  - 四 假差押、假處分 債権金額 千分の一
  - 五 抵當ある債権の差押 債権金額 千分の一
  - 六 滞納處分以外の原因に因る権利の處分の制限にして特に掲げざるもの 債権金額 千分の一
  - 七 抹消したる登記の回復 每一件 金貳圓
  - 八 假登記 每一件 金貳圓
  - 九 附記登記 每一件 金貳圓
  - 十 登記の更生、變更又は抹消 每一件 金貳圓
- (七) 農業用動産の抵當權登記(第三條の七)
- 一 抵當權の取得 債権金額 千分の二
  - 但し税額金二十錢未滿なるときは二十錢とす
  - 二 抹消したる登記の回復 金拾錢
  - 三 農業用動産 每一箇 金拾錢
  - 四 假登記 同 金拾錢
  - 五 附記登記 同 金五錢
- 但し一件に付税額金一圓を起ゆると

- 五 登記の更正、變更又は抹消 農業用動産 每一箇 金十錢
  - 但し一件に付税額金一圓を起ゆるときは金一圓とす
- (八) 船籍の登録(第四條)
- 一 新規登録 每十噸 金五拾錢
  - 二 轉籍 每十噸 金拾錢
  - 三 除籍 每十噸 金五錢
  - 四 登録の變更 船舶每一箇 金拾錢
- (九) 商會社其の他營利を目的とする法人の登記(第六條)
- 一 合名會社、合資會社設立 財産を目的とする出資の價格 千分の五
  - 二 合名會社、合資會社出資増加 財産を目的とする増出資の價格 千分の五
  - 三 株式會社設立 拂込株金額 千分の五
  - 四 株式會社資本増加 増資拂込株金額 千分の五
  - 五 株式會社第二回以後の株金拂込 每回拂込株金額 千分の五
  - 六 株式合資會社設立 拂込株金額及財産を目的とする株

- 七 金以外の出資の價格 千分の五
- 株式合資會社資本増加 増資拂込株金額及財産を目的とする株金以外の出資の價格
- 八 株式合資會社第二回以後の株金拂込 每回拂込株金額 千分の五
- 九 合併又は組織變更に因る會社の設立 拂込株金額及財産を目的とする株金以外の出資の價格 千分の一
- 但し合併に因り消滅したる會社又は組織變更を爲したる會社の合併當時又は組織變更當時の拂込株金額及財産を目的とする株金以外の出資の價格を超過する金額に付ては
- 十 合併に因る會社資本の増加 増資拂込株金額及財産を目的とする株金以外の出資の價格 千分の一
- 但し合併に因り消滅したる會社の合併當時の拂込株金額及財産を目的とする株金以外の出資の價格を超過する金額に付ては 千分の五
- 十一 社債又は第二回以後の社債拂込 商法第二百四條の拂込ありたる日

- (賣出の方法に依り發行したる場合に於ては賣出満了の日)より最終の償還期限に至る期間一年以下のもの
- 一 每回拂込金額 千分の一
  - 同 三年以下のもの
  - 二 每回拂込金額 千分の二
  - 同 三年を起ゆるもの
  - 三 每回拂込金額 千分の三
  - 但し産業債券、農工債券、北海道拓殖債券、興業債券、勸業債券又は東洋拓殖債券に付ては千分の二
  - 十四 本店又は支店の移轉 每一件 金拾圓
  - 十五 支配人の選任又は代理權の消滅 每一件 金拾圓
  - 十六 登記事項の變更消滅又は廢止 每一件 金拾圓
  - 十七 登記の更生又は抹消 每一件 金拾圓
  - 十八の二 合名會社、合資會社設立の取消 每一件 金七圓
  - 十九 解散 每一件 金七圓
  - 二十 清算人の選任解任又は變更 每一件 金貳圓

- 十九 清算の結了 每一件 金貳圓
- 支店所在地に於て前項各號の登記を受くるときは每一件金貳圓、朝鮮、臺灣、關東州、樺太、若は南洋群島に於ける法人又は外國會社が登記を受くるるとき亦同じ、第一號第三號第六號第九號の場合に於て税額金二十圓未滿なるときは
- (十) 商業の新設其他に關する登記(第六條の二)
- 一 商號の新設又は取得 每一件 金拾圓
  - 二 支配人の選任又は代理權の消滅 每一件 金拾圓
  - 三 船舶管理人の選任又は代理權の消滅 每一件 金拾圓
  - 四 商法第五條第七條に依る登記 每一件 金五圓
  - 五 民法第七百九十四條第七百九十五條及第七百九十七條に依る登記 每一件 金五圓
  - 六 登記事項の變更消滅又は廢止 每一件 金貳圓
  - 七 登記の更正又は抹消 每一件 金貳圓
- 支店所在地に於て前各號の登記を

- 受くるときは 每一件 金壹圓
- (十一) 辯護士名簿の登録(第七條)
- 一 新規登録 金貳拾圓
  - 二 登録換 金拾圓
  - 三 取消の請求 金壹圓
- (十二) 醫師其他の官簿登録(第八條)
- 一 新規登録 金貳拾圓
  - イ 醫師 金拾貳圓
  - ロ 藥劑師 金拾貳圓
  - ハ 獸醫 金拾貳圓
  - ニ 蹄鐵工 金五圓
  - ホ 假免許獸醫 金五圓
  - ヘ 假免許蹄鐵工 金參圓
  - ト 假免許事項の變更 每一件 金壹圓
- (十三) 海員の官簿登録(第九條)
- 一 新規登録 金拾五圓
  - イ 甲種船長 金拾圓
  - ロ 甲種一等運轉士 金六圓
  - ハ 甲種二等運轉士 金拾圓
  - ニ 乙種船長 金四圓
  - ホ 乙種一等運轉士 金參圓
  - ヘ 乙種二等運轉士 金六圓
  - ト 丙種船長 金貳圓
  - チ 丙種運轉士 金貳圓



- 機關長 金拾五圓
- 一等機關士 金拾圓
- 二等機關士 金六圓
- 三等機關士 金參圓
- 水先人 金貳拾圓
- 二 登録事項の變更 每一件 金五拾錢
- (七) 著作權に關する登録(第十條)
  - 一 著作權の移轉
    - イ 相續 每一件 金壹圓
    - ロ 相續以外の原因に因る移轉 每一件 金五圓
  - 二 著作權を目的とする質權の設定 債權金額 千分の五・五
  - 三 前號の權利の移轉
    - イ 相續 每一件 金五拾錢
    - ロ 相續以外の原因に因る移轉 每一件 金壹圓
  - 四 無名又は變名著作物の著作者の實名登録 每一件 金貳圓
  - 四の二 信託の登録 每一件 金壹圓
  - 五 登録の更正、變更又は抹消 每一件 金貳拾錢
- (十五) 特許に關する登録(第十一條)
  - 一 特許權の移轉
    - イ 相續 每一件 金壹圓
    - ロ 相續以外の原因に因る移轉 每一件 金壹圓

- 二 實施權の設定又は保存 每一件 金拾圓
- 三 前二號の權利を目的とする質權の設定 債權金額 千分の五・五
- 四 前二號の權利の移轉
  - イ 相續 每一件 金五拾錢
  - ロ 相續以外の原因に因る移轉 每一件 金貳圓
- 五 信託の登録 每一件 金貳圓
- 六 滯納處分以外の原因に因る第一號乃至第三號の權利の處分の制限 債權金額 千分の四
- 七 代理人の選任又は代理權の登録 債權金額 千分の四
- 八 抹消したる登録の回復 每一件 金五拾錢
- 九 假登録 每一件 金五拾錢
- 十 登録の更正、變更又は抹消 每一件 金五拾錢
- (六) 意匠に關する登録(第十二條)
  - 一 意匠權の移轉
    - イ 相續 每一件 金壹圓
    - ロ 相續以外の原因に因る移轉 每一件 金貳圓
  - 二 實施權の設定又は保存 每一件 金貳圓
- (七) 實用新案に關する登録(第十二條の二)
  - 一 實用新案權の移轉
    - イ 相續 每一件 金壹圓
    - ロ 相續以外の原因に因る移轉 每一件 金五圓
  - 二 實施權の設定又は保存 每一件 金貳圓
  - 三 前二號の權利を目的とする質權の設定 債權金額 千分の五・五

- 定 債權金額 千分の五・五
- 四 前二號の權利の移轉
  - イ 相續 每一件 金五拾錢
  - ロ 相續以外の原因に因る移轉 每一件 金壹圓
- 五 信託の登録 每一件 金壹圓
- 六 滯納處分以外の原因に因る第一號乃至第三號の權利の處分の制限 債權金額 千分の四
- 七 代理人の選任又は代理權の登録 債權金額 千分の四
- 八 抹消したる登録の回復 每一件 金五拾錢
- 九 假登録 每一件 金五拾錢
- 十 登録の更正、變更又は抹消 每一件 金貳拾錢
- (十) 商標に關する登録(第十三條)
  - 一 商標權の移轉
    - イ 相續 每一件 金壹圓
    - ロ 相續以外の原因に因る移轉 每一件 金拾圓
  - 二 信託の登録 每一件 金貳圓
  - 三 代理人の選任又は代理權の登録 每一件 金五拾錢
  - 四 抹消したる登録の回復 每一件 金五拾錢

- 五 假登録 每一件 金五拾錢
- 六 登録の更正、變更又は抹消 每一件 金五拾錢
- (十九) 鑛業權に關する登録(第十四條)
  - 一 試掘權の設定 每一件 金百圓
  - 二 試掘權の變更
    - イ 増區又は増減區 每一件 金四拾五圓
    - ロ 減區 每一件 金拾圓
  - 三 試掘權の移轉
    - イ 相續 每一件 金拾圓
    - ロ 相續以外の原因に因る移轉 每一件 金四拾五圓
  - 四 採掘權の設定
    - イ 新規登録 每一件 金五拾圓
    - ロ 鑛區合併 每一件 金五拾圓
    - ハ 鑛區分割 設定鑛區 每一件 金五拾圓
  - 五 採掘權の變更
    - イ 鑛區訂正 每一件 金五拾圓
    - ロ 増區又は増減區 每一件 金百圓
    - ハ 減區 每一件 金貳拾圓
  - 六 採掘權の移轉
    - イ 相續 每一件 金貳拾圓
    - ロ 相續以外の原因に因る移轉 每一件 金貳拾圓
- 七 抵當權の設定
  - イ 新規登録 債權金額 千分の五・五
  - ロ 鑛業法第三十五條第二項に基き爲したる承諾及協定に因る設定 每一件 金五圓
  - 八 順位の變更に因る抵當權の變更 每一件 金拾圓
  - 九 抵當權の移轉
    - イ 相續 每一件 金五圓
    - ロ 相續以外の原因に因る移轉 每一件 金拾圓
  - 十 信託の登録 每一件 金拾圓
  - 十一 共同鑛業權者脱退 每一件 金五圓
  - 十二 滯納處分以外の原因に因る鑛業權又は抵當權の處分の制限 債權金額 千分の四
  - 十三 廢業に因る鑛業權の消滅 每一件 金五圓
  - 十四 抹消したる登録の回復 每一件 金四拾錢
  - 十五 假登録 每一件 金四拾錢
  - 十六 登録の更正、變更又は抹消 每一件 金貳拾錢
- (二十) 砂鑛業に關する登録(第十五條)











◎速達郵便

(注意) 速達小包郵便物の重量は二キログラムを超過すべからず、速達郵便物は其の表面看易き場所に「速達」の文字を朱

小包郵便料

◎同一郵便区内(書) 普通 留 通 其の他

六十二錢

記すべし、同一の差出人より同一の受取人に宛て同時に二箇以上差出すときは内一箇を除き他は前記料金の半額とす

Table of postage rates for various regions and weights, including categories like '普通', '留', '通', and '其の他'.

外國郵便

◎通常郵便料 中華民國及滿洲國以外の諸國

書狀 二十グラム迄 十錢 二十グラムを超過する二十グラム毎又は其の端數毎に 六錢

印刷物 印刷物(五十グラム毎又は其の端數毎に) 二錢 盲人用點字の印刷物(一キログラム毎に) 一錢五厘

◎航空料

本邦の航空郵便業務に依る郵便物

書狀(宛無封書) 十五グラム毎に 十五錢

Table for domestic and regional postage rates, including '内地郵便' and '朝鮮郵便'.

◎價格表記料 通常郵便物 中國宛のものに表記金額百二十圓毎に 十錢

◎代金引換料

中國宛通常郵便物は八錢及代金引換金額二圓迄若其の端數毎に一錢。中國以外は二十錢及代金引換金額又は其の換算額二圓每若其の端數毎に一錢。

航空郵便

外國に差立準備著手後は書留書狀第一通分の料金に相當する金額

◎別配運料

通常郵便物 中國宛及聯合の約定 加入國以外の外國宛 聯合の約定加入國宛

朝地内

Table for domestic postage rates, including '普通郵便' and '航空郵便'.

間互相地内

Table for inter-regional postage rates, including '普通郵便' and '航空郵便'.

東京新潟間(東京、新潟)自五月十五日 東京清水間(東京、下田、清水)自五月一日至八月三十一日期間施行



便覽

朝鮮

第三種	七十五グラム毎に	五十錢
第四及第五種	ラム毎に	五十錢
小包郵便	一キログラム迄	二圓
郵便物	以上五百グラム毎に	一圓

◎日滿航空郵便取扱料

種類及重量單位	内地より 滿洲國內 送るもの	朝鮮(新 義州を除 く)より 同上	滿洲(新 義州及大 連を含む 航空送る もの)
書狀十五 グラム迄	三十五錢	二十錢	十五錢
無封書狀三十 五グラム毎に	三十五錢	二十錢	十五錢

國內電信

◎電報料

種別	報	報
同一市町村内	私	官
内地小笠原島間、内地又は小笠原島	官報	官報
と臺灣、樺太、朝鮮及南洋ヤップ島間	私報	私報
前各號以外	私	官

記表格價

物箱	以上五 グラム毎	三十錢	二十錢	十錢
狀書	十五グラ ム毎に	三十五錢	二十錢	十五錢
印刷物其他七十 五グラム毎に		七十五錢	五十錢	三十五錢
信返信各別に		十八錢	十錢	七錢
葉書(往復は往 信返信各別に)		十八錢	十錢	七錢

◎外國郵便の項参照

◎特殊取扱料

至急料 官報 通常電報料の二倍  
私報 通常電報料の三倍

照校料 電報料の四分の一

電報受信 和文 十五字に相當する電報料  
歐文 十五字に相當する電報料に  
同じ

郵便受信報知料 三錢

同文料 十五錢

外國郵送料 支那に宛つるもの 十三錢  
其他の外國に宛つるもの 二十六錢

時間外料 三十錢

別使配達料 別に告示する場合を除く外著  
信電信官署より二里以内は三十錢、二里  
を超ゆる時は一里迄毎に二十五錢を加ふ  
但し島嶼に配達するものは里程に拘らず  
三十錢とし配達實費之を超ゆるときは其  
の實費額による

船配達料 別に告示する場合を除く外三  
十錢とし其の配達實費之を超ゆるときは  
其の實費額に依る

局渡證券料 局渡證券一箇毎に二十錢

略號登記料 常年額十二圓、臨時月額  
配達先登記料 一圓二十錢

開覽料 五錢

日滿電報

正寫料(和文二百字以内毎に 五十錢  
歐文二百五語以内毎に 十錢)  
追尾、再送電報料 追尾、再送とも一回毎  
に新に差出したるものとして計算す  
返信料前納 返信を受けんとするものは之  
に要する返信の電報料を前納することを得

電線託送料 一通に付三錢

◎年賀電報料 内地相互間並内地と朝鮮、  
臺灣及樺太との間に發着する私文電報、所  
定文例中より選定したる新年祝賀文によ  
る、取扱期間は毎年十二月三十日より翌年  
一月六日迄、料金は私報十五字に相當する  
電報料と同額。

洋ヤップ島間同二十錢、同十五錢  
豫約新聞電報料(一豫約に付年額)

内地間のもの	五百字以内	四百八十圓
内地小笠原島間	一千五百字以内	一千二百圓
内地小笠原島間	五百字以内	七百二十圓
と臺灣、樺太、朝鮮及南洋ヤップ島間	一千字以内	一千二百六十圓
	一千五百字以内	一千八百圓

豫約同文料 豫約新聞電報料の半額に同じ

◎無線電報料 海岸局又は船舶局に於て取扱をなす毎に左の料金を課す

◎新聞電報料

内地間のもの	五十字以	五十字以
内地小笠原島間内地	二十五錢	二十錢
又小笠原島と臺灣、樺太、朝鮮及南洋ヤップ島間	三十五錢	三十錢

至急料 新聞電報料の二倍

同文料 内地間五十字以内十五錢、五十字以内を増す毎に十錢、内地小笠原島間内地又は小笠原島と臺灣、樺太、朝鮮及南洋

新聞電報

通常料	五十字以内	二十五錢
同文料	五十字以内	二十錢
同文料	五十字以内	十五錢
同文料	五十字以内	十錢

和文 通常料 五十字以内 二十五錢  
同文料 五十字以内 十五錢

歐文 通常料 一語を増す毎に 二十五錢  
同文料 一語を増す毎に 十五錢

◎電報料

一、本邦内地、臺灣、樺太又は南洋ヤップ島と關東州、滿鐵附屬地、滿洲國又は芝罘との間 一語に付 六錢

私報 一語に付 八錢

二、朝鮮若ば芝罘と關東州、滿鐵附屬地、若ば滿洲國との間又は朝鮮と芝罘との間 官報私報共 一語に付 六錢

◎新聞電報料

一、本邦内地、臺灣、樺太又は南洋ヤップ島と關東州、滿鐵附屬地、滿洲國又は芝罘との間 一語に付 三錢

二、朝鮮若ば芝罘と關東州、滿鐵附屬地若ば滿洲國との間又は朝鮮と芝罘との間 一語に付 二錢

至急料 新聞電報料の二倍

同文膽寫料 原信本文の語數に依り十語迄毎に十錢

豫約新聞電報料

一、本邦内地、臺灣、樺太又は南洋ヤップ島と關東州、滿鐵附屬地又は滿洲國との間



便覽

一 豫約に 二百語以内 七百二十圓  
付年額 三百語以内 一千二百六十圓  
二、朝鮮と關東州、滿鐵附屬地又は滿洲國との間 一千八百圓

一 豫約に付年額 二百語以内 四百八十圓  
三百語以内 八百四十圓

無線電報料

一、別に定むるものを除くの外  
通常料(官報及私報) 一語に付 五錢  
新聞電報 一語に付 二錢  
二、艦船發着日滿無線電報の有線電信系上の傳送に對し左の有線電報料を課す  
一語に付(官報及私報) 六錢  
新聞電報 二錢

外國電報

外國電報に使用すべき文字はローマ字、數字はアラビヤ數字又ローマ數字。料金は特に定むる場合を除くの外金フランによる  
時間外料 一通に付 三十錢  
別使配達料 一通に付 一圓  
關覽料 一通に付 五錢  
寫眞膠本料 一通に付 一圓  
◎外國無線電報料 帝國政府陸上局の媒介に依る外國無線電報にして専ら帝國電信系により傳送するもの一圓の電氣通信線路

附加使用料

區域内 加入者 百十米迄毎に年額 四圓  
當該電話取扱局より八キロメートル以内の地は距離百十メートル迄毎に年額 五圓  
區域外 加入者 當該電話取扱局より八キロメートルを越ゆる部分の地は百十メートル迄毎に年額 七圓

長距離通話用電話機 一個毎に年額 十四圓  
卓上電話機 一個毎に年額 十八圓

土地種別

甲地 東京 大阪  
乙地 京都、名古屋、神戸  
丙地 横濱、廣島、福岡  
丁地 小樽、金澤、和歌山、岡山、下關、長崎、札幌、函館、仙臺、新潟、靜岡、鹿兒島、熊本、濱松、大森、岐阜、堺、御影、甲府、豊橋、富山、徳島、門司、福井、高知、旭川、松本、西宮、宇都宮、花原、姫路、高松、吳、長岡、中野、天下茶屋、久留米、小倉、佐世保(已地以下略)

便覽

系上の傳送に對する料金は一語に付六錢とす。

國內電話

Table with columns for '電話使用料' (Telephone Usage Fee) and '加入登記料' (Registration Fee). It lists various rates for different regions (甲地 to 壬地) and connection types (單獨加入, 共同線加入, 市內通話).

無線電話料

無線通話は三通話時迄繼續することを得。  
通話料 一通話時に付 二十錢  
但し市外電話線に接續する場合は當該通話區域の普通通話料又は至急通話料を附課す  
呼出料 一回に付 十五錢  
通話取消料 一回に付 十錢  
呼出取消料 一回に付 十錢  
受取證料 一通に付 三錢  
◎外地電話料  
△内地朝鮮間(一通話毎に) 五十圓  
連絡料(對馬國朝鮮間) 五十圓

料尾首

地内 下關より百キロメートル以内 十二錢  
七錢五厘、二百キロメートル以内 三錢  
超ゆる時は百二十キロメートル以内を以て増す毎に二十五錢を加ふ  
鮮朝 釜山より百キロメートル以内 十錢  
三錢五厘、二百キロメートル以内 七錢五厘、二百二十キロメートル以内を以て増す毎に二十五錢を加ふ  
△内地臺灣間(一通話時毎に) 六圓  
△内地樺太間(一通話時毎に) 七十五錢  
連絡料

郵便爲替

◎郵便爲替證書金額制限  
通常爲替 證書一枚に付 金三百圓以内  
電信爲替 金五百圓以内  
小爲替 金二十圓以内  
(注意) 通常爲替及小爲替は錢位未滿電信爲替は圓位未滿の端數を附するを得ず  
◎一般爲替料  
小爲替 通常爲替 電信爲替  
一圓迄 一圓迄 一圓迄  
二圓迄 二圓迄 二圓迄  
三圓迄 三圓迄 三圓迄  
四圓迄 四圓迄 四圓迄  
五圓迄 五圓迄 五圓迄  
六圓迄 六圓迄 六圓迄  
七圓迄 七圓迄 七圓迄  
八圓迄 八圓迄 八圓迄  
九圓迄 九圓迄 九圓迄  
十圓迄 十圓迄 十圓迄







便覽

Table of volume and weight conversions including cubic meters, liters, and various weight units like grams and kilograms.

ヤード・ポンド法

Table of yard and pound conversions for units like inches, feet, and various types of pounds.

メートル法換算法

Table of metric conversion rules for length, area, and volume, such as '米を町(長さ)に直すには'.

速算法

Table of quick calculation rules for metric conversions, including 'メートルを間に直すには'.

攝氏華氏寒暖計比較表

便覽

Table comparing Celsius and Fahrenheit temperatures for various weather conditions.



六	四三・八	四〇	一〇四・〇	七四	一六五・二
八	四六・四	四三	一〇七・六	七六	一六八・八
一〇	五〇・〇	四四	一一・二	七八	一七二・四
一二	五三・六	四六	一一・八	八〇	一七六・〇
一四	五七・二	四八	一二・四	八二	一七九・六
一六	六〇・八	五〇	一三・〇	八四	一八三・二
一八	六四・四	五二	一三五・六	八六	一八六・八
二〇	六八・〇	五四	一三九・二	八八	一九〇・四
二二	七一・六	五六	一四二・八	九〇	一九四・〇
二四	七五・二	五八	一四六・四	九二	一九七・六
二六	七八・八	六〇	一五〇・〇	九四	二〇一・二
二八	八二・四	六二	一五三・六	九六	二〇四・八
三〇	八六・〇	六四	一五七・二	九八	二〇八・四
三二	八九・六	六六	一六〇・八	一〇〇	二一二・〇
三三	九一・六	六八	一六三・八	九〇	二二〇・〇
三四	九三・六	七〇	一六六・八	九二	二二四・〇
三五	九五・六	七二	一七〇・〇	九四	二二八・〇
三六	九七・六	七四	一七三・二	九六	二三二・〇
三七	九九・六	七六	一七六・四	九八	二三六・〇
三八	一〇一・六	七八	一七九・六	一〇〇	二四〇・〇
三九	一〇三・六	八〇	一八二・八	一〇二	二四四・〇
四〇	一〇五・六	八二	一八六・〇	一〇四	二四八・〇
四一	一〇七・六	八四	一八九・二	一〇六	二五二・〇
四二	一〇九・六	八六	一九二・四	一〇八	二五六・〇
四三	一一一・六	八八	一九五・六	一〇九	二六〇・〇
四四	一一三・六	九〇	一九八・八	一一一	二六四・〇
四五	一一五・六	九二	二〇二・〇	一一三	二六八・〇
四六	一一七・六	九四	二〇五・二	一一五	二七二・〇
四七	一二〇・〇	九六	二〇八・四	一一七	二七六・〇
四八	一二二・四	九八	二一一・六	一一九	二八〇・〇
四九	一二四・八	一〇〇	二一四・八	一二一	二八四・〇
五〇	一二七・二	一〇二	二一八・〇	一二三	二八八・〇
五一	一二九・六	一〇四	二二一・二	一二五	二九二・〇
五二	一三二・〇	一〇六	二二四・四	一二七	二九六・〇
五三	一三四・四	一〇八	二二七・六	一二九	三〇〇・〇
五四	一三六・八	一〇九	二三〇・八	一三一	三〇四・〇
五五	一三九・二	一一一	二三四・〇	一三三	三〇八・〇
五六	一四一・六	一一三	二三七・二	一三五	三一二・〇
五七	一四四・〇	一一五	二四〇・四	一三七	三一六・〇
五八	一四六・四	一一七	二四三・六	一三九	三二〇・〇
五九	一四八・八	一二〇	二四六・八	一四一	三二四・〇
六〇	一五一・二	一二二	二五〇・〇	一四三	三二八・〇
六一	一五三・六	一二四	二五三・二	一四五	三三二・〇
六二	一五六・〇	一二六	二五六・四	一四七	三三六・〇
六三	一五八・四	一二八	二五九・六	一四九	三四〇・〇
六四	一六〇・八	一三〇	二六二・八	一五一	三四四・〇
六五	一六三・二	一三二	二六六・〇	一五三	三四八・〇
六六	一六五・六	一三四	二六九・二	一五五	三五二・〇
六七	一六八・〇	一三六	二七二・四	一五七	三五六・〇
六八	一七〇・四	一三八	二七五・六	一五九	三六〇・〇
六九	一七二・八	一四〇	二七八・八	一六一	三六四・〇
七〇	一七五・二	一四二	二八二・〇	一六三	三六八・〇
七一	一七七・六	一四四	二八五・二	一六五	三七二・〇
七二	一八〇・〇	一四六	二八八・四	一六七	三七六・〇
七三	一八二・四	一四八	二九一・六	一六九	三八〇・〇
七四	一八四・八	一五〇	二九四・八	一七一	三八四・〇
七五	一八七・二	一五二	二九八・〇	一七三	三八八・〇
七六	一九〇・〇	一五四	三〇一・二	一七五	三九二・〇
七七	一九二・八	一五六	三〇四・四	一七七	三九六・〇
七八	一九五・六	一五八	三〇七・六	一七九	四〇〇・〇
七九	一九八・四	一六〇	三一〇・八	一八一	四〇四・〇
八〇	二〇〇・〇	一六二	三一四・〇	一八三	四〇八・〇
八一	二〇二・四	一六四	三一七・二	一八五	四一二・〇
八二	二〇四・八	一六六	三二〇・四	一八七	四一六・〇
八三	二〇七・二	一六八	三二三・六	一八九	四二〇・〇
八四	二〇九・六	一七〇	三二六・八	一九一	四二四・〇
八五	二一二・〇	一七二	三三〇・〇	一九三	四二八・〇
八六	二一三・六	一七四	三三三・二	一九五	四三二・〇
八七	二一五・二	一七六	三三六・四	一九七	四三六・〇
八八	二一六・八	一七八	三三九・六	一九九	四四〇・〇
八九	二一八・四	一八〇	三四二・八	二〇一	四四四・〇
九〇	二二〇・〇	一八二	三四六・〇	二〇三	四四八・〇
九一	二二二・四	一八四	三四九・二	二〇五	四五二・〇
九二	二二四・八	一八六	三五二・四	二〇七	四五六・〇
九三	二二七・二	一八八	三五五・六	二〇九	四六〇・〇
九四	二二九・六	一九〇	三五八・八	二一一	四六四・〇
九五	二三二・〇	一九二	三六二・〇	二一三	四六八・〇
九六	二三四・四	一九四	三六五・二	二一五	四七二・〇
九七	二三六・八	一九六	三六八・四	二一七	四七六・〇
九八	二三九・二	一九八	三七一・六	二一九	四八〇・〇
九九	二四一・六	二〇〇	三七四・八	二二一	四八四・〇
一〇〇	二四四・〇	二〇二	三七八・〇	二二三	四八八・〇

海里を哩に換算表

備考 華氏を攝氏に換へるにはその度から三二を引いたものに5/9を掛ければよくまた攝氏を華氏に換へるには攝氏の度を二倍してその一割を引きこれに三二を加へればよい。

二・〇〇	二・三〇三	一五・〇〇	一七・三七二
二・五〇	二・八七八	一五・五〇	一七・八四八
三・〇〇	三・四三四	一六・〇〇	一八・四二四
三・五〇	四・〇三〇	一六・五〇	一九・〇〇〇
四・〇〇	四・六〇六	一七・〇〇	一九・五七五
四・五〇	五・一八一	一七・五〇	二〇・一五一
五・〇〇	五・七七七	一八・〇〇	二〇・七二七
五・五〇	五・三三三	一八・五〇	二一・三〇三
六・〇〇	六・九〇九	一九・〇〇	二一・八七八
六・五〇	七・四八四	一九・五〇	二二・四六四
七・〇〇	八・〇六〇	二〇・〇〇	二三・〇四〇
七・五〇	八・六三六	二〇・五〇	二三・六一六
八・〇〇	九・二一二	二一・〇〇	二三・七九二
八・五〇	九・七八七	二一・五〇	二三・三六八
九・〇〇	一〇・三六三	二二・〇〇	二三・九四四
九・五〇	一〇・九三八	二二・五〇	二四・五二〇
一〇・〇〇	一一・五一五	二三・〇〇	二五・〇九六
一〇・五〇	一二・〇四二	二三・五〇	二五・六七二
一一・〇〇	一二・五六八	二四・〇〇	二六・二四八
一一・五〇	一三・〇九五	二四・五〇	二六・八二四
一二・〇〇	一三・六二二	二五・〇〇	二七・四〇〇
一二・五〇	一四・一四八	二五・五〇	二七・九七六
一三・〇〇	一四・六七五	二六・〇〇	二八・五五二

滿洲國度量衡

分	石斗	升	合	勺	撮	頃	天	畝	分	釐	毫	弓	里	引	丈	尺	寸	分	名
【衡】	【量】	【面積】	【面積】	【面積】	【面積】	【面積】	【面積】	【面積】	【面積】	【面積】	【面積】	【面積】	【面積】	【面積】	【面積】	【面積】	【面積】	【面積】	【面積】
0.001斤	100升	10升	10升	10升	10升	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝
0.001斤	100升	10升	10升	10升	10升	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝
0.001斤	100升	10升	10升	10升	10升	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝	10畝

利子早見表

第一條 凡そ金銀貸借上の利息を分て契約上の利息と法律上の利息とす  
 第二條 契約上の利息とは人民相互の契約

を以て定め得べき所の利息にして元金百圓未満は一箇年に付百分の十五(一割五分)百圓以上千圓未満は百分の十二(一割二分)千圓以上百分の十(一割)以下とす若し此制限を超過する分は裁判上無効のものとして各その制限にまで引直さしむべし  
 第三條 削除  
 第四條 第二條により定限利息の外總て人

民相互の契約を以て證金棒利等の名目を用る者あるとも總て裁判上無効の者とす  
 第五條 返還期限を違ふるときは債主より債主に對し若干の償金罰金違約金料等を差出すべきことを約定することあるとも概して損害の補償と看做し裁判官に於て該債主の事實受けたる損害の補償に不當なりと思量するときは之れに相當の減少を爲すことを得

元金	一箇年	一箇月	一日
一圓	〇・〇二〇	〇・〇一六六六	〇・〇〇〇九五
二圓	〇・〇四〇	〇・〇三三三三	〇・〇〇一八一
三圓	〇・〇六〇	〇・〇五〇〇〇	〇・〇〇二六六
四圓	〇・〇八〇	〇・〇六六六六	〇・〇〇三三三
五圓	〇・一〇〇	〇・〇八三三三	〇・〇〇四〇〇
一〇圓	〇・二〇〇	〇・一六六六六	〇・〇〇八〇〇
一五圓	〇・三〇〇	〇・二五〇〇〇	〇・〇一二〇〇
二〇圓	〇・四〇〇	〇・三三三三三	〇・〇一六〇〇
二五圓	〇・五〇〇	〇・四一六六六	〇・〇二〇〇〇
三〇圓	〇・六〇〇	〇・五〇〇〇〇	〇・〇二四〇〇
三五圓	〇・七〇〇	〇・五八三三三	〇・〇二八〇〇

元金	一箇年	一箇月	一日
一圓	一五・〇〇	一・二五〇	〇・〇四六六六
二圓	三〇・〇〇	二・五〇〇	〇・〇九三三三
三圓	四五・〇〇	三・七五〇	〇・〇一四〇〇
四圓	六〇・〇〇	五・〇〇〇	〇・〇一八六六
五圓	七五・〇〇	六・二五〇	〇・〇二三三三
一〇圓	一五〇・〇〇	一二・五〇〇	〇・〇四六六六
一五圓	二二五・〇〇	一八・七五〇	〇・〇七〇〇〇
二〇圓	三〇〇・〇〇	二五・〇〇〇	〇・〇九三三三
二五圓	三七五・〇〇	三十二・二五〇	〇・一二六六六
三〇圓	四五〇・〇〇	三九・五〇〇	〇・一五〇〇〇
三五圓	五二五・〇〇	四六・七五〇	〇・一七三三三
四〇圓	六〇〇・〇〇	五四・〇〇〇	〇・二〇六六六
四五圓	六七五・〇〇	六一・二五〇	〇・二三〇〇〇
五〇圓	七五〇・〇〇	六八・五〇〇	〇・二六三三三
五五圓	八二五・〇〇	七五・七五〇	〇・二九六六六
六〇圓	九〇〇・〇〇	八三・〇〇〇	〇・三三〇〇〇

元金	一箇年	一箇月	一日
一圓	一〇〇	一〇	〇・〇三三三三
二圓	二〇〇	二〇	〇・〇六六六六
三圓	三〇〇	三〇	〇・一〇〇〇〇
四圓	四〇〇	四〇	〇・一三三三三
五圓	五〇〇	五〇	〇・一六六六六
一〇圓	一〇〇〇	一〇〇	〇・三三三三三
一五圓	一五〇〇	一五〇	〇・五〇〇〇〇
二〇圓	二〇〇〇	二〇〇	〇・六六六六六
二五圓	二五〇〇	二五〇	〇・八三三三三
三〇圓	三〇〇〇	三〇〇	一・〇〇〇〇〇
三五圓	三五〇〇	三五〇	一・一六六六六
四〇圓	四〇〇〇	四〇〇	一・三三三三三



單利積算表 (元金一圓に付)

年次	五分	六分	七分	八分	一分	一分二分	一分三分	一分四分	一分五分	一分六分	一分七分	一分八分	一分九分	一分	一分一分	一分二分	一分三分	一分四分	一分五分	一分六分	一分七分	一分八分	一分九分	一分		
一年	0.05	0.06	0.07	0.08	0.10	0.12	0.14	0.16	0.18	0.20	0.22	0.24	0.26	0.28	0.30	0.32	0.34	0.36	0.38	0.40	0.42	0.44	0.46	0.48	0.50	
二年	0.10	0.12	0.14	0.16	0.20	0.24	0.28	0.32	0.36	0.40	0.44	0.48	0.52	0.56	0.60	0.64	0.68	0.72	0.76	0.80	0.84	0.88	0.92	0.96	1.00	
三年	0.15	0.18	0.21	0.24	0.30	0.36	0.42	0.48	0.54	0.60	0.66	0.72	0.78	0.84	0.90	0.96	1.02	1.08	1.14	1.20	1.26	1.32	1.38	1.44	1.50	
四年	0.20	0.24	0.28	0.32	0.40	0.48	0.56	0.64	0.72	0.80	0.88	0.96	1.04	1.12	1.20	1.28	1.36	1.44	1.52	1.60	1.68	1.76	1.84	1.92	2.00	
五年	0.25	0.30	0.36	0.42	0.50	0.60	0.70	0.80	0.90	1.00	1.10	1.20	1.30	1.40	1.50	1.60	1.70	1.80	1.90	2.00	2.10	2.20	2.30	2.40	2.50	2.60
六年	0.30	0.36	0.42	0.48	0.60	0.72	0.84	0.96	1.08	1.20	1.32	1.44	1.56	1.68	1.80	1.92	2.04	2.16	2.28	2.40	2.52	2.64	2.76	2.88	3.00	3.12
七年	0.35	0.42	0.48	0.54	0.66	0.78	0.90	1.02	1.14	1.26	1.38	1.50	1.62	1.74	1.86	1.98	2.10	2.22	2.34	2.46	2.58	2.70	2.82	2.94	3.06	3.18
八年	0.40	0.48	0.54	0.60	0.72	0.84	0.96	1.08	1.20	1.32	1.44	1.56	1.68	1.80	1.92	2.04	2.16	2.28	2.40	2.52	2.64	2.76	2.88	3.00	3.12	3.24
九年	0.45	0.54	0.60	0.66	0.78	0.90	1.02	1.14	1.26	1.38	1.50	1.62	1.74	1.86	1.98	2.10	2.22	2.34	2.46	2.58	2.70	2.82	2.94	3.06	3.18	3.30
十年	0.50	0.60	0.66	0.72	0.84	0.96	1.08	1.20	1.32	1.44	1.56	1.68	1.80	1.92	2.04	2.16	2.28	2.40	2.52	2.64	2.76	2.88	3.00	3.12	3.24	3.36

複利積算表

(本表は一圓に付毎年の複利積算である但し毎半年に利子を元金に繰り入れてある)

年次	三分	四分	四分五厘	五分	六分	七分	七分三厘	八分	一分
一年	0.03	0.04	0.045	0.05	0.06	0.07	0.075	0.08	0.10
二年	0.06	0.08	0.085	0.10	0.12	0.14	0.145	0.16	0.20
三年	0.09	0.12	0.125	0.15	0.18	0.21	0.215	0.24	0.30
四年	0.12	0.16	0.165	0.20	0.24	0.28	0.285	0.32	0.40
五年	0.15	0.20	0.205	0.25	0.30	0.35	0.355	0.40	0.50
六年	0.18	0.24	0.245	0.30	0.36	0.42	0.425	0.48	0.60
七年	0.21	0.28	0.285	0.35	0.42	0.48	0.485	0.56	0.70
八年	0.24	0.32	0.325	0.40	0.48	0.54	0.545	0.64	0.80
九年	0.27	0.36	0.365	0.45	0.54	0.60	0.605	0.72	0.90
十年	0.30	0.40	0.405	0.50	0.60	0.66	0.665	0.80	1.00

日歩を年利に換算表 (換算法は日歩を三百六十五倍して元金に對する割合を算出したもので絲位未滿は切捨てある)

日歩	年利	日歩	年利	日歩	年利	日歩	年利	日歩	年利	日歩	年利	日歩	年利	日歩	年利	日歩	年利	日歩	年利	日歩	年利	日歩	年利	日歩	年利		
0.001	0.365	0.002	0.730	0.003	1.095	0.004	1.460	0.005	1.825	0.006	2.190	0.007	2.555	0.008	2.920	0.009	3.285	0.010	3.650	0.011	4.015	0.012	4.380	0.013	4.745		
0.014	5.110	0.015	5.475	0.016	5.840	0.017	6.205	0.018	6.570	0.019	6.935	0.020	7.300	0.021	7.665	0.022	8.030	0.023	8.395	0.024	8.760	0.025	9.125	0.026	9.490	0.027	9.855
0.028	10.220	0.029	10.585	0.030	10.950	0.031	11.315	0.032	11.680	0.033	12.045	0.034	12.410	0.035	12.775	0.036	13.140	0.037	13.505	0.038	13.870	0.039	14.235	0.040	14.600	0.041	14.965
0.042	15.325	0.043	15.690	0.044	16.055	0.045	16.420	0.046	16.785	0.047	17.150	0.048	17.515	0.049	17.880	0.050	18.245	0.051	18.610	0.052	18.975	0.053	19.340	0.054	19.705	0.055	20.070
0.056	20.435	0.057	20.800	0.058	21.165	0.059	21.530	0.060	21.895	0.061	22.260	0.062	22.625	0.063	22.990	0.064	23.355	0.065	23.720	0.066	24.085	0.067	24.450	0.068	24.815	0.069	25.180
0.070	25.545	0.071	25.910	0.072	26.275	0.073	26.640	0.074	27.005	0.075	27.370	0.076	27.735	0.077	28.100	0.078	28.465	0.079	28.830	0.080	29.195	0.081	29.560	0.082	29.925	0.083	30.290
0.084	30.655	0.085	31.020	0.086	31.385	0.087	31.750	0.088	32.115	0.089	32.480	0.090	32.845	0.091	33.210	0.092	33.575	0.093	33.940	0.094	34.305	0.095	34.670	0.096	35.035	0.097	35.400
0.098	35.765	0.099	36.130	0.100	36.495	0.101	36.860	0.102	37.225	0.103	37.590	0.104	37.955	0.105	38.320	0.106	38.685	0.107	39.050	0.108	39.415	0.109	39.780	0.110	40.145	0.111	40.510
0.112	40.875	0.113	41.240	0.114	41.605	0.115	41.970	0.116	42.335	0.117	42.700	0.118	43.065	0.119	43.430	0.120	43.795	0.121	44.160	0.122	44.525	0.123	44.890	0.124	45.255	0.125	45.620
0.126	45.985	0.127	46.350	0.128	46.715	0.129	47.080	0.130	47.445	0.131	47.810	0.132	48.175	0.133	48.540	0.134	48.905	0.135	49.270	0.136	49.635	0.137	50.000	0.138	50.365	0.139	50.730
0.140	51.095	0.141	51.460	0.142	51.825	0.143	52.190	0.144	52.555	0.145	52.920	0.146	53.285	0.147	53.650	0.148	54.015	0.149	54.380	0.150	54.745	0.151	55.110	0.152	55.475	0.153	55.840
0.154	56.205	0.155	56.570	0.156	56.935	0.157	57.300	0.158	57.665	0.159	58.030	0.160	58.395	0.161	58.760	0.162	59.125	0.163	59.490	0.164	59.855	0.165	60.220	0.166	60.585	0.167	60.950
0.168	61.315	0.169	61.680	0.170	62.045	0.171	62.410	0.172	62.775	0.173	63.140	0.174	63.505	0.175	63.870	0.176	64.235	0.177	64.600	0.178	64.965	0.179	65.330	0.180	65.695	0.181	66.060
0.182	66.425	0.183	66.790	0.184	67.155	0.185	67.520	0.186	67.885	0.187	68.250	0.188	68.615	0.189	68.980	0.190	69.345	0.191	69.710	0.192	70.075	0.193	70.440	0.194	70.805	0.195	71.170
0.196	71.535	0.197	71.900	0.198	72.265	0.199	72.630	0.200	72.995	0.201	73.360	0.202	73.725	0.203	74.090	0.204	74.455	0.205	74.820	0.206	75.185	0.207	75.550	0.208	75.915	0.209	76.280
0.210	76.645	0.211	77.010	0.212	77.375	0.213	77.740	0.214	78.105	0.215	78.470	0.216	78.835	0.217	79.200	0.218	79.565	0.219	79.930	0.220	80.295	0.221	80.660	0.222	81.025	0.223	81.390
0.224	81.755	0.225	82.120	0.226	82.485	0.227	82.850	0.228	83.215	0.229	83.580	0.230	83.945	0.231	84.310	0.232	84.675	0.233	85.040	0.234	85.405	0.235	85.770	0.236	86.135	0.237	86.500
0.238	86.865	0.239	87.230	0.240	87.595	0.241	87.960	0.242	88.325	0.243	88.690	0.244	89.055	0.245	89.420	0.246	89.785	0.247	90.150	0.248	90.515	0.249	90.880	0.250	91.245	0.251	91.610
0.252	91.975	0.253	92.340	0.254	92.705	0.255	93.070	0.256	93.435	0.257	93.800	0.258	94.165	0.259	94.530	0.260	94.895	0.261	95.260	0.262	95.625	0.263	95.990	0.264	96.355	0.265	96.720
0.266	97.085	0.267	97.450	0.268	97.815	0.269	98.180	0.270	98.545	0.271	98.910	0.272	99.275	0.273	99.640	0.274	100.005	0.275	100.370	0.276	100.735	0.277	101.100	0.278	101.465	0.279	101.830
0.280	102.195	0.281	102.560	0.282	102.925	0.283	103.290	0.284	103.655	0.285	104.020	0.286	104.385	0.287	104.750	0.288	105.115	0.289	105.480	0.290	105.845	0.291	106.210	0.292	106.575	0.293	106.940
0.294	107.305	0.295	107.670	0.296	108.035	0.297	108.400	0.298	108.765	0.299	109.130	0.300	109.495	0.301	109.860	0.302	110.225	0.303	110.590	0.304	110.955	0.305	111.320	0.306	111.685	0.307	112.050
0.308	112.415	0.309	112.780	0.310	113.145	0.311	113.510	0.312	113.875	0.313	114.240	0.314	114.605	0.315	114.970	0.316	115.335	0.317	115.700	0.318	116.065	0.319	116.430	0.320	116.795	0.321	117.160
0.322	117.525	0.323	117.890	0.324	118.255	0.325	118.6																				



年利を日歩に換算表

(換算法は年利を三百六十五分し百圓に對する一日分を算出したもので毛位未滿は四捨五入してある)

年利	日歩	年利	日歩	年利	日歩	年利	日歩	年利	日歩
0.01	0.00003	0.02	0.00006	0.03	0.00009	0.04	0.00012	0.05	0.00015
0.06	0.00017	0.07	0.00020	0.08	0.00023	0.09	0.00026	0.10	0.00029
0.11	0.00032	0.12	0.00035	0.13	0.00038	0.14	0.00041	0.15	0.00044
0.16	0.00048	0.17	0.00051	0.18	0.00054	0.19	0.00057	0.20	0.00060
0.21	0.00063	0.22	0.00066	0.23	0.00069	0.24	0.00072	0.25	0.00075
0.26	0.00078	0.27	0.00081	0.28	0.00084	0.29	0.00087	0.30	0.00090
0.31	0.00093	0.32	0.00096	0.33	0.00099	0.34	0.00102	0.35	0.00105
0.36	0.00108	0.37	0.00111	0.38	0.00114	0.39	0.00117	0.40	0.00120
0.41	0.00123	0.42	0.00126	0.43	0.00129	0.44	0.00132	0.45	0.00135
0.46	0.00138	0.47	0.00141	0.48	0.00144	0.49	0.00147	0.50	0.00150
0.51	0.00153	0.52	0.00156	0.53	0.00159	0.54	0.00162	0.55	0.00165
0.56	0.00168	0.57	0.00171	0.58	0.00174	0.59	0.00177	0.60	0.00180
0.61	0.00183	0.62	0.00186	0.63	0.00189	0.64	0.00192	0.65	0.00195
0.66	0.00198	0.67	0.00201	0.68	0.00204	0.69	0.00207	0.70	0.00210
0.71	0.00213	0.72	0.00216	0.73	0.00219	0.74	0.00222	0.75	0.00225
0.76	0.00228	0.77	0.00231	0.78	0.00234	0.79	0.00237	0.80	0.00240
0.81	0.00243	0.82	0.00246	0.83	0.00249	0.84	0.00252	0.85	0.00255
0.86	0.00258	0.87	0.00261	0.88	0.00264	0.89	0.00267	0.90	0.00270
0.91	0.00273	0.92	0.00276	0.93	0.00279	0.94	0.00282	0.95	0.00285
0.96	0.00288	0.97	0.00291	0.98	0.00294	0.99	0.00297	1.00	0.00300

年齢千支早見表 (昭和十二年)

年時	千支	年齢
天保九	つちのえ	九
二〇	つちのえ	一〇
二一	かちのえ	一一
二二	かちのえ	一二
二三	かちのえ	一三
二四	みづのえ	一四
二五	みづのえ	一五
二六	みづのえ	一六
二七	みづのえ	一七
二八	みづのえ	一八
二九	みづのえ	一九
三〇	みづのえ	二〇
三一	みづのえ	二一
三二	みづのえ	二二
三三	みづのえ	二三
三四	みづのえ	二四
三五	みづのえ	二五
三六	みづのえ	二六
三七	みづのえ	二七
三八	みづのえ	二八
三九	みづのえ	二九
四〇	みづのえ	三〇
四一	みづのえ	三一
四二	みづのえ	三二
四三	みづのえ	三三
四四	みづのえ	三四
四五	みづのえ	三五
四六	みづのえ	三六
四七	みづのえ	三七
四八	みづのえ	三八
四九	みづのえ	三九
五〇	みづのえ	四〇
五一	みづのえ	四一
五二	みづのえ	四二
五三	みづのえ	四三
五四	みづのえ	四四
五五	みづのえ	四五
五六	みづのえ	四六
五七	みづのえ	四七
五八	みづのえ	四八
五九	みづのえ	四九
六〇	みづのえ	五〇
六一	みづのえ	五一
六二	みづのえ	五二
六三	みづのえ	五三
六四	みづのえ	五四
六五	みづのえ	五五
六六	みづのえ	五六
六七	みづのえ	五七
六八	みづのえ	五八
六九	みづのえ	五九
七〇	みづのえ	六〇
七一	みづのえ	六一
七二	みづのえ	六二
七三	みづのえ	六三
七四	みづのえ	六四
七五	みづのえ	六五
七六	みづのえ	六六
七七	みづのえ	六七
七八	みづのえ	六八
七九	みづのえ	六九
八〇	みづのえ	七〇
八一	みづのえ	七一
八二	みづのえ	七二
八三	みづのえ	七三
八四	みづのえ	七四
八五	みづのえ	七五
八六	みづのえ	七六
八七	みづのえ	七七
八八	みづのえ	七八
八九	みづのえ	七九
九〇	みづのえ	八〇
九一	みづのえ	八一
九二	みづのえ	八二
九三	みづのえ	八三
九四	みづのえ	八四
九五	みづのえ	八五
九六	みづのえ	八六
九七	みづのえ	八七
九八	みづのえ	八八
九九	みづのえ	八九
一〇〇	みづのえ	九〇

弘化元 嘉永元

弘化元	嘉永元
二	二
三	三
四	四
五	五
六	六
七	七
八	八
九	九
一〇	一〇
一一	一一
一二	一二
一三	一三
一四	一四
一五	一五
一六	一六
一七	一七
一八	一八
一九	一九
二〇	二〇
二一	二一
二二	二二
二三	二三
二四	二四
二五	二五
二六	二六
二七	二七
二八	二八
二九	二九
三〇	三〇
三一	三一
三二	三二
三三	三三
三四	三四
三五	三五
三六	三六
三七	三七
三八	三八
三九	三九
四〇	四〇
四一	四一
四二	四二
四三	四三
四四	四四
四五	四五
四六	四六
四七	四七
四八	四八
四九	四九
五〇	五〇
五一	五一
五二	五二
五三	五三
五四	五四
五五	五五
五六	五六
五七	五七
五八	五八
五九	五九
六〇	六〇
六一	六一
六二	六二
六三	六三
六四	六四
六五	六五
六六	六六
六七	六七
六八	六八
六九	六九
七〇	七〇
七一	七一
七二	七二
七三	七三
七四	七四
七五	七五
七六	七六
七七	七七
七八	七八
七九	七九
八〇	八〇
八一	八一
八二	八二
八三	八三
八四	八四
八五	八五
八六	八六
八七	八七
八八	八八
八九	八九
九〇	九〇
九一	九一
九二	九二
九三	九三
九四	九四
九五	九五
九六	九六
九七	九七
九八	九八
九九	九九
一〇〇	一〇〇

安政元

安政元
六
七
八
九
一〇
一一
一二
一三
一四
一五
一六
一七
一八
一九
二〇
二一
二二
二三
二四
二五
二六
二七
二八
二九
三〇
三一
三二
三三
三四
三五
三六
三七
三八
三九
四〇
四一
四二
四三
四四
四五
四六
四七
四八
四九
五〇
五一
五二
五三
五四
五五
五六
五七
五八
五九
六〇
六一
六二
六三
六四
六五
六六
六七
六八
六九
七〇
七一
七二
七三
七四
七五
七六
七七
七八
七九
八〇
八一
八二
八三
八四
八五
八六
八七
八八
八九
九〇
九一
九二
九三
九四
九五
九六
九七
九八
九九
一〇〇

七五〇

元治元 慶應元 明治元

元治元	慶應元	明治元
三	三	三
四	四	四
五	五	五
六	六	六
七	七	七
八	八	八
九	九	九
一〇	一〇	一〇
一一	一一	一一
一二	一二	一二
一三	一三	一三
一四	一四	一四
一五	一五	一五
一六	一六	一六
一七	一七	一七
一八	一八	一八
一九	一九	一九
二〇	二〇	二〇
二一	二一	二一
二二	二二	二二
二三	二三	二三
二四	二四	二四
二五	二五	二五
二六	二六	二六
二七	二七	二七
二八	二八	二八
二九	二九	二九
三〇	三〇	三〇
三一	三一	三一
三二	三二	三二
三三	三三	三三
三四	三四	三四
三五	三五	三五
三六	三六	三六
三七	三七	三七
三八	三八	三八
三九	三九	三九
四〇	四〇	四〇
四一	四一	四一
四二	四二	四二
四三	四三	四三
四四	四四	四四
四五	四五	四五
四六	四六	四六
四七	四七	四七
四八	四八	四八
四九	四九	四九
五〇	五〇	五〇
五一	五一	五一
五二	五二	五二
五三	五三	五三
五四	五四	五四
五五	五五	五五
五六	五六	五六
五七	五七	五七
五八	五八	五八
五九	五九	五九
六〇	六〇	六〇
六一	六一	六一
六二	六二	六二
六三	六三	六三
六四	六四	六四
六五	六五	六五
六六	六六	六六
六七	六七	六七
六八	六八	六八
六九	六九	六九
七〇	七〇	七〇
七一	七一	七一
七二	七二	七二
七三	七三	七三
七四	七四	七四
七五	七五	七五
七六	七六	七六
七七	七七	七七
七八	七八	七八
七九	七九	七九
八〇	八〇	八〇
八一	八一	八一
八二	八二	八二
八三	八三	八三
八四	八四	八四
八五	八五	八五
八六	八六	八六
八七	八七	八七
八八	八八	八八
八九	八九	八九
九〇	九〇	九〇
九一	九一	九一
九二	九二	九二
九三	九三	九三
九四	九四	九四
九五	九五	九五
九六	九六	九六
九七	九七	九七
九八	九八	九八
九九	九九	九九
一〇〇	一〇〇	一〇〇

大正元
二
三
四
五
六
七
八
九
一〇
一一
一二
一三
一四
一五
一六
一七
一八
一九
二〇
二一
二二
二三
二四
二五
二六
二七
二八
二九
三〇
三一
三二
三三
三四
三五
三六
三七
三八
三九
四〇
四一
四二
四三
四四
四五
四六
四七
四八
四九
五〇
五一
五二
五三
五四
五五
五六
五七
五八
五九
六〇
六一
六二
六三
六四
六五
六六
六七
六八
六九
七〇
七一
七二
七三
七四
七五
七六
七七
七八
七九
八〇
八一
八二
八三
八四
八五
八六
八七
八八
八九
九〇
九一
九二
九三
九四
九五
九六
九七
九八
九九
一〇〇

昭和元
一
二
三
四
五
六
七
八
九
一〇
一一
一二
一三
一四
一五
一六
一七
一八
一九
二〇
二一
二二
二三



年中行事 (昭和十二年)

- 一月 (陸月、初春月)
  - 一日 四方拜、初日の出、吉方詣、七福神詣(三日迄)、祖師初詣
  - 二日 讀書始、書始、初荷、諸新聞休刊元始祭
  - 三日 政治
  - 四日 新年宴會、初水天宮詣
  - 五日 消防出初、門松撤去、寒の入り
  - 六日 齋打
  - 七日 陸軍始觀兵式、學校始業
  - 八日 金毘羅神社初祭、初年兵入營
  - 十日 御講書始
  - 十一日 春場所大相撲
  - 十二日 藏開
  - 十三日 小豆粥、海軍始
  - 十四日 藪入、閻魔詣
  - 十五日 二十日正月、大寒
  - 十六日 川崎大師初詣
  - 十七日 御歌會始
  - 十八日 不動初詣
- 二月 (如月、梅見月)
  - 一日 庚申
  - 二日 節分
  - 三日 立春

- 六日 甲子
  - 針供養、日露海戰記念日
  - 八日 紀元節、建國祭、陰曆元日、己巳初午、四條暖祭
  - 十一日 深川八幡祈年祭(十八日迄五日間參詣者(白羽矢の守を出す))
  - 十二日 涅槃會、西行忌、火焚(嵯峨清涼寺)
  - 十三日 滿洲國皇帝御誕生日、日蓮聖人誕生會
  - 十四日 新年祭
  - 十五日 西新井大師開帳、雜市
  - 十六日 利久忌(茶人是在行ふ)
  - 十七日 彌生、花月
  - 十八日 雛を飾る、鮎漁、雉子山鳥捕獲禁止
  - 十九日 雛祭(上巳の節句)
  - 二十日 地久節、母の日
  - 二十一日 陸軍記念日、金毘羅大祭
  - 二十二日 國民融和日
  - 二十三日 梅若忌
  - 二十四日 彼岸入り、池上本門寺開帳(廿八日迄)
  - 二十五日 各學校卒業式
  - 二十六日 春季皇靈祭、大師詣、履物祭
  - 二十七日 法隆寺會式 社日
  - 二十八日 北野天神御忌、蓮如忌
  - 二十九日 四月(卯月、花殘月)

- 一日 七日 禁酒禁煙週法週間
- 初二日 各學校學年始
- 初三日 沙干狩
- 初四日 神武天皇祭、植樹祭、庚申
- 初五日 諸新聞休刊
- 初六日 泉岳寺義士祭
- 初七日 灌佛會、染織祭
- 初八日 中甸より 徵兵檢査
- 初九日 昭憲皇太后御例祭、吉野花會式
- 初十日 聖德太子祭、狩獵禁止
- 十一日 少年保護
- 十二日 東照宮大祭(上野、芝)
- 十三日 菓子祭
- 十四日 中、下旬 觀櫻御宴
- 十五日 五月人形市
- 十六日 遷信記念日
- 十七日 孔子祭
- 十八日 二十七日より 結核豫防週間(五月三日迄)
- 十九日 天長節、觀兵式
- 二十日 靖國神社祭
- 二十一日 五月(皐月、田草月)
- 二十二日 梅一デー、武者人形を飾る
- 二十三日 八十八夜
- 二十四日 躰躰、愛國婦人會、日本赤十字社總會、武德祭
- 二十五日 端午の節句、乳幼児愛護週間

- 六日 立夏
  - 各所樂師開帳
  - 八日 金毘羅神社開帳、交通安全デー
  - 十日 牡丹、夏場所大相撲
  - 十一日 東寺大供養、出雲大社祭
  - 十二日 神田明神祭、九品佛千部會
  - 十三日 國際慈善デー、淺草觀音三社祭
  - 十四日 藤
  - 十五日 米の祭
  - 十六日 見眞大師降誕會、昇天節
  - 十七日 海軍記念日
  - 十八日 各地不動尊開帳
  - 十九日 六月三日 動物愛護週間
  - 二十日 東郷元帥命日
- 六月 (水無月、常夏月)
  - 一日 更衣(軍人警官夏服着用)、多摩川鮎漁解禁、横濱開港記念日
  - 二日 花菖蒲
  - 三日 光琳忌、六月會(傳教大師忌)
  - 四日 齋齋豫防デー
  - 五日 時の記念日
  - 六日 入梅
  - 七日 住吉神社御田植祭
  - 八日 東京日枝祭、京都八坂祭
  - 九日 明治神宮花菖蒲公開(月末迄)
  - 十日 伊勢大神宮祭、臺灣始政記念日

- 廿一日 熱田祭(尾張)
- 廿二日 夏至
- 廿三日 廿七日 全國職業指導週間
- 廿四日 愛宕社四萬六千日、清正公忌日
- 廿五日 皇太后陛下御誕辰
- 廿六日 相州阿夫利神社祭
- 廿七日 大祓、節折式、住吉祭
- 廿八日 七月(文月、棚機月)
- 廿九日 商家中元賣出し開始、富士山開、水泳場開始、施餓鬼(十五日迄)
- 三十日 元寇記念日
- 三十一日 國旗制定記念日、相馬の野馬追祭
- 一日 孟蘭盆、中元、大阪開港記念日
- 二日 藪入、閻魔詣
- 三日 京都祇園會
- 四日 兩國花火
- 五日 土用、定家忌
- 六日 大暑
- 七日 土用丑の日、相州大山開
- 八日 明治天皇祭
- 九日 八月(葉月、月見月)
- 十日 夏期休暇、八朔、庚申

- 四日 北野天滿宮祭、建部神社納涼祭、成田祇園會
- 五日 立秋
- 六日 西鶴忌
- 七日 王子神社槍祭、八幡祭、戸隠祭(信濃)
- 八日 大文字火(京都如意岳)、三島祭
- 九日 堀之内妙法寺千部會(二十八日迄)
- 十日 鎌倉圓覺寺蟲干(縦覽許可)、山城愛宕山燈籠焚き
- 十一日 住吉神社神輿渡御祭
- 十二日 鎌倉建長寺開山忌(二十六日蟲干縦覽許可) 樺太廳始政記念日
- 十三日 富士吉田口鎮火大祭
- 十四日 日韓併合記念日
- 十五日 九月(長月、寢覺月)
- 十六日 二百十日、大震災記念日、酒なし日、鎌倉圓覺寺開山忌、關東廳始政記念日
- 十七日 各學校始業
- 十八日 上州太田吞龍開山忌
- 十九日 二科、美術院等繪畫展覽會開かる
- 二十日 重陽節、生國魂祭
- 二十一日 芝神明生姜市、日蓮上人法難會(相州片瀨龍口寺)空也忌
- 二十二日 司法保護デー、乃木祭



十四日 芝大神宮祭  
 十五日 神田神明祭、横濱山王祭、放生會  
 中旬 十三大學レカッタ(隅田川)  
 十七日 鎌倉半僧坊大権現祭、黄海々戦記  
 念日  
 十八日 豊國祭(京都)、滿洲事變勃發記念日、社日  
 十九日 正岡子規忌  
 廿日 彼岸入り、六阿彌陀詣  
 廿三日 秋季皇靈祭  
 廿四日 芝愛宕神社祭  
 廿五日 龜戸神社大祭、鬼貫忌、諸新聞休刊  
 廿八日 各地不動尊開帳  
 ◇十月(神無月、小春)  
 一日 更衣(軍人警官冬服着用)、各吳服店冬着賣出、朝鮮總督府始政記念日、東京市自治記念日、白髭神社祭  
 五日 達磨祭、十夜講  
 十日 視力保存デー、湯島天神祭、金比羅祭(讃岐)  
 十二日 池上本門寺會式、太秦廣隆寺牛祭  
 芭蕉忌  
 十三日 戊申詔書御下賜記念日  
 十五日 銃獵解禁  
 十七日 神嘗祭、朝鮮神宮祭  
 十七日—十一月二十日 帝展開催

十九日 べつたら市(日本橋區大傳馬町)  
 二十日 惠美須講、二宮尊徳忌  
 廿二日 平安神宮時代祭、御取越、鞍馬火祭  
 廿三日 靖國神社祭  
 二十七日—十一月三日 明治神宮競技大會  
 廿八日 臺灣神社祭  
 廿九日 香椎祭(筑前)  
 三十日 教育勅語換發記念日  
 下旬 陸軍特別大演習  
 ◇十一月(霜月、神歸月)  
 一日 新曆賣出、結婚衛生強調日  
 一日—七日 全國博物館週間、圖書館週間  
 圖書祭  
 三日 明治節、明治神宮祭、神農祭(京都)  
 六日 酉の市(二の酉十八日、三の酉三十日) 京都極樂寺十夜講  
 八日 立冬、彌祭、火焚祭(伏見稻荷其他)  
 十日 國民精神作興詔書記念日  
 十一日 世界大戦平和克復記念祭、出雲大社神在祭  
 十五日 七五三祝、中山法華經寺會式  
 十五日—廿二日 全國兒童榮養週間  
 廿一日 大師講、近松巢林子忌  
 二十二日—二十八日 報恩講  
 廿三日 新嘗祭

中、下旬 觀菊御宴  
 廿七日 品川千體荒神祭  
 廿九日 庚申  
 三十日 滿期兵除隊  
 此月 交通安全デー、防火デー開かる  
 ◇十二月(師走、春待月)  
 一日 羽子板賣出、北野神社大湯祭  
 三日 甲子  
 五日 納の水天宮  
 八日 釋尊成道會、事納針供養  
 十日 納の金毘羅、氷川神社大湯祭  
 十四日 歳の市(十四、十五深川八幡、十七、十八淺草觀音、二十、二十一神田明神、二十三日芝大神宮、廿四日愛宕神社、廿五日平河天神、湯島天神、二十八日藥研堀不動尊三十、三十一日市内各所) 義士祭  
 十五日 年賀郵便別扱(二十九日迄)  
 中旬 賢所御神樂、詠進歌締切  
 廿一日 納の大師詣  
 廿二日 冬至  
 廿五日 大正天皇祭、帝國議會召集、各學校休業式、クリスマス、燕村忌  
 下旬 帝國議會開院式  
 廿八日 御用納、納の不動詣  
 卅一日 大祓、年越の行事、除夜の鐘

諸届書様式

寄留

九十日以上本籍外に於て一定の場所に住所又は居所を有する者は之を寄留者とす。寄留に關する事務は市町村長之を掌する。  
 寄留の届出は住所又は居所を定めたる日より十四日以内に之を爲すことを要する。  
 (イ)同一市町村内に於て寄留の場所を變更したるとき  
 (ロ)寄留者本籍、又は住所に復歸したるとき  
 (ハ)寄留者が其の住所を居所に、又は居所を住所に變更したるときは各々十日以内に届出づる事を要する。寄留に關する届出は寄留者、世帯を同くする者に付ては世帯主之を爲し、寄留者届出を爲すこと能はざるときは同居者、世帯主届出を爲すこと能はざるときは之に代りて世帯を管理する者、其の届出を爲すことを要する。寄留に關する届出を怠りたる者は五圓以下の過料に處せられる。

出生届

本籍……………  
 寄留地……………  
 戸主(又ハ續柄)  
 父 職業 何 何 某  
 母 職業 何 何 某  
 出生ノ日時 何月日時分 某  
 出生ノ場所……………  
 右出生及届出候也  
 昭和 年 月 日  
 右届出人 父 何 某  
 市(區、町、村)長 何某殿 生年月日  
 本籍……………  
 戸主(又ハ續柄)  
 職業……………  
 夫 何 何 某  
 妻 何 何 某  
 生年月日 某  
 本籍……………  
 右父 何 何 某  
 右母 何 何 某  
 本籍……………  
 戸主(又ハ續柄)

婚姻届

本籍……………  
 右婚姻及届出候也  
 昭和 年 月 日  
 (寄留所……………)  
 右届出人 夫 何 某  
 右届出人 妻 何 某  
 何府縣那市區町村番地 何 何 某  
 何府縣那市區町村番地 何 何 某  
 何府縣那市區町村番地 何 何 某  
 市(區、町、村)長 何某殿 生年月日  
 右婚姻ニ同意ス  
 夫ノ戸主 何 何 某  
 妻ノ戸主 何 何 某  
 生年月日 某  
 本籍……………  
 死亡届



便覽

戶主(又ハ續柄)

死亡者 何 某

生年月日

死亡ノ日時 年月日時分

死亡ノ場所

右死亡診斷書ヲ添付シ及届出候也

昭和 年 月 日

届出人 妻、又ハ何々) 何 某

市(區、町、村)長 何某殿

家督相續届

本籍 ..... 戶主 某長男 何 某

昭和 年 月 日 生前月日

昭和 年 月 日 日前戶主某死亡(又ハ其他ノ事由)ニ由リ家督相續戶主トナル

右家督相續及届出候也

昭和 年 月 日

市(區、町、村)長 何某殿

右届出人 何 某

住所(居所)寄留届

寄留ノ時 昭和 年 月 日

(新)寄留所 ..... 前寄留所(寄留先ヨリ寄留スル時コノ項必要)

市(區、町、村)長 何某殿

右轉籍候間別紙戶籍謄本相添へ此段及御届候也

昭和 年 月 日

市(區、町、村)長 何某殿

何 某

何 某

年 號

紀元

年 號

帝武靖 神武 紀元 一八〇 安寧 德 昭 安 靈 孝 孝 孝 孝 孝 崇 垂 景 成 仲 哀

便覽

七五六

印鑑届

本籍 ..... 戶主(又ハ續柄) 何 某

住所 ..... 印鑑 ..... 何 某

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

七五七

轉籍届

本籍 ..... 戶主(又ハ續柄) 何 某

住所 ..... 何 某

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

生年月日

七五七







一年史

(自昭和十一年八月  
至昭和十一年七月)

【昭和十一年八月】

一日 陸軍定期移動發令○岡田首相、鈴木政友町田民政安達國同の三黨首招待、選舉肅正に就き懇談○滿洲國礦業法公布さる

二日 關門海底隧道は門司案により十一月四月一日着工することに内定○滿鐵總裁更迭發令、松岡洋右氏新任。

三日 政府、國體明徴の聲明公表○伊・エ紛争處理の聯盟理事會了る。決議案採擇。

四日 滿洲國外交部全體會議に於て對露國境紛争解決方針決定○エチオピア國內の輿論硬化し青年愛國聯盟はアデイス・アベバで一大デモンストレーションを舉行

五日 米誌ヴァニテイー・フエアの舉行事件に關し齋藤大使は國務省を訪問嚴重抗議を爲した○松岡新總裁を迎へ滿・蒙・支經濟開發の大轉換期に瀝みて傳統的滿鐵指導精神に倣焉たらざる有志社員は滿鐵を解體すべしとの聲明書を發表○加奈

六日 陸軍定期移動發令○岡田首相、鈴木政友町田民政安達國同の三黨首招待、選舉肅正に就き懇談○滿洲國礦業法公布さる

七日 山海關・北平間鐵道警備に關し支那側では日本に委囑することを非公式に申出た。

八日 伊太利ラツツア土木相等搭乘の東阿遠征機カイロ附近で墜落、搭乗者七名慘死○青島に於て宿病療養中の汪精衛氏は本日附辭表提出○七月中岩越部隊の北滿一帯に亘る討匪行で敵の遺棄した屍體二百十五、我が尊き戦死傷者は三十六名に上つた。

九日 弘前歩兵第三十一聯隊大隊長に御轉補遊ばされた秩父宮殿下には妃殿下御同伴上野發御赴任の途につかせらる○滿洲國治外法權の撤廢並に之に關聯する滿鐵附屬地行政權の漸進的調整移讓の根本方針を閣議に於て正式決定、外務省當局談發表○農林省は産滿處理法案を來議會に再提案すべく準備に着手。

十日 秩父宮殿下には午前八時五十二分弘前驛御着午後一時命課布達式御執行○自

動車工業法案愈々來議會に提案すること  
に閣議決定、同時に聲明書發表○帝人事  
件第二十二回公判廷に於て高木復亨氏は  
批把田檢事の取調べに對し遺恨骨髓に徹  
すと怒號。

十一日 關西地方に再び大豪雨あり水禍の  
慘害を被ること、阪神沿線二萬戸大阪市  
四萬戸に上る。東海道線不通となる。

十二日 軍務局長永田鐵山少將執務中相澤  
中佐の爲めに刺さる○後藤内相は地方制  
度再檢討に積極的意思を明示、劃一主義  
の打破、部落制度尊重等を調査、具體案  
成る。

十三日 陸軍省は永田局長襲撃事件に關し  
犯行の動機は未だ審かならざるも永田中  
將に關する誤れる巷説を妄信したる結果  
なるか如しと發表○林陸相は在京各官衙  
長官、學校長、部隊長、本省局長を召集  
して軍紀振肅の勵行を嚴重示達○非公式  
軍事參議官會議は陸相支援に一致○日本  
能率聯合會、役人の暑中半休廢止を提唱  
す。

十四日 軍務局長後任に今井清中將補任○  
永田局長遭難事件に關聯する林陸相の進  
退問題に對し各閣僚共善處希望に意見一  
致○林陸相難局を擴ぶて部内の統制強化

に邁進すべく決意、此の旨岡田首相にも  
決意傳達○滿洲上海事件内地在勤海軍部  
隊八千五百九十四名に對する論功行賞發  
表○支那國民政府中央政治會議は全會一  
致汪精衛氏慰留を決定。

十五日 岡田首相はこの際大乗的見地に立  
つて自重大に肅軍達成に萬全を期せられ  
んことを望むと林陸相を激勵○十月の海  
軍會議開催は疑問と外相閣議に報告○ロ  
ンドン東京間翔破の阿野機三ヶ月目に母  
國着○武者小路駐獨大使はヒトラー總統  
から 天皇陛下に獻上の「嵯峨天皇宸影」  
を捧じて歸朝。

十五日 山海關を發した北寧線北平行列車  
は山海關・秦皇島間の地點で約百三十名  
の匪賊に襲撃され乗客殆んど殺傷さる○  
シヤトルよりモスクワへの飛行途上の米  
飛行家ワイリー・ポスト氏はアラスカ最  
北端ポイント・パローより十五哩の地點  
に於て墜死。

十六日 英國政府はワシントン、ロンドン  
兩條約加入五ヶ國間に非公式海軍會議を  
爲したき旨、日・米・佛・伊四ヶ國政府  
に正式通告を發す○伊エ紛争解決の爲め  
の英佛伊三國會談パリに於て開かる。

十七日 エレニエフ蘇聯大使は廣田外相を

訪問、露滿國境紛争の平和的處理對策を  
提示○新任支那駐屯軍司令官多田駿少將  
は天津赴任の途上新京を訪ひ北支問題に  
關し關東軍參謀副長板垣少將と重要會談

十八日 盧山會議將介石司令會の下に開かる  
○伊・エ紛争に關する英・佛・伊巴里會  
談は遂に決裂、英伊代表引揚。

十九日 多田新北支駐屯軍司令官着任○汪  
精衛氏青島より飛行機にて上海着○伊・  
エ紛争三國會談伊太利代表アイロジ男は  
國際記者團に對し壓迫され、聯盟を脱  
退する外なしとの決意を表明。

二十日 岡山・兵庫・大阪・東京等に流行  
性腦炎發生○岡田首相は葉山別邸に高橋  
藏相を訪問、豫算編成方針並に内閣審議  
會に付議すべき地方財政調整方策につき  
懇談○蔣介石氏は在南京の政府要人を招  
致して汪精衛氏の抱懐する外交政策を絶  
對に支持する旨の決意を披瀝し對日親善  
方針に對する態度闡明。

二十一日 荒木大將は官邸に林陸相を訪問  
し部内統制、軍紀肅正に關して長時間懇  
談○内務省は選舉肅正續行の細目を決定  
して全國地方長官に通牒○汪精衛氏南京  
入京、蔣介石氏は南京陵園の自邸に汪氏  
を訪問、重大時期にある日支關係は他に

適任者なしとして懸念留任を懇請した結果  
汪氏も辭表を撤回して留任○伊・エ紛争  
に關する英國首腦會議開かる。

二十二日 廣田外相は英國政府が在英日本  
大使館を通じて日本政府に傳達した海軍  
會議招集問題に關する日本側見解を表明  
した回答を在ロンドン藤井代理大使宛英  
國政府に傳達すべきやう訓令○陸軍、大  
藏豫算財政問題懇談會陸軍省第一會議室  
に開かる○汪精衛氏の復職決定により辭  
表提出中の各部長も辭表撤回。

二十三日 陸相官邸に開催の非公式軍事參  
議官會議に於て各參議官は腹藏なく懇談  
の結果舉軍邁進を申合す○日滿支航空聯  
絡會議に關する支那側の不誠意に就き關  
東軍では幕僚談の形式により強硬聲明書  
を發表、支那側の注意を喚起○ムソリーニ  
首相は伊太利政府の見解を發表してエチ  
オピア問題徹底解決に關し國際聯盟その  
他の國際的異論に拘泥せず所信に向つて  
邁進するの決意表明。

二十四日 滿洲國皇帝の宣統帝時代の師傳  
たりしロンドン大學教授ジョンストン博  
士は渡滿の途上來朝す○支那駐屯軍司令  
官から第二師團長に榮轉の梅津中將凱旋  
二十五日 植田朝鮮、寺内朝鮮の兩軍司令



官は林陸相訪問、師團長會議に臨むに就き重要會議○ブリット駐露米大使はコミンタイン大會で行はれし演説、決議が米國の内段に干渉せるものとして露國外務省に對し公式に重大抗議提出○蔣駐日大使上海發歸任の途に就く。

二十六日 永田中將遭難事件の後を享けて肅軍統制の根本策を講ずべき臨時軍司令官師團長會議を陸軍省に開催 閣院總長官殿下を初め奉り教育總監、軍事參議官出席、林陸相は渾然一體上下相携へて時艱に邁進するの要ある旨説述○明年度豫算編成の根幹を決定すべき大藏省首腦部會議は葉山の高橋藏相別邸に開かれ兵、農、財の均衡を圖り協調財政の趣旨に依據することに決定。

二十七日 帝國在郷軍人會全國大會は九段軍人會館に開催され機關説排撃の強硬決意を表明○コミンタインを繞る米國側の抗議に對し露國政府はブリット米大使に逆捻的拒絶回答を發す○ソ聯外務人民委員會は英、伊ラトヴィア三國のコミンテルン大會の演説に關する抗議を一蹴したる旨發表。

二十八日 明年度豫算編成に關する大藏、海軍兩省懇談會席上吉田軍務局長は海軍

の要求豫算は國防上最小限度である旨力説○佛國政府は閣議に於てラヴァール首相より英、佛、伊三國會議の経過報告後、對理事會態度を決定、英國の對伊制裁案に反對し東阿に於ける伊太利の自由行動を承認に決す。

二十九日 瑞西ルツェルンに御避暑中のベルギー皇帝レオポルド三世陛下はアストリッド皇后陛下を御同伴、皇帝陛下自ら自動車を操縦御散策中立木に衝突して皇后陛下は御即死を、皇帝陛下は御微傷を負はるゝ不測の變に遭はれた○エチオピア皇帝は英人企業家フラン・レス・エム・リケツト氏にエチオピア經濟開發に關する重要契約書を附與○國民政府は正式に北平政務整理委員會を撤廢地方的のものに各省政府にて處理する旨を發表。

三十日 松岡滿鐵總裁は南關東軍司令官を新京に訪問、滿鐵經營方針に關する懇談を遂げた○岡田首相は政友會の國體明徴問題に關する質問を強硬に突放して物別れ。

三十一日 帝人事件第二十七回公判廷に於て島田元臺灣銀行總裁は檢事を罵つて亂臣賊子と叫びし爲め檢察當局緊張す○駐日支那大使蔣作賓氏歸任。

【九月】

一日 ○駐屯本部隊長陸軍中將川岸文三郎氏は隸下部隊檢閲の爲め赤峰に赴いたが同地で落馬重傷○内務省社會局は勞働者保護の社會政策確立を目標とし退職積立金法原案の更正を急ぎ成案を得たので來議會に提案することに決定○全國二府三十七縣に亘る府縣會總改選に對する地方政展開さる○エチオピア政府と英米資本團との間に利權讓渡契約成立の報傳はる。

二日 燃料（石油）政策確立に關し海軍では（1）國內資源の開發、（2）海外資源への進出、（3）石油の貯藏、（4）代用液體燃料の生産、の四計畫を樹立○エ國利權讓渡説に對し伊太利の輿論激化○エチオピア皇帝が米國商社に廣汎な石油採掘權を賦與せる旨の報道に關し米國政府は何等關係なしと國務省正式聲明を發表。

三日 「日本文化に依る日本の正しい認識」をモットーとする廣田外相は國際文化局創設を企圖し之が經費を明年度豫算に計上○ソ聯駐帝國大使大田氏は本省よりの訓令に基きコミンテルンの赤化工作に就き露政府へ嚴重警告○林陸相は私の進退問題に就ては責任を感じ目下考慮中で

あるが未だ意思表示はせぬと語つた。

四日 林陸相は午前十一時五十分首相官邸に岡田首相を訪問、正式に辭表提出○岡田首相は午後一時半川島大將の來訪を求めて意見交換後二時自動車にて葉山に急行、天皇陛下に拜謁仰付られ林陸相の辭表を執奏、續いて後任に川島大將を内奏御裁可を仰いで退出○ハル國務長官はスタンダード石油會社のエチオピア利權獲得に由り伊エ紛争の渦中に捲込まれるを懼れ右利權放棄を同社代表に懇諭。

五日 川島義之大將陸軍大臣兼對滿事務局長に親任。林大將は軍事參議官親補○第八十八回聯盟理事會はアルセンチン代表ルイズ・ギナス氏を議長として開會イデン英代表は聯盟の權威強調の熱辯を揮つた。

六日 川島新陸相は記者團を引見して現代は實行時代である唯所信に邁進する覺悟あるのみと語つた○松岡總裁の人事に關する不手際で滿鐵社員失望の色○支那財界の巨頭を網羅する日本經濟視察團の顔振れば中央銀行副總裁張公權、鹽業銀行總經理吳鼎昌、上海貯蓄銀行總經理陳光甫、金城銀行總經理周作民、永安紡績總經理郭順、申新紡績總經理榮宗敬、招商

局總經理劉鴻生、上海四銀行準備庫總理錢永銘氏等に決定。

七日 六月下旬北九州並に關西一帯を襲つた水害と青森、秋田の水害に依る農作物の被害總額は一億二千三百萬圓と農林省發表○農林省では北九州、關西一帯の水害復舊助成費二千萬圓を支出することに決定○リースロス英特使橫濱入港○聯盟理事會第三日開會直前伊太利はアヅノール事務總長の要請を容れ五國（英、佛、波、土、西）和協委員會設置に賛成、無事成立を見るに至り形勢急轉危機を脱す。

八日 床次遞相薨去○遞相後任問題に關し内田鐵相、町田商相の主張對立、首相兼攝に依つて當面を彌縫、危機を孕む專任決定を繞つて政狀多事○内閣審議會成立により齋藤内閣の遺した交通審議會、農村負擔調査會、米穀對策調査會の三大調査會は之を廢止すべしとの政府の方針大體一致○カナダの挑戰的通告に對し我が外務省直に反駁聲明を發表○米價昂騰七年振りの新高値現出、農林省米價抑制對策として百萬石二部拂下げを急施するに決定。

九日 床次遞相の急逝に依り新黨樹立計畫の前途多難の色濃し○民政黨では專任遞

相我黨からを強調し川崎卓吉氏を推舉○第十六回國際聯盟總會開かる、會期は約三週間の豫定○岡田兼攝遞相親任式葉山御用邸に於て舉行さる○伊・エ紛争解決策としてレジュエ佛代表の提出せる國際警察隊派遣案は巧妙な伊國擁護策と見られ五國委員會反對。

十日 首相商相懇談の結果高橋藏相の意見を聽きその上專任遞相問題を決定する事となり本日閣議前首相藏相會談、望月圭介氏起用に決す。町田商相も順序を踏んだ首相の人選に對し行懸りを水に流して同意○滿鐵副總裁二人制實現の答、八田副總裁は結局辭職せん○伊太利軍國境に向つて行動開始、空陸呼應エチオピア首都猛襲の準備成るの報あり○帝制復活を繞り希臘政情惡化し共和派突如首相官邸を襲撃猛烈な市街戦を展開。

十一日 望月圭介氏は高橋藏相を訪問懇談の後、岡田首相を訪ひ正式に遞相就任受諾を回答○故床次竹二郎氏の葬儀青山齋場に於て執行さる○伊エ紛争打開策に關し佛首相ラヴァル氏、英外相ホーア氏、同無任所相イデン氏會談。

十二日 望月圭介氏遞相就任。政友會の岡崎山本（糸）兩長老は望月遞相を私邸に



訪問○ハル米國務長官は伊エ紛争に關し不戰條約遵守を各國に聲明○エチオピア國はイタリに對し經濟的獨占權を承認し領土一部を割譲するといふ和協試案が出来上つた、これに對して若しムソリーニ首相が拒絶したら制裁斷行の腹定る。

十三日 岡田、高橋、望月、内田、山崎五閣僚間に新黨問題に關する意見交換行はれ、首相、藏相は積極的援助意思あることを表明した○英政府對支經濟使節リロス氏は高橋藏相を訪問會談○新潟縣新發田町に大火あり千六十四戸焼失、損害約三百萬圓に上る○ダグアオの邦人借地取消問題に關し比島政廳では事態悪化を恐れ取消留保を通過した。

十四日 天皇機關説問題に關し美濃部博士は再召喚され戸澤主任検事より六時間互つて詳細取調べを受けた○樞密顧問官男爵富井政章博士薨去行年七十八○常設國際司法裁判所判事故安達峰一郎博士の後任として法學博士長岡春一氏は選舉の結果、五十一票中三十五票の大多數にて當選。

十五日 軍艦足柄に於て射撃訓練中砲塔で火災を生じ四十一名の重傷者を出す○滿洲國承認三周年記念式典新京に舉行さ

る。

十六日 滿洲から凱旋の蒲、佐藤、梅津、蓮沼の四中將並に佐野少將は宮中に參内 天皇陛下に拜謁滿支警備の任にある皇軍の軍狀を奏上、御下問に奉答○愛國勤勞黨中央委員辯護士天野辰夫等一味六十三名に係る神兵隊事件の豫審終結し、天野辯護士外五十三名は内亂豫備陰謀罪として現行法最初の内亂罪適用を見るに至つた○美濃部博士は小原法相の許へ上申書を提出し貴族院議員拜辭の意志を表明。

十七日 滿洲事變勃發以來滿四ヶ年間に於ける事變關係死傷者は一萬一千三十五人に上る旨陸軍省發表○美濃部博士の司法處分に關する司法首腦部會議の結果同博士の貴族院議員拜辭を以て起訴猶豫と決定。

十八日 新獨立國フイリツピン・コンモンウェルスの初代大統領は現比島上院議員マニエル・ケソン氏當選確實○美濃部博士貴族院議員辭表提出後聲明書發表○聯盟理事會五國委員會は伊エ紛争平和解決案を採擇、マガリアガ氏より伊・エ兩國代表に和協試案を提示。

十九日 川島陸相は國體明徴問題に關して

岡田首相と會見、政府の再説明、美濃部博士の聲明内容、官公職にある機關説信奉者一掃の三點に關し再考慮を要望○駐日支那大使蔣作賓氏は官邸に岡田首相を訪問、日支提携の實現に獻身的努力する旨を披瀝す。

二十日 東京商大の紛擾問題に關し佐野總長は文部省に辭意を表明○閣議の席上美濃部博士の聲明に對し全閣僚舉つて遺憾の意を表明。大角海相は岡田首相に對し美濃部氏の司法處分と右處分後の博士の聲明との間に矛盾があつて疑惑の念を深からしむる處少からずとの見解を述べた○伊太利代表はラザアル佛首相と會見、地中海上の英國艦隊の行動につき不滿を表明。

二十一日 地方選舉のトツプを切り鳥取縣會議員の投票開始さる○美濃部博士は司法處分決定直後の聲明が世上の誤解を生んだ事を深く遺憾とし右聲明を一切取消したいと書簡の形式を以て司法省に申入れた結果司法省は小原法相談の形式で發表○伊太利政府は閣議に於て五國委員會の和協案を拒否し第三者の介入を斷乎排撃に決定。

二十二日 松永駐埃大使は家族同伴五年振

りて賜暇歸朝○渡支した英國のリースロス氏は上海着直ちに中國銀行理事長宋子文と會見重要會談を遂げた。

二十三日 埃及政府の日本綿布に對する爲替補償稅實施につき外務、大藏、商工、農林、逓信、拓務の關係六省は會議を開き撤回を要求するに意見一致○新京發清津行列車は二道河と黃松甸間で二百名餘の匪賊に襲撃されたが警乗員十二名が應戰退却した。

二十四日 北支駐屯軍多田司令官は北支政策の重點を明にし北支自治體の結成指導の必要ありと聲明。

二十五日 國體明徴に關する重大閣議は首相官邸に開かれ機關説絶滅に軍部兩相が三項の共同要求を提示、全部閣議の同意を得緊張裡に散會○スペイン後繼内閣はチャパブリエタ前藏相によつて組閣成る。

二十六日 第四艦隊は最大秒速三十五米の強風を冒して演習に從事中、激浪の爲め驅逐艦初雪、夕霧は船體に相當大なる損害を被り陸月及菊月等も亦若干の被害あり多數の犠牲者を出す○海軍省發表○連日の豪雨の爲め利根川は未曾有の大増水を來し群馬、栃木、埼玉、茨城、千葉等

その氾濫により稀有の水禍に見舞はる。

二十七日 小原法相は閣議の席上美濃部博士處分問題に關し同氏は只管謹慎の意を表し居る旨を述べ釋明諒解を求めた○本年度陸軍特別大演習の統監部職員發表さる。

二十八日 昭和五大疑獄として知られた小川元鐵相を中心とする五私鐵事件、天岡元賞勳局總裁を中心とする勳章事件、藤田元東京商工會議所會頭等の合同毛織事件の合併上告は小川元鐵相を審理遺直し、天岡、藤田兩氏は上告棄却の判決あり刑の確定を見た○伊・エ紛争處理の聯盟理事會十三國委員會は規約第十五條第四項に基く理事會勸告案の基礎大綱を作成。

二十九日 神戸海員會館に開催の日本勞働組合會議に於て日本勞働組合總聯合はメデー廢止、勞資一體の日本産業祭の舉行を提唱した所否決されたので總聯合代表議員一同退場○メーメル地方議會選舉行はる。

三十日 三浦總領事は排日ボスター問題に對し支那側と好意的折衝を續けて居たが誠意を示さないで湖北省主席張群氏と會見支那側の誠意ある回答を要求。

【十月】

一日 第四回國勢調査行はる、臺灣、朝鮮、樺太、關東州の各地一齊に施行○朝鮮施政二十五周年記念式典京城に於て盛大に行はる○第四艦隊所屬驅逐艦の颱風に因る遭難事件の査問委員會は野村大將を委員長として組織さる○滿洲國財政部大臣孫其昌氏一行東京歸着入京○英政府は伊エ紛争に關し自國の立場を闡明し、聯盟理事會が制裁の責任を回避することは許されぬと集團的行動の決意強調。

二日 農林省は九月二十日現在の第一回米作豫想收穫高を六千五百六十六萬四千六百三十石、前年に比して一割六分九厘増と發表○獨逸グライターの權威者ヴォルフ・ヒルト氏は日本官民のグライター研究の指導に當るべく來朝。

三日 松井石根大將は滿支視察の途に就く○伊軍一齊にエチオピア國境を超へて進撃開始○イーデン英無任所相は駐佛大使クラーク氏同伴、佛外務省にラザアル首相と會談の結果聯盟は斷乎既定方針を堅持、侵略國伊太利に經濟斷交實施に意見の一致を見た。

四日 本年度海軍大演習を終へた聯合艦隊並に第四艦隊の艦隊百二十隻東京港に入



洪投鑑○東京商科大学長佐野博士の引責  
辭職に伴ふ後任學長は三浦新七博士正式  
に就任受諾。

五日 陸軍省永田軍務局長傷害事件當時の  
兵務課長山田大佐は事件の責任を痛感自  
邸に於て軍刀を以て自殺○新帝院反對の  
ため結成された第二部會同覽會に對し藤  
島畫伯以下七氏の帝院會員は友誼的に出  
品する旨を發表。

六日 伊太利軍先鋒は頑強なエチオピア軍  
の抵抗を排し正午アドロ入城○米國務省  
は大統領令を以て米國の嚴正中立を確保  
するため伊エ兩國の船舶により旅行の場  
合は政府は保護せざる旨を布告。

七日 農林省は九月二十五日現在に於ける  
夏秋蠶繭收高は三千五百四萬二千貫  
にして前年より九分六厘減と發表○聯盟  
理事會公開會議は、聯盟規約第十六條の  
發動を全會一致採擇○ハルビン唯一の赤  
系露字新聞ノオスチ・オストフは匪賊  
操縱の重大役割を演じてゐた編輯長その  
他赤系記者滿人從業員を檢束。

八日 國體明徴問題に關し川島、大角陸海  
相は岡田首相と會見、其徹底を要求した  
に對し首相は善處を確言○支那駐日經濟  
觀察團長鼎昌氏以下一行二十名は神戸入

討伐は非常な激戦で一千に上る集團匪を  
全滅した、その中に古賀聯隊を襲つた大  
頭目劉振東ほか有力匪首の死體發見○英  
領ソマリランド國境閉鎖さる。

十八日 大藏省は昨年度各省豫算概算の第  
一次査定を終り省議は公債漸減の根本方  
針を堅持これが貫徹に努力する旨を申合  
す○リース・ロス氏上海大使館邸に有吉  
大使訪問○駐英藤井代理大使は英外務省  
にクレギー參事官訪問、帝國政府の對  
英軍縮回答を手交。

十九日 川島陸相は在京陸軍大將を陸相官  
邸に招待、國體明徴問題の経緯を説明今  
後の情勢に就き意見交換○駐支大使館首  
腦會議を大使館事務所で開催、同海軍側  
勢手艦上に於て開催○前軍務局長永田  
鐵山中將を殺害した相澤三郎中佐は第一  
師團軍法會議岡田法務官の豫審調べを受  
けて居たが取調べ終了。

二十日 北支停戦協定線境界の香河縣農民  
自治運動暴動化し官憲と衝突○聯盟軍縮  
會議議長ヘンダソン氏(英國勞働黨長老)  
逝去享年七十三。  
二十一日 國體明徴に關する在郷軍人聯合  
支部長會同は軍部大臣に信頼して善處の  
旨の方針を明示○生絲奔騰して千圓暴突

港來朝○伊太利軍はエチオピアの聖都ア  
クスム占領。

九日 朝鮮平安北道對岸外岔溝市街に海蛟  
一派と目される匪賊襲來し守備隊と戦  
ふ○廣田外相は加藤駐力公使宛電し  
カナダ側が不當措置を撤回すれば日本も  
通商擁護法の適用を廢止する旨の回答を  
傳達せしめた○對伊制裁を議決する爲め  
の聯盟總會席上埃洪兩國伊太利との友誼  
並に經濟關係から制裁案發動に賛同し得  
ぬ旨を發表。

十日 陸軍首腦部は國體明徴に關し今後問  
題を殘さぬやう思ひ切つた處理を要望す  
るに意見一致○聯盟總會は對伊制裁に對  
する報告書を埃洪兩國の留保を押し切り全  
會一致可決○伊太利政府はエチオピアと  
の國交斷絶を正式に宣言。

十一日 聯盟の制裁調整小委員會はエチオ  
ピアに對する武器禁輸を即時解除に決  
定。

十二日 マニラのダウアオ土地局長は百四  
十三耕地の取消命令を發し在留邦人極度  
の不安に襲はる○米國務省は比島への  
日本綿布輸出に關する紳士協定が成立し  
たる旨を發表。  
十三日 國體明徴に關する再聲明案文に就

破、一昨年六月以來の新高値示現○獨逸  
は一九三三年十月二十一日の脱退通告に  
基き國際聯盟から完全に離脱○駐支陸海  
軍武官會議(第二日)を開催具體策檢討。  
二十二日 内閣會議總會は地方財政改善  
に關する中間的答申を審議しこれを可決  
す○河北自治暴動擴大香河縣長逃亡し戒  
嚴令宣布さる。

二十三日 香河縣民治安委員會、蔣介石政  
權並に國民黨否認の宣言を重ねて爲す○  
カナダ自由黨首領キング氏は總督代理ダ  
ツフ大審院長の許に閣員名簿を捧呈、自  
由黨新内閣成立○伊太利ムソリニ首相は  
ラヴアル佛首相の最後の要請に應じエチ  
オピア帝國處理に關する新和協案を提  
示。

二十四日 五・一五事件民間側從犯關係の  
大川博士、頭山、本間三巨頭並に吉岡氏  
に繋る併合上告審に清水裁判長は左の判  
決を言渡した。

禁錮五年(前審禁錮七年) 大川 周明  
禁錮三年(前審禁錮四年) 頭山 秀三  
禁錮四年(前審禁錮五年) 本間憲一郎  
○河北省政府首席商震氏民衆自治運動の  
擴大阻止のため各縣に戒嚴令布告、商震  
氏に對し我武官室より晴氣大尉を派遣し

て陸海軍當局は軍部の總意を一致表現せ  
しむる爲め重要協議を遂げた後軍部側の  
再聲明案文を文書を以て白根書記官長に  
傳達○出先軍部當局の對支政策を調整す  
るため參謀本部第二部長岡村少將、關東  
軍參謀副長板垣少將、支那駐屯軍司令官  
多田少將、上海駐在大使館附武官磯谷少  
將等大連星の家に會合重要協議。

十四日 米國陸軍長官ダーン氏夫妻は、比  
島獨立祝賀會に參列の途次横濱寄港來朝  
○カナダ自由黨首領キング氏は自由政權  
は關稅障壁を打破し日加貿易を復活すべ  
きことを闡明。

十五日 國體明徴に關し政府再聲明發表、  
天皇機關説は神聖なる我國體に悖り其本  
義を愈るの甚だしきものにして嚴に之を  
芟除せざるべからずと明示○駐日伊大使  
は外務省に重光次官を訪問、同次官は聯  
盟の制裁は日本と何等の關係なき旨説明  
○カナダ總選舉は政府黨の慘敗に歸す。

十六日 肅正選舉を強調した地方選舉の開  
票の結果五十七名の差で政友會に凱歌上  
る○駐佛英國大使クラーク氏はラヴアル  
首相に對し地中海艦隊の撤收要請に應じ  
難き旨確言。  
十七日 松井部隊の錦州省朝陽縣下匪賊大

同氏の注意を喚起す○英國政府は十二日  
二日を期し海軍會議を開催するに決定日  
米佛伊の關係各國政府に招請狀を發す。  
二十五日 山崎農相は閣議に前議會に審議  
未了となりし米穀管理法を衆議院の修正  
案の儘再度提出しない方針であると希望  
し各閣僚之に賛成提出に決定○在支總領  
事會議天津に開かる○高橋駐平武官香河  
縣民自治運動を模範とする民衆運動に就  
て暴動は斷乎排撃する旨態度表明。

二十六日 駐日支那大使蔣作賓氏は高橋藏  
相を官邸に訪問、歸國の挨拶を兼ね日支  
間の經濟問題につき懇談○支那駐屯軍司  
令官多田少將は軍司令部に於て河北省政  
府主席商震氏と農民自治運動に關し會見  
○英國本藏省は法令を以て伊太利との金  
融的交渉を禁止する旨發表○空軍充實四  
ヶ年計畫により航空、防空兩部隊の充實  
に着手した陸軍では飛行三個聯隊増設の  
第一歩として朝鮮會寧に飛行團司令部と  
飛行聯隊を増設。

二十七日 東京方面一帯に豪雨あり、雨量  
一時間坪當り一石三斗七升に達し氣象臺  
創設以來の新記録を示す○保安隊縣城を  
接收し香河縣事件一時解決す。  
二十八日 内閣統計局は昭和九年の内地人



人口動態を發表し昨年中の自然増加八〇九、〇九九人で一分間に一人半の増加割合であると發表○駐日支那大使蔣作賓氏は廣田外相を訪問、歸國の挨拶後、我が對支方針に關し意見交換。

二十九日 駐日支那大使蔣作賓氏官邸に陸相訪問、川島陸相積極的日支提携を説く○定例閣議は海軍々縮會議に永野修身大將、永井松三大使兩氏を全權として派遣することを決定○支那駐屯軍司令官多田少將は支那軍政當局に北支に於ける反日滿機關の絶滅を要求○聯盟委任統治會議は太平洋諸島に於ける日本の委任統治に關し討議。

三十日 内務省は第二次肅正運動の指針を得べく總務部長會議を開き後藤内相は眞の肅正は今後に俟つと激勵○滿鐵日滿通貨統制の見地より滿洲國幣の受入り開始○蔣介石氏は北支の新政態を重視し北平軍事分會と河北省政府に對し「日本の要求を容認し慎重の態度を以て善處すべし」と訓令。

三十一日 宇垣朝鮮總督、岡田首相訪問朝鮮治狀況並に明年度豫算編成方針につき意見交換○蔣作賓氏廣田外相歸國の途に就く○國民政府首腦部は蔣介石氏を中心に

連日北支對策を協議の結果總括的内容を我外務當局、具體的内容を我軍部當局に正式に發することとなる○日濠親善使節出淵勝次大使歸京。

【十一月】

一日 熱田神宮御本殿御遷座祭明治二十六年以來四十三年目に行はる○支那汪精衛氏、六中全會開會式後兇漢に狙撃され重傷を負ふ○軍部、滿鐵の協議會に於て興中公司の經營根本方針決定。

二日 陸軍空前の重大事件として天下を震撼した永田中將襲撃事件の相澤中佐にかゝる豫審終了し用兵器上官暴行、殺人及傷害として正式起訴に決す○聯盟對伊制裁十八ヶ國委員會は對伊制裁執行日を十一月十八日と決定。

三日 米國在郷軍人大會に出席の竹下海軍大將、二宮陸軍中將等歸朝○帝政復活を國民の總意に問ふべきギリシヤの人民投票の結果は、帝政復活派の壓倒的大勝に歸す○孔財政部長支那貨幣制度改革を發表。銀の國有、現銀の兌換停止の強行は上海金融界に一大センセーションを捲起した。

四日 文部省は教學刷新評議會の設立趣意書並に官制要綱を發表○南京政府の幣制

改革に關し外務、大藏兩省重要會議開催○滿洲國幣統一の我協力方針決定政府聲明發表○有吉駐支大使は中央銀行總裁孔財政部長を訪問、新通貨策に對し支那側の注意喚起。

五日 英支借款問題に關し有吉大使より孔祥熙、リースロス兩氏に對し飽く迄反對せる旨外相宛電來る○内閣審議會第六回總會は諮問第二號文教刷新方針を附議審議の結果特別委員付託○ソ聯外務省は滿露間の國境衝突事件に關し廣田外相の覺書を全面的に反駁せる回答文を發表。

六日 天皇陛下には南九州で舉行の陸軍特別大演習御統裁のため宮城御發聲鹿兒島に向はせらる○駐日英大使クワイア氏本國政府の訓令に基き外務省に重光次官訪問、對支共同借款問題につき重要會議○第六十八通常議會召集詔書公布さる○廣東省政府は國民政府の銀國有令に反對して銀省有令公布七日より實施○英國政府は海軍縮小本會議の開會期日を十二月五日に決定。日、米、佛、伊四ヶ國政府の同意を要請。

七日 岡田首相は大演習陪觀のため西下の車中に於て來議會の解散非解散は其時の情勢を見なくては分らぬ、政府としては

目下のところ全くの白紙である。と語つた○新北平市長秦德純氏施政方針を發表、民生休養、人心安定、商工業の繁榮を公約す。

八日 濱線沿線の強力な匪首五省仁義、南洋、青山、白龍、北龍、考鳳林等が我防衛隊に無條件で歸順○國民政府の幣制改革に對し駐支大使館附武官磯谷少將は重大聲明發表。

九日 南九州地方に於ける陸軍特別大演習は 天皇陛下御統裁の下に開始さる○外務省は支那國民政府の幣制改革案に對し幣制改革の措置に遺憾の點ありとし共同借款に協力し得ずと非公式に聲明○上海北四川路附近にて我陸戰隊中山一等水兵射殺さる。

十日 希臘廢帝ギオルギス二世はロンドンに於て祖國使節團に對し復位即時歸還を御受諾○我が水兵射事件に關し陸戰隊司令部に於て陸戰隊、陸軍武官、大使館、總領事館等各關係者全體會議を開催、石射上海總領事、大使館當局談等の形式にて聲明書發表○米國陸軍航空隊所屬スチダグンス大尉、アンダーソン大尉の兩氏は成層圏探検氣球にて上昇七萬三千呎の新記録を作る。

十一日 大藏省豫算會議開かる○上海の盛場南京路日比野洋行は支那人數千人からなる暴力團に闖入されワインドー及び商品破壊さる。

十二日 陸軍特別大演習終る○農林省は十月末日現在に於ける米第二回豫想收穫高を五千七百五萬九千七百三十石、九月二十日現在の第一回豫想收穫高に比し五分減少と發表○伊太利政府は制裁案の報復策として制裁案參加各國品のホイコット各國政府との通商條約を事實上破毀する旨正式發表。

十三日 陸軍特別大演習御統裁を畢へさせられた 天皇陛下には畏くも地方行幸仰出され宮崎市に行幸あらせらる○駐日伊太利大使外務省に重光次官訪問、制裁案發動に關し意見交換○埃及に反英暴動起る○察哈爾省に屬する内蒙十一旗代表は張家口に於て重要會議を開き漢民族の支配から離脱することを決議。

十四日 政友會定例幹部會は文部會の教學刷新評議會に島田總務を委員として送ることになつたに對し反對論起り更に總務會を開き再検討することに決定○須磨南京總領事は外交部に唐外交部次長を訪問排日運動取締に關して嚴重要求○英國議

會總選舉行はる○前首相マクドナルド、令息植民相マルコム・マクドナルド父子共に落選す○フレイツピン・コンモンウェルスはケソンの初代大統領就任式により誕生。

十六日 岡田首相は大演習陪觀の歸途、興津坐漁莊に西園寺公を訪問重要政務懇談○ロンドン海軍縮小會議出席の首席全權永野修身大將、全權永井道三大使は東京出發車中にて不脅威不侵略の實現を期する旨の聲明發表○政友會總務會は島田總務の教學刷新評議會委員の參加を拒否するに決定○廣田外相は有吉大使に對しリース・ロス氏に對支共同借款參加拒絶の意思表示を訓電○五全大會の席上、蔣介石氏對日救陸の方針不變を強調。

十七日 川島陸相は大演習地の宿舎に於て今井軍務局長と明年度陸軍豫算問題、北支問題に關し會談○北支自治政權樹立促進を期する爲め國民自救會、北支各省當局、平津各機關、河北諸團體、各新聞社に對し通電。

十八日 駐日新ブラジル大使ベロソ氏著任○國際聯盟の對伊經濟制裁發動さる○外交部次長唐有壬氏、磯谷少將を訪問し北支自治工作に關し重要會見。



十九日 有吉大使は大使館事務所に於て磯谷陸軍、佐藤海軍の兩武官、堀内書記官を交へ、陸、海、外務三省會議に基く本國政府の訓令に基き重要協議○上海カセイホテルにてカドカン・クライア兩大使リースロス氏等の英國出先三巨頭は支那幣制改革、對支借款問題、極東政策等につき重要協議○國民政府は北支要人の具申に基き北支防共自治委員會の組織及機構に對し檢討の結果、一切干渉せず原案を承認に決定。

二十日 大演習陪觀の歸途川島陸相は明年豫豫算に關しては現下の國際情勢から必要な勢力は維持して行かねばならぬ故駈引なしに必要だけを要求してゐる譯である旨言明○有吉大使は堀内、有野兩書記官須磨總領事を帶同、蔣介石氏を訪問華北自治問題解決等に就き重要會議。

二十一日 天皇陛下には陸軍特別大演習を了へさせられ地方御巡幸、御十六日振りに宮城へ還幸あらせらる○白晝小學校長を毒殺、教員の給料三千餘圓を掠奪せる怪事件あり○蔣介石氏は軍官學校官邸に張群、蔣作賓、何應欽、孔祥熙氏等の要人を召集、北支情勢を基礎に日支兩國關係の打開策につき重要協議。

二十二日 有吉、蔣南京會談内容が外務省に到達したので外務、陸海軍、大藏四省の聯合協議會開かれ對支方策大綱の意見一致○チェツコ・スロゲキア初代大統領マサリツク博士は老齡の故を以て辭意を表明。

二十三日 リースロス氏中央、中國、交通三銀行及橫濱正金銀行當局と個別的に會見○休會を續けつゝありし日・埃會商はエチプト外務省に於て續開、爲替補償税につき協議。

二十四日 北支戰區督察專員殷汝耕氏は通州蘇密專員公署に於て戰區民の總意により戰區自治を宣言、北支自治の第一聲を擧ぐ。

二十五日 駐日支那代理大使丁紹儀氏 外務省に於て重光次官と會見、南京政府の訓令に基き日支間の全面的親善方法手續に關し重要申入れを爲す。右に對し廣田外相よりも有吉大使宛電○内閣統計局は國勢調査の結果、帝國人口總數九七、六九四、六二八、内男四九、二四〇、六五九、女四八、四五三、九六九と發表。

二十六日 明年度豫算概算大藏省原案を閣議に提出○滿洲里會議決裂に對し、滿洲國外交部當局、滿蒙間の問題は自主的に

解決すと聲明發表○天津支那駐屯軍北支問題に關し重大聲明發表。

二十七日 陸軍豫算問題に關し國運の進展を忘れ國策の遂行に遲疑するが如きは斷乎同意し得ずと非公式に聲明その所信を明かにした○駐日英代理大使ウイギン氏重光外務次官訪問、本國政府の訓令に基き北支自治運動に關し意見交換○ワシントン駐劄英大使リレシイ氏米國務院を訪問北支情勢に就き次官補ロバート・モリア氏、極東局長スタンリー・ホーンベツク氏と會談。

二十八日 親王殿下御誕生あらせらる○支那國民政府元外交部長王正廷氏來朝○日蘭海運豫備會議は神戸に開かれ蘭船側フランドベン氏、邦船側寺井氏會合意見を交換。

二十九日 豫算閣議に於て川島陸相受諾の妥協案參謀本部強硬に反對、竟に決定に至らず豫算編成危機に直面す○太平洋橫斷定期郵便飛行處女航空の途に就いた汎米航空會社のチャイナ・クリツパー機はアラメダ・マニラ間を七十六時間五十三分で翔破○米國海軍々縮全權テグニス氏、作戰部長スタンドレー提督、國務次官フィリップス氏はアキタニア號で倫敦

に向け出發。

三十日 參謀本部は陸軍豫算妥協案を承認し八百萬圓の復活要求を認むることになり川島陸相より閣議に報告、妥協案を附議して可決圓滿に明年度豫算案決定す○明年度豫算總額二十二億七千二百萬圓を決定○殷汝耕政權唐山地方徵稅權を實力接收。

【十二月】

一日 澄宮崇仁親王殿下の御成年式に先立ち赤阪の澄宮御殿で嚴かに賜冠の御儀を行はせらる○カナダ政府は對伊制裁に關する方針を一變し石油・石炭・鋼鐵等の對伊禁輸案に反對の意向表明。

二日 澄宮崇仁親王殿下には滿二十歳に達せられたので皇族成年式令により宮中賢所大前において嚴かな御成年式を擧げさせ給ひ三笠宮家を御創立遊ばさる○ロンドン海軍縮小會議永野全權は宿舎グロヴナー、ハウスより日本國民宛着任挨拶の辭を寄せ、擧國一致の支援を重ねて希望した。

三日 貴族院勅選議員の缺員補充に山本条太郎、平生鈺三郎兩氏選任發令さる○英國皇妹ウイクトリア内親王殿下薨去遊はさる御年六十八○北支時局收拾の重大使

命を負ふて北上の何應欽氏は北平に入り宋哲元、蕭振瀛、秦德純氏等と重要會談を行つた。

四日 宮内省告示第三十號を以て十一月二十八日御誕生あらせられた親王御名を正仁と命ぜられ義宮と稱せらるる○ロンドン海軍會議日本代表部は日本の態度に關し兵力量の均等と攻撃性武器の撤廢を力説の對策を發表した。

五日 教學刷新評議會總會は文部省内に開催、松田文相は外來文化の醇化攝取の必要を力説○米國務卿ハル氏は北支問題に關し暗に日本を指して九ヶ國條約並に北支に關する他の諸條約を侵犯するものなりとの聲明書を發表。

六日 北支自治に關し出先官憲に中央部の意向傳達の爲め喜多大佐、武藤中佐は天津に向け出發○滿洲中央銀行と朝鮮銀行の國幣一元化に伴ふ業務協定正式に調印さる○蔣介石氏行政院長に就任。

七日 京都府綾部町に總本部を置く類似宗教皇道大本教は朝憲紊亂の廉に依り三府縣に亘つて徹底的大檢舉行はれ出口仁三郎以下幹部三十名一齊に檢舉さる○駐伊ドラモンド英大使はムソリニ首相と會見、戰鬪行爲を停止し和協工作に協力す

る様要請した。

八日 大角海相は倫敦海軍會議開催の前に優越感を去り虚心恒懷に相談合したならば我が主張に歸すべきを信じて疑はぬと聲明。

九日 中野正剛氏國民同盟脱黨○英國外務省「ロカルの間に」於て日、英、米其他の全權並に英自治領印度代表等參加してボールドウィン首相司會の下に開會

十日 ロンドン海軍會議第一委員會にて英米側は先づ量の問題に就ての審議を後廻しにし質の制限に就て討議を主張したが日本側は共通最大限の問題を解決せぬ中は質の問題の委員會に出席せぬと頑張り根本問題で早くも主張對立○伊エ紛争に對する英佛の和協試案伊エ兩國政府に通告さる。

十一日 鐵道省は東北、北海道を中心として凶作地時局巨救並に軍事的見地に主眼を置いた新建設計畫を發表○ロンドン海軍會議第一委員會に於て永野全權は我が共通最大保有量案の本質を種々の角度から説明。

十二日 天皇陛下には二十五日の大正天皇御例祭に先立ち多摩御陵へ御親拜あらせらる○エ國皇帝はデシエの大本本營に



於て英佛試案拒否を確言。  
 十三日 支那駐屯軍多田司令官は參謀本部支那課長喜多大佐を迎へ幕僚會議を開催冀察政務委員會組織に關し討議○ロンドン海軍會議日英間の私的會談は英國海軍省に開催され我が共通最大保有量問題につき意見を交換。  
 十四日 岡田首相は時局問題につき談話し樞府議長問題は一木議長から政府に對し辭意の表明も辭表も出てゐない、樞府議長は非常に重大な椅子だから輕々しく論議すべきものではないと語つた○新帝展反對の日本畫審査員級四十四畫伯は文部省へ決議文手交。  
 十五日 松岡滿總裁は陸軍首腦部川島陸相古莊次官、今井軍務局長等と滿鐵今後の經營方針等につき懇談○股汝耕の主宰する冀東自治委員會所屬の保安隊二百名は突如實力を以て塘沽公安局その他政府機關を一齊に接收したので宋哲元の冀察政務委員會と對立を來した。  
 十六日 法制審議會總會は商法改正案中第三編商行為、第五編海商法に關する主査委員會の要綱を原案通り決定○奈良縣警察部は中山天理教管長の所得税査定に絡む不正嫌疑で丹波の同教本部、中山管長

邸を家宅搜索し、會計部長中山爲信幹部を檢舉。  
 十七日 海軍關係並に海軍出身貴族兩議員に對する海軍豫算内示會海相官邸に開かる○ロンドン海軍會議日米私的會談は米代表部宿會に於て行はれ我が代表は比率主義の縮減に斷乎反對を表明。  
 十八日 十二回國際オリソピック大會日本招致に對する官民一致の招致懇談會首相官邸に開かる○チエツコ・スロヴアキヤ大統領マサリツク博士の後任にベネシユ外相當選○英國外相ホーアは伊エ紛争和協試案に對する國內輿論の反對増大したため辭職。  
 十九日 關稅調查會幹事會は對加通商擁護法處置に關し協議の結果對加復關稅を撤廢することに決定○陸軍では衆議院の陸軍軍籍關係議員及び議員中の元政務官軍事功勞者を招待明年度陸軍豫算の内示會を開會○聯盟理事會秘密會議は伊エ和協英佛試案を二時間に亘つて討議の結果遂に葬らる。  
 二十日 高橋藏相は吉田調査局長官に對し内審や調査局で十二年度から増稅決行のやうに言つてゐるか増稅問題は影響するところ大であるから慎重な態度をとるや

うにと注意○伊フアシスト大評議會は對エ工作を續行し經濟封鎖に對しては他くまで抗爭することを決定。  
 二十一日 滿洲、上海兩事件論功行賞中本庄、荒木、大角三大將に對し授爵奏請○東京市電爭議俄然表面化し各支部に不穩の形勢あり中島委員長等を總檢束。  
 二十二日 内閣制度創始五十年祝典舉行○英國外相にイーデン氏任命さる。  
 二十三日 皇太子繼宮明仁親王殿下には御目出度く第二回御誕辰を御迎へ遊ばさる○滿洲上海兩事件文武官議員三千餘名に對し論功行賞の御沙汰を賞勳局より發表○望月選相、内田鐵相、山崎農相等政友會脱黨組は衆議院事務局宛昭和會なる俱樂部を樹立せる旨届出○第六十八議會開會を前にして政友、民政、國盟各派は議員總會を開會。  
 二十四日 第六十八通常議會召集さる○労働者退職積立金制度に關する失業對策委員會總會は原案可決○東京市電の紛争解決す。  
 二十五日 支那國民政府は排日運動の險惡化に對し上海、南京、武漢戒嚴令を布告○前外交部次長唐有壬氏は上海佛租界の自宅玄關前で兇漢二名に背後から狙撃さ

れ即死。  
 二十六日 第六十八議會開院式は貴族院に於て 天皇陛下御親臨の下に舉行さる○牧野内大臣は病氣の爲め辭表捧呈、後任は前首相齋藤實子に決定○日滿郵便條約調印。  
 二十七日 駐日支那代理大使丁紹儀氏は重光外務次官を私邸に訪問、日支國交調整に委員會設置を提議○ウルグアイ國政府はロシヤとの國交を斷絶する旨公表。  
 二十八日 高橋藏相は藏相邸に望月選相等昭和會所屬代議士を招待、その席上政黨政治復歸が即ち憲政の常道であると力説○外務省は日加通商調整に關する公文交換を公表した。  
 二十九日 國際放送電報規則公布さる○文政、法制、臨時産業の三審議會廢止公布。  
 三十日 齋藤内大臣は興津坐漁莊に西園寺公を訪問、内府就任の挨拶を兼ね政局の動向、軍縮問題等に就き懇談。  
 【昭和十一年一月】

ルト大統領は國內、國際を通じて少數者專制を排撃の教書を發表。  
 四日 歸朝中の須磨南京總領事は廣田外相に對し支那現地の報告をなし南京會議に對する重要進言を試みた。  
 五日 官中では内外の臣僚八百餘名を召集し、新春を壽ぐ御恒例の新年御賀宴を催さる。  
 六日 裏日本一帯に猛吹雪襲來し上越、信越、北陸各線とも列車運轉混亂に陥る○ロンドン海軍會議はクラレンス・ハウスに於て第一委員會再開。  
 七日 岡田首相は閣議開會前高橋、望月、町田、後藤の四閣僚と會見對議會策協議○宋哲元河北省政府主席に正式就任○滿洲國大橋外交次長は冀東自治政府長官殷汝耕氏と會見。  
 八日 陸軍始觀兵式は畏くも 大元帥陛下の行幸を仰ぎ奉り代々木練兵場に舉行さる○ロンドン軍縮會議第一委員會は英、佛、伊代表部提示の建艦計畫や保有艦艇に關する情報の交換案を繞つて討議を開始。  
 九日 皆既月食は午前一時二十八分虧け初め同四時五十一分復圓○ロンドン海軍會議日英私的會談開始さる。  
 十日 金森法制局長官辭任に伴ふ異動發令

され後任に逓信次官大橋八郎氏就任○廣田外相は有田駐伯大使と會見し有吉駐支大使の後任に就任方交渉したるにその受諾を得た○滿洲國大橋外交次長は宋哲元氏と會見冀察政權との具體的提携問題につき懇談。  
 十一日 外務、海軍兩省はロンドンよりの永野全權の請訓に基き聯合協議會を開催根本的方針決定○内務省は東京市財政の紊亂反省のため同市より申請の起債三件合計四千八百萬圓を却下。  
 十二日 ロンドン海軍會議に對する臨時閣議は會議の最後の訓令案を決定。  
 十三日 政友會長老岡崎邦輔氏は藏相官邸に高橋藏相を訪問し現下の政局に關し腹藏なき意見を交換○ロンドン海軍會議日英私的會談に於て英國イーデン外相は日本側の共通最大限案の討議要望に對し強硬反對の態度を示し永野全權は袂別を言明するに至つた。  
 十四日 宮中御恒例の御講書始の儀は 天皇陛下鳳凰の間に出御あらせられ殿かに行はせらる○西下の町田商相の車中談に曰く政友會の出様如何に依つて政府の最後の態度は決定するだらう、大勢は自ら歸する處に歸するものであると語つた。



十五日 外務、海軍兩省ではロンドン海軍會議永野全權よりの脱退通告文に關する公電を無條件に承認するに決し廣田外相より其旨回示○ロンドン海軍會議第一委員會は日本案の再討議に入り永野全權は各國の反對意見を反駁しつつ日本の根本主張を説明○ロンドン會議の我が脱退通告は全權がグロヴナー・ハウス歸來後使者を以てモンセル議長宛に送達同時に我代表部公式聲明書發表○高橋藏相増税を否定。

十六日 須磨南京總領事は支那國民政府の對日態度並に支那の諸般の現狀を報告し今後の打合せを遂げて歸任○ロンドン海軍會議脱退に關し岡田首相、廣田外相、大角海相は夫々談話の形式で我が國の立場を中外に闡明するの聲明書を發表○日本脱退後最初の四國會議開催、モンセル議長日本全權の會議脱退手續完了宣言、直に英佛伊三代表部より提出中の建艦通報案審議、尙我オプゾーグ出席招請を決定。

十七日 町田商相は閣議席上重要産業統制法を修正の上存続せしめる必要ある旨説明諒解を求めた○政友會の長老久原、山本(佛)兩氏は明徴派の國體明徴單獨上奏

案に署名○英國皇帝ジョージ五世陛下は氣管支カタルにて御静養中のところ、憂慮せらるゝ御容態の旨御侍醫より發表○軍縮四國代表第一委員會開會、建艦通報案審議可決。尙專門委員會任命、細目の起草委囑。

十八日 社會大衆黨の第四回全國大會は芝協調會館で開會、十一年度豫算案に反對を聲明返上を決議。

十九日 政友總務會は對議會策を協議の後劈頭總括不信任案を提出することに満場一致可決。

二十日 宮中御恒例の御歌會始は宮中鳳凰の間に 天皇陛下の出御を仰ぎとり行はせられた○内務省は全國有権者總數を一千四百四十七萬人と發表○英國皇帝ジョージ五世陛下は午後十一時五十分崩御遊ばさる御年七十年六ヶ月。英攝政會議構成、公布。

二十一日 第六十八議會再會され衆議院に於て岡田首相、廣田外相、高橋藏相の演説終了直後解散さる。政府は議會解散と同時に「最近の政情を察するに衆議院における實情は到底圓滑なる國政の運用を期し難きものありと認め」云々の解散理由書を發表○衆議院解散直後、小原法

相總選舉取締對策に就き重大聲明。

二十二日 北日本一帯猛吹雪に襲はれ北陸奥羽、上越の三大幹線悉く不通となる○英國新皇帝エドワード八世陛下御即位布告の儀式はセント・セームス宮殿前の廣場を始めロンドンの四ヶ所及び全國、海外領土、インドに至るまで古式に則り厳かに執り行はれた○佛國ラザール内閣總辭職、埃及内閣總辭職。

二十三日 太田駐蘇大使はモスコに於ける漁業條約改訂交渉が競賣制の廢止問題を繞つて兩國の主張對立し物分れに終つた旨報告○佛國後繼内閣は元首相アルベール・サロー氏が組閣を受諾。

二十四日 總選舉に備へる緊急地方長官會議開かる○第九十回聯盟理事會終了。

二十五日 司法省檢察長官會同の席上小原法相は立憲政治擁護の百年の大計のため政府並に政黨政派に拘らず法の擁護者として選舉界を汚毒する買収、官憲の干渉等の宿弊を一掃せよと訓示。

二十六日 日滿郵便條約實施。

二十七日 東京市助役に第一大久保留次郎第二中野邦一、第三落合慶四郎の選任發表さる。

二十八日 陸軍未曾有の不祥事件永田軍務

局長殺害の相澤中佐に對する公判は第一師團構内軍法公判庭に開かる○英國先帝ジョージ五世陛下の御大喪はロンドン・ウインザー宮内のセント・ジョージ禮拜堂で莊嚴に簡素な司式の下に執行はれた。

二十九日 有吉駐支大使は南京訪問、張外交部長と會見歸國の挨拶を述べると共に日支國交の調整につき意見交換○ロンドン海軍會議第一委員會に英國代表は質的制限具體案を提示。

三十日 有吉駐支大使は南京に於て蔣介石氏と會見、時餘懇談、軍縮會議專門委員會建艦通報方式に關する委員會案に最後の推敲。

三十一日 定例閣議は全國各地の災害復舊費の十年度分追加は第二豫備金の殘額百七十三萬五千圓を支出すると共に憲法第七十條に基く財政上の緊急處分に依り公債財源を以て六百七萬二千圓合計七百四十萬圓を支出することに決定。

【二月】

一日 松田文相は自邸に於て突如心臓麻痺を發し逝去、享年六十二。

二日 天皇陛下には宮中鳳凰の間に出御岡田首相侍立の上松田文相逝去に伴ふ後

任文部大臣川崎卓吉氏の親任式を行はせらる○ルーミアニア皇帝カロール二世陛下にはパリに於て佛外相フランダン氏と會見遊ばされチチュレスコ外相陪席の上で一時間に亘り中歐政局問題から羅佛兩國の諸懸案調整につき協議を遂げられた。

三日 ロンドン海軍會議海軍専門分科委員會に艦種の定義、艦齡、基準排水量を決定。

四日 廣田外相は官邸に松平、有田、武者小路三大使をはじめ外務首腦部を招致、對英、對支態度に重點をおく政策の再検討を行つた○東京方面に暴風雪襲來、中央氣象臺は五十四年ぶりの大雪で積雪三十一センチと發表。

五日 樞密院審査委員會は災害善後に關し公債發行に關する財政上の緊急處分に對し政府側と質問應答を重ねた後可決○關東軍當局談の形式にて過日來の滿蘇國境紛争に關し三日蘇聯側にて發表せる聲明反對發表。

六日 東京市落合第一助役は助役問題紛糾の結果牛塚市長より第三助役たることを懇請されたが辭表を提出○滿蘇國境衝突事件に關し對露政策を再検討すべき外、陸、海三省聯合協議會外務省に開催さる。

七日 岡田首相は現内閣の施政方針並に解散理由をレコードに吹込み決意を闡明○永田中將暗殺事件の公判に民間よりの唯一の辯護人鶴澤總明博士は辯護人として自由の立場に處する意味から政友會を脱黨○ロンドン海軍會議第二分科委員會に於て英國は主力艦二萬五千噸、十二吋砲航空母艦二萬二千噸六吋砲に制限、一萬噸甲級巡洋艦の全廢等を提案。

八日 社會大衆黨首安部磯雄氏はメッセイヲを發表、國民に呼びかけてフアツシヨ排撃、新議會政治建設を高調○シンガポール英駐屯軍當局新嘉坡兵力三倍化斷行を發表。

九日 選舉公報締切、立候補者總數八百七十六名となる。内政友會三三四、民政黨二九六、國民同盟三三、昭和會四九、社大二九、諸派三四、中立一〇一。

十日 外務省では曩に歸朝した駐支大使館付武官磯谷少將を招き現地最近の情勢を聴取、率直な意見の交換を遂げた○米上院外交委員長ヒットマン氏は上院外交委員會に於て公式に日本讒誣○海軍會議第二分科會に於て質的制限決定(但し主力艦は後廻)

十一日 滿洲國大橋外交部次長は在哈爾濱



露國總領事と會見露國が私に行ひ來つた滿洲國擾亂の策動工作の事實を列舉し痛烈に反省を促したが露國側が誠意を示さないで斷乎たる態度を示すため急ぎ新京歸還。

十二日 災害善後に關する經費支辨の爲公債發行に關する緊急勅令案は樞密院本會議に於て原案通り可決したので政府は官報號外を以て公布○歸朝した有吉駐支大使は廣田外相を訪問、對支策一元化を進言○永田中將暗殺の相澤中佐の公判に近衛師團長橋本中將證人に喚問さる○滿洲國領シヤムインホトクに外蒙兵不法越境し日滿兩軍合體し激戦四時間の後撃退したが鏡山中尉外兵八名戦死、更に一時間後外蒙軍の輕爆機二臺が現れ日滿軍を空爆。

十三日 總選舉の立候補届出締切○東京商大の博士論文問題紛糾再燃し教授團中十四名は學内肅正を叫んで起ち三浦學長に辭表提出。

十四日 第三艦隊參謀長岩村少將は對支外交に關する陸、海、外務三省聯合協議會に出席、南支方面最近の情勢を報告○露國政府は奉天總領事館を閉鎖。

十五日 小原法相は全國選舉關係者並に有腦部に軍縮經過を報告○廣東訪問中の英經濟使節リース・ロス氏胡漢民氏と會見經濟合作に關する意見交換。

二十五日 政府は第六十九特別議會召集の日取を四月二十日、會期を三週間と決定した○胡漢民等の西南派巨頭西南執行部西南政務委員會の連名にて中央黨部及南京政府宛「日支交渉三原則を拒絶せよ」と通電。

二十六日 【陸軍省發表】本日午前五時ごろ一部青年將校は左記個所を襲撃せり△首相官邸(岡田首相即死)△齋藤内大臣私邸(内大臣即死)△渡邊教育總監私邸(教育總監即死)△牧野前内大臣宿舎湯河原伊東屋旅館(牧野伯爵行方不明)△鈴木侍從長官邸(侍從長重傷)△高橋大藏大臣私邸(大藏大臣負傷)△東京朝日新聞社、これら將校の蹶起せる目的はその趣意書によれば内外重大危急の際元老、重臣財閥軍閥官僚政黨等の國體破壊の元兇を芟除し以て大義を正し、國體を擁護、開顯せんとするにあり、右に關し在京部隊に非常警備の講せしめられたり○後藤内相、臨時總理大臣代理を仰付けられたる旨内閣より發表○内閣は總辭職することに決定、後藤首相臨時代理は各閣僚の辭表を

權者の自省を促すため國家百年の爲め清く正しく是非とも肅正の目的に邁進せんことを希望してやまぬと聲明を發表○日支間國際電話の開通式丸の内中央電話局で行はる○外蒙兵凡そ一千ボイル湖北端アツスルスム西方より大舉越境進撃し來る。

十六日 ボイル湖一帯外蒙軍占據に對し滿洲國嚴重抗議○西班牙議會總選舉行はる。

十七日 政府の所信を國民に訴ふべく岡田首相、高橋藏相は政府主催の日比谷公會堂に於ける演說會に臨み所信披瀝○永田軍務局長暗殺事件相澤中佐の第八回公判に軍事參議官林銑十郎大將を證人として喚問同大將は約二時間に亘り重要證言をなした。

十八日 後藤内相は總選舉期日が間近に迫つたので清き一票を行使するは立憲國民の責務なりとの聲明書を發表○藤井駐英代理大使は本國政府の訓令に従つて太平洋防備制限(四國條約)の存続は英國が希望するに於ては同意するに吝かならずと英國側に通告○パラグアイ陸軍急進派は首都アスンシヨシにてクーデターを斷行革命政府を樹立

取纏めて閣下に捧呈○株式取引所始め諸商品取引所は全國的に臨時休業を發表○有田大使上海着直ちに聲明書發表。

二十七日 二十六日夜宮中に開かれたる樞密院會議の結果東京市に戒嚴令を布くことに決し、午前二時三十分上奏御裁可を仰いだ戒嚴區域は東京市内臨戰地境、戒嚴司令官は香椎中將戒嚴司令部は九段軍人會館○香椎司令官は帝都附近全般の治安を維持し緊要なる物件を掩護すると共に赤系分子等の盲動を未然に防遏するの目的に出づと告諭を發した○大藏省は高橋藏相薨去を發表。町田商相は大藏大臣を兼任直ちに辭表を捧呈○第一艦隊東京灣、第二艦隊大阪灣警備につく○訪日英空軍飛行艇三機は前途の飛行を中止する旨英國大使館宛通報海軍省之を發表○ロンドン駐劄伊大使グランテイ氏は英外務省にイデーデン外相訪問、四國軍縮條約調印拒絶公式通告○佛露相互援助條約佛下院可決。

二十八日 閉院參謀總長宮殿下には小田原より御風邪を押して御歸京遊ばさる○【戒嚴司令部發表第三號】一、一昨廿六日早朝騒擾を起したる數百名の部隊は目下麴町永田町に位置しあるも之に對して戒

十九日 支那前行政院長汪精衛氏は獨逸汽船グナイセナウ號にて突如外遊の途に就く○支那駐日大使許世英氏は赴任を前に日支兩國國交上從來の憂鬱さを除くため誠意を盡したいと思ふ旨語つた○西班牙左翼内閣成立。

二十日 總選舉投票日○陸軍省は第一、第十二師團を滿洲へ交代派遣する旨發表。

二十一日 神奈川縣第二區より立候補の鈴木政友會總裁落選○大阪府中南兩河内郡方面に激震、震源地は大和川流域と判明○日本蘭印間通商關係調整に關し石澤、ハルト兩代表パタグアイに於て會見。

二十二日 第十九回總選舉開票結果は政友一七四、民政二〇〇、昭和二〇、社大一一八、國盟一五、諸派九、中立二五、計四六六。○有田駐支大使東京發赴任。

二十三日 總選舉終了に際し岡田首相は今の時局擔當に對する決意を披瀝し深く民意を尊重し憲政確立に邁進すると語つた○安達國民同盟總裁は舉國一致再建のため政府政友の橋渡しに乗り出し岡田首相次いで鈴木總裁を訪問○東京に再度大降雪あり積雪三五・五センチに達す。

二十四日 陸軍定期大異動内命發令○ロンドン海軍會議首席隨員岩下少將は海軍首

嚴司令官に於て適應の措置を講じつゝあり二、前項部隊以外の戒嚴司令官隷下の軍隊は 陛下の天命を奉じて行動しつゝありて軍紀嚴正、志氣亦旺盛なり三、東京市内も麴町區永田町附近の一小部分以外は平靜なり又其他の全國各地は何等の變化なく平穩なり。

二十九日 【戒嚴司令部發表午後三時】叛亂部隊は午後二時頃を以てその全部の歸順を終りこゝに全く鎮定を見るに至れりと發表○岡田首相生存の旨内閣より發表○内閣は事件關係陸軍將校香田大尉外十四名の免本官を發令、衛戍刑務所に收容○外務省は今回の事件安定せし旨在外使臣宛打電。

三月

一日 政府は今次事件に關し宮内省に於て緊急閣議を開き善後措置に關する協議並に人心の安定を目的とする聲明を發表○二十六日薨去せる齋藤内大臣、高橋大藏大臣が生前國家に盡しし功績を嘉せられ大勳位昇叙の御沙汰あらせらる○警視廳は今次事件に際し首相官邸その他警備の警察官中殉職者五名負傷者一名ありし旨發表○戒嚴司令部は叛亂軍の元將校中元大尉野中四郎は自決し爾餘の大部並に村



中孝次、磯部淺一及澁川善助は衛戍刑務所に收容せられたりと發表○第二艦隊の大坂警備解かる○滿洲國建國四周年○支那國民政府國民皆兵の兵役法發布。

二日 西園寺公入京直に參内 天皇陛下に拜謁仰付けられ恭しく天機を奉伺、陛下より時局收拾、後繼内閣首班に關し御下問あらせられたるに對し奉り公は暫らくの御猶豫を乞ふて御前を退下、一木、湯淺、牧野三重臣と會見し現下の政情を詳に聴取○樞密院本會議御諮詢案の重要案件審議○麻布三聯隊歩兵少佐天野武輔氏は今次事件に對し死を以て歸順勸告の任を果さんとして二十九日未明三聯隊兵營南側廣場で拳銃で自殺。事件當日陸軍省軍事課員片倉衷少佐は陸軍大臣官邸で行動隊に 天皇陛下の命によらず皇軍を動かすとは何事ぞと一喝して狙撃され負傷せる記事解禁○政友會は今次事件に關しその際斷然として肅軍の實を擧げ庶政を刷新せよとの聲明書を發表。

三日 岡田首相の身代りとなつて瘞れた義弟松尾傳藏大佐の葬儀は青山葬場に於て執行さる○熱海別邸に靜養中の清浦奎吾伯爵京○冀東政府長官殷汝耕氏天津着、多田軍司令官並に川越總領事訪問正式就

任の挨拶と共に北支時局に關し意見交換。

四日 後繼内閣組織の大命近衛文磨公に下る。公は健康思はしからず到底この難局を乗切る自信なきの理由を以て恐懼拜辭の旨を奏上○叛亂將校處罰に關する緊急勅令案は樞密院本會議に附議可決せられ政府は臨時閣議を開き正式に決定即日公布○戒嚴司令部は二・二六事件經過の概要を發表。

五日 後繼内閣組織大命廣田弘毅氏に降下同氏は直ちに組閣に着手○西園寺公は宮内省の居室を出て、參内、天皇陛下に拜謁仰付けられ御下問に奉答○軍縮全權永野大將永井大將一行宮崎丸にて神戸着歸朝直にステートメント發表○教育總監西義一大將發令。

六日 湯淺宮相の内大臣、松平駐英大使の宮相親任式は宮中鳳凰の間に舉行さる○陸相の交渉を受けた寺内大將は陸軍省に於て西教育總監、古莊次官、杉山參謀次長今井軍務局長等と組閣に對する重要協議を遂げた○軍事參議官林銑十郎、眞崎基三郎、阿部信行、荒木貞夫の四大將は今次事件の責任を負ふて豫備役に編入さる○牧野伯襲撃の叛亂軍幹部元航空兵大

尉河野壽は五日自殺を圖り六日朝死亡○關東軍司令官南大將更迭後任に軍事參議官植田謙吉大將轉任に決定○戒嚴司令部は叛亂部隊に參加したる下士兵の總數は千四百數十名にしてその所屬は近歩三五十數名、歩一四四數十名、歩三九百數十名、野重砲七十數名と發表。

七日 前内大臣故齋藤實子、前大藏大臣故高橋是清氏生前の勳功を思召され畏くも誄を賜ふ○組閣に關し廣田、寺内兩氏の第二次會見は外相官邸に行はる○獨逸政府はロカルノ條約破棄を各關係國に正式通牒○獨逸軍隊はラインラン非武裝地帯に侵入。

八日 組閣に關し廣田外相を中心に馬場鐵一、川崎卓吉、永田秀次郎、吉田茂、藤沼庄平の諸氏參集し閣員の再銓衡に就て協議した結果組閣本部としての修正案を決定○寺内大將は永野大將を訪問陸軍側の意向を述べ海軍側との協同歩調を取るにつき重要協議○寺内、永野兩大將は組閣本部に於て廣田、馬場、川崎、前田、永田の諸氏等と四時間餘に亘つて會談時局認識の根本問題に就き意見交換。

九日 廣田内閣成立、午前八時親任式舉行馬場新藏相初聲明。軍部、新舊陸相の名

を以て重大聲明發表。

十日 馬場藏相は官邸で再聲明を行ひ政策は變更するも急激な打撃は回避する旨を聲明○戒嚴司令部發表によれば今次事件に關聯した北一輝、西田税、中村義明、薩摩雄次、龜川哲也、福井幸など百五十數名の民間に於ける事件關係者は東京憲兵隊及び警視廳に檢舉並に檢束せられ取調中○新駐日支那大使許世英氏入京。

十一日 廣田内相の政綱起草に先立ち永野海相は閣議に意見書を提出、國政刷新に對する海軍の主張を明確にした。

十二日 ロンドン海軍會議より歸朝した永野永井兩全權は宮中に參内 天皇陛下に拜謁仰付けられ恭しく任務を奏上し奉つた○西園寺公退京○二・二六事件に關聯する内務省首腦部の異動發令○内田康哉伯爵去。

十三日 一木樞密院議長依願免官に伴ふ後任議長に平沼騏一郎男、副議長後任に荒井賢太郎氏昇格。親任式舉行。

十四日 出口王仁三郎等大本教幹部七名は檢舉以來九十八日目で遂に收容、出口澄子も綾部で檢舉する○頼母木遞相電力統制の必要な談話發表。

十五日 聯盟理事會出席の招請狀に對し七

トラー總統の條件附受諾の正式回答ロンドンに到着。

十六日 帝都警備の甲府、佐倉部隊の大部はそれぞれ衛戍地へ歸還の旨戒嚴司令部發表○海相官邸に於て海軍參議官會同し軍縮會議の經過を聴取○有田大使は張外交部次長を訪問、日支關係につき第一次懇談○二・二六事件に際し悲愴な殉職を遂げた五警官の合同葬が築地本願寺に於て執行された。

十七日 廣田内閣政綱聲明發表され難局打開の決意を表明○國際労働會議代表決定○有田大使張外交部次長第二次會談○蘭印政府綿布及タオルに對し輸入制限令發布。

十八日 檢察當局は三月十六日現在の選舉違反事件受理總人員數を六千三百四十六名と發表○戒嚴司令部は集合禁止の一部解除。

十九日 陸軍省發表によれば叛亂軍に參加したる兵千三百六十名は各所屬隊に留置し軍法會議檢察官に於て取調中なりしが一應の取調べを終り千三百二十數名は留置解除○特別議會召集詔書公布さる○聯盟理事會は獨逸の條約違反を確認する決議を全會一致可決。

二十日 北白川宮能久親王妃殿下には葉山一色の御別邸にて薨去遊ばざる御齡七十五。○戒嚴司令部の指揮下にありし宇都宮、高崎、水戸、松本より上京中の部隊は各々その衛戍地に歸還。

二十一日 植田新關東軍司令官は東京出發に先立ち聲明書を發表し、舉國一致の強力な後援により非常時局を打開する大前衛たる關東軍の任務を遂行せんことを期すと決意を表明した。

二十二日 在支總領事會議上海大使館事務所に於て開會○植田關東軍司令官東京驛發赴任○前内大臣齋藤實子の葬儀は築地本願寺に於て執行さる。

二十三日 二・二六事件責任處分に伴ふ陸軍大異動斷行さる○侍從武官長本庄繁大將は陸軍の長老として事件の責任を負ひ現役を勇退、後任は第七師團長宇佐美與屋中將が就任○新任トルコ大使信任狀捧呈。

二十四日 專任文相に貴族院議員平生鈺三郎氏を起用することに決し就任を正式交渉○我が監視將校斥候はハルハ廟附近で外蒙兵から輕機關銃、擲彈、小銃の猛射を受く○經濟界の不安動搖に鑑み政府は藤沼輪長談の形式で責任ある當局の發表



言明に特に留意せよと聲明。

二十五日 廣田首相外國記者團と會見新内閣の方針聲明○貴族院議員山本糸太郎氏逝去行年七十○平生新文相初登壇○ロンドン海軍會議最終總會はセント・セームス宮殿内に於て開催され新條約の調印式を舉行。

二十六日 廣田内閣最初の地方長官會議は首相官邸に開かれ廣田首相より非常時局に對する政府の方針を闡明○前大藏大臣故高橋是清翁の葬儀は築地本願寺に營まる○駐日露大使ユレニエフ氏廣田外相訪問二十五日の長嶺子事件に關し抗議したるも外相一蹴。

二十七日 商工大臣川崎卓吉氏は風邪のため自邸に靜養中胃潰瘍を併發して逝去享年六十六○前教育總監故渡邊錠太郎大將の葬儀は青山齋場に於て執り行はれた二十八日 川崎卓吉氏逝去に伴ふ後任商相に民政黨小川郷太郎氏に決定、親任式舉行さる○關東軍司令部、有田大使を中心對支問題に關し重要協議○植田關東軍司令官新京歸任○前天津市長現冀察政務委員長程克氏逝去

二十九日 南前關東軍司令官は新京發凱旋の途に就かれた○獨逸國民投票の結果ナ

チス歴倒の大勝。

三十日 廣田兼攝外相は空位中の駐英、駐白兩大使に元駐伊大使吉田茂氏、通商局長來栖三郎氏を起用すべく英、白兩國にアグレマンを要請中のところ受諾の回答到着○駐滿全權大使植田謙吉大將の國書捧呈式は新京宮廷庫勤民樓に於て舉行さる。

三十一日 タウラン西北滿洲國內に於て又も外蒙兵、日滿軍衝突○伊太利は新に滿洲國に總領事館を設置すべく元駐日伊大使館參事官ワイルシヨット氏を新任總領事として赴任せしむることとなり其の同意を支那國民政府に求めたので滿洲國政府は斷乎同總領事の赴任を拒絕。

【四月】  
一日 伏見宮博英王殿下、朝香宮正彦王殿下には臣籍に御降下あらせられ、夫々、伏見「香羽」家を御創立遊ばさる○潮内相は二・二六事件の後を受け超非常時局に直面し御奉公の重責を全うすべく寺内陸相と腹藏なき意見交換の結果潮・寺内兩相の間に全國の治安維持に關する提携成立。

二日 有田駐支大使外務大臣に親任さる○日銀當局では當分の間四分利公債の賣却

中止を發表○東京警備司令官兼戒嚴司令官香椎浩平中將は二・二六事件に關する責任をとり待命仰付けられ後任に岩越恒一中將親補さる○土肥原中將、磯谷少將歸朝。

三日 關東軍參謀長から參謀次長に榮轉の西尾壽造中將歸朝○前關東軍司令官南大將はハルビン丸で神戸入港凱旋。

四日 近衛公は研究會の黒木三次伯、織田信恒子、有馬頼寧伯を招き貴族院改革問題に就き懇談○獨代表リッペントロップ氏は英外務省にイーデン外相訪問三國軍事會談に關し抗議提出。

五日 第二皇子義宮正仁親王殿下には御日出度き宮中三殿初御拜の御儀を行はせらる○世界科學界の驚異「高周波精煉法」の理論につき發明者菊池秀之氏の説明があつた。

六日 前關東軍司令官南大將は西尾中將を帶同凱旋、直ちに宮中に參内、天皇陛下に拜謁仰付けられ在任中の軍狀を奏上○二・二六事件で重傷を負つた鈴木侍從長はその後の経過良好で初參内、天機並に御機嫌を奉伺○駐日支那大使許世英氏信任狀捧呈○日本銀行では同行公定割引歩合を各一厘方引下げ七日より實施の旨發

表○大藏省三分半利國庫債券發行を發表  
七日 本年度軍司令官師團長會議召集さる○廣田首相は西下の車中に於て庶政を一

新する爲には須らく舉國一致國民舉つて時勢の要求を察し更始するの一大機運を醸成することが何より肝要と考へると語つた。

八日 空前の不祥事件の善後處置と國軍の立直しに關する重大協議を行ふ軍司令官師團長會議の席上寺内陸相より今回の不祥事に鑑み軍の徹底的振肅と軍秩の確保に關して重大訓示○三月三十一日タウラン北方地區の戰鬪で空襲した敵機十二機中三機を射落し三機に大損害を與へ滿洲國領内に不時着させ一方地上濫谷部隊は敵裝甲自動車中鹵獲二、破壊二、牽引退却せるもの四、今や外蒙軍は越境の色なき旨を關東軍發表

九日 綏芬河東方の滿領内高地に於て日本軍川口中尉と兵四名が演習中突如ソ聯のベ・ウ十四名が越境攻撃したので之に應戰同中尉外兵二名戰死、右に關し綏芬河駐在領事よりソ聯當局に對し嚴重抗議  
十日 本年度實行豫算二十三億一千萬圓と決定○重光 務次官休職發令○内閣審議會廢止決定○興津領事綏芬河事件につき

綏芬河ステリマフ領事を訪問、ソ聯政府に對し嚴重抗議と共に我方の死體引渡方要求○駐英、駐白兩大使の親任式行はる。

十一日 全國産業團體聯合會は新社會情勢に順應すべく内務省社會局立案の退職積立金法案に對し賛成を決議○滿洲國濱江省虎林南方ウスリー河中州に於てソ聯より射撃されし旨關東軍發表○モスコイ駐劄大田大使は外務人民委員部にストモニアコフ次長訪問、綏芬河越境射擊事件に關し抗議提出。

十二日 關東軍は興安北省長凌陸以下五名の蒙古顯官の通蘇事件發表○希臘首相兼外相デメルデイス氏逝去享年六十○トルコ政府海峽再武装通牒文發表。

十三日 貴族院改革問題協議の各派交渉會は研究會事務所に於て開會○宇垣朝鮮總督入京○大村滿鐵副總裁鮮滿鐵道一元化に關し重要意見表明○伊空軍九機アナス・アベバ襲撃。

十四日 宇垣朝鮮總督廣田首相と會見○在支大使館付武官喜多少將赴任の途に上る○廣田内閣政務官一ヶ月振りで漸く決定○樞密顧問官久保田讓男薨去享年九十○滿洲國治外法權撤廢の具體案決す。

十五日 滯京中の宇垣朝鮮總督首相訪問後

拓相と會見○寺内陸相樞密院定例本會議に於て二・二六事件に關し報告○日本ブラジル間國際電話開通○伊軍デシエを占據。

十六日 宇垣朝鮮總督寺内陸相を訪問○松岡滿鐵總裁募債問題を提げて入京○前海相大角大將は郵船山城丸で南洋視察に出發。

十七日 駐支大使の後任に關しては軍部の要望により天津總領事川越茂氏を起用することに決定○二・二六事件内務省關係責任者處分決定、譴責處分前警視總監小栗一雄、前警保局長唐澤俊樹○第六十九特別議會に於ける有田外相の外交演説に關し外相は廣田首相を訪問自主積極の外交方針に關し慎重協議。

十八日 松岡、大村滿鐵正副總裁藏相訪問○十三國委員會伊・エ和協失敗報告書採擇。

十九日 貴族院改革問題に關する第二回貴族院各派交渉會は火曜會案から一步進め「貴族院令」に限局せず廣範圍の改革に大體意見の一致を見た○聯盟緊急理事會開會。

二十日 日濠通商條約交渉は全く行詰り濠洲政府が近く綿布人絹の關稅引上戦によ



極度に悪化の形勢○日埃通商交渉は折衝半歳餘遂に決裂、等間全権以下わが代表部は近くカイロ引揚げを決意○地方長官異動決定。

二十一日 三笠宮殿下には陸軍士官學校本科生徒の御資格にて他生徒四百餘名と共に滿鮮御視察の途に就かせらる滿洲國軍政部通蘇事件判決發表、元興安北省長凌陞、元同省警務廳長春德、元同省第一警備軍參謀長福齡、元同省長秘書華霖泰の四名死刑宣告○川越駐支大使のアグレマシ承諾回答。

二十二日 樞府本會議開催勞働條約案可決○海軍では第六十九特別議會に提出すべき本年度追加豫算内示會を海相官邸に開催海軍關係の貴衆兩院議員に豫算を内示軍民の協力を要望○廣田内相が標榜する自主積極外交の具現に關して有田外相は軍部と打合せ外交政策の圓滿かつ強靱なる遂行を期する爲め外、陸、海三相會議を毎週一回開くことに決定。

二十三日 駐日大使ユレニエフ氏は有田外相を訪ひ本國政府の命により滿露國境の紛争處理委員會並に國境劃定委員會設置に關する露國政府の意向を明確に表示したるに對し有田外相は先づ東部國境に限

らるべきことを言明。

二十四日 三相會議第一回會合は閣議散會後有田外相、寺内陸相、永野海相鼎座の下に行はれ當面の對支問題に關し全般的に自由討議を重ねた○有田外相は大田駐露大使に對し漁業交渉促進の訓令を發す○通蘇事件主謀者四名死刑執行。

二十五日 有田外相は外人記者團と會見、外相就任の披露をなしたる後、我が政府の外交根本方針に關し東亞の安定確保は日本の使命である旨強調○北支武官會議開催。

二十六日 大藏省關稅調查會は懸案の藥品帶鐵、アルミニウム、の關稅引上決定○佛國總選舉は議席六百十八に對し候補者數四千八百七名に上る記録破りであつたが投票の結果共產黨の得票頗る多く一躍四倍の議席を獲得○宇垣朝鮮總督退京。

二十七日 東北振興調査會第八回總會の席上廣田首相は十二年度以降に根本的の方策を樹立しその實現に邁進したいと言明○駐日ユレニエフ露大使は東部國境劃定に關し外相訪問○喜多少將南京著、兩宮中佐帶同張外交部長と會見引續き程參謀總長訪問。

二十八日 政府は缺員九名の勅選中鈴木喜

國許可○エチオピア皇帝は皇后、皇太子御同伴佛領チアチに蒙塵。

三日 佛國下院總選舉終了○エチオピア皇帝英驅逐艦に搭乗パレスチナに向はる。

四日 第六十九特別議會開院式は、天皇陛下親臨の下に行はれたが今回の開院式に賜つた勅語に畏くも今次東京事件に就て仰せられたので式に列せる政府、兩院は唯恐懼感激す○衆議院本會議は勅語奉答文可決○寺内陸相は衆議院各派交渉委員を官邸に招待、陸軍關係の豫算を内示懇談。

五日 貴族院本會議は開院式の勅語に對する奉答文を滿場一致可決○日本銀行は金買入値段を一匁につき十三圓十二錢五厘(一圓五十四錢五厘上げ)と改訂發表○伊軍、エチオピア首都アジス・アベバに入城パドリオ將軍は直に軍政を布告。

六日 貴衆兩院本會議に於て首相、外相、藏相施政方針演説を行ふ○寺内陸相は貴衆兩院に於て二・二六事件の經過を説明し肅軍の決意を披瀝。

一年史

七日 貴族院の二・二六事件關係の秘密會の席上、寺内陸相は現役軍人が公に政治的意見を發表することは政治干與なりと答辯○衆議院本會議に於て民政黨齋藤隆

夫氏は庶政一新並に肅軍問題を提げて起つ○永田中將殺害事件の相澤中佐死刑を宣告さる。

八日 第一師團先陣部隊滿洲へ出發○廣田首相は衆議院に於て日蘇間の重大危機を乗切る自信ありと言明○エチオピア皇帝御一行を乗せた英國巡洋艦エンタープライス號はハイフ浦沖合に投錨、御上陸列車でエルサレムに向はる。

九日 政府は衆議院本會議に米穀自治管理法案等三案を一括して上程○永野海相は衆議院豫算總會に於てロンドン海軍會議撤退の經過を報告し新軍縮會議が速に開催されんことを切望する旨言明○第一師團軍法會議は豫て審理中の相澤中佐に用兵器上官暴行傷害殺人罪で七日死刑の宣告ありたる旨陸軍省より發表。

十日 スペイン大統領選舉の結果左翼共和黨々首アザニア氏當選○政府は退職並立金及退職手当法案を衆議院に提出。

十一日 政府は衆議院に産蘭處理法案等三案を一括上程○聖旨奉體庶政一新決議案に關する民政兩黨代表者協會は慎重協議の結果決議案文を決定。

十二日 三笠宮殿下には陸軍士官學校本科生の御資格で同校滿鮮旅行演習隊に御參

三郎、出淵勝次、遠藤柳作三名補充を決定○勸業銀行では既往貸付率の引下げにつき協議の結果、田畑貸付の六分二厘(一分下げ)宅地建物貸付の七分二厘(六厘下げ)等各種目にわたつて大巾引下げを斷行○埃及國王アーメッド、フアド一世陛下崩御御年六十八。

二十九日 關東軍參謀長板垣中將は東上の途門司に於て對滿認識一新のため閣僚の滿洲國視察を希望する旨語つた。

三十日 ドイツ東洋經濟視察團首席代表、無任所公使キープ博士は駐日滿洲國大使謝介石氏との間に約二ヶ月間に亘り滿獨通商協定に關する折衝を重ねてゐたが愈々外務省で調印完了○伊東本部陸軍工兵大佐後藤和儀氏は駐滿中發生せる部下某計理官の不正事件に關する責任感からヒストルで自決。

【五月】

一日 廣田内閣最初の第六十九特別議會召集さる○衆議院議長に富田幸次郎氏、同副議長に岡田忠彦氏當選○商工省カソリシガロン當り五錢値上認可○支那駐屯軍司令官に田代皖一郎中將親補さる。

二日 寺内陸相は官邸に貴族院各派交渉委員を招待懇談○バラグアイ國日本移民入加のところ二十二日振りにて御歸京遊ばさる○貴族院改革建議案上程され全會一致可決され廣田首相も同意表明○胡漢民氏腦溢血にて死去○土耳其古ローザン條約改訂會議召集を提議す。

十三日 頼母木選相は衆議院豫算分科會に於て電力統制問題に關し國營は最終目標で近く具體案が完成する旨と言明○前海相大角大將南洋視察より歸る○ソ聯大使館附武官より陸軍省新聞班長に轉任せる秦大佐歸朝。

十四日 衆議院本會議に不穩文書取締法案上程され議論沸騰委員附託となる○津村重舍氏貴族院本會議に於て國務大臣に對する質問演説中不穩當の言辭ありて軍部兩相極度に憤激す○安川遣還使節歸京。

十五日 支那駐屯軍増強を陸軍省公表○昨日の貴族院本會議に於ける國軍侮辱の失言により軍部の激昂を買ひし爲め自發的に處決○グロテマテ國際聯盟撤退○西班牙戒嚴令宣布。

十六日 衆議院豫算總會に於て豫算原案通り可決○北支密輸入問題につき支那外交部長は我が大使館に抗議文を提出○英國驅逐艦四萬噸増加を日、米、佛、伊に通達。

七八三

十七日 貴族院豫算總會開會○日本天津駐



屯軍増強を拒否の旨國民政府より許大使へ打電○支那國民政府財政部長孔祥熙氏は突如新通貨政策を發表。  
 十八日 陸、海軍省官制改正され陸海軍大臣は現役大中將に、陸海軍次官は現役中少將より任用せられることに決定○第六十七議會以來農村側と全産聯陣營と對立抗争し來れる米穀自治管理法案等米穀關係三法案共衆議院本會議に於て附帶決議を付して可決さる○米上院、ロンドン海軍條約批准。  
 十九日 貴族院本會議は東北振興二案を可決○衆議院本會議は重要肥料統制法案を政民共同の附帶決議附にて可決○田代支那駐屯軍司令官天津着任○商工組合中央金庫法案は貴族院本會議で可決兩院を通過成立。  
 二十日 貴族院本會議は産滿處理統制法案等三案を政府原案通り可決兩院を通過成立○外相外務省にユレニエフ蘇大使を招致し國境委員會に關し蘇側の眞意を聴取  
 二十一日 衆議院本會議は町田民政黨總裁の衆議院は自肅自強國民の儀表たらんとの提案理由を以て上程されし聖旨奉體庶政一新に關する決議案を嚴肅裡に可決○英蘇海軍會談開始さる。

二十二日 貴族院豫算總會は本年度追加豫算案を可決○河村本部隊渡滿の殿り湯淺部隊出發○英國植民相トマス氏は豫算案漏洩の責を負ひ辭職○日濠通商交渉決裂英國以外の織物に輸入許可採用の旨濠洲政府發表。  
 二十三日 衆議院本會議、議會制度修正選舉法改正に關する兩決議案を可決○埃國ナチス突如前副總理邸を襲撃。  
 二十四日 特別議會々期一日延長○衆議院本會議は退職積立金法案を政、民の修正通り可決○ベルギー上下兩院總選舉行はる。  
 二十五日 特別議會々期更に一日延長○不穩文書取締法案は政、民修正通り可決され衆議院通過○モスコイ駐劄大田大使とストモニヤコフとの間に漁業條約效力延長に關する議定書調印。  
 二十六日 退職金積立法案及不穩文書取締法案貴族院本會議を通過○英國政府より艦船外驅逐艦四萬噸の條約量超過保有方申出でありしに對外し政府は自由處理の權利を留保する旨回答。  
 二十七日 第六十九特別議會閉院式行はる○東鐵工務課長古屋普氏は鐵道疑獄に連坐し召喚さる。

二十八日 關稅調查會幹事會は對濠報復策として通商擁護法發動を決定○鐵道疑獄進展し鐵道省工務局長平井喜久松、東京改良事務所長黒田武定の兩氏召喚強制收容さる○英土木相オームスビーゴア氏はトーマス氏の後任として植民相に就任。  
 二十九日 滿鐵臨時財産評價の結果十五億一千萬圓と滿鐵發表○フルセンチン政府は聯盟事務局に對し六月臨時聯盟總會召集を要請。  
 三十日 陸軍省は時局に鑑み全國の砲兵、輜重兵、工兵各獨立大隊、氣球隊等を全部聯隊とすることに決定○沼津春滿初取引開市黃滿五圓二十八錢、白滿五圓三十錢の高値に歡聲上る。  
 三十一日 北寧鐵路局長陳覺生氏は北平今井武官を訪問軍用列車爆破事件に付陳謝  
 一月 大藏省稅務監督局長會議開かれ稅制整理の根本方針、増稅案等につき意見を交換○海軍では聯合艦隊の刷新充實を行ひ訓練の完璧を期するため第三艦隊、第三航空戰隊を新設○戒嚴令更に一部緩和  
 政治集會を解散○滿獨通商協定實施さる  
 二日 駐日英大使クライブ氏は有田外相を訪問リースロス氏神戶着再來訪を機とし

英國の在支權益擁護、北支密輸問題に關する下打合の爲め意見の交換を行ふ○村井シド、總領事は濠洲政府に對し日本主要輸出商品に對する濠洲關稅引上、輸入許可制の撤回を要求○滿洲國は濠洲小麥粉輸入に許可採用に決定。  
 三日 治外法權撤廢日滿條約案樞密院本會議に於て可決○二・二六事件以來戒嚴令下の帝都に重大任務に服し來つた篠原混成部隊は衛戍地へ歸還、第十四師團と交代の旨戒嚴司令部發表。  
 四日 商工省は貿易顧問會議を開催對濠報復のため通商擁護法發動の已むなきに至つた實情に對し諒解を求めた○佛内閣成立。  
 五日 對支問題に關し陸、海、外三相會議開催○島田農相は電力統制問題に關し廣田首相に慎重論を進言○モンセル英海相職辭し唄外相ホーア氏海相に就任。  
 六日 濠洲通商條約大臣ガレット氏は村井總領事に對し關稅引上、輸入許可制の撤回は絕對不可能の旨公式に回答○ブラジルの下院議員レナット、バルボサにより我アラシル移民入國數緩和の議案提出さる  
 七日 オリソピック陸上選手役員五十一名出發○佛國大罷業はブルーム首相の調停

に基きサラングロ内相立會の下に調停案に署名完了。  
 八日 全國司法長官會同の席上林法相は國憲國法の尊嚴を保持し直接行動は斷乎排撃せよと訓示○鐵道局長、直轄事務所長會議の席上、前田鐵相は不祥事根絶を期し一路肅鐵に邁進せよと訓示○平生文相は學制改革案、義務教育擴充二年延長八年制を文部省に提示○滿洲國交通部大臣李紹庚一行入京○日蘭海運會商圓滿解決、調印。  
 九日 リースロス氏、有田外相を訪問、對支財政問題につき共同援助を希望したるに對し有田外相は未だ時期にあらざと拒絶○鐵道省疑獄は工務局より建設局に波及し佐武東京建設事務所長收賄嫌疑にて召喚さる。  
 十日 東京府會議員選舉行はる○滿洲國外交部大廣間に於て駐滿全權大使植田謙吉大將及滿洲國外交部大臣張燕卿氏によつて治外法權一部撤廢(産業行政權、課稅權、滿鐵附屬地の移讓調整)の日滿條約調印式終了。  
 十一日 東京府會議員選舉の結果は、民政黨四九、政友會三六、社大黨一八、勞農無産四、國民同盟三、中立二。

十二日 議院制度修正並に選舉法改正に關する兩調査會の設置は定例閣議で正式に決定○關稅調查會に於て對濠洲通商擁護法發動を可決○臨時關稅稅務署設置を勅令を以て公布即日施行○英露海軍協定に於て英國は露國に對し極東艦隊建艦の自由を容認。  
 十三日 戒嚴司令部は禁止中の集會中屋外集會を解禁する旨發表○リースロス氏は退京に際し支那の財政、經濟援助の爲め日英協力を期待する旨の聲明を發表  
 十四日 昨日東上せる中川臺灣總督は拓相と會談○松岡滿鐵總裁入京○ベルギー・ヴァン・セラランド内閣成立。  
 十五日 地方長官會議首相官邸に開かれ廣田首相は吏僚を督勵して革新の治績を擧げよと決意表明○逓信局長會議の席上賴母木選相は訓示中電氣事業の國營を以て持論とし就任以來成案を極力急がしめつゝある旨言明。  
 十六日 佛政府は自立の時期到れるものとしてシリヤ及びレバノンの兩委任統治領の獨立を決定し「エター・ルヴァン」と命名す○川越新駐支大使東京驛發赴任の途に就く。  
 十七日 前田鐵相は西下の車中、無産黨は



益々發展して行くものと思はれ結局既成政黨は提携して無産黨と對立することになるだらうと語つた○英政府閣議に於て伊太利に對する制裁の善後處理につき協議の結果制裁放棄に意見一致○對濠洲最後通牒に關し何等の回答なき爲め回答督促十八日 外務省當局では我が國が國際的孤立に陥れるは蘇聯最近の逆宣傳に因るものとし之が積極的打開策を考究する爲め在歐使臣に訓電考慮方を命ず○對伊制裁放棄を決定せる英政府は下院に之を發表した所ロイド・ジョー氏は痛烈にイデン外相を攻撃○外相壇上に立往生○十九日 北海道女滿別に於ける日食觀測の日本班は大成を収め、上斜里の外國班は天候悪く不成功○ペールソン・ヴェトマン氏を首班とする瑞典新内閣成立○ヒリッピン政廳軍事顧問マックアサー將軍は聯邦議會に國防三十ヶ年計劃案を提示した○

二十日 馬場藏相は熱海の別荘に於て税制整理に關し新税として財産税、賣上税、化粧品税、奢侈税が考へられると語つた○日本船大榮丸は岐口沖合で天津税關監視船の機關銃で掃射の後拿捕さる○二十一日 新任駐日佛國大使アルベール・

カメレル氏來任○伊獨通商協定成立○二十二日 トルコ政府の要請に基くターダネルス海峽制度に關する條約改訂に就き土、日、英、佛、蘇聯、希、羅、勃の諸國代表モントルー市に會商、軍艦通過權に關し英蘇の對立深刻化し一波瀾を豫想さる○新任駐支大使川越茂氏上海着○二十三日 對濠洲通商報復手段として通商擁護法を發動する件を閣議で正式決定○英米佛三國間に成立せる倫敦海軍條約に就き英國政府より參加要請ありたるに對し我が政府は量的制限を含まざる協定として斷乎參加拒絶○地方長官の地方中間機關設置意見書潮内相宛提出さる○二十四日 支那海關の邦船抑留事件重大化する○マルセイユ港はじめ地中海沿岸諸港の罷業愈々猖獗を極め海軍造船所も亦渦中に投じたる結果建艦頓挫を憂慮さる○二十五日 政府は對濠洲通商擁護法發動に關する勅令並にこれが實施に伴ふ商工省令告示を發表○獨逸側代表ライヘナウ少將と蔣介石氏との間に一億元を限度とし五月中旬軍需品と原料品の交換協定調印を了したる事暴露我が政府は成行を重視し武器供給は抗日助長と獨逸の反省を要望○二十六日 議院制度並に選舉制度改正に關

する調査會官制は定例閣議に於て決定○臨時ローマ字調査會第十四回總會は四十年來の懸案であるローマ字の統一問題を委員報告通り可決○二十七日 石油業法によるスタンダード並にライオン・クサン兩外油の貯油義務履行問題好轉し外油會社側もこの履行を正式に應諾○エチオピア皇帝は國際聯盟にエチオピア政府の儼然たる存在を強調したる書簡を傳達尙皇帝自身理事會へ出席の筈○二十八日 我が政府は支那監視船の邦船不法射擊事件に關し速かに誠意ある解決方法決定方を要求○小室翠雲氏主宰の日本南畫院は平生文相の美術界に對する態度に不滿の意を表明○二十九日 國策閣議進行策に就き藤沼、次田吉田三長官協議○全國町村長會は中間行政機關設置に反對を決議○日滿工業所有權相互保護協定新京において正式調印さる○三十日 産業組合中央會新會頭に中央金庫理事長有馬頼寧伯選任さる○滿洲國政府は治外法權一部撤廢施行に備へ法令布告○聯盟臨時總會はアルゼンチン代表の演説後、エ國皇帝登壇して聯盟の背信を痛

撃、伊太利記者七名騷擾議場外にツマミ出さる○

七月

一日 馬場藏相の通信特別會計益金を一般會計へ繰入る、旨の談話に端を發し俄然遞信省少壯官吏の間に反動の烽火上り上層部に意見書提出○義務教育八ヶ年案實施に不動の決意を固め居る平生文相は具體案を練りつゝあり○内務省土木局の土木五ヶ年計劃案は總額五億七千萬圓初年度一億一千萬圓を要求する大綱を決定○永田事件の相澤中佐に係る陸軍高等軍法會議は非公開にて審理續行中の處昨日上告棄却の判決言渡により死刑確定の旨陸軍省發表○

二日 豐臺に於ける宋哲元軍の日本將校不法監禁事件に對し今井駐在武官冀察政權に要求提出○大田大使はソ聯外務次長ストモニアコフを訪問、國境警備隊に不法拉致された日本人四名の即時釋放を要求○緊急聯盟總會の席上南阿代表は大國の豹變振りを痛烈に論難して國際信義地を拂ひ平和の希望消滅せりと陳述○在ソドニ一井總領事よりの入電に依れば濠洲は日米の報復手段で正に四苦八苦の態に通商大臣辯明に苦慮の由○

三日 國定教科書を全般に亘り一割五分方値下げする旨文部省發表○遞信三國策案を提示して頼母木遞相堂々國策閣議に所信を披瀝○相澤三郎元中佐は三日朝死刑を執行されたる旨陸軍省發表○冀察政權は豐臺に於ける我が將校不法監禁事件に關する我方の要求を全部容認○

四日 國策閣議第一回に於ける寺内陸相は何等發言を爲さず庶政一新の成行を凝視する態度を持し萬一の場合に斷乎決意を表明する模様○支那西南派の排日運動日を逐ふて險惡化し梧州の邦人は全部引揚げ開始○滿洲國では日本の治外法權撤廢により益々日滿依存關係緊密化すべきに鑑み國民教育百年の大計を決定○

五日 鐵道益金の一般會計繰入問題に對し非常時財政の編成に多少の犠牲已むなしとして前田鐵相は條件付で同意の模様○文部省首腦部會議で義務教育年限延長八年制案並に所要經費を國庫負擔とする根本方針を決定○緊急聯盟總會は聯盟規約の諸原則を完全に放棄、イタリヤ政府の侵害行為に泣寢入する如き決議草案上程にエ皇帝極度に激昂、最後の奮闘甲斐なく結局總會報告案並に決議案を採擇○

六日 今秋北海道地方に於ける陸軍特別大演習御統裁に際し 天皇陛下には親しく地方行幸あらせらるゝに就き行幸箇所を宮内省より發表○馬政三十年計劃開始に伴ふ農林省畜産局は同省外局としての馬政局となり同時に職員異動發表さる○七日 林法相は國憲國法保持に關する司法國策を提示、各相の認識を深めるべく努力の筈○聯盟各國は總會採擇の決議案に基き來る十五日より對伊制裁撤回に決定、實施以來約八ヶ月目○濠洲政府は我方の通商擁護法發動に對抗し更に日本品を目標とする特別輸入許可制を本日公布○

八日 國策閣議第二日目に至り國策氾濫に伴ひ一部閣僚より國策の定義如何が問題となる各省の國策は全部來週中に説明を終る豫定○羊毛工業會では羊毛輸入對策として大統領機關設置に關する大綱を決定○學長排斥の騒動中の立教大學では遂に木村學長辭職決意○

九日 獨支密約は武器の對支輸出を内容とするものと傳へられ之が東亞政局の上及ぼす影響の重大なるに鑑み帝國政府は深甚の注視を拂つてゐた處、本日の情報によれば對支援助工作なること判明す○



第四次五分利借換五億九千萬圓斷行の旨  
大藏當局より發表。○西南派遂に中央の  
武力に屈服し俄然妥協運動擡頭す○伊獨  
兩國政府間に政治協定成立。

十日 陸軍省發表によれば二・二六事件責  
任者として事件後待命仰付られた當時の  
警備司令官香椎浩平中將、憲兵司令官岩  
佐祿郎中將、近衛師團長橋本虎之助中將、  
第一師團長堀丈夫中將以下關係部隊長十  
三名に對し豫備役被仰付○政府の國策先  
議方針は十日の閣議で突如變更され各方  
面に物議を醸し寄合世帯の弱體をさらけ  
出して早くもその前途の暗澹さを思はし  
めた○在上海邦人抗日テロの兇弾に瘞れ  
る。

十一日 大藏省では專賣事業に依る官業收  
入の増加を圖るべく麥酒、燐寸、砂糖等  
の專賣化具體策究考○上海に於ける日本  
人殺傷事件に關し近藤上海特別陸戰隊司  
令官は支那側の誠意及び治安維持の能力  
にして我が生命財産を保證するに十分な  
らずと認むる場合は隨時必要と信ずる處  
置を採るの止むなきに至るであらうと決  
意表明○英海相ホーア氏は地中海海動の  
艦艇撤收と共に最短期間内に最精銳の性  
能を有する新艦隊の編成に乗出す旨言

○英帝危難を免れ暴漢其場で逮捕さる。  
十八日 二月二十六日帝都に勃發した所謂  
二・二六事件による緊急事態收拾のため  
二十七日公布の戒嚴令一部範圍の適用は  
昭和十一年勅令第八十九號を以て十七  
日廢止、本日より實施○島田農相は十七  
日定例閣議後國策審議方法及其の時  
期に就き國防費先決肝要の旨廣田首相に  
進言○會計年度曆年制に關する大藏省  
部の意見は賛成に方針決定。

十九日 陸軍の航空省組織に海軍側反對し  
て譲らず政治的折衝開始○中野正剛氏の  
東方會では積極的に革新的國民運動を開  
始、其の第一聲を高知に擧げ農村負債整  
理促進による農村窮乏打開に邁進○内務  
省より内閣に提出の總額五億七千萬圓に  
上る土木國策五ヶ年計畫中港灣關係の分  
十九重要港灣に對する改修事業費一億九  
百萬圓にて施設經營の整備統一を計畫。

二十日 現内閣の庶政一新を具現すべき各  
省の國策は陸海軍の國防計畫を始め全部  
出揃ひ首相、藏相、三長官のもとで第一  
次檢討、廣田首相は國防計畫以外の國策  
に對しては國民生活の安定を第一義的と  
する旨○モロツコ叛亂鎮定されし旨西班  
牙政府發表○陳濟棠の没落により廣東の

明。  
十二日 國策閣議解消に伴ふ庶政一新の成  
否を重視され居る際陸軍側は第二次國防  
計畫に對する具體案を提出その實踐方を  
德憑○七月五日死刑の判決言渡しありた  
る香田元大尉等十五名は其の刑を執行せ  
られたる旨陸軍省發表○獨逸協定成立、  
歐洲外交界に異常なる衝動を與ふ。

十三日 日濠通商問題に關し外務省は新關  
稅を止めぬ限り通商擁護法は停止し得ざ  
る旨の當局談を發表○支那二中全會は正  
式會議に於て西南執行部、西南政務委員  
會撤廢を決議、廣東綏靖主任に全漢謀を  
任命。

十日 庶政一新に關する陸軍案は寺内陸  
相より閣議に提出さる、其の骨子は國防  
の充實、行政機構の改革、國民生活の安  
定より成るもの○白國首相グアンセーラ  
ンド氏は獨逸協定成立の新情勢に鑑み第  
四次ロカルノ會議の延期又は中止を考慮  
中と傳へられ英國亦延期を後策とする意  
嚮。

十五日 陸軍の第二次國防充備計畫は十二  
ヶ年計畫前半期三十億圓内外を以て優秀  
兵器の製作に努力するが大資本の巨利を  
掣肘し他面富の偏在緩和に重點を置く旨

對日感情好轉し排日記事跡を斷つ○東  
京、川崎、横濱三市聯合防空演習第一日  
開始さる。

二十一日 取引所改革案傳へられ東株大混  
亂立會中止、大阪、横濱、名古屋、京都、  
神戸も亦立會中止。小川商相、馬場藏相  
は改革案は事實無根の旨聲明書發表○防  
空演習第二日

二十二日 國家未曾有の不祥事たる二・二  
六事件後帝都の治安全く平常に復したの  
で、天皇陛下には豫て仰出されし如く皇  
室祭祀令第十九條に依り大祭に準じて、  
皇祖皇宗の神靈鎮まります宮中三殿に御  
親告の儀を執り行はせられ、更に伊勢神  
宮、神武、明治、大正三天皇山陵はじめ  
全國官幣社以下の神社に於ても奉告祭執  
行さる○南京政府は義に獨支秘密協定に  
次ぎ又米國と軍需品購入を主目的とする  
特殊協定を締結せりと傳へらる。

二十三日 潮内相は庶政一新の波に乗つて  
人材登用の途を拓くべく苦學力行の優秀  
官吏を先づ十名内外を本廳に採用する○  
政友會主流幹部は政府諸施政に漸く不滿  
を持つ氣勢にあり今後の對政府態度注目  
さる○又々白晝天津總領事館巡捕街上で  
天津市政府衛隊員に射殺する、天津總領

發表○有田外相は國際政局に對應する我  
が對歐洲不動の帝國外交の確立に資する  
爲めパリ又はロンドンに於て在歐大使會  
議開催に關し訓電發送。

十六日 内務省首腦部會議の結果(地方財  
政の整備、土木事業の擴充、保健衛生の  
完備内務三大國策を決定し之に要する昭  
和十二年度分豫算額一億六千三百萬圓を  
計上○農林省に於ける農業國策は農山漁  
村百年の大計から恒久對策の確立に根本  
基調を置きその第一着手として災害國策  
の樹立、負債整理の根本的改正土地制度  
の改革並に緬羊國策に對する成案を提出  
することゝなつた○文部省は義務教育年  
限延長の暫定案として青年學校代用案を  
採用十三年度から實施の方針を決定。

十七日 帝都治安に關する緊急勅令案は十  
五日の樞府本會議で滿場一致可決された  
ので本日の定例閣議に附議正式決定の上  
御裁可を仰ぎ直ちに公布明日より實施、  
右に關し陸軍省及戒嚴司令部は當局談公  
表○陸海軍の國防計畫豫算に關し陸海兩  
相より國際情勢の逼迫による軍の機密嚴  
守の必要を理由に計畫内容の外部に洩れ  
ざる様の希望開陳に對し國防案は首相、  
藏相、陸海相の會議に於て決定する方針

事館西田副領事は張自忠市長に嚴重抗  
議。  
二十四日 プラゴエシチエンスクに於て開  
催中の第二次滿露水路會議は露國側委員  
の不誠意に依り續行不能に陥り決裂○北  
極圏無着陸飛行ANTの廿五號機は北極  
の難航路を突破、モスクワ出發以來五十  
六時間九千三百七十四キロと云ふ驚異的  
世界新記録を樹立○歐洲政局緊迫で我大  
使會議延期となる○陸軍省官制改正發表  
さる、改正案の要點は近代陸軍の膨脹せ  
る態勢に應ずるため省内各局を最も能率  
的に改組再編制したものの。

二十五日 司法制度調査會の豫審制度改善  
に關する小委員會は檢察權の行使を明確  
に規定する單行法制定に意見一致○株式  
界攪亂事件の元新聞記者に取引所改革案  
の内容を漏洩したと傳へられる大藏省理  
財局小原國債課長は引續き喚問さる。

二十六日 大藏省の勸農銀合併方針に従ひ  
東京府農工銀行は勸銀合併に決定○義務  
教育年限延長案に對する政府の措置に就  
ては實現の能否、今後の動向注目さる○  
西下の寺内陸相は初の時局談を試み庶政  
一新の財源は公債増發が至當であると語  
り又電力國營に對してはその實現を希



望。  
 二十七日 陸軍では國防完備の緊急なる完壁を期する爲め官制改革、各種機構刷新に努力、諸學校令改正と共に戰車學校を獨立創設、人事權は全面的に陸相一本に歸することとなつた。○選信省は簡易保險最高限を一十圓に引上げること及定期生命保險制度創設に關する立案を急ぎ來期議會に提案の方針。○英國議會で對支權益の擁護から對日態度に關し反省機運動く。○日滿兩國の標準時間に一時間の時差のあるは不便多い爲その時差解消案を滿洲國で閣議に提案す。○イーデン英外相は下院に於て外交方針を宣明、軍備擴充、資源再分配聯盟改組等に言及した。  
 二十八日 陸軍定期大異動は寺内陸相独自の人事行政の下に自由潤達、軍の明朗を期する異動原案を作成、内奏御裁可を仰ぎ本日内命を發した。○國策の整理に就ては吉田、藤沼次田三長官會議の結果一、國防の充實、一産業の振興と貿易の伸張一、國民生活の安定の三項目を樹て、取捨することに目標を決定。○中山兵曹事件に關する支那の不誠意益々加はる。○二十九日 庶政一新と國防充實に陸軍は愈々積極的に邁進。○北支政權の中央化益々

露骨となり事態漸く重大視さる。○大藏省發表によれば昭和十年度國庫現計租稅收入八億千九百七十九萬九千圓に上り自然増収七千萬圓突破。○海軍新國防充實計畫案は遅くも八月下旬迄に明年度豫算案と共に提出すべく立案に努力。○米國海軍長官代理スタンドレー提督は英國の建艦に應じて米國も來年勿く戰艦二隻の建造に着手するであらうと語つた。○翼察政務委員長宋哲元氏と我が松室少將は第廿九軍聯隊長以上の將校を北平に招待、日支將校の懇親會を催す。○五ヶ國西歐安全會議招請に對する獨伊兩國は夫々參加受諾の旨を發表。○國民政府外交部亞洲司長高宗武氏は川越大使を訪ひ日支關係打開に關する支那側の意嚮を述べ協力を要望。  
 三十日 明治天皇御例祭は嚴かに宮中皇靈殿で執り行はせらる。○次期オリンピック大會開催決定に關する日、芬、英の三都決戦を豫想されたが英側あつさり立候補を撤回、七分通り東京招致確實となる。○選舉制度調査會第一回總會を首相官邸に開催、廣田首相は選舉弊害の根絶を期する旨決意を披瀝した。○農林政務次官田邊七六氏は一身上の都合により辭表を提出。○英商相ランシマン氏は下院に於てリ

聯政府との借款協定内容を發表。○豫て英ソ兩國間に折衝中の兩國海軍協定は完全に意見一致したる旨英國外務省發表。○駐日露大使ユレニエフ氏有田外相を訪問。滿ソ國境問題北鐵從業員退職金問題等に就き折衝す。○奥村書記官は翼察外交委員長陳中孚氏を訪問。二十八日北平市中に於て發生せる支那巡警の邦人毆打事件に付嚴重抗議。  
 三十一日 二・二六事件直接參加者以外の者の中陸軍歩兵大尉山口太郎外五名の將校に將し東京陸軍軍法會議で二十九日判決の言渡しあつた旨陸軍省より發表。○皇紀二千六百年を飾る第十二回國際オリムピック大會開催地は國際オリムピック委員最終の總會に於て東京と決定す。○政友會安藤幹事長は政友會として政府に獻策する國策を具して首相を訪問進言す。○西下中の寺内陸相歸京、國防費は公債で賄ふに限る確固たる腹をすへてかゝればよいと思ふと語つた。○國民同盟其の他小會派では丸の内會館に時局懇談會を開く。○不穩文書法初の違反事件として東京商大豫科國漢教授峰間信吉氏取調べられ書類送局さる。

哀悼錄

(自昭和拾年八月至昭和拾壹年八月)

氏名	職業又は身分	享年	死亡年月日
秦志津子	元拓相妻豊助氏未亡人	五八	八・一
三村鐘三郎	林學博士	六七	八・二
一瀬一二	代議士(埼玉縣選出政友)	五五	八・五
佐藤吾一	仙臺放送局長	五二	八・七
江副綱子	故代議士江副清臣氏未亡人	八〇	八・七
寺尾主税	元明大スケート部主將	二七	八・七
高松辰子	東大名譽教授工學博士 高松豐吉氏夫人	六七	八・九
田やす子	故男爵田健治郎氏未亡人	六五	八・九
遠山孝三	名古屋紡績系布取引所理事 内務省顧問、津島染色整理各五七 社長	八〇	八・一〇
佐竹鉄治郎	大鐵社長佐竹三吾氏嚴父	七九	八・九
永田鐵山	陸軍中將陸軍省軍務局長	五三	八・三
牧雅雄	日本美術院彫塑部同人	四七	八・四
瀧口吉良	元貴族院議員	七六	八・八
堤定次郎	常陽銀行取締役	六八	八・八
岡村金太郎	元水産講習所長 同校名譽教授	六九	八・二
井上正進	元姫路市長	八三	八・三

哀悼錄

稻垣長止郎	三菱重工業參事	五二	八・二四
井伊直安	子爵井伊直方氏嚴父	八五	八・三五
伊藤敬宗	金閣寺住職	五五	八・三五
小寺敬孝	中央運輸社長	七三	八・八
田中銀之助	田中礦業會社社長	六三	七・二七
菅谷元次郎	金原銀行取締役	八三	八・二七
アストリッド	白國皇后陛下	三〇	八・二九
陸下熊藏	男爵有地陸三郎氏長男	三三	八・二九
有地熊藏	米國飛行家	八一	八・三〇
セシル・アレン	佛蘭西文豪	六二	八・三〇
アンリ・バ	野田豐油、日清製粉取締役	八三	八・三〇
ルビユス	工學博士	七一	九・二
茂木啓三郎	三越專務取締役	五八	九・三
廣田理太郎	陸軍少將	五三	九・三
麻生誠之	陸軍少將	五三	九・三
小野五郎	東洋棉花取締役	五〇	九・四
三矢勝治郎	株式會社林藤紗店社長	五〇	九・四
林圭三	子爵牧野一成氏母堂	五五	九・四
牧野彌榮子	元長崎縣知事伊東喜八郎氏夫人	九一	九・四
伊東操子	三井生命取締役	七一	九・五
星智善	星孝治氏嚴父	五九	九・六
石川又八	代議士(佐賀選出政友)	六八	九・七
前田シゲ	夕刊大阪新聞専務 前田久吉氏母堂	六八	九・七
西脇得三	醫學博士 福井市衛長	五四	九・七

永野清	別府市長、元大分縣知事	五三	九・八
床次竹二郎	逓信大臣	七〇	九・八
江原ぬひ	故江原素六氏未亡人	八五	九・二
椿素一郎	元和歌山縣知事	六六	九・二〇
松崎壽	大阪商大教授商學博士	五〇	九・二
水野虎溪	曹洞宗大本山總持寺後室	六五	九・二
溝淵進馬	第三高等學校校長	六九	九・二
川上俊彦	北澤大鐵業會社社長 元ポランド公使	七五	九・二
富井政章	男爵法學博士福澤閣閣官	七六	九・二
水谷竹紫	劇作家	五四	九・二
仙石政敬	子爵前官内省 宗秩賢總裁	六四	九・二
陽威二	彫刻家	六四	九・二
藤田徳次郎	男爵藤田平太郎氏令弟 藤田鐵美、小坂鐵道社長	五六	九・一八
中島銑之助	退役陸軍少將	六〇	九・一九
黒川義太郎	前上野動物園長	七〇	九・三〇
黒木重雄	軍艦足柄砲塔分隊長 海軍大尉	五二	九・三〇
池田平作	海軍主計少將 愛知淑徳高女校長	五二	九・三二
小林清作	名古屋市會議員 名古屋市長	六一	九・三二
北大路實信	男爵貴族院議員	六六	九・三三
坂東秀調	歌舞伎俳優	五三	九・三三
北村宗四郎	奈良縣多額納稅者	六三	九・三三
市村龜藏	歌舞伎俳優	四四	九・三五
笠井愛次郎	工學博士	七九	九・三五
芳村伊十郎	長唄芳村流家元	七六	一〇・三



小峰 滿男 元代議士 六一〇・三  
 林 鶴一 東北帝大名譽教授 六一〇・四  
 上原 鹿造 早稻田大學監事 七一〇・四  
 千葉 龜雄 評論家 六一〇・四  
 今井 眞平 實業家今井五介氏長男 六一〇・五  
 山田長三郎 陸軍大佐(自刃) 六一〇・五  
 小松 芳子 元鐵道大臣小松謙治郎氏 六一〇・七  
 鳴瀧 紫磨 在郷陸軍中將 六一〇・七  
 原 亮一郎 東京書籍、日本製紙重役 六一〇・九  
 生沼 昭次 退役陸軍少將 六一〇・九  
 美土路芳治郎 東京朝日新聞編輯局長 七一〇・九  
 田邊高三郎 橫濱地方裁判所判事 六一〇・二  
 ミカエル ソ聯、動物學者 六一〇・三  
 山尾 晴敏 文部省囑託 六一〇・三  
 梅村 貞明 帝國海軍協會常務理事 六一〇・三  
 龍居 頼三 元滿鐵理事 六一〇・四  
 岡本大三郎 東京計器製作所社長 六一〇・四  
 松本小治郎 歌舞伎俳優 六一〇・四  
 林 鍊作 在郷陸軍少將 六一〇・八  
 佐野誠一郎 工學博士佐野利器氏嚴父 七一〇・七  
 岩田 イチ 法學博士岩田宙造氏養母 七一〇・七  
 稻田久米子 男爵稻田昌植氏夫人 六一〇・九  
 野村 泰享 佛語學者 六一〇・九  
 ハンダーソン 英勞働黨長老 七一〇・二

カールソン 英國元海相 六一〇・三  
 多賀 宗之 退役陸軍少將 六一〇・三  
 山下 李一 農林省海洋課長 六一〇・三  
 山下 義昭 柔道範士講道館十段 六一〇・三  
 土岐 儀 元第一銀行重役 六一〇・七  
 羽田 ひさ 永田秀次郎氏夫人母室 六一〇・七  
 西川 石松 石川流舞踊師匠 六一〇・九  
 多 忠行 宮内省樂部主事 六一〇・九  
 宮島 信夫 商工省貿易課長 六一〇・九  
 濱尾 四郎 子爵貴族院議員 六一〇・九  
 三島加根子 子爵三島通陽氏母室 六一〇・九  
 佐藤 百喜 法學博士前薩摩聯合中央 六一〇・三  
 永安こう子 鐵道省主計中將前神戶製 六一〇・三  
 橋本 平八 日本美術院同人 六一〇・三  
 山岡 則子 山岡萬之助氏合嗣夫人 六一〇・一  
 ロベール 國際聯盟事務局 六一〇・三  
 アリス 交通運輸部長 六一〇・三  
 金野 豊 三菱銀行外國爲替部長 六一〇・四  
 矢口長左衛門 元貴族院議員 六一〇・四  
 長田 祖村 福山衛成病院院長 六一〇・五  
 B.C.ロイ 陸軍一等軍醫 六一〇・五  
 テル 初代所長(和蘭人) 六一〇・五  
 岸田 全 日本相互貯蓄銀行專務 六一〇・六  
 伍賀 滿 海軍少將海軍大學校教官 六一〇・八  
 伊藤 勉一 東洋製菓會社常務 六一〇・八  
 杉田敬一郎 帝國製菓社長 七一〇・二

高橋 秀臣 前代議士東京市會議員 七三二・四  
 市川 壽猿 歌舞伎俳優 四三二・七  
 山脇 房子 山脇高等女學校校長 六九二・九  
 木村久壽彌太 前三菱合資會社總理 七二二・三  
 竹崎 音吉 元東京專賣局々長 六一二・五  
 藤井 ちよ 判事藤井五郎氏母室 六一二・六  
 八田 三郎 北海道帝大名譽教授 七一二・七  
 高木 信威 前中央大學教授 六一二・七  
 松本 長 寶生流の大家 六一二・八  
 曾我 祐準 明治の功臣退役陸軍中將 九三二・三〇  
 溝口 恒輔 藥劑士試驗委員 八〇二・三〇  
 横山 博 陸軍砲工學校教授 五三二・一  
 丹波 正躬 海軍大學校教官海軍大佐 四三二・二  
 大藤 直哉 元内務省勅任技師 六一二・三  
 ヴィクトリ 英國ジョージ五世皇妹 六一二・三  
 内親王殿下 退役陸軍中將 七九二・六  
 堀内 輝美 慶應義塾常任理事 六一二・六  
 福井 三郎 内務省社會局長官 八〇二・七  
 内海 弘藏 東京大學野球部顧問 五九二・七  
 結城 照子 帝國美術會會員 五三二・八  
 川田 正激 東京府立高等學校校長 七三二・九  
 平島 熊次 平島醫院院長 六一二・九  
 澁谷伊之彦 陸軍中將 五三二・九  
 小田久太郎 三越元專務取締役 七〇二・四

北島辰一郎 大日本武徳會教士 六一二・六  
 新渡戸孝夫 ジャパンタイムス編輯局長 六一二・八  
 松本 安正 獨逸協會中學理事 七〇二・九  
 大東 重善 跡見女學校主事 八〇二・九  
 平沼 九郎 平沼亮三氏令息 九二二・三  
 佐藤得四郎 大同電力取締役 五三二・二  
 西原茂太郎 陸軍中將 六四二・三  
 高瀬牧太郎 松田文相未亡人嚴父 七三二・三  
 伊藤 妙壽 松坂屋相談役伊藤次郎左 八〇二・三  
 衛門氏母室 元慶應義塾府土木技師 六五二・三  
 田賀奈良吉 在郷海軍々醫少將 七三二・四  
 太田彌太郎 大阪中央放送局長 五九二・七  
 廣江 恭造 皇后宮職御用掛 七九二・八  
 生源寺政子 東京帝大教授文學博士 六〇二・九  
 春山 作樹 東京帝大教授文學博士 六〇二・九  
 小宮三保松 錦鷄間祇候 七三二・九  
 吉野 こう 商工次官吉野信次氏母室 八三二・九  
 大橋 はる 通信次官大橋八郎氏母室 七三二・九  
 猪狩滿壽子 陸軍中將猪狩亮介氏母室 八一二・九  
 関 泳 子爵(朝鮮) 八四二・〇  
 レナイン 英國元外相侯爵 七五二・〇  
 寺田 寅彦 帝國學士院會員理學博士 六一二・一  
 阿部 充家 元國民新聞副社長 七五二・一  
 四條 隆英 男爵安田保善社理事 六一二・二  
 高橋いち子 元名古屋地裁院長高橋文 七〇二・二  
 之助氏夫人 六一二・二

藤山 常一 工學博士元日本窒素肥料 六六一・四  
 柳田 末男 常務 元早大捕手滿蒙百貨店販 三四一・四  
 河本 禎助 實業長 長崎醫大教授醫學博士 五五二・五  
 小澤 健雄 觀世流曲師範 二九二・五  
 白極 兵治 學習院教授 六一二・六  
 新井慶三郎 豫備海軍々醫少將 六一二・七  
 山縣 治郎 元神奈川縣知事 六一二・八  
 野田 鶴雄 退役海軍造兵中將工學博士 六一二・九  
 工藤 吉次 日本製鐵株式會社常務 六一二・九  
 陸 鐘 元代議士辯護士 六一二・九  
 本社内國民婦人會幹事 七四二・九  
 生田 長江 文藝評論家 五五二・二  
 釜山地方法院檢事正 六一二・二  
 平山 正詳 釜山地方法院檢事正 六一二・二  
 藤谷 爲寛 子爵前貴族院議員 六一二・三  
 磯林 直明 豫備陸軍少將 六一二・三  
 松藤 一衛 通信省事務官 六一二・三  
 元東京朝日新聞社取締役 七三二・七  
 梅澤安次郎 元東京朝日新聞社取締役 七三二・七  
 向井 巖 錦鷄間祇候 六一二・五  
 三田 恒雄 讀賣新聞秋田支社長 六一二・五  
 松永 武吉 日本學生航空聯盟會長 六一二・五  
 毛内 靖胤 豫備陸軍中將 六一二・六  
 高津 六平 京城電鐵重役 六一二・六  
 原田 和周 春陽會々友 六一二・六  
 宇佐美さち子 宇佐美滿鐵理事夫人 六一二・七  
 吉田 磯吉 前代議士 六一二・七  
 桑島 康三 桑島東亞局長嚴父 六一二・九

中村圓太郎 羅爾騎兵第二十七聯隊長 六一二・八  
 秀島七三郎 退役海軍少將 六一二・八  
 坪井九馬三 文學博士帝國學士院會員 七九二・二  
 ショーシ 東大名譽教授 六一二・二  
 山香二郎吉 英國皇帝 七一二・〇  
 元大審院檢事 七〇二・一  
 内山熊八郎 清水組專務理事 五三二・三  
 山本 重彦 東洋出版社々長 四九二・三  
 小池 仁郎 前代議士 七一二・四  
 和田 孝造 關東乘合株式會社社長 七一二・四  
 和田 祐作 後備陸軍少將 七三二・四  
 松田 健一 總同盟關東同盟會長 七三二・四  
 齋藤 健一 元代議士 八〇二・四  
 立川 雲平 萬年社專務取締役 六一二・五  
 中川 謙三 橫濱供託局長 六一二・五  
 佐藤 通貞 工學博士武藏高等工科學 六一二・五  
 竹内 季一 校長 六一二・五  
 元東京府會議長 七六二・六  
 井田 忠信 陸軍科學研究所第一部長 六一二・六  
 石井 善七 陸軍少將 六一二・六  
 萩岡 松韻 東京盲學校囑託 七一二・七  
 萩原 德忠 子爵善越後三市藩主 八一二・七  
 杉原榮三郎 日本産業協會副會長 八一二・七  
 飯尾次郎三郎 北國新聞社取締役會長 六一二・八  
 元金澤市長 六一二・八  
 平田 晋策 軍事評論家 三八二・八  
 沼田 笠峰 頌榮高等女學校校長 六一二・九  
 豐田 たか 大藏省參與官豐田收氏母室 六一二・九



哀悼錄

中條精一郎 曾根中條建築事務所 一〇〇
龜井 忠一 三省堂顧問 八二
松田 さだ 遊就館長松田少將母堂 七六
赤塚 自得 帝國美術院第四部會員 六六
松田 源治 文部大臣 六三
岩井ふぢ子 大正天皇御幼時の御乳人 八九
京極 熊子 子爵京極高修氏母堂 七七
原口房太郎 退役海軍少將 六七
井伊 直方 子爵貴族院議員 六四
太刀川善吉 函館日々新聞社長 五三
梅浦 健吉 東洋モスリン専務 六〇
曾禰 光子 故元通信大臣曾禰亮助氏 六九
西澤 公雄 海軍協會理事 六九
石津 寛 醫學博士石津病院院長 五五
吉武 眞實 山口高等學校教授 五三
中倉萬次郎 佐世保鐵道會社社長 八八
ヨルル フ 獨逸元駐日大使 七三
山本直太郎 中央放送協會常務理事 五三
木全 多見 退役陸軍少將 八二
佐々木正藏 榎町大審院檢事殿父 八二
原田 六郎 原田汽船會社社長 九四
上月秀太郎 K・T組製作所代表社員 六三
石田 保政 參謀本部課長大佐 四七
碓居 一馬 東京市養育院長醫學博士 九〇
水戸 傳 帝國發明協會理事 六七

上杉 文彦 文學博士前大谷大學々長 七〇
村井 保岡 元森村紐育支店長 八三
東 庸二郎 東洋フアイバー株式會社社長 六九
司馬章太郎 獨逸協會中學校長 六四
川崎 巖 海軍大尉(飛行機墜落) 三三
松本 三郎 退職陸軍々醫監 七六
安川清三郎 明治鐵業株式會社社長 六六
柳原 初子 伯爵柳原義光氏母堂 八三
戸田 氏共 伯爵爵香間祇候 八三
川崎すへ子 川崎克氏母堂 八九
大森 研造 九州帝大教授 九〇
竹崎 友造 豫備海軍機關大佐 五九
桑山 鐵男 貴族院議員 六九
榊原幾久若 元大審院檢事 七四
松本 空藏 元東京日日新聞重役 七〇
山田 進 東京製鋼監査役 五九
相馬 孟胤 子爵宮内省式部官 四八
後藤 環爾 西本願寺集會上首 六六
弘世 巖 日本生命財務課長 六九
千坂智次郎 豫備海軍中將 六九
矢野慶太郎 日本電力監査役 五九
宮川 經輝 大阪キリスト教會名譽教師 八〇
清樓 敦子 伯爵清樓幸保氏夫人 三〇
松永 剛 東洋石油事務取締役 六〇
齋藤 實 子爵内大臣 七九

高橋 是清 大藏大臣 八三
渡邊錠太郎 陸軍大將教育總監 六三
松尾 傳藏 陸軍歩兵大佐 六四
宮川 三一 大阪遞信局工務課長 五〇
阿蘇 惟孝 男爵阿蘇神社宮司 七七
稻茂登三郎 東京市場建物社長 七七
宮川 經輝 大阪キリスト教會名譽教師 八〇
古屋徳兵衛 松屋社長 五九
中村 吉次 東京材木問屋同業組合評議員 七六
森 外三郎 元第三高等學校校長 七三
弘世助太郎 日本生命社長 六六
高柳松一郎 法學博士紡績聯合會理事 六〇
杉山 泰道 文藝家號野久作 四八
中村 重淳 秋田縣新聞社事務取締役 六三
戸田 極子 故戸田氏共伯未亡人 八〇
内田 康哉 伯爵元外務大臣 七三
谷村一太郎 帝國人絹、藤本ビュロ 六六
古門林太郎 千葉天然瓦斯社長 六九
小澤 良輔 詔勳觀世流藝事相談役 六六
堀田 信直 退役陸軍少將 一〇
青木てい子 前遞信事務次官青木精一 七九
ヴェニセロス 希臘共和黨首領 三三
入江 爲守 皇太后宮大夫子爵 六九
佐竹 祥子 侯爵佐竹義春氏母堂 六六

哀悼錄

橋戸 信 東京日々新聞客員 五八
伊藤 孝次 豫備海軍造機中將 五九
中村 芳雄 早稻田大學教務課長 六〇
山本条太郎 貴族院議員 七〇
石川 寒巖 日本南書院同人 四七
照内 豊 北里研究所部長醫學博士 五五
金剛 右京 金剛流謡曲家元 六五
川崎 卓吉 商工大臣 六六
牧野 信一 小説家 四二
松平 節子 侯爵松平康昌氏母堂 六一
町田進一郎 海軍少將 五三
守岡 多仲 三井物産常務取締役 五九
磯部 昌朔 後備陸軍少將 六三
河村 幸子 河村第一師團長母堂 七五
岩田 八重 岩田宙造博士夫人 五五
中堀 末吉 北海タイムズ東京支局長 六一
水上長次郎 貴族院議員 六〇
矢口 達 早稻田大學教授 四七
鏡山 巖 豫備役陸軍中將 四四
渡邊千代三郎 貴族院議員 七三
宮本 主税 學習院初等科長 六三
生沼 大造 富山房支配人 六六
二宮 忠八 飛行神社創設者 七二
西尾 清一 帝國生命調査課長 四八
奥田八重子 男爵奥田剛郎氏母堂 六九

伊東 信一 名古屋總系取引所理事長 六三
松下文太郎 元久原本店理事 七九
福田馬之助 工學博士豫備海軍造船中將 八二
峰岸 慶藏 全日本肥料團體聯合會會長 六二
成瀬 正一 九州帝大法文學部教授 四三
久保田 讓 男爵樞密顧問官 九〇
田中 義一 醫學時報社長 六八
佐々木吉良 教育總監部警備兵總監 四六
アノリ・シ フランス元首首相 六九
エロン 日本美術學校長 六三
紀 淑雄 歌舞伎俳優 四四
澤村源之助 千葉醫大教授醫學博士 四〇
橋 健行 高峰琵琶宗家 五五
高峰 筑風 辯護士 四〇
森原 嘉逸 森於菟博士母堂 四八
森 しげ 日清汽船事務取締役 四九
米田 紋吉 松岡洋右氏母堂 四九
松岡ゆづ子 男爵勸銀理事 四四
原口 休 岡喜七郎氏母堂 四三
岡 みな 八高教授、歌人 四三
石井直三郎 洋畫家 四三
佐分 眞 堀越商會主 四三
堀越善重郎 退役陸軍中將 四四
種子田秀稔 退役陸軍中將 四四

本多岩次郎 東京高等醫學校校長 七一
鈴木 太郎 帝國生命常務取締役 六四
原 恒太郎 宮中顧問官 七八
近藤兵三郎 元兵器本廠長陸軍中將 六一
廣瀬 直幹 元東京市社會局長 五二
池田 菊苗 理學博士 七三
富谷銈太郎 法學博士貴族院議員 八一
福永 渙 號挽歌、詩人 五五
中山 理賢 東本願寺大傳都 七七
市川 謙重 片倉生命取締役支配人 五五
古川 光造 鐵道省電氣局長 五九
佐藤 清明 元東京市獸醫學學校長 六七
納所辨次郎 元學習院教授 七二
滿川龜太郎 拓殖大學教授 四九
大谷 登亮 東本願寺夾輔 五〇
郷 升 退役高等藥劑官 五三
毛内 效 海軍少將 五五
松村 務 男爵札幌鐵道局長 五七
松村 瞭 東大理學部教授醫學博士 五二
大橋 太郎 博文館支配人 二九
岡崎 國臣 東京株式取引所元理事長 六三
松岡 靜雄 退役海軍大佐 五三
柳澤 保惠 伯爵貴族院議員 六七
高木 盛明 鍋島侯爵家々職 七三
桑畑 靜善 時宗管長 七三



大森 痴雪	劇作家	六〇	五・三六	黒住 宗子	黒住教第三管長	六二	七・九	ルキ・ブレリオ	佛國空軍先覺ブレリオ飛行機發明	六四	八・二
勝田 登一	元吳市長	六三	五・三六	中原 濱子	故醫博中原徳太郎氏未亡人	六五	七・〇	三木喜美子	評論家三木清氏夫人	六六	八・六
松浦 良春	元行政裁判所第二部長	六七	五・三六	伊達 宗經	男爵	六七	七・二	岡田 重久	後備陸軍中將	六七	八・八
遠藤三郎兵衛	群是製糸顧問	六九	五・三六	藤 勝榮	代議士	七一	七・三	南 鷹次郎	農學博士北大名譽教授	六八	八・九
須永 達	元豊田織機重役	七〇	五・三六	市川 中車	歌舞伎俳優	七二	七・三	石井 暎子	舞踊家	七〇	八・九
リンツマン	ナチス國會の長老	七〇	五・三六	満谷國四郎	帝國美術院會員	七三	七・三	大澤喜七郎	退役海軍少將	七一	八・二
小泉辰之助	元代議士	七二	五・三六	岩原 謙三	日本放送協會會長	七四	七・三	三木静次郎	全國水産中央執行委員	七二	八・二
尾竹竹坡	畫家	七三	五・三六	田中 龍夫	工學博士	七五	七・三	肥田金一郎	中山藤馬クラブ理事長	七三	八・二
上野金太郎	東京藥專校長	七四	五・三六	佐藤龜八郎	貴族院議員宮城農工銀行頭取	七五	七・三	永田 愈郎	鐵道技師	七四	八・二
山下谷次	元文部省與官	七五	五・三六	横尾孝之亮	東華紡績社長	七六	七・三	加納友之介	自動車工業社長	七五	八・二
土田 夢僊	帝國美術院會員	七六	五・三六	大角 鉞	元東京驛長	七六	七・三	武村貞一郎	東神倉庫會長東洋レリオン監査役	七六	八・二
マキシム・ゴルキー	蘇國文豪	七八	五・三六	犬塚 太郎	秩父官附別當海軍中將	七八	七・三	廣瀬 基	東大講義元商工省技師	七八	八・二
長尾 半平	日本國民禁酒同盟キリスト教青年會理事	七九	五・三六	上柳 清助	元三井銀行營業部長	七九	七・三	加賀 美子	オリムピック陸上コチ加賀一郎氏長女	七八	八・二
南部修太郎	小説家	八〇	五・三六	志田 順	理學博士前京大教授	八〇	七・三	田山 まさ	辯護士田山卓爾氏母堂	八〇	八・二
網島 佳吉	番町教會名譽牧師	八二	五・三六	芝 忠重	官内省前樂部長	八二	七・三	伊藤銀三郎	大日本圖書會社支配人	八〇	八・二
鈴木三重吉	童話作家	八三	五・三六	アルフオゾ	神戶駐在伊太利總領事	八三	七・三	池島 清	洋畫家光風會員	八三	八・二
石割松太郎	劇評家、早大講師	八四	五・三六	岡崎 邦輔	政友會長老	八四	七・三	栗野健次郎	二高名譽教授	八三	八・二
近藤 常尙	全羅南道知事	八五	五・三六	平井 學	聯珠七段	八五	七・三	西洞院信意	子爵(舊公卿)	八三	八・二
沖島 つや	農相秘書官仲島謙三氏夫人	八六	五・三六	美山 貫一	日本國民禁酒同盟顧問	八六	七・三	高階 淳	醫學博士京大助教授	八三	八・二
太田馬太郎	日本書籍會社常務	八七	五・三六	武田 常藏	元日本郵船囀國丸船長	八七	七・三	本間 りむ	元貴族院議員本間千代吉氏母堂	八三	八・二
西邑 節子	皇太后官事務官西村清氏母堂	八八	五・三六	中尾 万三	藥學博士	八八	七・三	渡邊洗三郎	大毎記者支那四川省成都に於て殺害	八三	八・二
田村豊太郎	北越製紙會社社長	八九	五・三六	小松 トミ	學習院講師小松辨輔氏母堂	八九	七・三	淺岡 滿俊	退役海軍造船中將	八三	八・二
メルローズ	濠洲飛行家(墜死)	九〇	五・三六	木下みさ子	木下尙江氏夫人	九〇	七・三	山田 道兄	代議士	八三	八・二
富田 溪仙	帝國美術院會員	九一	五・三六	櫻井 久	横濱火災海上社長	九一	七・三	宇留木 浩	映畫俳優	八三	八・二
鈴木 誠	前第一師團兵器部長	九二	五・三六	岩田 ちよ	醫學博士岩田蓮氏夫人	九二	七・三			八三	八・二

# 職員錄

## 附銀行會社役員錄

- 官廳職員錄
- 六大都市高級吏員・市長一覽
- 警視廳管内署長一覽
- 東京・名古屋市會議員一覽
- 貴・衆兩院議員一覽
- 主要銀行會社役員錄
- 各政黨・政派役員
- 全國商工會議所會頭
- 學術團體役員會員
- 新博士名鑑
- 神社宮司・各宗派管長
- 洋樂・邦樂・能樂家名鑑
- 新・舊・映畫俳優名鑑
- 新聞通信社一覽
- 主要團體一覽



(昭和十一年九月五日現在)

内閣

(宮城内)

内閣總理大臣 廣田 弘毅  
 大藏大臣 馬場 銕一  
 内務大臣 潮 惠之輔  
 海軍大臣 永野 修身  
 外務大臣 有田 八郎  
 陸軍大臣 寺内 壽一  
 逓信大臣 頼母木 桂吉  
 司法大臣 林 頼三郎  
 農工大臣 小川 郷太郎  
 農林大臣 島田 俊雄  
 文部大臣 平生 鈺三郎  
 鐵道大臣 前田 米藏  
 拓務大臣 永田 秀次郎

内閣書記官長 藤沼 庄平  
 内閣總理大臣祕書官(兼) 岸 倉松  
 同 勝田 千勝  
 同 石田 壽  
 同 川島 孝彦  
 同 内閣官房 總務課長

職員錄——内閣

記録課長(兼) 川島 孝彦  
 會計課長 稻田 周一  
 ○内閣恩給局(和田倉門内)  
 局長(兼) 樋貝 詮三  
 庶務課長 上原 秋三  
 審査課長(兼) 上原 秋三  
 ○内閣統計局(麻布區富士見町)  
 局長 長谷川 赴夫  
 人口課長 高田 太一  
 勞働課長 水谷 良一  
 庶務課長 華山 親義  
 第一製表課長 森 數樹  
 第二製表課長 松田 泰二郎  
 審査課長 中川 友良  
 ○内閣印刷局(麴町區大手町一丁目)  
 局長 土屋 耕二  
 總務部長 上 条 勇  
 同 監理課長(兼) 上 条 勇  
 同 官報課長 村上 京輔  
 同 經理課長(兼) 上 条 勇  
 同 業務課長 山上 謙一  
 同 印刷部長 寺田 浩作  
 同 證券課長 坂井 規矩一郎  
 同 材料課長 佐野 迪

彫刻課長 磯部 忠一  
 同 活版課長 中村 信夫  
 同 抄紙部長 村井 操  
 同 紙料課長 白石 細丸  
 同 抄造課長 中西 篤  
 同 研究所長(兼) 矢野 道也  
 ○内閣調査局(麴町區大手町一丁目)  
 局長 古田 茂  
 同 調査官(勅任)(兼) 山田 龍雄  
 同 (同) 小濱 八彌  
 同 (同) 藤田 國之助  
 同 (同) 飯沼 一省  
 同 (同)(兼) 横溝 光暉  
 同 桑原 幹弘  
 同 松隈 秀雄  
 同 田中 重之  
 同 中島 賢藏  
 同 山際 正道  
 同 石渡 莊太郎  
 同 中村 敬之進  
 同 篠原 助市  
 同 阿部 謙藏  
 同(兼) 海軍大佐 阿部 嘉輔

和田 博雄  
 同 奥村 喜和男  
 同 内田 源兵衛  
 同 橋井 眞  
 ○内閣東北振興事務局(麴町區大手町一丁目)  
 局長(兼) 松井 春生  
 ○法制局(和田倉門内)  
 長官 次田 大三郎  
 第一部長 森山 銳一  
 第二部長 樋貝 詮三  
 ○賞勳局(和田倉門内)  
 總裁 下條 康麿  
 同 議定官 載仁 親王  
 同 博 恭 王  
 同 男 平沼 騏一郎  
 同 湯淺 倉平  
 同 松平 恒雄  
 同 荒井 賢太郎  
 同 金子 堅太郎  
 同 石黒 忠憲  
 同 黒田 長成  
 同 河合 錠二  
 同 櫻井 壽一  
 同 伯 寺内 壽一  
 同 男 大角 岑生

七九七



職員錄—樞密院・內大臣府・宮內省

七九八

同 野村 古三郎  
同 末次 信正  
○資源局(和內倉門內)  
長官 松井 春生  
總務部長 植村 甲午郎  
同 庶務課長 厚東 常照  
同 調查課長 山田 秀三  
同 施設課長 久保 喜六  
同 資料課長 大森 達雄  
同 分室主任(兼)厚東 常照  
企畫部長 星 守一  
同 第一課長 武節 俊二郎  
同 第二課長 步少佐 石本 五雄  
○對滿事務局(麹町區大手町一丁目)  
總裁(兼) 寺內 壽一  
陸軍大臣伯 青木 一男  
次長 小松 光彦  
總裁秘書官 步少佐 增田 甲子七  
庶務課長 竹內 德治  
殖産課長 山越 道三  
行政課長 山越 道三  
高等試驗委員(法制局內) 委員長

法制局長官 次田 大三郎  
第一部長(兼) 次田 大三郎  
第二部長 堀内 謙介  
第三部長 司法次官 長 島 毅  
○中央統計委員會 會長 男 阪谷 芳郎  
○恩給審査會 會長 廣田 弘毅  
○資源審議會 會長 廣田 弘毅  
○內閣總理大臣 廣田 弘毅  
副總裁 伯 寺內 壽一  
同 農林大臣 小川 郷太郎  
同 商工大臣 廣田 弘毅  
○東北振興調查會 會長 廣田 弘毅  
副會長 內務大臣 潮 惠之輔  
同 農林大臣 島田 敏雄  
○文官高等分限委員會 會長 廣田 弘毅  
副會長 內閣總理大臣 廣田 弘毅  
同 東北振興電力株式會社設立委員會 委員長 水野 鍊太郎  
○東北振興電力株式會社設立委員會

委員長 水野 鍊太郎  
○議院制度調查會 會長 廣田 弘毅  
副會長 公 近衛 文麿  
同 選舉制調查會 會長 廣田 弘毅  
副會長 潮 惠之輔  
同 內國紀元二千六百年祝典事務局長(兼) 飯沼 一省  
○南洋殖殖株式會社設立委員會 委員長 伯 兒玉 秀雄  
○臺灣殖殖株式會社設立委員會 委員長 伯 兒玉 秀雄

樞密院(宮城內)  
議長 男 平沼 騏一郎  
副議長 荒井 賢太郎  
親王 雍仁 親王  
宣仁 親王  
載仁 親王  
金子 堅太郎  
伯 石黑 忠憲

書記官長 男 村上 恭一  
內大臣 湯淺 倉平  
秘書官長 松平 康昌

宮內省(宮城內)  
侍從長 侯 黑田 長成  
子 櫻井 錠二  
子 河合 操  
子 鈴木 貫太郎  
子 石井 菊次郎  
子 有馬 良橋  
子 原 嘉道  
子 窪田 靜太郎  
子 栗野 慎一郎  
子 元田 肇  
子 鈴木 莊六  
子 石塚 英藏  
子 坂本 彰之助  
子 石渡 敏一  
子 清水 澄  
子 藤澤 幾之輔  
子 林 權助  
子 上山 滿之進  
子 村上 恭一  
子 松平 恒雄

次官 男 白根 松介  
秘書官 林 與之助  
同(兼) 醫 原 有  
宮中顧問官 長崎 省吾  
田內 三吉  
井上 通泰  
小笠原 長生  
山口 銳之助  
川島 令次郎  
和野 國次郎  
日野 西 資博  
小早川 四郎  
渡邊 直達  
山邊 知春  
松浦 寅三郎  
大木 彝雄  
石井 國次  
三室戶 敬光  
清水谷 實英

○大臣官房  
秘書課長(兼) 本多 猶一郎  
總務課長 子 本多 猶一郎  
大膳課長 土岐 政夫  
皇宮警察部長 內藤 三郎  
侍從長 鈴木 貫太郎

職員錄—宮內省

侍從次長(兼) 侯 廣幡 忠隆  
內廷課長(兼) 子 黑田 長敬  
庶務課長(兼) 大金 益次郎  
經理課長(兼) 永積 寅彦  
○式部職  
式部長官 子 松平 慶民  
式部次長 鹿兒島 虎雄  
外事課長 山縣 武夫  
儀式課長 男 武井 守成  
主藏課長 伯 坊城 俊良  
△掌典部 公 三條 公輝  
掌典次長 醜 齋 忠直  
△樂部 伯 坊城 俊良  
部長(兼) 伯 坊城 俊良  
○宗秩寮 侯 木戶 幸一  
總裁 野口 明  
宗親課長 高橋 敏雄  
爵位課長 高橋 敏雄  
庶務課長(兼) 高橋 敏雄  
○諸陵寮 頭 渡部 武雄  
庶務課長 伊藤 武雄  
考證課長(兼) 伊藤 武雄  
○圖書寮 頭 渡部 信

庶務課長 久保 覺次郎  
圖書課長(兼) 久保 覺次郎  
編修課長 芝 葛盛  
○侍醫寮 頭 佐藤 恒丸  
庶務課長(兼) 子 黑田 長敬  
醫事課長 高橋 信  
藥劑課長 細井 美水  
○內藏寮 頭 三浦 篤  
主計課長 池田 秀吉  
財務課長(兼) 池田 秀吉  
用度課長 鈴木 重孝  
○內匠寮 頭 岩波 武信  
監理課長 加藤 進  
臨時帝室博物館造營課長 北村 耕造  
工務課長 鈴木 鎮雄  
△內匠寮出張所(京都市御苑內) 所長 森田 久造  
○主馬寮 頭 杉村 愛仁  
庶務課長 矢島 正昭  
自動車課長(兼) 矢島 正昭  
厩務課長 城戶 俊三

△宮內省下總牧場(千葉縣印旛郡遠山村) 場長 酒井 克巳  
○皇后宮職 太夫 侯 廣瀨 忠隆  
內廷課長 子 大金 益次郎  
經理課長 永積 寅彦  
東宮傳育官 石川 岩吉  
皇子御養育掛長 藤井種太郎  
○皇太后宮職(赤坂區大宮御所) 大 夫 大谷 正男  
庶務課長 西 邑 清  
會計課長 清閑寺 良貞  
○皇族附職員  
△秩父宮(赤坂區表町御殿) 別當 (缺員)  
△高松宮(芝區高輪西臺町) 別當 渡邊 勝三郎  
△三笠宮(赤坂區青山東御殿) 別當 厚東 篤太郎  
△閑院宮(麹町區永田町二丁目) 別當 稻垣 三郎  
△東伏見宮(澁谷區常磐松町) 別當 高橋 錦  
△伏見宮(麹町區紀尾井町) 別當 高橋 錦

七九九



職員録——外務省

別當 四 龜 孝輔
△山階宮(麴町區富士見町二丁目)
別當 大石 正吉
△賀陽宮(麴町區三番町)
別當 山田 良之助
△久邇宮(澁谷區宮代町)
別當 宇川 濟
△梨本宮(澁谷區美竹町)
別當 三雲 敬一郎
△朝香宮(芝區白金臺町)
別當 東 乙彦
△東久邇宮(麻布區市兵衛町)
別當 松本 幹之介
△北白川宮(芝區高輪南町)
別當 石川 漣平
△竹田宮(芝區高輪南町)
別當
○帝室會計審査局
長官 木下 道雄
○帝室林野局(麴町區霞ヶ關離宮内)
長官 三矢 宮松
監理課長 武宮 雄彦
整理課長(兼) 武宮 雄彦
業務課長 松本 正巳

△札幌支局(札幌市北二條西一丁目)
支局長 井上 重則
△東京支局(麴町區霞ヶ關離宮内)
支局長 津村 昌志
△名古屋支局(名古屋市中區武平町)
支局長 眞崎 脩
△木曾支局(長野縣西筑摩郡福島町)
支局長 小林 哲司
△林業試驗場(東京府南多摩郡横山村)
支局長 中村 賢一郎
○御歌所
所長事務取扱 公 三條 公輝
庶務課長(兼) 庭田 重行
記録課長(兼) 庭田 重行
○學習院(豊島區目白町一丁目)
院長 荒木 寅三郎
庶務課長 藤井宇多治郎
會計課長(兼) 藤井宇多治郎
衛生課長 清水 眞
教務課長 倉敷 福太郎

學生課長 渡邊 八郎
圖書課長 金田 鬼一
○女子學習院(赤坂區青山北町)
院長 長屋 順耳
庶務課長 柿崎 兵部
會計課長(兼) 柿崎 兵部
教務課長 上田 駿一郎
學生課長 山口 德三郎
圖書課長 佐藤 幹二
○帝室博物館
△東京帝室博物館(上野公園内)
園長 杉 榮三郎
總理課長 淺野 長光
美術課長 溝口 禎次郎
歴史課長 原田 淑人
△奈良帝室博物館(奈良市奈良御料地)
館長 山口 巍
○李王職(朝鮮京城府)
長官 篠田 治策
次官 李 恒九
庶務課長 志賀 信光
禮式課長 李 謙聖
主殿課長(兼) 李 謙聖
會計課長 佐藤 明道

八〇〇
○帝室經濟顧問
公 西園寺 公望
男 喜徳郎
男 一木 喜徳郎
男 伯 牧野 伸顯
○學習院評議會
議長 公 近衛 文麿
○華族世襲財産審議會
議長 公 三條 公輝
○宮内官考査委員會
委員長 宮内次官
○宮内省恩給審査會
會長 宮内次官
○王公族審議會
總裁樞密院議長
男 平沼 騏一郎
○公刊明治天皇御紀編修委員會
會長宮内大臣 松平 恒雄
○臨時陵墓調査委員會
委員長 男 白根 松介
大臣 有田 八郎
政務次官 猪野毛 利榮

次官 堀内 謙介
參事官 松山 常次郎
○大臣官房
秘書官 島 重信
人事課長 日高 信六郎
文書課長(兼) 秋山 理敏
會計課長 土田 豊
翻譯課長(兼) 秋山 理敏
電信課長 秋山 理敏
○東亞局
局長 桑島 主計
第一課長 上村 伸一
第二課長 佐藤 信太郎
第三課長事務取扱 北澤 直吉
○歐亞局
局長 東郷 茂徳
第一課長 加瀬 俊一
第二課長 吉田 丹一郎
○亞米利加局
局長 岡本 季正
第一課長 石井 康
第二課長 塚本 毅
第三課長(兼) 塚本 毅
○通商局
局長 松島 鹿夫

總務課長 小林 龜久雄
第一課長 水野 伊太郎
第二課長(兼) 蘆野 弘
第三課長 若松 虎雄
○條約局
局長 栗山 茂
第一課長(兼) 松本 俊一
第二課長 松本 俊一
第三課長 阪本 瑞男
○情報部
部長 天羽 英二
第一課長 佐藤 敏人
第二課長 本野 盛一
第三課長 田代 重徳
○文化事業部
部長 岡田 兼一
第一課長 林 兼安
第二課長 宮崎 申郎
第三課長 柳澤 健
○調査部
部長 栗原 正
第一課長 永田 安吉
第二課長 大久保 利隆
第三課長(心得) 宮川 船夫
第四課長 加藤 三郎
第五課長(兼) 加藤 三郎

○對支文化事業調査會
會長外務大臣 有田 八郎
○永代借地權委員會
會長外務大臣 有田 八郎
○大使館
英國大使 吉田 茂
參事官 藤井 啓之助
佛國大使 富井 周
參事官 佐藤 尙武
獨國大使 武者小路 公共
參事官 井上 庚二郎
伊國大使 杉村 陽太郎
參事官 松宮 順
白耳義大使 來栖 三郎
參事官 佐久間 信
ソグイエト聯邦大使 重光 葵
參事官 酒匂 秀一
土耳古國大使 德川 家正
參事官 齋藤 博
ブラジル國大使 澤田 清次郎
參事官 内山 節藏
滿洲國大使(兼) 植田 謙吉
參事官 守屋 和郎

八〇一
中華民國大使 川 越 茂
參事官 若 杉 要
守 島 伍 郎
○公使館
瑞西國公使 堀田 正昭
西班牙國公使 矢野 眞
ポルトガル國公使 笠間 呆雄
蘭國公使 武富 敏彦
瑞典國(兼諾威、丁抹、ノイランド國) 白鳥 敏夫
公使 白鳥 敏夫
ラトヴィア國 一等書記官(兼) 佐久間 信
ポーランド國公使 伊藤 述史
ルクセンブルグ國公使(兼) 來栖 三郎
ハリビヤ國公使(兼) 村上 義温
チエツコ・スロヴァキア國 一等書記官 小川 昇
澳國(兼ハンガリー國)公使 谷 正之
ルーマニア國(兼ユーゴスラヴィア國)公使

職員録——外務省



職員録—外務省

藤田 榮介
希臘國(兼アルバニア國)
一等書記官 三枝 茂智
イラン國公使 岡本 武三
エジプト國
一等書記官 (缺員)
エテイオピア國
一等書記官 鈴木 九萬
暹羅國公使 石射 猪太郎
カナダ公使 加藤 外松
キユバ國公使(兼) 齋藤 博
メキシコ國(兼サルヴァドル國、グアテマラ國、ホンジュラス國、ニカラガ國、コスタ・リカ國)公使 堀 義貴
ペルー國(兼エクアドル國)公使 村上 義温
チリ國(兼ボリウエア國)公使 三宅 哲一郎
アルゼンティン國(兼パラグアイ國、ウルグアイ國)公使(歸朝中) 山崎 次郎
コロンビア國公使 岩手 嘉雄

アフガニスタン國公使 北田 正元
○總領事館
倫敦總領事(兼) 松山 晋二郎
漢堡總領事 江戸 千太郎
ジュネーヴ總領事(兼) 横山 正幸
浦羅斯德總領事 杉下 裕次郎
アレクサンドロフスク
總領事 緒方 整肅
ハバロフスク總領事
哈爾濱總領事 佐藤 庄四郎
新京總領事(代理) 中野 高一
吉林總領事 森岡 正平
間島總領事 川村 博
奉天總領事 宇佐美 珍彦
天津總領事 堀内 干城
青島總領事 西 春彦
濟南總領事 有野 學
上海總領事(兼) 大使館參事官 若杉要、河相達夫(歸朝)
南京總領事 須磨 彌吉郎
漢口總領事 三浦 義秋

福州總領事 内田 五郎
廣東總領事 中村 孝策
香港總領事 水澤 孝一
河内總領事 宗村 丑生
新嘉坡總領事 那 喜一
檳榔嶼總領事 森 喬
マニラ總領事 内山 清
パタゴニア總領事 石澤 豊
カルカッタ總領事 米澤 菊二
シドニー總領事 井 倉松
ホノルル總領事 福間 豊吉
桑港總領事 塩崎 觀三
紐育總領事 澤田 廉三
サンパウロ總領事 市毛 孝三
リベンプレイト分館 副領事 成瀬 廉
サントス出張所副領事 南 榮
○領事館
リヴァプール領事 野田 實之助
アンヅェルス領事 友田 鶴彌
里昂領事 友田 二郎

馬耳塞副領事 山下 芳郎
オアツサ領事 平田 稔
アラゴウエスチエンスク 副領事 下村 未郎
メトロパワロフスク領事 田中 文一郎
ノヴォシビルスク領事 小柳 雪生
綏芬河副領事 興津 良郎
滿洲里副領事 後藤 安嗣
海拉爾副領事 後藤 祿郎
齊々哈爾副領事 田中 莊太郎
鄭家屯領事 瀧山 靖次郎
安東領事 樹谷 秀夫
營口領事 三村 哲雄
錦州領事 柴崎 白尾
赤峰領事(代理) 栗本 秀顯
承德副領事 松浦 秀興
張家口副領事 中根 直介
芝罘領事(代理) 田中 作
鄭州副領事 佐々木 高義
杭州副領事 松村 雄藏
蘇州領事 川西 豐藏
蕪湖領事(兼事務代理) 岡部 計二
九江領事 白井 康

職員録—内務省

宜昌領事 田中 正一
沙市副領事(事務代理) 岡部 政助
長沙副領事 高井 末彦
重慶領事 精谷 廉二
厦門領事 山田 芳太郎
汕頭領事 山崎 誠一郎
雲南領事 川南 省一
西貢領事 高澤 貞義
ダグアオ領事 柴田 市太郎
スラバヤ領事 姉齒 準平
メダン領事 荒川 充雄
蘭貢副領事 金子 豊治
コロンボ領事 原田 忠一郎
孟買領事 石川 實
アレキサンドリア領事 黒木 時太郎
ポルトサイド副領事 大野 道造
モンパサ領事 茂垣 長作
ケープタウン領事 太田 知庸
ロシアンヘルス領事 堀 公一
ポートランド領事 鶴見 憲

シヤトル領事 岡本 一策
シカゴ領事 井口 貞夫
ニューオールレア副領事 佐藤 由巳
晚香坡領事 根道 廣吉
ハヴァナ領事 伊東 隆治
サン、サルヴァドル領事 大谷 彌七
パナマ領事 海本 徹雄
里馬領事 藤村 信雄
アエノスアイレス領事(兼) リオデジャネイロ 寺島 廣文
副領事(兼) 小峰 俊一
ベレーン領事(領事代理) 古關 富彌
○國際會議帝國事務局(瑞西國)
局長(兼) 堀田 正昭
次長 横山 正幸
○内務省(麹町區外櫻田町)
大臣 潮 惠之輔
政務次官 子 鍋島 直繩
次官 湯澤 三千男
參事官 男 肝付 兼英
○大臣官房

人事課長 成田 一郎
文書課長(兼) 長谷川 透
會計課長 藤原 孝夫
都市計畫課長 雪澤 千代治
○神社局
局長 館 哲二
中島 清二
宮地 直一
○地方局
局長 大村 清一
田中 重之
加藤 於菟丸
木村 清司
數藤 鐵臣
○警務局長 荳揚 軍藏
橋本 清吉
清水 重夫
宮野 省三
内藤 寛一
○土木局
局長 岡田 文秀
青井 善太郎
武井 群嗣
新居 善太郎
石井 政一
○警保局長 荳揚 軍藏
橋本 清吉
清水 重夫
宮野 省三
内藤 寛一
○土木局長 岡田 文秀
青井 善太郎
武井 群嗣
新居 善太郎
石井 政一

第一技術課長 谷口 三郎
第二技術課長 鈴木 雅次
△東京土木出張所(麹町區大手町)
所長 辰馬 鐵藏
△横濱土木出張所(横濱市神奈川區表高島町)
所長 木津 正治
△仙臺土木出張所(仙臺市北三番丁)
所長 福田 次吉
△新潟土木出張所(新潟市白山浦一丁目)
所長 伊藤 百世
△名古屋土木出張所(名古屋市東區豊杉ノ町四丁目)
所長 金古 久次
△大阪土木出張所(大阪市西區土佐堀通)
所長 高西 敬義
△神戸土木出張所(神戸市海岸通一丁目)
所長 山内 喜之助
△下關土木出張所(下關市阿彌陀寺町)
所長 牧野 雅樂之丞



△土木試驗所(本郷區駒込)

所長 上富士前町 物部長 穗

○衛生局 局長 挾間 茂  
保健課長 櫻井安右衛門  
防疫課長 勝保 稔  
警務課長 龜山 孝一

○社會局(麹町區外櫻田町)

長官 廣瀬 久忠  
庶務課長 熊谷 憲一  
勞働部長 赤松 小寅  
勞政課長 森部 隆  
勞務課長 中野 善教  
監督課長 北岡 壽逸  
保險課長 清水 玄  
規畫課長 川村 秀文  
監理課長 松原 久人  
組合課長 曾我 梶松  
醫務課長 古瀬 安俊  
社會部長 山崎 巖  
保護課長 持永 義夫  
福利課長 灘尾 弘吉  
職業課長 近藤 壤太郎  
△國際勞働機關帝國事務所

(瑞西國シエネーヴ)

所長 吉阪 俊藏  
中央職業紹介事務局(內務省內)  
局長 社會部長 山崎 巖  
△東京地方職業紹介事務局(內務省內)  
局長 糸井 謹治  
△大阪地方職業紹介事務局  
局長 那須 時夫  
△名古屋地方職業紹介事務局(愛知縣廳內)  
局長 小林 伊三郎  
△福岡地方職業紹介事務局(福岡縣廳內)  
局長 花澤 武夫  
△青森地方職業紹介事務局(青森市柳町)  
局長 木田 徹郎  
△長野地方職業紹介事務局(長野市大宇南長野)  
局長 三澤 房太郎  
△岡山地方職業紹介事務局(岡山市弓之町)  
局長 赤松 清一郎

○傷兵院(神奈川縣足柄下郡大窪村)

院長 原田 武  
武藏野學院(埼玉縣北足立郡大門村)  
院長 菊池 俊諦  
造神宮使廳(內務省構內)  
使 多嘉 王  
副使 館 哲二  
第一課長 中島 清二  
第二課長(代理) 中島 清二  
警察講習所(麹町區三番町)  
所長 警保局長 萱場 軍藏  
東京衛生試驗所(神田區和泉町)  
所長 衣笠 豐  
大阪衛生試驗所(大阪市東區京橋三丁目)  
所長 町口 英三  
榮養研究所(小石區駕籠町)  
所長 佐伯 矩  
國立癩療養所  
△長島愛生園(岡山縣邑久郡袋掛村)  
所長 光田 健輔  
△栗生樂泉園(群馬縣吾妻郡)

○郡草津町

所長 古見 嘉一  
星塚敬愛園(鹿兒島縣肝屬郡大始良村)  
所長 林 文雄  
神社制度調查會  
會長 水野 鍊太郎  
醫師試驗委員  
委員長 內務次官 湯澤 三千夫  
齒科醫師試驗委員  
委員長 內務次官 湯澤 三千夫  
藥劑師試驗委員  
委員長 內務次官 湯澤 三千夫  
中央衛生會  
會長 內務大臣 潮 惠之輔  
日本藥局方調查會  
會長 慶松勝左衛門  
保健衛生調查會  
會長 內務大臣 潮 惠之輔  
阿片委員會  
會長 內務大臣 潮 惠之輔  
國立公園委員會  
會長 內務大臣 潮 惠之輔  
著作權審查會  
會長 內務大臣 潮 惠之輔  
土木會議

○補償審查會(內務省構內)

會長 星野 錫

○都市計畫中央委員會

會長 內務大臣 潮 惠之輔

○社會保險調查會

會長 內務大臣 潮 惠之輔

○中央職業紹介委員會

會長 社會局長 官廣瀬 久忠

○神宮司廳(宇治山田市)

祭主 多嘉 王

○大宮司

三條西 實義

○小宮司

菟田 茂丸

○官房主事

(缺員)

○庶務課長

慶光院 利敬

○儀式課長

阪本 廣太郎

○會計課長

坂口 岩七

○警衛部長

橋本 和三郎

○林務課長

篠田 良二

○神宮皇學館(三重縣度會郡濱郷村)

館長 平田 貫一

○圖書部長

千田 憲

○庶務部長

西村 爲之助

○教務部長

木村 春太郎

○學生監部長

鎌田 春雄

○神宮神部署(神宮司廳內) 署長 御巫 清白

大藏省(麹町區大手町)

大臣 馬場 鐵一  
政務次官 中島 彌團次  
次官 川越 丈雄  
參事官 丹下 茂十郎  
秘書官(兼) 星野 喜代治  
同 長沼 弘毅  
同 愛知 揆一  
○大臣官房  
秘書課長(兼) 星野 喜代治  
文書課長 谷口 恒二  
會計課長 深田 養一  
財政經濟調查課長 梅北 末初  
△海外駐在官  
英佛駐在 富田 勇太郎  
米國駐在(兼) 富田 勇太郎  
○主計局  
局長 廣瀬 豐作  
決算課長 菅村 道太郎  
調查課長 木内 四郎  
豫算課長 入江 昂  
○主稅局

局長 山田 龍雄

關稅課長 松岡 季雄  
關稅課長 尾關 將玄  
經理課長 安藤 明道  
企畫課長 松崎 憲司  
特別調查課長 竹内 新平  
理財局  
局長 賀屋 興宜  
國債課長 山路 鎮夫  
國庫課長 湯本 武雄  
地方債課長 日比野 襄  
○銀行局  
局長 和田 正彦  
普通銀行課長 小宮 陽  
特別銀行課長 星野 喜代治  
檢查課長 上山 英三  
○外國爲替管理部  
部長 荒川 昌二  
審查課長 松山 宗治  
總務課長 鈴木 慈太郎  
○預金部(大藏省內)  
部長 關原 忠三  
運用課長 山田 鐵之助  
監理課長 栗原 虎修  
考查課長 大竹 高次郎  
△東京支部長 野津 高次郎

△大阪支部長 安江 好治

△札幌支部長 中村 孝次郎  
△仙臺支部長 中村 重喜  
△名古屋支部長 西村 淳一郎  
△廣島支部長 中村 應  
△熊本支部長 柳澤 直衛  
○營繕管財局(大藏省內)  
長官 大藏次官 川越 丈夫  
總務部長 江口 順一  
國有財產課長 原口 武夫  
總務課長 森本 靖男  
工務課長 大熊 喜邦  
工務課長 池田 讓次  
監督課長 小島 榮吉  
△神戶出張所長 元尾 光輝  
△門司出張所長 井川 忠雄  
○造幣局(大阪市北區新川崎町)  
局長 入間野 武雄  
總務部長 川又 公平  
作業部長 廣瀬 亞夫  
△東京出張所長 柴田 武  
○專賣局(麹町區大手町一丁目)  
長官 荒井 誠一郎  
長官官房 永井 勻  
總務課長 松尾 俊次  
調查課長



販賣部  
部長 花田 政春  
監査課長 相馬 敏夫  
森尾 敏男  
收納部  
部長 岡 雅枝  
技術課長 河西 金城  
澁谷 正良  
製造部  
部長 森澤 博  
杉基 一  
管理課長 田中 重夫  
作業課長 野呂 一雄  
沼野 英不二  
會計課長 黒瀬 勘一  
板橋製作所(板橋區板橋町五丁目)  
所長 田中 哲四郎  
中央研究所(荏原區戸越町)  
所長 田中 新五  
秦野試驗場(神奈川縣中郡東秦野村)  
場長 長谷川 浩  
水戸試驗場(茨城縣久慈郡山田村)

場長 仁藤 武雄  
岡山試驗場(岡山縣淺口郡玉島町)  
場長 守屋 眞哲  
三田尻試驗場(山口縣佐波郡中關町)  
場長 福永 範一  
鹿兒島試驗場(鹿兒島縣鹿兒島郡谷山町)  
場長 中村 壽夫  
東京地方專賣局(淺草區藏前一丁目)  
局長 松崎 漸吉  
水戸地方專賣局(水戸市)  
局長 鈴木 徹雄  
宇都宮地方專賣局(宇都宮市)  
局長 南 勝治  
高崎地方專賣局(高崎市)  
局長 加藤 嘉藏  
郡山地方專賣局(郡山市)  
局長 常藤 庫二  
仙臺地方專賣局(仙臺市)  
局長 平澤 法人  
函館地方專賣局(函館市)  
局長 米村 佐一郎

名古屋地方專賣局(名古屋市中區古澤町)  
局長 高木 千尋  
金澤地方專賣局(金澤市)  
局長 鈴木 榮  
大阪地方專賣局(大阪市)  
局長 光山 盛貞  
岡山地方專賣局(岡山市)  
局長 宇田 吉一  
廣島地方專賣局(廣島市)  
局長 武部 弘成  
坂出地方專賣局(香川縣綾歌郡坂出町)  
局長 小林 末夫  
德島地方專賣局(德島市富田浦町)  
局長 吉田 秀穂  
福岡地方專賣局(福岡市字妙見)  
局長 中山 治三郎  
熊本地方專賣局(熊本市)  
局長 上林 一枝  
鹿兒島地方專賣局(鹿兒島市榮町)  
局長 二井 藤三郎  
橫濱稅關(橫濱市中區海岸通)

稅關長 飯田 九州雄  
監視部長 木内 五助  
總務部長 小山 直彦  
會計課長 福武 武藏  
澁谷 清次  
監査部長 中本 清次  
植物檢査課長 狩谷 精之  
港務部長 長谷川 孝治  
神戶稅關(神戶市神戶區加納町)  
稅關長 元尾 光輝  
監視部長 谷岡 勝美  
總務部長 松田 一隆  
會計課長 小原 謙  
監査部長 飯田 謙  
植物檢査課長 秋山 忠次郎  
港務部長 河北 一男  
大阪稅關(大阪市港區三條通)  
稅關長 高橋 周三  
監視部長(兼) 谷口 吉太郎  
總務部長(兼) 近藤 直人  
會計課長(兼) 吉田 佐一  
監査部長(兼) 三宅 忠平  
植物檢査課長 白岩 秀雄  
港務部長 谷口 吉太郎  
長崎稅關(長崎市羽衣町二丁目)

稅關長 福地 惣治  
總務部長 北井 幾夫  
監視部長(兼) 北井 幾夫  
港務部長(兼) 北井 幾夫  
監査部長 原田 信行  
門司稅關(門司市西海岸通地先理立地)  
稅關長 井川 忠雄  
監視部長(兼) 新 敏雄  
總務部長 新 敏雄  
監査部長 木下 勇男  
植物檢査課長 金山 巖  
港務部長 伊藤 陽  
函館稅關(函館市仲濱町)  
稅關長 太田 龜太郎  
監査部長 平野 良貞  
東京稅務監督局(麴町區大手町一丁目)  
局長 野津 高次郎  
總務部長 山住 克己  
直稅部長 式村 義雄  
間稅部長 戶田 忠肅  
經理部長 島本 融  
鑑定部長 栗山 正雄  
大阪稅務監督局(大阪市北區中之島)

局長 安江 好治  
總務部長 玉井 徳和  
直稅部長 山田 義見  
間稅部長 福井 榮治郎  
經理部長 伊地知 辰夫  
鑑定部長 金井 春吉  
札幌稅務監督局(札幌市大通西七丁目)  
局長 中村 孝次郎  
總務部長 佐藤 一郎  
間稅部長(兼) 佐藤 一郎  
直稅部長 立山 雪  
經理部長(兼) 立山 雪  
鑑定部長(兼) 山内 山彦  
仙臺稅務監督局(仙臺市北一番丁)  
局長 中村 重喜  
總務部長 青木 正映  
經理部長(兼) 青木 正映  
間稅部長 河野 一之  
直稅部長 吉村 文三  
鑑定部長 鈴木 重一郎  
名古屋稅務監督局(名古屋市中區古澤町)  
局長 西村 淳一郎  
總務部長 榎谷 孝典

經理部長(兼) 榎谷 孝典  
直稅部長 前尾 繁三郎  
間稅部長 太田 幸作  
鑑定部長 副島 昌  
廣島稅務監督局(廣島市八丁堀)  
局長 中村 應  
總務部長 齋藤 和三郎  
經理部長(兼) 齋藤 和三郎  
直稅部長 渡邊 喜久造  
間稅部長 細倉 重義  
鑑定部長 山田 滋朗  
熊本稅務監督局(熊本市練兵町)  
局長 柳澤 直衛  
總務部長 金山 國臣  
經理部長(兼) 金山 國臣  
間稅部長 佐藤 一郎  
直稅部長 窪谷 直光  
鑑定部長 渡會 六治  
釀造試驗所(瀧野川區瀧野川町)  
所長主稅局長 山田 龍雄  
庶務課長 濱田 徳海  
事業課長 黒野 勘六  
關稅訴訟審査委員會

會長大藏次官 川越 丈雄  
○國有財産調査會  
會長大藏大臣 馬場 鐵一  
○預金部資金運用委員會  
會長大藏大臣 馬場 鐵一  
○中央諸官衙建築準備委員會  
會長大藏大臣 馬場 鐵一  
○關稅調查委員會  
會長大藏大臣 馬場 鐵一  
○特別融通審查會  
會長 日本銀行總裁 深井 英五  
○特別融通損失審查會  
會長大藏大臣 馬場 鐵一  
○外國爲替管理委員會  
會長大藏大臣 馬場 鐵一  
○外貨評價委員會  
會長大藏大臣 馬場 鐵一  
○政府貸付金處理委員會  
會長大藏大臣 馬場 鐵一  
元帥府  
陸軍大將 載仁 親王  
海軍大將 博 恭 王  
陸軍大將 守 正 王







職員錄——陸軍省

長 砲大佐 宮崎 瓊藏
△大阪陸軍兵器支廠
長 砲大佐 宇治田 昇造
△岡山陸軍兵器支廠
長 砲中佐 三宅 長盛
△廣島陸軍兵器支廠
長 砲大佐 宇和川 正夫
△小倉陸軍兵器支廠
長 砲大佐 高橋 政藏
△陸軍航空本部(麹町區隼町)
長 中將 古莊 幹郎
總務部長 少將 牧野 正迪
第一課長 少將 安藤 三郎
第二課長 航中佐 高橋 常吉
第一部長 航大佐 木下 敏
第二部長 少將 中川 泰輔
監督官 航大佐 倉片 深
同 航大佐 栗山 新太郎
同 航大佐 山田 靜吉
△陸軍航空技術研究所(東京府北多摩郡立川町)
長 少將 伊藤 周次郎
△陸軍航空本廠(麹町區隼町)
長 少將 香積 見弼

總務課長 航中佐 牧野 演
會計課長 一主正 石毛 長藏
△立川陸軍航空支廠(北多摩郡立川町)
長 航大佐 佐藤 進
△各務原陸軍航空支廠(岐阜縣稻葉郡蘇原村)
長 航大佐 鈴木 竹德
△平壤陸軍航空支廠(朝鮮平壤)
長 航中佐 寺元 志雄
△所澤陸軍飛行學校(埼玉縣入間郡所澤町)
長 中將 江橋 英次郎
幹事 少將 井下 忠助
△下志津陸軍飛行學校(千葉縣千葉郡都村)
長 中將 春田 隆四郎
幹事 航大佐 增野 周萬
△明野陸軍飛行學校(三重縣度會郡北濱村)
長 少將 若竹 又男
幹事 少將 藤田 明
△濱松陸軍飛行學校(靜岡縣濱名郡神久呂村)
長 少將 佐野 光信

幹事 少將 岩下 新太郎
△陸軍航空技術學校(埼玉縣入間郡所澤町)
長 少將 辻 邦助
幹事 航大佐 佐藤 覺一
△陸軍技術本部(淀橋區百人町四丁目)
長 中將 久村 種樹
總務部長 少將 土橋 一
第一部長 少將 小須田 勝造
第二部長 少將 内田 莊一
第三部長 少將 大塚 信照
△陸軍科學研究所(淀橋區百人町四丁目)
長 中將 多田 禮吉
第一部長 少將 尾藤 加勢士
第二部長 少將 安達 十九
△陸軍工科學校(小石川區小石川町)
長 少將 伊藤 義雄
幹事 砲大佐 和田 盈
教授部長 砲大佐 和田 盈
生徒隊長 砲少佐 諏訪部 正人
△憲兵司令部(麹町區竹平町)
司令官 中將 中島 今朝
總務部長 憲大佐 菊池 武雄

警務部長 憲大佐 城倉 義衛
△憲兵練習所(麹町區丸の内一丁目)
長 憲大佐 曾野 芳彦
△東京憲兵隊(麹町區竹平町)
長 憲大佐 坂本 俊馬
△橫濱憲兵隊(橫濱市中區)
長 憲大佐 須藤 祐
△仙臺憲兵隊(仙臺市)
長 憲中佐 柚岡 靜太
△名古屋憲兵隊(名古屋市中區西區)
長 憲中佐 梶 榮次郎
△大阪憲兵隊(大阪市東區)
長 憲大佐 沼川 佐吉
△廣島憲兵隊(廣島市)
長 憲中佐 三浦 三郎
△熊本憲兵隊(熊本市)
長 憲少佐 田原 靖藏
△旭川憲兵隊(旭川市)
長 憲中佐 森本 五郎
△弘前憲兵隊(弘前市)
長 憲中佐 增岡 賢七
△金澤憲兵隊(金澤市)
長 憲中佐 菊池 陽三
△姫路憲兵隊(姫路市)

職員錄——參謀本部

長 憲中佐 佐々木 文雄
△善通寺憲兵隊(香川縣仲多度郡善通寺町)
長 憲中佐 五十嵐 翠
△久留米憲兵隊(久留米市)
長 憲中佐 平野 豐次
△宇都宮憲兵隊(宇都宮市)
長 憲少佐 廣田 充雄
△京都憲兵隊(京都市伏見區)
長 憲大佐 森 健太郎
△臺灣憲兵隊(臺北市)
長 憲中佐 大木 繁
△朝鮮憲兵司令部(京城府)
司令官 憲大佐 二宮 晋一
△京城憲兵隊(京城府)
長 憲中佐 城倉 義衛
△大邱憲兵隊(大邱府)
長 憲中佐 村野 直弘
△平壤憲兵隊(平壤府)
長 憲中佐 植原 春三
△咸興憲兵隊(咸興府)
長 憲中佐 金谷 鏡一
△羅南憲兵隊(咸鏡北道羅南)
長 憲中佐 石田 乙五郎
△軍馬補充部本部(赤坂區青

山南)
長 中將 中山 蕃
本部附 少將 遊佐 幸平
△川上支部(北海道川上郡標茶村)
長 騎中佐 栗田 貞三
△釧路支部(北海道白糠郡白糠村)
長 騎中佐 中本 源太郎
△十勝支部(北海道中川郡木別町)
長 騎中佐 小谷 一雄
△本木支部(青森縣上北郡三本木町)
長 騎大佐 岡村 親秀
△白河支部(福島縣西白河郡西郷村)
長 騎大佐 田松 信喜
△高鍋支部(宮崎縣兒湯郡上江村)
長 騎中佐 川崎 貫一郎
△雄基支部(朝鮮咸鏡北道雄基邑)
長 騎中佐 淺岡 精一
△陸軍築城部本部(麹町區代官町)

少將 佐竹 保太郎
△對馬支部(長崎縣下縣郡嚴原町)
長 工中佐 小野 一麻呂
△壹岐支部(長崎縣壹岐郡武生水町)
長 工中佐 落合 鎮彦
△陸軍運輸部(廣島市宇品町)
長 中將 松田 卷平
△陸軍經理學校(牛込區若松町)
長 主計監 石川 半三郎
△陸軍軍醫學校(牛込區戸山町)
長 軍醫監 寺師 義信
△陸軍軍醫監 三木 良英
△陸軍獸醫學校(世田谷區下代田町)
長 獸醫監 藤井 一
幹事 一獸正 町山 博多
△千住製絨所(荒川區南千住町)
所長(心得) 一主正 鹿野 澄
作業課長 一主正 青山 彦九郎
庶務課長(兼) 一主正 菅野 直敏
會計課長 海老澤 柳英

製造課長 技師 依田 誠
△陸軍糧秣本廠(深川區越中島町)
長 主計監 二瓶 貞夫
△札幌出張所(札幌市雁來町)
長 二主正 澁谷 新作
△大阪陸軍糧秣支廠(大阪府市港區天保町)
長 一主正 富家 泰三
△陸軍被服本廠(王子區赤羽町)
長 主計監 矢部 潤二
△大阪陸軍被服支廠(大阪府市東區)
長 一主正 前川 敬悅
△廣島陸軍被服支廠(廣島市)
長 一主正 高須賀 弘信
△陸軍衛生材料廠(世田谷區玉川用賀町)
長 藥劑監 田口 文太
參謀本部
總長 元帥大將 載仁 親王
次長 中將 西尾 壽造
總務部長 少將 飯田 貞固
第一部長 中將 桑木 崇明
第二部長 少將 渡 久雄



職員錄——教育總監部

第三部長 少將 塚田 攻  
第四部長 少將 下村 定  
課長

步大佐 石原 莞爾  
步大佐 安達 二十三  
步大佐 十川 次郎  
工大佐 大津 和郎  
砲大佐 井 關 似  
步大佐 永津 佐比重  
步大佐 上村 利道  
步大佐 丸山 政男  
步大佐 富永 恭次  
騎大佐 笠原 幸雄  
砲大佐 澄田 謙四郎  
中將 柳川 平助  
中將 鎌田 正信  
大使館及公使館附武官  
中華民國 少將 喜多 誠一  
滿洲國(兼) 少將 今村 均  
波蘭、ルーマニア 少將 澤田 茂  
獨逸 砲大佐 大島 浩  
米國 步大佐 平田 正判  
墨國 砲少佐 濱田 榮一  
英國 步中佐 辰巳 榮一  
伊國 步中佐 有末 精三

佛、白耳義國

砲大佐 菺田 康一  
少將 川俣 雄人  
少將 小野寺 信  
砲中佐 田村 浩  
砲少佐 福地 春男  
砲中佐 磯村 武亮  
騎少佐 加藤 義秀  
騎中佐 廣田 豐  
印度 步大佐 黒田 重徳  
陸軍大學校(赤坂區青山北町) 少將 侯 前田 利爲  
研究部主事 少將 岡部 直三郎  
陸地測量部(麴町區永田町) 少將 栗原 四郎  
三角科長 工大佐 下田 宣力  
地形科長 工中佐 大川 銚介  
製圖科長 工中佐 小野 恭三  
教育總監部 (麴町區代官町) 中將 杉山 元

△本部

長 中將 中村 孝太郎  
庶務課長 步大佐 富永 信政  
第一課長 步大佐 本田 政材  
第二課長 步大佐 七田 一郎  
騎兵監部 中將 連 沼 蕃  
監部附 少將 木下 勇  
砲兵監部 中將 山室 宗武  
監部附 少將 太田 勝海  
工兵監部 中將 松井 命  
監部附 少將 淺川 一衛  
輜重兵監部 少將 今村 基成  
監部附 少將 來島 磯治  
陸軍將校生徒試驗當置委員 委員長(兼) 中將 中村 孝太郎  
陸軍砲工學校(牛込區若松町) 中將 弘岡 好忠  
教授部砲兵科長 少將 馬場 保雄  
同 工兵科長 工大佐 野口 正義  
陸軍步兵學校(千葉縣千葉)

八二二

那都賀村) 長 少將 藤田 進  
幹事 少將 佐伯 清一  
軍犬育成所 長 伊藤 鈴嗣  
陸軍騎兵學校(千葉縣千葉郡二宮町) 少將 稻葉 四郎  
幹事 少將 吉田 惠  
陸軍野戰砲兵學校(千葉縣印旛郡千代田村) 少將 井關 隆昌  
長 少將 岡田 實  
陸軍重砲兵學校(神奈川縣三浦郡浦賀町) 少將 上村 清太郎  
幹事 少將 前田 治  
陸軍工兵學校(千葉縣東葛飾郡戶町) 中將 牛嶋 實常  
幹事 工大佐 横山 正雄  
陸軍通信學校(杉並區馬橋四丁目) 少將 中島 完一  
陸軍戰車學校(假、千葉縣津田沼町習志野借行社)

○陸軍自動車學校(未定)

長 世田谷四丁目) 少將 土橋 一夫  
幹事 輔太佐 田中 清  
陸軍習志野學校(千葉縣千葉郡津田沼町) 少將 谷口 元治郎  
陸軍戸山學校(牛込區戸山町) 少將 三宅 俊雄  
陸軍士官學校(牛込區市谷本村町) 中將 山田 乙三  
幹事 少將 甘粕 重太郎  
東京陸軍幼年學校(牛込區戸山町) 長 步大佐 篠原 次郎  
廣島陸軍幼年學校(廣島縣廣島市) 長 步大佐 百武 晴吉  
仙臺陸軍教導學校(仙臺市) 長 少將 山田 梅次  
豐橋陸軍教導學校(豐橋市) 長 少將 常岡 寛治

○熊本陸軍教導學校(熊本市)

長 少將 濱本 喜三郎  
司令官 中將 岩越 恒一  
參謀長 少將 安井 藤治

東京警備司令部

(麴町區集町) 司令官 中將 岩越 恒一  
參謀長 少將 安井 藤治

東部防衛司令部

(麴町區集町) 司令官(兼) 中將 岩越 恒一  
參謀長(兼) 少將 安井 藤治

近衛師團司令部

(麴町區代官町) 師團長 中將 香月 清司  
參謀長 步大佐 小林 淺三郎  
司令部附 少將 鷺津 鈿平  
兵器部長 砲中佐 濱田 五一  
經理部部長 計監 岩永 勝典  
軍醫部長 軍醫監 山本 順市  
獸醫部長 獸正 渡邊 中  
法務部長 法務官 竹澤 卯一  
近衛步兵第一旅團司令部(麴町區代官町) 旅團長 少將 小松原道太郎

△近衛步兵第一聯隊(麴町區代官町)

聯隊長 步大佐 田中 久一  
△近衛步兵第二聯隊(麴町區代官町) 聯隊長 步大佐 土屋 兵馬  
△近衛步兵第二旅團司令部(赤坂區一ツ木町) 旅團長 少將 秦 雅尙  
△近衛步兵第三聯隊(赤坂區一ツ木町) 聯隊長 步大佐 井上 政吉  
△近衛步兵第四聯隊(赤坂區青山北町) 聯隊長 步大佐 原田 熊吉  
△近衛騎兵聯隊(牛込區戸山町) 聯隊長 步大佐 北原 末三郎  
野戰重砲兵第四旅團司令部(世田谷區三宿町) 旅團長 少將 湯淺 榮次郎  
△近衛野砲兵聯隊(世田谷區下馬町) 聯隊長 砲大佐 河邊 虎四郎  
△野戰重砲兵第四聯隊(千葉縣印旛郡千代田村)

△野戰重砲兵第八聯隊(世田谷區下馬町)

聯隊長 砲大佐 野一 霍  
△高射砲第二聯隊(千葉縣國府臺) 聯隊長 砲大佐 內山 隆道  
△近衛工兵聯隊(王子區袋町) 聯隊長 工大佐 竹內 博介  
△鐵道第一聯隊(千葉縣千葉郡那賀村) 聯隊長 工大佐 根上 清太郎  
△鐵道第二聯隊(千葉縣千葉郡津田沼町) 聯隊長 工大佐 木村 經廣  
△電信第一聯隊(中野區園町) 聯隊長 工大佐 加藤 一勝  
△氣球隊(千葉縣千葉郡那賀村) 隊長 航中佐 田部 聖  
△近衛輜重兵聯隊(目黒區上目黒) 聯隊長 輜大佐 湯原 均一  
△千葉衛戍病院(千葉縣千葉郡那賀村) 長 一軍正 矢田 重信

職員錄——東京警備司令部・東部防衛司令部・近衛師團司令部



職員錄——第一師團司令部

○下志津衛戍病院(千葉縣印旛郡千代田村) 長 一軍正 森島 侃一郎

第一師團司令部

師團長 中將 河村 恭輔 參謀長 步大佐 豐島 房太郎 司令部附 少將 吉住 良輔

司令官步大佐 奈良 良晃 千葉縣隊區司令部(千葉縣千葉郡都賀村) 司令官步大佐 森村 經太郎

赤坂區青山町 司令官步大佐 脇坂 次郎 甲府縣隊區司令部(山梨縣山梨郡相川村) 司令官步大佐 河林 大市

縣印旛郡佐倉町 聯隊長步大佐山口 直人 戰車第二聯隊(千葉縣千葉郡津田沼町) 聯隊長步大佐 今田 俊夫

聯隊長步大佐 佐藤 誠一 騎兵第一聯隊(世田谷區池尻町) 聯隊長騎中佐西原 一策

葉縣市川市 聯隊長砲大佐石井 昌一 野戰重砲兵第七聯隊(千葉縣市川市) 聯隊長砲大佐北島 驥子雄

聯隊長砲大佐 眞本 盛平 工兵第一聯隊(王子區袋町) 聯隊長工大佐 前田 正實

第二師團司令部

師團長 中將 岡村 寧次 參謀長 步大佐 島本 正一 司令部附 少將 沼田 德重

司令官步大佐 佐藤 要 新發田縣隊區司令部(新潟縣縣北蒲原郡新發田町) 司令官步大佐 町田 喜三郎

聯隊長步大佐 藤原 誠一郎 步兵第十六聯隊(新潟縣北蒲原郡新發田町) 聯隊長步大佐後藤 十郎

聯隊長砲中佐堀 三也 工兵第二聯隊(仙臺市) 聯隊長工大佐 伊藤 精

師團長 中將 伊藤 政喜 參謀長 步大佐 樋口 季一郎 司令部附 少將 矢野 好信

法務部長法務官 鈴木 忠純 名古屋縣隊區司令部(名古屋市中區) 司令官步大佐 藤懸 末松

聯隊長步大佐 芳澤 忠男 步兵第二十九旅團司令部(靜岡市) 旅團長 少將 片山 理一郎

職員錄——第二師團司令部・第三師團司令部



職員錄——第四師團司令部

春日井郡守山町) 聯隊長騎大佐泉 名 英
○野戰重砲兵第一旅團司令部
(靜岡縣田方郡三島町)
旅團長 少將 坂西 平八
△野砲兵第三聯隊(名古屋
市西區)
聯隊長砲大佐柳 川 梯
△野戰重砲兵第二聯隊(靜
岡縣三島町)
聯隊長砲中佐木 下 濂
△野戰重砲兵第三聯隊(靜
岡縣三島町)
聯隊長砲大佐高橋 次郎
高射砲第一聯隊(濱松市)
聯隊長砲大佐 渡邊 右文
○工兵第三聯隊(豊橋市)
聯隊長工大佐 後藤 和儀
○輜重兵第三聯隊(名古屋
市西區)
聯隊長輜大佐 武内 俊二郎
○名古屋衛戍病院(名古屋
市西區)
長 一軍正 朝川 猷夫
○豊橋衛戍病院(豊橋市)
長 二軍正 毛利 晃

第四師團司令部

○三島衛戍病院(靜岡縣三島
町)
長 二軍正 佐藤 彌十郎
○岐阜衛戍病院(岐阜縣稻葉
郡北長森村)
長 二軍正 齋藤 順作
○濱松衛戍病院(濱松市)
長 二軍正 安倍 伯彦
○靜岡衛戍病院(靜岡市)
長 二軍正 吉村 文雄
○名古屋衛戍拘禁所(名古屋
市西區)
長 法務官 鈴木 忠純
師團長 中將 今井 清
參謀長 步大佐 飯田 祥二郎
司令官部附 少將 松村 正員
兵器部長砲中佐 山内 保
經理部長一主正 山本 瑛一
軍醫部長軍醫監 大塚 利
獸醫部長獸醫監 柏 五郎
法務部長法務官 松平 英男
○大阪聯隊區司令部(大阪市
東區)

司令官步大佐 上野 龜甫
○神戸聯隊區司令部(神戸市
神戶區)
司令官步大佐 藤井 貫一
○堺聯隊區司令部(堺市)
司令官步大佐 西村 菊五郎
○和歌山聯隊區司令部(和歌
山市)
司令官步大佐 岡本 鎮臣
○由良要塞司令部(兵庫縣由
良町)
司令官 中將 浦 澄江
○步兵第七旅團司令部(大阪
市東區)
旅團長 少將 伊藤 知剛
△步兵第八聯隊(大阪市東區)
聯隊長步大佐秋山 義隆
△步兵第七十聯隊(兵庫縣
多紀郡岡野村)
聯隊長步大佐越生 虎之助
○步兵第三十二旅團司令部
(和歌山市)
旅團長 少將 本間 雅晴
△步兵第三十七聯隊(大阪
市東區)
聯隊長步大佐北野 憲造
司令官步大佐 縫野 幸隆
○沖繩聯隊區司令部(那霸市)
司令官步大佐 古 思 了
○豐豫要塞司令部(大分縣北
海部郡佐賀關町)
司令官 少將 永見 俊德
○奄美大島要塞司令部(鹿兒
島縣大島郡東方村)
司令官步大佐 高橋 省三郎
○步兵第十一旅團司令部(熊
本市)
旅團長 少將 重藤 千秋
△步兵第十三聯隊(熊本市)
聯隊長步大佐岡本 保之
△步兵第四十七聯隊(大分市)
聯隊長步大佐塩田 定市
○步兵第三十六旅團司令部(鹿
兒島縣鹿兒島郡伊敷村)
旅團長 少將 河村 豊
△步兵第二十三聯隊(宮崎
縣北諸縣郡五十市村)
聯隊長步大佐酒 井 隆
△步兵第四十五聯隊(鹿兒
島市)
聯隊長步大佐神田 正種
○騎兵第六聯隊(熊本市)

第五師團司令部

草郡加太町)
長 二軍正 丙羽 錠輔
○大阪衛戍刑務所(大阪市東區)
長 前田 松藏
師團長 中將 林 桂
參謀長 步大佐 西村 利温
兵器部長砲中佐 山口 爲一
經理部長主計監 稻葉 章
軍醫部長軍醫監 齋藤 干城
獸醫部長獸醫監 田村 重慶
法務部長法務官 佐伯 藤三郎
○廣島聯隊區司令部(廣島市)
司令官步大佐 小林 恒一
○福山聯隊區司令部(福山市)
司令官步大佐 山口 一二
○濱田聯隊區司令部(鳥根縣
濱田町)
司令官步大佐 小河原 浦治
○山口聯隊區司令部(山口市)
司令官步大佐 伊藤 保太郎
○步兵第九旅團司令部(廣島市)
旅團長 少將 國崎 登
△步兵第十一聯隊(廣島市)

第五師團司令部

聯隊長步大佐上月 良夫
△步兵第四十一聯隊(福山市)
聯隊長步大佐青木 成一
○步兵第二十一旅團司令部
(山口市)
旅團長 少將 吉本 貞一
△步兵第二十二聯隊(鳥根
縣那賀郡石見村)
聯隊長步大佐栗飯原 秀
△步兵第四十二聯隊(山口市)
聯隊長步大佐天谷 直次郎
○騎兵第五聯隊(廣島市)
聯隊長騎中佐 小堀 是繁
○野砲兵第五聯隊(廣島市)
聯隊長砲大佐 大木 堅造
○工兵第五聯隊(廣島市)
聯隊長工大佐 平岡 龜雄
○電信第二聯隊(廣島市)
聯隊長工大佐 宮島 貞次
○輜重兵第五聯隊(廣島市)
聯隊長輜中佐 原口 眞一
○廣島衛戍病院(廣島市)
長 軍醫監 武内 三千春
○福山衛戍病院(福山市)
長 二軍正 長田 祖村
○濱田衛戍病院(鳥根縣那賀
島市)

第六師團司令部

那石見村)
長 二軍正 竹松 常雄
○山口衛戍病院(山口縣吉敷
郡宮野村)
長 二軍正 小川 昌男
○廣島衛戍拘禁所(廣島市)
長(兼)法務官 佐伯 藤三郎
師團長 中將 谷 壽夫
參謀長 步大佐 横山 勇
司令官部附 少將 三浦 嘉門
兵器部長砲中佐 三輪 鄰夫
經理部長一主正 藤原 明夫
軍醫部長一軍正 根岸 喜代助
獸醫部長獸醫監 立石 朔
法務部長法務官 澤田 巖
○熊本聯隊區司令部(熊本市)
司令官步大佐 横山 鎮明
○大分聯隊區司令部(大分市)
司令官步大佐 和泉 市藏
○都城聯隊區司令部(都城市)
司令官步大佐 納富 五郎
○鹿兒島聯隊區司令部(鹿兒
島市)

職員錄——第五師團司令部・第六師團司令部



聯隊長騎大佐 猪木 近太  
 ○野砲兵第六聯隊(熊本市)  
 聯隊長砲大佐 足立 言三  
 ○工兵第六聯隊(熊本市)  
 聯隊長工大佐 佐藤 隆  
 ○輜重兵第六聯隊(熊本市)  
 聯隊長輜中佐 川真田 國衛  
 ○熊本衛戍病院(熊本市)  
 長 一軍正 南川 義一  
 ○大分衛戍病院(大分市)  
 長 三軍正 古屋 徹  
 ○都城衛戍病院(宮崎縣北諸縣郡五十村)  
 長 二軍正 植田 保衛  
 ○鹿兒島衛戍病院(鹿兒島縣鹿兒島郡伊敷村)  
 長 三軍正 塩加井 勝  
 ○熊本衛戍拘禁所(熊本市)  
 長(兼)法務官 澤田 巖

第七師團司令部

經理部長一主正 倉本 力雄  
 軍醫部長一軍正 桃井 直幹  
 獸醫部長一獸正 蟻川 隆敬  
 法務部長法務官 矢嶋 昌良  
 ○札幌聯隊區司令部(札幌市)  
 司令官步大佐 内山 和二郎  
 ○函館聯隊區司令部(函館市)  
 司令官步大佐 松尾 英一  
 ○釧路聯隊區司令部(釧路市)  
 司令官步大佐 横田 豊造  
 ○旭川聯隊區司令部(旭川市)  
 司令官步大佐 中山 惇  
 ○津輕要塞司令部(函館市)  
 司令官 少將 廣野 太吉  
 ○步兵第十三旅團司令部(旭川市)  
 旅團長 少將 秋山 充三郎  
 ○步兵第二十五聯隊(札幌郡豐平町)  
 聯隊長步大佐片山 省太郎  
 ○步兵第二十六聯隊(旭川市)  
 聯隊長步大佐森本 伸樹  
 ○步兵第十四旅團司令部(旭川市)  
 旅團長 少將 中井 良太郎  
 ○步兵第二十七聯隊(旭川市)  
 旅團長 少將 廣野 太吉

第八師團司令部

聯隊長步大佐根本 博  
 △步兵第二十八聯隊(旭川市)  
 聯隊長步大佐春見 恭平  
 ○騎兵第七聯隊(旭川市)  
 聯隊長騎中佐 栗林 忠道  
 ○野砲兵第七聯隊(旭川市)  
 聯隊長砲大佐 村岡 豊  
 ○函館重砲兵聯隊(函館市)  
 聯隊長砲中佐 島貫 嘉昌  
 ○工兵第七聯隊(旭川市)  
 聯隊長工大佐 河田 末三郎  
 ○輜重兵第七聯隊(旭川市)  
 聯隊長輜中佐 落合 忠吉  
 ○旭川衛戍病院(旭川市)  
 長 一軍正 平野 郷治郎  
 ○札幌衛戍病院(北海道札幌郡豐平町)  
 長 二軍正 海老原 正順  
 ○旭川衛戍拘禁所(旭川市)  
 長(兼)法務官 矢嶋 昌良

第九師團司令部

經理部長一主正 眞鍋 實  
 軍醫部長一軍正 佐藤 林太郎  
 獸醫部長二獸正 松原 茂平  
 法務部長法務官 衣川 莊雄  
 ○青森聯隊區司令部(青森縣東津輕郡筒井村)  
 司令官步大佐 鈴木 重義  
 ○盛岡聯隊區司令部(盛岡市)  
 司令官步大佐 摺澤 茂村  
 ○秋田聯隊區司令部(秋田市)  
 司令官步大佐 尾崎 義春  
 ○山形聯隊區司令部(山形市)  
 司令官步大佐 小原 禮藏  
 ○步兵第四旅團司令部(弘前市)  
 旅團長 少將 森本 義一  
 △步兵第五聯隊(青森縣東津輕郡筒井村)  
 聯隊長步大佐井上 貞衛  
 ○步兵第三十一聯隊(青森縣中津輕郡千年村)  
 聯隊長步大佐西原 貫治  
 ○步兵第十六旅團司令部(秋田市)  
 旅團長 少將 中野 直三  
 △步兵第十七聯隊(秋田市)  
 聯隊長步大佐奥 龜之助

△步兵第三十二聯隊(山形市)  
 聯隊長步大佐阿部 規秀  
 ○騎兵第八聯隊(青森縣中津輕郡堀越村)  
 聯隊長騎中佐 村上 亮  
 ○野砲兵第八聯隊(弘前市)  
 聯隊長砲大佐 牛田 義彦  
 ○工兵第八聯隊(岩手縣岩手郡厨川村)  
 聯隊長工大佐 高橋 通孝  
 ○輜重兵第八聯隊(青森縣中津輕郡清水村)  
 聯隊長輜大佐 奥村 恭平  
 ○弘前衛戍病院(弘前市)  
 長 一軍正 池山 清  
 ○盛岡衛戍病院(岩手縣岩手郡厨川村)  
 長 二軍正 菱木 重嗣  
 ○青森衛戍病院(青森縣東津輕郡筒井村)  
 長 二軍正 橋本 謙吉  
 ○秋田衛戍病院(秋田市)  
 長 二軍正 仁戸田 秀一  
 ○山形衛戍病院(山形市)  
 長 三軍正 金光 三郎  
 ○弘前衛戍拘禁所(弘前市)

第九師團司令部

長(兼)法務官 衣川 莊藏  
 經理部長一主正 杉本 理太郎  
 軍醫部長一軍正 尾崎 文七郎  
 獸醫部長一獸正 增尾 巖  
 法務部長法務官 根本 莊太郎  
 ○金澤聯隊區司令部(金澤市)  
 司令官步大佐 伊佐 一男  
 ○富山聯隊區司令部(富山市)  
 司令官步大佐 小川 喜一  
 ○敦賀聯隊區司令部(福井縣敦賀郡栗野村)  
 司令官步大佐 杉本 理太郎  
 ○福井聯隊區司令部(福井市)  
 司令官步大佐 大野 宣明  
 ○步兵第六旅團司令部(金澤市)  
 旅團長 少將 小見山 恭造  
 △步兵第七聯隊(金澤市)  
 聯隊長步大佐青木 重藏  
 △步兵第三十五聯隊(富山市)

第十師團司令部

長 二軍正 小塚 一郎  
 ○金澤衛戍拘禁所(金澤市)  
 長(兼)法務官 根本 莊太郎  
 經理部長一主正 秋澤 三宅 二  
 軍醫部長一軍正 三宅 二  
 獸醫部長二獸正 芝 貞二  
 法務部長法務官 伊藤 章信  
 ○姫路聯隊區司令部(姫路市)  
 司令官步大佐 奥村 勳  
 ○鳥取聯隊區司令部(鳥取市)  
 司令官步大佐 森脇 治三郎  
 ○岡山聯隊區司令部(岡山市)  
 司令官步大佐 遠山 春山  
 ○松江聯隊區司令部(島根縣八束郡津田村)  
 司令官步大佐 笠原 武雄  
 ○步兵第八旅團司令部(姫路市)  
 旅團長 少將 長瀬 武平  
 △步兵第三十九聯隊(姫路市)



職員錄——第十一師團司令部

- 聯隊長步大佐小玉 與一
- △步兵第四十聯隊(鳥取縣 岩美郡宇倍野村)
- 聯隊長步大佐長野 義雄
- 步兵第三十三旅團司令部 (岡山市)
- 旅團長 少將 田嶋 榮次郎
- △步兵第十聯隊(岡山市)
- 聯隊長步大佐上野 勘一郎
- △步兵第六十三聯隊(鳥根 縣八束郡津田村)
- 聯隊長步大佐中井 重義
- 騎兵第十聯隊(姫路市)
- 聯隊長騎中佐 恒 憲 王
- 野砲兵第十聯隊(姫路市)
- 聯隊長砲大佐 重田 德松
- 工兵第十聯隊(岡山市)
- 聯隊長工中佐 須磨 學之
- 輜重兵第十聯隊(姫路市)
- 聯隊長輜大佐 前野 四郎
- 陸軍教化隊(姫路市)
- 隊長 步中佐 小川 全勝
- 姫路衛戍病院(姫路市)
- 長 一軍正 富家 光雄
- 鳥取衛戍病院(鳥取縣岩美 郡宇倍野村)

- 長 二軍正 島 豐喜
- 岡山衛戍病院(岡山市)
- 長 一軍正 岸本 宗治郎
- 松江衛戍病院(鳥根縣八束 郡乃木村)
- 長 三軍正 島海 保一
- 姫路衛戍拘禁所(姫路市)
- 長(兼)法務官 林田 清春

第十一師團司令部

- 步兵第十旅團司令部(香川 縣善通寺町)
- 旅團長 少將 小林 角太郎
- △步兵第十二聯隊(丸龜市)
- 聯隊長 步大佐本郷 義夫
- △步兵第二十二聯隊(松山市)
- 聯隊長 步大佐田 北 惟
- 步兵第二十二旅團司令部 (德島縣名東郡加茂名村)
- 旅團長 少將 舞 傳男
- △步兵第四十三聯隊(德島 縣名東郡加茂名村)
- 聯隊長 步大佐淺間 義雄
- △步兵第四十四聯隊(高知 縣土佐郡朝倉村)
- 聯隊長 步大佐大迫 通貞
- 騎兵第十一聯隊(香川縣善 通寺町)
- 聯隊長騎大佐 田 邊 勇
- 山砲兵第十一聯隊(香川縣 善通寺町)
- 聯隊長砲大佐 石川 方義
- 工兵第十一聯隊(香川縣善 通寺町)
- 聯隊長工大佐 山 內 章
- 輜重兵第十一聯隊(香川縣 善通寺町)
- 聯隊長砲中佐 遠藤 三郎
- △野戰重砲兵第六聯隊(福 岡縣企救町)
- 聯隊長砲中佐 藤 三郎
- 下關重砲兵聯隊(下關市)
- 聯隊長砲大佐 山村 新
- 佐世保重砲兵大隊(佐世保市)
- 大隊長砲中佐 松本 正直
- 鷗知重砲兵大隊(長崎縣下 縣郡鷗知村)
- 大隊長砲中佐 瀧 弘 忠
- 高射砲第四聯隊(佐賀市)
- 聯隊長
- 工兵第十八聯隊(福岡縣三 井郡御井町)
- 聯隊長工大佐 服部 曉太郎
- 輜重兵第十八聯隊(久留米 市)
- 聯隊長輜中佐 鹽川 靜
- 久留米衛戍病院(久留米市)
- 長 一軍正 衛 藤 恰
- 小倉衛戍病院(福岡縣企救町)
- 長 一軍正 西村 福太郎
- 大村衛戍病院(長崎縣東彼 野郡企救町)

第十二師團司令部

- 善通寺町)
- 聯隊長輜大佐 森永 武雄
- 善通寺衛戍病院(香川縣善 通寺町)
- 長 一軍正 宮城 篤珍
- 松山衛戍病院(松山市)
- 長 三軍正 本多 隆元
- 德島衛戍病院(德島縣名東 郡加茂町)
- 長 二軍正 荒井 靜
- 高知衛戍病院(高知縣土佐 郡朝倉村)
- 長 二軍正 上 牧 猛
- 善通寺衛戍拘禁所(香川縣 善通寺町)
- 長(兼)法務官 三好 次太郎

職員錄——第十二師團司令部

- 法務部長法務官 金子 英
- 小倉聯隊區司令部(小倉市)
- 司令官 步大佐 高場 損藏
- 福岡聯隊區司令部(福岡市)
- 司令官 步大佐 荻原 正秀
- 大村聯隊區司令部(長崎縣 大村町)
- 司令官 步大佐 猪鹿倉 徹郎
- 久留米聯隊區司令部(久留 米市)
- 司令官 步大佐 笠 繁 善
- 下關要塞司令部(下關市)
- 司令官 中將 松村 修己
- 對馬要塞司令部(長崎縣下 縣郡鷗知村)
- 司令官 少將 大久保 雄賢
- 長崎要塞司令部(長崎市)
- 司令官 少將 志 岐 豐
- 壹岐要塞司令部(長崎縣武 生水町)
- 司令官 步大佐 福島 和吉郎
- 步兵第十二旅團司令部(福 岡市)
- 旅團長 少將 羽守 清一郎
- △步兵第十四聯隊(福岡縣 企救町)

- 聯隊長 步大佐鈴木 貞一
- △步兵第二十四聯隊(福岡市)
- 聯隊長 步大佐中村 明人
- 步兵第二十四旅團司令部 (久留米市)
- 旅團長 少將 酒井 篤次
- △步兵第四十六聯隊(長崎 縣東彼野郡西大村)
- 聯隊長 步大佐田 尻 利雄
- △步兵第四十八聯隊(久留 米市)
- 聯隊長 步大佐飯塚 慶之助
- 戰車第一聯隊(福岡縣三井 郡高良內村)
- 聯隊長 步大佐 山地 坦
- 騎兵第十二聯隊(久留米市)
- 聯隊長 騎大佐 小畑 英良
- 野戰重砲兵第二旅團司令部 (小倉市)
- 旅團長 少將 木本 益雄
- △野砲兵第二十四聯隊(久 留米市)
- 聯隊長 砲中佐 山本 務
- △獨立山砲兵第三聯隊(久 留米市)
- 聯隊長 砲中佐 野木 正雄

- △野戰重砲兵第五聯隊(福 岡縣企救町)
- 聯隊長 砲中佐 遠藤 三郎
- △野戰重砲兵第六聯隊(福 岡縣企救町)
- 聯隊長 砲中佐 松 下 金雄
- 下關重砲兵聯隊(下關市)
- 聯隊長 砲大佐 山村 新
- 佐世保重砲兵大隊(佐世保市)
- 大隊長 砲中佐 松本 正直
- 鷗知重砲兵大隊(長崎縣下 縣郡鷗知村)
- 大隊長 砲中佐 瀧 弘 忠
- 高射砲第四聯隊(佐賀市)
- 聯隊長
- 工兵第十八聯隊(福岡縣三 井郡御井町)
- 聯隊長 工大佐 服部 曉太郎
- 輜重兵第十八聯隊(久留米 市)
- 聯隊長 輜中佐 鹽川 靜
- 久留米衛戍病院(久留米市)
- 長 一軍正 衛 藤 恰
- 小倉衛戍病院(福岡縣企救町)
- 長 一軍正 西村 福太郎
- 大村衛戍病院(長崎縣東彼 野郡企救町)

第十四師團司令部

- 柗木縣河內郡國本村)
- 師團長 中將 末松 茂治
- 參謀長 步大佐 渡邊 正夫
- 司令官 附 少將 上野 良 燾
- 兵器部長砲大佐 貴鳥 次郎
- 經理部長一軍正 古川 武次
- 軍醫部長軍醫監 押火 權太郎
- 獸醫部長一獸正 武富 三郎
- 法務部長法務官 塚本 浩次
- 水戶聯隊區司令部(水戶市)
- 柗郡西大村)
- 長 二軍正 遠藤 子之吉
- 福岡衛戍病院(福岡市)
- 長 二軍正 戶渡 庸二郎
- 下關衛戍病院(下關市)
- 長 二軍正 奥村 尙輔
- 鷗知衛戍病院(長崎縣下縣 郡鷗知村)
- 長 二軍正 飛田 德壽
- 小倉衛戍刑務所(福岡縣企 救町)
- 長 黑水 壽一郎
- 久留米衛戍拘禁所(久留米市)
- 長(兼)法務官 高橋 和夫



職員錄——第十四師團司令部・第十六師團司令部

司令官 步大佐 關 誠一
宇都宮聯隊區司令部(宇都宮市)
司令官 步大佐 板津 直純
高崎聯隊區司令部(高崎市)
司令官 步大佐 横山 貞植
松本聯隊區司令部(松本市)
司令官 步大佐 齋藤 一郎
步兵第二十七旅團司令部(栃木縣河内郡國本村)
旅團長 少將 齋藤 余惣
步兵第二聯隊(茨城縣東茨城郡渡里村)
旅團長 步大佐 石黒 貞藏
步兵第五十九聯隊(栃木縣河内郡國本村)
旅團長 步大佐 李 王 垠
步兵第二十八旅團司令部(高崎市)
旅團長 少將 齋藤 彌平太
步兵第十五聯隊(高崎市)
旅團長 步大佐 森田 範正
步兵第五十聯隊(松本市)
旅團長 步大佐 田端 八十吉
騎兵第十八聯隊(栃木縣河内郡國本村)

聯隊長 騎中佐 中山 保留
野砲兵第二十聯隊(栃木縣河内郡津川村)
聯隊長 砲中佐 佐野 忠義
工兵第十四聯隊(水戸市)
聯隊長 工大佐 岩倉 卯門
輜重兵第十四聯隊(栃木縣河内郡國本村)
聯隊長 騎大佐 増野 忠馬
宇都宮衛戍病院(栃木縣河内郡國本村)
長 一軍正 奥 友健
水戸衛戍病院(茨城縣東茨城郡渡里村)
長 二軍正 柴山 義雄
高崎衛戍病院(高崎市)
長 三軍正 田村 義久
松本衛戍病院(松本市)
長 二軍正 三村 英梧
宇都宮衛戍拘禁所(栃木縣河内郡國本村)
長(兼) 法務官 塚本 浩次

參謀長 步大佐 平林 盛人
兵器部長 砲中佐 生田 重勝
經理部長 一軍正 石田 壽男
軍醫部長 一軍正 根岸 喜代助
獸醫部長 一軍正 小野 紀道
法務部長 法務官 山上 宗治
○京都聯隊區司令部(京都市伏見區)
司令官 步大佐 石井 嘉藏
○福知山聯隊區司令部(京都市府知山町)
司令官 大佐 若松 平治
津聯隊區司令部(津市)
司令官 步大佐 福島 成
○奈良聯隊區司令部(奈良市高畑町)
司令官 步大佐 今井 文二
○舞鶴要塞司令部(京都府加佐郡餘內村)
司令官 少將 中尾 忠彦
○步兵第十九旅團司令部(京都市伏見區)
旅團長 少將 藤井 洋治
○步兵第九聯隊(京都市伏見區)
聯隊長 步大佐 兼久 幸一

△步兵第二十聯隊(京都市府知山町)
聯隊長 步大佐 土橋 勇逸
○步兵第三十旅團司令部(三重縣一志郡久居町)
旅團長 少將 淺野 嘉
△步兵第三十三聯隊(三重縣一志郡久居町)
聯隊長 步大佐 野田 謙吉
△步兵第三十八聯隊(奈良市)
聯隊長 步大佐 田路 朝
○騎兵第二十聯隊(京都市伏見區)
聯隊長 騎中佐 笠井 敏松
○野砲兵第二十二聯隊(京都市伏見區)
聯隊長 砲中佐 畑 勇三郎
○舞鶴重砲兵聯隊(京都府加佐郡餘內村)
聯隊長 砲中佐 山崎 清次
○高射砲第三聯隊(大津市)
聯隊長
○工兵第十六聯隊(京都市伏見區)
聯隊長 工中佐 今中 武義
○輜重兵第十六聯隊(京都市伏見區)

第十九師團司令部

伏見區
聯隊長 騎大佐 柄澤 畔夫
○京都衛戍病院(京都市伏見區)
長 一軍正 安藤 快平
○福知山衛戍病院(京都市府知山町)
長 二軍正 松室 守義
津衛戍病院(三重縣一志郡久居町)
長 二軍正 大西 吉太郎
○奈良衛戍病院(奈良市)
長 二軍正 矢野 義德
○京都衛戍拘禁所
長(兼) 法務官 山上 宗治

(成興府)
旅團長 少將 加藤 豐壽
△步兵第七十三聯隊(成鏡北道羅南)
聯隊長 步大佐 清水 規矩
△步兵第七十四聯隊(成興府)
聯隊長 步大佐 今泉 吉貞
○步兵第三十八旅團司令部(成鏡北道羅南)
旅團長 少將 田中 清一
△步兵第七十五聯隊(成鏡北道羅南)
聯隊長 步大佐 高 良 弼
○騎兵第二十七聯隊(成鏡北道羅南)
聯隊長 騎中佐 片桐 茂
○山砲兵第二十五聯隊(成鏡北道羅南)
聯隊長 砲中佐 大妻 茂澄
○高射砲第五聯隊
長
○工兵第十九聯隊(成鏡北道會寧)

聯隊長 工中佐 藤澤 一孝
○羅南衛戍病院(成鏡北道羅南)
長 一軍正 大島 敬三
○成興衛戍病院(成興府)
長 二軍正 平野 郷治郎
○會寧衛戍病院(成鏡北道會寧)
長 二軍正 吉川 秀行
○步兵第三十九旅團司令部(平壤府)
旅團長 少將 高木 義人
△步兵第七十七聯隊(平壤府)
聯隊長 步大佐 鯉 登 行一
△步兵第七十八聯隊(京城府龍山)
聯隊長 步大佐 南雲 親一郎
○步兵第四十旅團司令部(京城府龍山)

城府龍山)
旅團長 少將 山下 奉文
△步兵第七十九聯隊(京城府龍山)
聯隊長 步大佐 野村 登龜江
△步兵第八十聯隊(大邱府)
聯隊長 步大佐 岡 田 資
○騎兵第二十八聯隊(京城府龍山)
聯隊長 騎中佐 岡崎 正一
○野砲兵第二十六聯隊(京城府龍山)
聯隊長 砲中佐 細川 忠康
○馬山重砲兵聯隊(馬山府)
聯隊長 砲中佐 堀川 清省
○高射砲第六聯隊(平壤府)
聯隊長 砲中佐 中富 秀夫
○工兵第二十六聯隊(京城府龍山)
聯隊長 工中佐 加藤 弘太
○龍山衛戍病院(京都府龍山)
長 一軍正 菊地 幸平
○平壤衛戍病院(平壤府)
長 二軍正 奥山 正雄
○大邱衛戍病院(大邱府)
長 二軍正 宇野 光風

職員錄——第十九師團司令部・第二十師團司令部



航空兵團

- 航空兵團司令部(魏町區車町)
  - 長 中將 德川 好敏
- 第一飛行團(岐阜縣稻葉郡那加村)
  - 少將 儀峨 徹二
- 飛行第一聯隊(岐阜縣稻葉郡那加村)
  - 長 航大佐 瀬戸 俊二
- 飛行第二聯隊(岐阜縣稻葉郡那加村)
  - 長 航大佐 栗山 新太郎
- 飛行第七聯隊(靜岡縣濱名郡曳馬村)
  - 長 航大佐 島田 隆一
- 第二飛行團(成鏡北道會寧)
  - 少將 木下 敏
- 飛行第六聯隊(平安南道大同江面)
  - 長 航大佐 中富 秀夫
- 飛行第九聯隊(成鏡北道會寧)
  - 長 航大佐 河原 利明
- △飛行第五聯隊(東京府北

朝鮮軍司令部

- 多摩郡立川町)
    - 長 航大佐 柴田 信一
  - △飛行第四聯隊(福岡縣三井郡太刀洗村)
    - 長 航大佐 佐々木 誠
  - △飛行第三聯隊(滋賀縣神崎郡御園村)
    - 長 航大佐 東 榮治
- (京城府漢江通)
- 司令官 中將 小磯 國昭
  - 參謀長 少將 佐枝 義重
  - 經理部長一主正 大内 球三郎
  - 軍醫部長軍總監 小池 正晃
  - 獸醫部長一獸正 吉村 市郎
  - 法務部長法務官 岡村 峻兒
  - 鎮海要塞司令部(慶尙南道鎮海邑)
    - 司令官砲大佐 石原 常太郎
    - 永興灣要塞司令部(元山府)
      - 司令官砲大佐 砂川 泰
    - 羅津要塞司令部(成鏡北道慶興郡羅津邑)
      - 司令官砲大佐 米岡 米吉
    - 朝鮮陸軍倉庫(京城府漢江

臺灣軍司令部

- 通)
    - 長 一主正 武藤 忠安
  - 朝鮮衛戍刑務所(京城府龍山)
    - 長(兼)法務官 岡村 峻兒
- (臺北市)
- 司令官 中將 畑 俊六
  - 參謀長 少將 荻洲 立兵
  - 兵器部長砲大佐 松井 光太郎
  - 經理部長一主正 山本 昇
  - 軍醫部長軍總監 高木 小三郎
  - 獸醫部長二獸正 近江 小太郎
  - 法務部長法務官 松本 俊文雄
  - 基隆要塞司令部(基隆市)
    - 司令官 大佐 眞崎 信夫
  - 澎湖島要塞司令部(澎湖廳馬公街)
    - 司令官 少將 兼松 成器
  - 臺灣守備隊司令部(臺北市)
    - 司令官 中將 岩松 義雄
  - △臺灣步兵第一聯隊(臺北市)
    - 隊長長步大佐 桑名 卓男
  - △臺灣步兵第二聯隊(臺南市)
    - 隊長長步大佐 高橋 良

關東軍

- 臺灣山砲兵聯隊(臺北市)
    - 隊長長砲中佐 中島 要吉
  - 基隆重砲兵聯隊(基隆市)
    - 隊長長砲中佐 佐々木 博
  - 馬公重砲兵聯隊(澎湖廳馬公街)
    - 隊長長砲大佐 橫井 爲男
  - 飛行第八聯隊(屏東市)
    - 隊長長航大佐 下重 長四郎
  - 臺北衛戍病院(臺北市)
    - 長 一軍正 吉野 三郎
  - 臺南衛戍病院(臺南市)
    - 長 一軍正 中野 織治
  - 屏東衛戍病院
    - 長 三軍正 新田 太郎
  - 基隆衛戍病院(基隆市)
    - 長 三軍正 明渡 侃治
  - 澎湖島衛戍病院(澎湖廳馬公街)
    - 長 三軍正 永松 三男
  - 臺北衛戍刑務所(臺北市)
    - 長(兼)法務官 松本 俊文雄
- 司令官 大將 植田 謙吉
- 參謀長 中將 板垣 征四郎

支那駐屯軍司令部

- (天津)
- 參謀副長 少將 今村 均
  - 兵器部長 少將 和泉 勸次郎
  - 經理部長主計監 鈴木 熊太郎
  - 軍醫部長軍醫監 出井 淳三
  - 獸醫部長獸醫監 岡崎 武八郎
  - 法務部長法務官 菊地 庸吉
  - 旅順要塞司令部(旅順市)
    - 司令官 中將 周山 滿藏
  - 旅順重砲兵聯隊(旅順市)
    - 隊長長砲大佐 森田 廣
  - 關東衛戍刑務所(旅順市)
    - 長 井上 五七郎

- 大臣 大將 永野 修身
- 次官 中將 長谷川 清
- 參謀官 永田 善三郎
- 大臣官房
  - 副官 大佐 田結 讓
  - 同 中佐 柳澤 藏之助
  - 秘書官(兼)
    - 少佐 吉井 道教
    - 少佐 杉永 敬介
  - 同(兼) 少佐 島 峯次
  - 海軍文庫主管(兼)
    - 中佐 宇垣 完爾
- 軍務局
  - 長 少將 豐田 副武
  - 第一課長大佐 保科 善四郎
  - 第二課長大佐 太田 泰治
  - 第三課長 機大佐 森田 貫一
- 人事局
  - 長 少將 小林 宗之助
  - 第一課長大佐 德永 榮
  - 第二課長大佐 多田 武雄
  - 教育局
    - 長 少將 住山 德太郎
    - 第一課長大佐 高木 武雄
    - 第二課長大佐 丸茂 邦則

- 第三課長 機大佐 小畑 愛喜
- 軍需局
  - 長 中將 上田 宗重
  - 第一課長大佐 脇 鼎
  - 第二課長 機大佐 細谷 信三郎
  - 第三課長 主大佐 南里 昌治
- 醫務局
  - 長 中將 高杉 新一郎
- 經理局
  - 長 主中將 村上 春一
  - 第一課長 主大佐 山本 丑之助
  - 第二課長 主大佐 橫尾 石夫
  - 第三課長 主大佐 鈴木 亨
- 建築局
  - 長 技師 吉田 直
- 法務局
  - 長 法務官 潮見 茂樹
- 海軍將官會議
  - 議員(兼) 元帥大將 博 恭 王

- 同(兼) 中將 米内 光政
- 同 中將 長谷川 清
- 同(兼) 中將 豐田 副武
- 海軍艦政本部(海軍省構内)
  - 長(兼) 中將 百武 源吾
  - 總務部長少將 澤本 頼雄
  - 同第一課長 大佐 原 清
  - 同第二課長 大佐 山本 弘毅
  - 同第三課長 大佐 柴田 彌一郎
  - 同第四課長 機大佐 石井 常次郎
  - 會計部長 主少將 荒木 彦彌
  - 第一部長 造兵少將 谷村 豐太郎
  - 第二部長少將 砂川 兼雄
  - 第三部長少將 平岡 礪
  - 第四部長 造船中將 山本 幹之助
  - 第五部長少將 吉成 宗雄
  - 第六部長少將 熊岡 讓
  - 出仕 少將 下村 暢
  - 同 造船少將 河東 卓四郎

海軍省

(魏町區霞ヶ關)

職員錄——支那駐屯軍司令部・海軍省



職員錄——海軍省・軍令部

同 造船少將 橋口 保孝  
同 造兵少將 松岡 俊躬  
○海軍技術研究所(目黒區三田)  
長 少將 氏家 長明  
理學研究部長 少將 林田 恒雄  
化學研究部長 大佐 甘利 恒雄  
電氣研究部長 大佐 向山 均  
造船研究部長 大佐 鈴木 恪司  
造船少將 寺田 祐次  
庶務課長 大佐 紺野 逸彌  
會計課長 主大佐 小金井 良一  
○海軍火藥廠  
長 造兵少將 山家 信次  
火藥部長 造兵少將 松岡 俊躬  
爆藥部長少將 川瀬 義重  
研究部長技師 荒木 久吉  
醫務部長 醫大佐 竹雅 進平  
會計部長 醫大佐 竹雅 進平

主大佐 桑原 憲  
○海軍航空本部(海軍省構内)  
長 中將 山本 五十六  
總務部長大佐 塚原 二四三  
第一課長 大佐 草鹿 龍之助  
第二課長 主大佐 西野 定一  
第三課長 大西 瀧治郎  
技術部長少將 原 五郎  
○水路部(京橋區築地五丁目)  
長 少將 大田垣富三郎  
第一課長大佐 下坊 定吉  
第二課長大佐 栗林 今朝吉  
第三課長中佐 草川 淳  
第四課長技師 小倉 伸吉  
第五課長大佐 田代 蘇平  
會計課長 主中佐 鶴田 權藏  
○海軍大學校(品川區上大崎長者丸)  
長 中將 中村 龜三郎  
教頭 少將 井澤 春馬  
主計長主少佐 淺野 親次  
○海軍兵學校(廣島縣安藝郡江田島村)  
長 中將 出光 萬兵衛  
教頭兼幹事長 大佐 副島 大助  
軍醫長醫大佐 菅田 直樹  
主計長主中佐 森岡 龍夫  
○海軍機關學校(京都府加佐郡中舞鶴町)  
長 少將 兼田 市郎  
教頭兼幹事長 大佐 和住 篤太郎  
機大佐 古谷 悟太郎  
軍醫長醫少佐 山田 壽吉  
主計長主少佐 山田 壽吉  
○海軍軍醫學校(京橋區築地五丁目)  
長 醫少將 向山 美弘  
教頭 醫少將 長田 勝芳  
主計長(兼) 醫少將 石淵 知定  
○海軍經理學校(京橋區小田原町三丁目)  
長 主少將 佐々木 重藏  
教頭 主大佐 片岡 覺太郎  
軍醫長醫中佐 横倉 誠次郎  
主計長主少佐 石淵 知定  
○皇族附武官  
宣仁親王附

市稻岡町)  
長 主少將 武井 大助  
第一課長 主大佐 乾 利隆  
第二課長 主中佐 吉川 漁夫  
○橫須賀海軍軍需部(橫須賀市長浦町)  
長 主少將 大東 健夫  
第一課長大佐 小住 德三郎  
第二課長 機中佐 福地 英男  
第三課長 主大佐 長妻 篤崎  
○橫須賀海軍艦船部(橫須賀市長)  
長 少將 氏家 親治  
○橫須賀海軍建築部(橫須賀市稻岡町)  
長 技師 松本 伊之吉  
第一課長 主中佐 大川戸 猶吉  
第二課長技師 住木 直二  
○橫須賀海軍病院(橫須賀市長)  
長 醫少將 田中 朝三  
第一部長 醫大佐 堀田 慎之

軍令部 (海軍省構内)  
總長 元帥大將 博 恭王  
次長 中將 嶋田 繁太郎  
第一部長 少將 近藤 信竹  
第二部長 少將 高橋 伊望  
第三部長 少將 高須 四郎  
第四部長 少將 前田 政一  
課長 大佐 本田 忠雄  
同(兼) 大佐 中杉 久治郎  
同 大佐 小林 仁  
同 大佐 金澤 正夫  
同 大佐 澤田 虎夫  
同 大佐 河野 千萬城  
同 大佐 志摩 清英  
同(兼) 大佐 宇垣 完爾  
同 大佐 福留 繁  
同 大佐 前田 稔  
出仕 中將 小野寺 恕

○大使館及公使館附武官

少將 野田 清  
少將 岩下 保太郎  
○中華民國少將 佐藤 脩  
滿洲國(兼)  
大佐 鈴木 義尾  
大佐 藤田 利三郎  
大佐 小林 謙五  
大佐 竹内 馨  
アルゼンチン 中佐 花田 行武  
ブラジル(兼) 中佐 花田 行武  
チリ(兼) 中佐 花田 行武  
佛國 大佐 山田 定義  
獨國 中佐 小島 秀雄  
伊國 中佐 平出 英夫  
メキシコ 中佐 濱中 匡甫  
ソウイェト 中佐 川畑 正治

橫須賀鎮守府

(橫須賀市)  
司令長官 中將 米内 光政  
○幕僚  
參謀長 少將 井上 成美

職員錄——橫須賀鎮守府

人事長(兼) 少將男 柴山 昌生  
機關長機大佐 鍋島 茂明  
軍醫長(兼) 醫少將 田中 朝三  
主計長(兼) 主少將 武田 大助  
法務長 島田 清  
○橫須賀海軍人事部(橫須賀市)  
長 少將男 柴山 昌生  
○橫須賀海軍港務部(橫須賀市逸見町)  
長 大佐 梶島 節雄  
○橫須賀海軍工廠(橫須賀市)  
長 少將 古市 龍雄  
總務部長大佐 下村 勝美  
造兵部長少將 本田 喜一郎  
造船部長 造船少將 池田 耐一  
造船部長 機大佐 澁谷 隆太郎  
光學實驗部長 大佐 北川 茂春  
電池實驗部長 造兵大佐 村瀬 藤十郎

航海實驗部長 大佐 宇佐美 治作  
機雷實驗部長 大佐 元 泉 威  
機關實驗部長 機大佐 鈴木 武次  
會計部長 主大佐 本田 増藏  
醫務部長 醫大佐 高城 喬  
○海軍航空廠(橫須賀市浦郷)  
長 中將 前原 謙治  
總務部長大佐 山縣 正郷  
科學部長少將 廣瀬 正經  
飛行機部長 機大佐 櫻井 忠武  
發動機部長 少將 花鳥 孝一  
兵器部長大佐 佐藤 源藏  
飛行實驗部長 少將 山田 忠治  
會計部長 主大佐 茂木 知三  
醫務部長 醫大佐 石黒 芳雄  
○橫須賀海軍經理部(橫須賀市)

市稻岡町)  
長 主少將 武井 大助  
第一課長 主大佐 乾 利隆  
第二課長 主中佐 吉川 漁夫  
○橫須賀海軍軍需部(橫須賀市長浦町)  
長 主少將 大東 健夫  
第一課長大佐 小住 德三郎  
第二課長 機中佐 福地 英男  
第三課長 主大佐 長妻 篤崎  
○橫須賀海軍艦船部(橫須賀市長)  
長 少將 氏家 親治  
○橫須賀海軍建築部(橫須賀市稻岡町)  
長 技師 松本 伊之吉  
第一課長 主中佐 大川戸 猶吉  
第二課長技師 住木 直二  
○橫須賀海軍病院(橫須賀市長)  
長 醫少將 田中 朝三  
第一部長 醫大佐 堀田 慎之



職員錄——吳鎮守府

第二部長

醫大佐 小林 賢語

藥劑部長 藥大佐 玉虫 雄藏

○湊海軍病院(靜岡縣賀茂郡竹麻村)

長 醫大佐 深田 貫一

第一部長(兼) 醫大佐 深田 貫一

第二部長 醫中佐 新井 甫

○橫須賀海軍刑務所(神奈川縣三浦郡浦賀町)

長 監獄長 小泉 藤治郎

○海軍砲術學校(橫須賀市楠ヶ浦町)

長 少將 田畑 啓義

教頭 大佐 入船 直次郎

軍醫長 醫中佐 黒木 武一

主計長 主中佐 松尾 尊義

○海軍水雷學校(橫須賀市田浦町)

長 少將 有地 十五郎

教頭 大佐 栗田 健男

軍醫長 醫中佐 三宅 正一

主計長 主少佐 佐野 川要

○海軍通信學校(橫須賀市田浦町)

長 大佐 隆 幡 敏

教頭 大佐 牧田 覺三郎

軍醫長 醫中佐 櫻井 得一

主計長 主中佐 篠田 清志

○海軍航海學校(橫須賀市田浦町)

長 少將 小池 四郎

教頭 大佐 岸 福治

軍醫長 醫中佐 廣田 棄夫

主計長(兼) 主少佐 藤井 百太郎

○海軍工機學校(橫須賀市)

長 少將 川原 宏

教頭 大佐 鈴木 久武

軍醫長 醫中佐 天野 先吉

主計長 主中佐 野村 三治

吳鎮守府

(吳市)

司令長官 大將 藤田 尙德

幕僚 參謀長 少將 佐藤 市郎

造機部長 高原 二郎

製鋼部長 機大佐 二階堂 行健

製鋼實驗部長 技師 宇留野 四平

潛水艦部長 機大佐 日尾 清

砲術實驗部長 大佐 小林 秀雄

魚雷實驗部長 大佐 岸本 鹿子治

電氣實驗部長 機大佐 山田 清

會計部長 主少將 平井 博

醫務部長 醫少將 比企 能之

職工教習所長(兼) 造機少將 日高 鏡一

○海軍技工養成所(吳海軍工廠內)

長(兼) 造船少將 桑原 重造

○廣島海軍工廠(廣島縣賀茂郡)

司令長官 中將 松下 元

幕僚 參謀長 大佐 清水 光美

人事長(兼) 大佐 祝原 不知名

機關長 機大佐 御所 靜

軍醫長 醫少將 眞下 祿三郎

主計長(兼) 主少將 熊生 榮

法務長 法務長 荻原 竹治郎

○佐世保海軍人事務所(佐世保市)

長 大佐 祝原 不知名

○佐世保海軍港務部(佐世保市)

長 大佐 後藤 權造

○佐世保海軍工廠(佐世保市)

長 少將 菊野 茂

總務部長 大佐 佐藤 唯一

造機部長 大佐 成田 二郎

航空機部長 大佐 加藤 成禱

造船部長 大佐 正木 宣恒

造機部長 機大佐 都築 伊七

會計部長 主大佐 荒川 信

廣村) 長 造機少將 福間 忠

總務部長 機大佐 小西 外男

航空機部長 大佐 飯倉 貞造

造機部長 機關大佐 赤羽 良淳

會計部長 主大佐 米花 德太郎

○海軍燃料廠(山口縣都濃郡德山町)

長 中將 山中 政之

煉炭部長 機大佐 清水 獎

製油部長 機大佐 別府 良三

研究部長 機大佐 木梨 律馬

會計部長 主大佐 吉村 武雄

醫務部長 醫大佐 白井 一精

探炭部長

平壤鐵業部長 主少將 金谷 隆一

○吳海軍經理部 長 主少將 須田 稔

第一課長 主大佐 元松 直人

第二課長 主大佐 佐野 嘉末

○吳海軍軍需部(吳市) 長 主大佐 笠間 尙三

總務課長 少將 雪下 勝美

第一課長 機大佐 礎 具 忍

第二課長 機大佐 高崎 武雄

第三課長 機大佐 種子田 榮

○吳海軍艦船部(吳鎮守府構內)

長 主中佐 早川 貞吉

○吳海軍建築部 長 少將 朝隅 彦吉

第一課長 技師 白石 誠夫

第二課長 技師 田中 秀康

○吳海軍病院(吳市) 技師 田中 秀康

長 醫少將 菅原 佐平

第一部長 醫大佐 水野 虎吉

第二部長 醫大佐 秋山 二三雄

藥劑部長 藥中佐 都丸 俊男

消毒部長(兼) 醫大佐 秋山 二三雄

○別府海軍病院(大分縣別府市)

長 醫少將 中野 太郎

第一部長(兼) 醫少將 中野 太郎

第二部長(兼) 醫中佐 長谷川 靜一

○吳海軍刑務所 長 監獄長 三隅 恒一

○海軍潛水學校(吳市吉浦町)

長 大佐 浮田 秀彦

○海軍水雷學校(吳市吉浦町)

長 大佐 高塚 省吾

○海軍水雷學校(吳市吉浦町)

長 大佐 高塚 省吾

○海軍水雷學校(吳市吉浦町)

長 大佐 高塚 省吾

主計長 主中佐 杉町 義正

佐世保鎮守府

(佐世保市)



醫務部長

○佐世保海軍經理部(佐世保市) 長 醫大佐 芋川 千秋

第一課長

主少將 熊生 榮

第二課長

主大佐 盛 長 吉

第三課長

主中佐 河村 浩

○佐世保海軍需部(佐世保市)

長 少將 片山 清次

第一課長

大佐 堀内 馨

第二課長

機大佐 黒原 退藏

第三課長

主中佐 内山 正太郎

○佐世保海軍艦船部(佐世保鎮守府構内)

長 少將 丹下 薫二

○佐世保海軍建築部(佐世保市)

長 技師 服部 保

第一課長(兼)

技師 服部 保

第二課長(兼)

技師 服部 保

○佐世保海軍病院(佐世保市)

院長 醫大佐 藤田 秀三郎

工作部長(兼)

機大佐 玉城 眞吉

○旅順要港部(旅順市東郷町)

司令官 少將 和田 秀穂

參謀長

大佐 原 忠一

機關長

機大佐 岩川 隆澄

軍醫長

醫大佐 石原 誠之

主計長

主大佐 石原 德次郎

港務部長

中佐 東郷 二郎

○駐滿海軍部(滿洲國新京平安町)

司令官 中將 濱田 吉治郎

參謀長

大佐 鈴木 義尾

工作部長(兼)

機大佐 赤坂 卯之助

○馬公要港部(澎湖島)

司令官 少將 和田 專三

參謀長

大佐 木幡 行

機關長

機大佐 市村 讓介

軍醫長

醫大佐 市村 讓介

主計長

主中佐 藤野 恭一

港務部長

中佐 河原 金之助

○鎮海要港部(朝鮮慶尙南道鎮海)

司令官 中將 井上 繼松

參謀長

大佐 越智 孝平

機關長

機大佐 玉城 直吉

軍醫長

醫大佐 藤田 秀三郎

主計長

主大佐 丹羽 英一

法務部長

主計長 樋口 芳包

港務部長

中佐 後野 傳治郎

○大湊要港部(青森縣下北郡大湊町)

司令官 少將 杉坂 梯二郎

參謀長

大佐 松永 次郎

機關長

機大佐 赤坂 卯之助

軍醫長

醫大佐 江口 有

主計長

主大佐 齋藤 胤雄

港務部長

中佐 大島 良之助

○舞鶴要港部(京都府加佐郡舞鶴町)

司令官 中將 鹽澤 幸一

參謀長

大佐 中村 重一

經理部長

主大佐 加納 金三郎

○舞鶴海軍工廠

長 少將 南里 俊秀

總務部長

機大佐 秋谷 吉五郎

造船部長

造船大佐 庭田 尙三

造機部長

造機大佐 朝永 研一郎

造兵部長

造兵大佐 大原 進

醫務部長

醫中佐 金澤 信太郎

會計部長

主大佐 是川 重之助

○大湊要港部(青森縣下北郡大湊町)

司令官 少將 杉坂 梯二郎

參謀長

大佐 松永 次郎

機關長

機大佐 赤坂 卯之助

軍醫長

醫大佐 江口 有

主計長

主大佐 齋藤 胤雄

港務部長

中佐 大島 良之助

○橫須賀警備隊

司令官 少將 宮田 義一

○吳警備隊

司令官 少將 日暮 豐年

○佐世保警備隊

司令官 少將 安藤 隆

○橫須賀防備隊

司令官 少將 荒木 貞亮

○吳防備隊

司令官 大佐 坂本 伊久太

○佐世保防備隊

司令官 大佐 松野 省三

○海軍航空隊司令

司令官 少將 片桐 英吉

霞ヶ浦

少將 杉山 俊亮

八三一

艦隊

一等巡洋艦

大佐 大島 乾四郎

大佐 水野 準一

大佐 山崎 耕一郎

大佐 平岡 衆一

大佐 藤田 義一

大佐 藤野 恭一

大佐 河原 金之助

大佐 市村 讓介

大佐 市村 讓介

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一

大佐 藤野 恭一



那智	妙高	足柄	羽黑	高雄	愛宕	鳥海	摩耶	天龍	龍田	球磨	多摩	北上	大井	木曾	長良	五十鈴	名取	由良	鬼怒	阿武隈	那珂	川内	神通	夕張
大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐
桑折	伍賀	佐倉	原顯	伊藤	春日	春原	茂原	久藤	福田	醍醐	阿部	松山	山口	桐岡	堀岡	松永	岡村	友成	三輪	藤田	五藤	中島	阿部	山本
英三郎	啓次郎	武夫	具重	整三郎	一篤	慎一	久八	貞三郎	忠重	勝雄	光治	儀三郎	新道	貞市	定道	政夫	佐市郎	茂義	類太郎	存知	寅彦	孝莊	正夫	
最上	三隈	鈴谷	海間	八雲	出雲	磐手	春日	對馬	鳳翔	赤城	加賀	龍驤	韓崎	駒橋	退鯨	長鯨	大鯨	常磐	勝利	白鷹	嚴島			
大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐	大佐
小林	武田	吉田	小橋	中村	岩越	角田	松浦	上野	酒卷	松永	三益	吉良	橋本	岸人	蓑輪	岡野	高須	青柳	松良	板垣	博義			
徹理	盛二	庸光	義亮	俊久	寒季	覺治	永次郎	正雄	宗孝	壽雄	貞三	俊一	愛次	三郎	中五	慶三郎	三二郎	宗重	秀行	一行	王			
八重山	砲	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐
宮本	宮本	松原	伊藤	佐伯	山代	宮坂	鎌田	本告	高尾	加瀨	有田	龜山	龜山	龜山	白石	大島	龜山	竹內	福岡	森岡	奧山	山本	秋風	
定知	寬三	義一	孝二	勝守	義登	正一	唯次	三義	義六	義三	義六	義三	義五	義二	義五	義一	義三	義四	義四	義三	義三	義三	義三	義三
帆風	野風	波風	沼風	神風	朝風	春風	松風	旗風	追風	疾風	夕風	陸風	如風	彌生	卯月	阜月	水無月	文月	長月	菊月	三月	望月	夕月	吹雪
少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐
松原	久保	山田	前田	谷井	横井	吉田	古川	赤澤	大原	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田
省吾	助智	直助	保直	稔保	稔保	正稔	文次	次壽	利通	正夫	鐵夫	和喜	英三	政七	常雄	良輔	正環	爲一	恒雄	國三	武夫	植田	弘之介	

白雪	初雪	叢雲	東雲	薄雲	白雲	磯波	浦波	綾波	敷波	朝霧	夕霧	天霧	狹霧	曙	朧	曉	連雲	潮雲	雷雲	電雲	響日	子日	初春	若葉	初霜	
中佐	少佐	中佐	中佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	少佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐	中佐
幸田	島居	村山	佐藤	瀨戶山	安武	吉村	田原	崎山	佐藤	橋正	小西	中川	莊司	河西	村上	成田	小田	森田	則滿	澁谷	坂井	長井	丸安	中村	山田	
格郎	威美	清六	寅治郎	安秀	史郎	眞武	吉興	釋夫	康夫	正雄	要人	浩	貴一郎	虎三	暢之助	忠良	爲清	久	宰次	四郎	匡身	純隆	金兎	謙治	雄二	
夕暮	有明	柳川	天野	重隆	正男	時吉	喜一	東	健二	文雄	彌周次	正明	文雄	文雄	文雄	文雄	文雄	文雄	文雄	文雄	文雄	文雄	文雄	文雄	文雄	文雄
二等驅逐艦	二等驅逐艦	二等驅逐艦	二等驅逐艦	二等驅逐艦	二等驅逐艦	二等驅逐艦	二等驅逐艦	二等驅逐艦	二等驅逐艦	二等驅逐艦	二等驅逐艦	二等驅逐艦	二等驅逐艦	二等驅逐艦	二等驅逐艦	二等驅逐艦	二等驅逐艦	二等驅逐艦	二等驅逐艦	二等驅逐艦	二等驅逐艦	二等驅逐艦	二等驅逐艦	二等驅逐艦	二等驅逐艦	二等驅逐艦
伊號第二十三	伊號第二十四	伊號第二十五	伊號第二十六	伊號第二十七	伊號第二十八	伊號第二十九	伊號第三十	伊號第三十一	伊號第三十二	伊號第三十三	伊號第三十四	伊號第三十五	伊號第三十六	伊號第三十七	伊號第三十八	伊號第三十九	伊號第四十	伊號第四十一	伊號第四十二	伊號第四十三	伊號第四十四	伊號第四十五	伊號第四十六	伊號第四十七	伊號第四十八	伊號第四十九
清島	小泉	中川	大谷	久米	奧島	清水	藤本	玉木	大竹	小林	遠藤	水口	竹崎	長井	西田	高橋	山田	岡本	後藤	石川	缺員	岡田	缺員	岡田	缺員	
定一	麒一	肇	清教	幾次	章三郎	太郎	傳	留次郎	壽雄	一	敬男	兵衛	武馨	武夫	耕三	長十郎	義助	義助	義助	義助	義助	義助	義助	義助	義助	義助
同第六十六	同第六十七	同第六十八	同第六十九	同第七十	同第七十一	同第七十二	同第七十三	同第七十四	同第七十五	同第七十六	同第七十七	同第七十八	同第七十九	同第八十	同第八十一	同第八十二	同第八十三	同第八十四	同第八十五	同第八十六	同第八十七	同第八十八	同第八十九	同第九十	同第九十一	同第九十二
松尾	濱野	柏原	宮崎	岩上	永井	南里	片桐	小川	横田	楊田	楊田	楊田	楊田	楊田	楊田	楊田	楊田	楊田	楊田	楊田	楊田	楊田	楊田	楊田	楊田	楊田
義保	元親	保親	武治	英壽	宏明	勝次	敏朗	武雄	網嘉	猪稔	猪洋	猪洋	猪洋	猪洋	猪洋	猪洋	猪洋	猪洋	猪洋	猪洋	猪洋	猪洋	猪洋	猪洋	猪洋	猪洋







○大津地方裁判所 所長 宮内 聰太郎  
 部長 山本 武雄  
 檢事正 國分 丸治

○和歌山地方裁判所 所長 三輪 智  
 部長 澤野 信藏  
 檢事正 兼松 謙太郎

○德島地方裁判所 所長 小玉 平太郎  
 部長 黑瀬 善治  
 檢事正 磯 梯三郎

○高松地方裁判所 所長 大野 惠眼  
 部長 山下 雅邦  
 檢事正 古賀 才次郎

○高知地方裁判所 所長 柴田 貞輝  
 部長 三好 眞一  
 檢事正 眞野 歡三郎

○名古屋地方裁判所 所長 淺沼 彦一郎  
 部長 谷 忠治  
 同 岩野 忠  
 同 薄井 大介  
 同 脇坂 雄治

○札幌地方裁判所 所長 加藤 健一  
 部長 秀島 敏行  
 檢事正 中野 並助

○函館地方裁判所 所長 井上 健一郎  
 部長 岡田 又兵衛  
 檢事正 西村 卯

○旭川地方裁判所 所長 佐久間 辰二  
 部長 矢口 毅  
 檢事正 谷津 慶次

○釧路地方裁判所 所長 古松 鐵太郎  
 部長 秋本 要吾  
 檢事正 高橋 久衛

○樺太地方裁判所 所長 清水 正一  
 部長 森岡 信二  
 檢事正 本間 寛二

○辯護士審査會 會長司法次官 長 島 毅

○山口地方裁判所 所長 井田 茂久郎  
 部長 江本 清平  
 檢事正 石塚 揆一

○岡山地方裁判所 所長 安藝 茂富  
 部長 小林 右太郎  
 檢事正 榎田 麟二

○鳥取地方裁判所 所長 高野 寛治  
 部長 田村 圓平  
 檢事正 長嶺 教心

○松江地方裁判所 所長 末松 正行  
 部長 前田 前之助  
 檢事正 櫻 良助

○松山地方裁判所 所長 樋口 良助  
 部長 杉本 藤一  
 檢事正 谷田 勝之助

○長崎地方裁判所 所長 大原 利文  
 部長 本郷 雅廣  
 檢事正 棚町 丈四郎

○佐賀地方裁判所 所長 堀 耕作

○福岡地方裁判所 所長 小林 秀一郎  
 部長 稻塚 庄三郎  
 部長 和田 一次

○大分地方裁判所 所長 石田 伊太郎  
 部長 渡邊 嘉兵衛  
 檢事正 佐藤 伊惣治

○熊本地方裁判所 所長 生津 和太郎  
 部長 原 義介  
 同 山本 康三

○鹿兒島地方裁判所 所長 佐藤 修一  
 部長 石橋 朝次郎  
 檢事正 宮崎 國吉

○宮崎地方裁判所 所長 阪口 清  
 部長 白石 要  
 檢事正 岩淵 彰郎

○那霸地方裁判所 所長 平山 慎英

○仙臺地方裁判所 所長 佐藤 三郎  
 部長 青山 春齋  
 檢事正 白井清左衛門

○福島地方裁判所 所長 友眞 碩太郎  
 部長 松野 嘉七  
 檢事正 友眞 碩太郎

○山形地方裁判所 所長 菅波 鶴雄  
 部長 小林 新太郎  
 檢事正 岡 退

○盛岡地方裁判所 所長 西岡 國吉  
 部長 中谷 爲吉  
 檢事正 田口 環

○秋田地方裁判所 所長 松野 祐齋  
 部長 武山 敏二  
 檢事正 松田 計治

○青森地方裁判所 所長 並山 興道  
 部長 遠藤 周藏  
 檢事正 中村 惣平

○札幌地方裁判所 所長 加藤 健一  
 部長 秀島 敏行  
 檢事正 中野 並助

○函館地方裁判所 所長 井上 健一郎  
 部長 岡田 又兵衛  
 檢事正 西村 卯

○旭川地方裁判所 所長 佐久間 辰二  
 部長 矢口 毅  
 檢事正 谷津 慶次

○釧路地方裁判所 所長 古松 鐵太郎  
 部長 秋本 要吾  
 檢事正 高橋 久衛

○樺太地方裁判所 所長 清水 正一  
 部長 森岡 信二  
 檢事正 本間 寛二

○辯護士審査會 會長司法次官 長 島 毅

○大臣官房 次官 河原 春作  
 參事官 作田 高太郎  
 秘書官 岩井 尊人  
 同(兼) 小笠原 豊光  
 秘書課長 小笠原 豊光  
 文書課長 阿原 謙藏  
 會計課長 服部 謙  
 建築課長 柴垣 鼎太郎  
 體育課長 岩原 拓  
 專門學務局 局長 伊東 延吉  
 學務課長 石丸 優三  
 普通學務局 局長 有光 次郎  
 學務課長 菊池 豊三郎  
 庶務課長 堀池 英一  
 實業學務局 局長 山崎 犀二  
 局長 藤野 惠  
 農業教育課長 岩松 五良  
 商工教育課長 田中 保平  
 社會教育局 局長 山川 建  
 成人教育課長 松尾 長造  
 庶務課長(兼) 松尾 長造

○青年教育課長 朝比奈策太郎  
 局長(兼) 伊東 延吉  
 思想課長 田中 義男  
 調查課長 小川 義章  
 圖書局 局長 河原 春作  
 局長事務取扱 谷原 義一  
 編修課長 藤本 萬治  
 宗教局 局長 高田 休廣  
 宗務課長(兼) 橋本 綱太郎  
 保存課長 柴沼 直  
 教育調查部 部長 篠原 助市  
 東京帝國大學 總長 長與 又郎  
 庶務課長 江口 重國  
 會計課長 木村 甲一  
 營繕課長事務取扱 内田 祥三  
 學生課長 竹内 良三郎  
 附屬圖書館長 高柳 賢三  
 △法學部長 穗積 重遠  
 △醫學部長 永井 潜  
 附屬醫院長 島蘭 順次郎



職員錄——文部省

- △工學部長 平賀 芳藏
- △文學部長 桑田 善之助
- 史料編纂所長 辻 善之助
- △理學部長 柴田 桂太
- 附屬臨海實驗所長 谷津 直秀
- 附屬植物園長 中井 猛之進
- △農學部長 佐藤 寬次
- 附屬演習林長 蘭部 一郎
- 附屬農場長 佐々木 喬
- 附屬農業教員養成所主事 佐々木 林治郎
- 附屬水産實驗所長 雨宮 育作
- △經濟學部長 河合 榮治郎
- △傳染病研究所(芝區白金臺町)長 宮川 米次
- △航空研究所(目黒區駒場町)長 和田 小六
- 東京天文臺(北多摩郡三鷹村)長 關口 鯉吉
- 地震研究所(東京帝國大學構内) 石本 巳四雄
- 京都帝國大學 松井 元興

- 庶務課長 豐田 多久藏
- 會計課長 岸田 源壽
- 學生課長 阿部 三四
- 營繕課長 大倉 三郎
- 附屬圖書館長 新村 出
- △法學部長 山田 正三
- △醫學部長 前田 鼎
- 附屬醫院長 星野 禎次
- △工學部長 濱部 源次郎
- △文學部長 野上 俊夫
- △理學部長 松山 基範
- △經濟學部長 本庄 榮治郎
- △農學部長 逸見 武雄
- 附屬演習林長 市河 三祿
- 附屬農場長 菊池 秋雄
- △化學研究所(京都帝國大學内)長 喜多 源逸
- 東北帝國大學 本多 光太郎
- 總務課長 世良 琢磨
- 庶務課長 遠藤 龍藏
- 會計課長 風見 謙次郎
- 學生課長 堀井 啓治
- 營繕課長 堀井 啓治
- 附屬電氣通信研究所長 披山 平一
- 附屬圖書館長 村岡 與嗣

- △理學部長 窪田 忠彦
- 附屬臨海實驗所長 畑井 新喜司
- △醫學部長 那須 省三郎
- 附屬醫院長 丸井 清泰
- △工學部長 宮城 晉五郎
- △法文學部長 石原 謙
- 金屬材料研究所(仙臺市)長 石原 寅次郎
- 九州帝國大學 高山 正雄
- 總務課長 豐田 茂久藏
- 會計課長(兼) 豐田 茂久藏
- 學生課長 岡部 龍玄
- 建築課長 島岡 春三郎
- 附屬圖書館長 春日 政治
- △醫學部長 進藤 篤一
- 附屬醫院長 下田 光造
- △工學部長 寺野 寬二
- △農學部長 滿田 隆一
- 附屬農場長 丹下 正治
- 附屬演習林長 片山 茂樹
- △法文學部長 阿武 京二郎
- 溫泉治療學研究所(大分縣速見郡石垣村、朝日村)長 速見 直助

- 北海道帝國大學 高岡 熊雄
- 總務課長 穗積 秀二郎
- 學生課長 尾崎 卓郎
- 會計課長 岡村 信雄
- 營繕課長 落藤 藤吉
- 附屬圖書館長 上原 轍三郎
- △農學部長 星野 勇三
- 附屬植物園長 枅内 吉彦
- 附屬農場長 明峰 正夫
- 附屬演習林長 大野 乙熊
- △醫學部長 志賀 精七
- 附屬醫院長 倉塚 良夫
- △工學部長 田所 哲太郎
- △理學部長 田所 哲太郎
- 附屬臨海實驗所長 内田 亨
- 北海道帝國大學(札幌市) 藤原 正
- 主事 西田 辰三郎
- △附屬土木專門部(札幌市) 楠本 長三郎
- 大阪帝國大學 渡邊 巳丑太
- 總務課長 茂呂 武三郎
- 會計課長 茂呂 武三郎

職員錄——農林省

- 東京帝國大學 石崎 卯藏
- 營繕課長 中田 篤郎
- 學生課長 高木 耕三
- 附屬圖書館長 小澤 修造
- △醫學部長 和田 豐種
- 附屬醫院長 眞島 利行
- △理學部長 眞島 利行
- △工學部長 鈴木 太郎
- △微生物病研究所(大阪市北區堂島) 古武 彌四郎
- 東京育學校(小石川區雜司ヶ谷町) 片山 昇
- 校長 樋口 長市
- 東京聾啞學校(小石川區指ヶ谷町) 松本 喜一
- 館長 松本 喜一
- 帝國圖書館(上野公園内) 岡田 武松
- 館長 岡田 武松
- 中央氣象臺(麴町區大手町) 三島 支臺長
- 臺長 川野 昌美
- 三島 支臺長 平野 烈介
- 大阪支臺長 須田 皖次
- 福岡支臺長 須田 皖次
- 沖繩支臺長 谷本 誠

- 柿岡地磁氣觀測所長 今道 周一
- 海洋氣象臺(神戸市神戶區)臺長(兼) 岡田 武松
- 高層氣象臺(茨城縣筑波郡小野川村) 大石 和三四
- 臺長 大石 和三四
- 緯度觀測所(岩手縣水澤町)所長 木村 榮
- 東京科學博物館(上野公園)館長 秋保 安治
- 體育研究所(澁谷區代々木西原町) 岩原 拓
- 所長(兼) 岩原 拓
- 航海練習所(文部省内)所長(兼) 藤野 惠
- 國民精神文化研究所(品川區上大崎) 關屋 龍吉
- 所長 關屋 龍吉
- 事業部長 紀平 正美
- 測地學委員會 平山 信
- 委員長 平山 信
- 教員檢定委員會 河原 春作
- 會長 河原 春作
- 理學文書目錄委員會 櫻井 鏡二
- 會長 櫻井 鏡二

- 帝國學士院(上野公園)會長 櫻井 鏡二
- 維新史料編纂會 櫻井 鏡二
- 總裁 金子 堅太郎
- 顧問 田中 光顯
- 維新史料編纂事務局 局長 河原 春作
- 帝國美術院 院長 清水 澄
- 美術研究所 所長 矢代 幸雄
- 教學刷新評議會 會長 平生 鈺三郎
- 教科書調查會 會長 永田 秀次郎
- 副會長 野村 益三
- 學術研究會 會長 櫻井 鏡二
- 副會長 田中 愛橋
- 國語審議會 會長 南 重遠
- 副會長 穗積 重遠
- 航空評議會 會長 平生 鈺三郎
- 會長 平生 鈺三郎
- 學生衛生調查會 會長 河原 春作
- 會長 河原 春作

- 震災豫防評議會 會長 河原 春作
- 宗教制度調查會 會長 荒井 賢太郎
- 實業教育振興委員會 會長 平生 鈺三郎
- 國寶保存會 會長 細川 護立
- 體育運動審議會 會長 平生 鈺三郎
- 臨時口マ字調查會 會長 平生 鈺三郎
- 農林省(麴町區大手町) 大臣 島田 俊雄
- 次官 山崎 貞一
- 參事官 小林 絹治
- 大臣官房 秘書官(兼) 鈴木 謙一
- 同 沖島 謙三
- 秘書課(事務官) 鈴木 謙一
- 文書課長 湯河 元威
- 統計課長 津田 儀三郎
- 會計課長 周東 英雄
- 農務局



職員錄——農林省

局長 戶田 保忠  
農政課長 田中 長茂  
肥料課長 重政 誠之  
耕地課長 片岡 謙  
農產課長 間部 彰  
△巨椋池開墾國營工務事務所 狩野 直愷  
○山林局 村上 龍太郎  
局長 三浦 一雄  
監理課長 山口 立  
林政課長 貴島 圭三  
業務課長 田中 八百八  
○水産局 原 辰二  
局長 山中 鍊治  
漁政課長 井出 正孝  
監督課長 寺田 省一  
海洋課長 寺田 省一  
○畜産局 細川 利壽  
局長 平山 洋三郎  
畜政課長 三須 武男  
畜畜保險課長 石崎 芳吉  
畜産課長 石崎 芳吉  
○蠶絲局 井野 碩哉  
局長 吉田 清二  
絲政課長 吉田 清二

蠶繭課長 植田 武彦  
蠶業課長 明石 弘  
△紐育海外生絲市場調査事務所 石黒 武重  
△横濱輸出生絲登錄所 久保 吉造  
△神戸輸出生絲登錄所 大里 忠二  
○米穀局 荷見 安  
局長 村上 富士太郎  
米政課長 小松 孝行  
調査課長 横山 敬教  
内地課長 平岡 梓  
外地課長 中尾 桂一郎  
經理課長 米穀利用研究所(兼) 對馬 彌作  
米穀利用研究所(兼) 對馬 彌作  
△東京米穀事務所 對馬 彌作  
△大阪米穀事務所 井水 正名  
△酒田米穀事務所 中野 代二  
△門司米穀事務所 水川 潔  
△新潟米穀事務所 水川 潔

酒井 正男  
△名古屋米穀事務所 砂田 久雄  
△小樽米穀事務所 鈴木 義勝  
△仙臺米穀事務所 近藤 寛保  
△金澤米穀事務所 佐藤 續  
△神戸米穀事務所 柴田 勝三郎  
△岡山米穀事務所 齋藤 廣三  
△熊本米穀事務所 野村 貫一  
△青森米穀事務所 木下 義親  
△松江米穀事務所 鈴木 鼎三郎  
△京城米穀事務所 安孫子 藤吉  
△臺北米穀事務所 半田 久美  
○經濟更生部 小平 權一  
部長 五十子 卷三  
總務課長 五十子 卷三

八四〇  
産業組合課長 梶原 茂嘉  
金融課長 西村 彰一  
副業課長 須田 立  
販賣改善課長 岡本 直人  
△積雪地方農村經濟調査所 山口 弘道  
○馬政局 長官(兼) 長瀬 貞一  
次長 田淵 敬治  
總務課長 伊藤 莊之助  
競馬監督課長 石井 英之助  
馬産課長 横屋 潤  
資源課長(兼) 騎兵大佐 大賀 茂  
○農事試験場(瀧野川區西ヶ原町) 安藤 廣太郎  
場長(兼) 安藤 廣太郎  
○茶葉試験場(静岡縣金谷町) 安藤 廣太郎  
場長(兼) 安藤 廣太郎  
○園藝試験場(静岡縣興津町) 安藤 廣太郎  
場長(兼) 安藤 廣太郎  
○青森營林局(青森市大字沖館) 原 三六  
局長 山根 東明  
庶務課長 原 耕太  
造林課長 藤島 信太郎  
計畫課長 藤島 信太郎

職員錄——商工省

利用課長 菊池 繁雄  
○秋田營林局(秋田市東根小屋町) 石原 清逸  
局長 溝江 誠  
庶務課長 羽岡 愛之助  
利用課長 赤林 實瞳  
造林課長 岩崎 準次郎  
計畫課長 永松 陽一  
○東京營林局(麹町區大手町) 佐藤 公明  
局長 大泉 勝吉  
庶務課長 河田 杰  
造林課長 吉田 文一郎  
利用課長 吉田 文一郎  
○大阪營林局(大阪市東區) 三宅 發士郎  
局長 石川 順吉  
庶務課長 石川 順吉  
計畫課長 吉川 昇二郎  
造林課長 吉川 昇二郎  
利用課長 矢部 立志郎  
○高知營林局(高知市西弘小路) 村上 正彦  
局長 大森 浩  
庶務課長 町田 俊彦  
造林課長 町田 俊彦  
計畫課長 小寺 農夫

利用課長 關 重雄  
○熊本營林局(熊本市京町本町) 中金 鎬三  
局長 家村 末熊  
庶務課長 松川 恭一  
利用課長 野間 隆一  
造林課長 田中 波慈女  
計畫課長 藤岡 光長  
○林業試驗場(日黒區下日黒) 藤岡 光長  
場長 藤岡 光長  
○東京國有林産物販賣所 小關 東九郎  
所長 小關 東九郎  
○大阪國有林産物販賣所 土肥 俊  
所長 土肥 俊  
○水産講習所(深川區越中島町) 杉浦 保吉  
所長 杉浦 保吉  
○水産試驗場(京橋區月島) 春日 信市  
場長 春日 信市  
○畜産試驗場(千葉縣千葉郡都村) 釘本 昌二  
場長 釘本 昌二  
○種羊場(北海道札幌郡豐平町) 岡本 正行  
場長 岡本 正行  
○獸疫調査所(瀧野川區西ヶ原町) 山脇 圭吉  
場長 山脇 圭吉  
○蠶業試驗場(杉並區高圓寺) 山脇 圭吉  
場長 山脇 圭吉

場長 平塚 英吉  
○横濱生絲検査所(横濱市中區) 肥後 俊彦  
所長 肥後 俊彦  
○神戸生絲検査所(神戸市葺合區) 北尾 富烈  
所長 北尾 富烈  
○家畜再保險審査會 長瀬 貞一  
會長 長瀬 貞一  
○生絲需要増進調査會 島田 俊雄  
會長 島田 俊雄  
○輸出生絲販賣統制調査會 島田 俊雄  
會長 島田 俊雄  
○米穀統制委員會 島田 俊雄  
會長 島田 俊雄  
○米穀處理委員會 島田 俊雄  
會長 島田 俊雄  
○馬政調査會 島田 俊雄  
會長 島田 俊雄

同 高山 金一  
文書課長 辻 謹吾  
統計課長 安達 祥三  
會計課長 新倉 利廣  
○商務局 村瀬 直養  
局長 牧 楠雄  
商政課長 波江 野繁  
取引課長 大島 永明  
商務課長 大島 永明  
博覽會監理課長 豐田 雅孝  
○工務局 岸 信介  
局長 岸 信介  
工政課長 小金 義照  
監督課長 堀 義臣  
工業課長 西川 浩  
工務課長 神田 運  
中央度量衡檢定所長 渡邊 襄  
○鑛山局 小島 新一  
局長 小島 新一  
鑛政課長 鈴木 英雄  
燃料課長 酒井 喜四  
鑛業課長 松本 彬  
地質調査所長 山根 新次  
○貿易局 寺尾 進  
局長 寺尾 進

八四一



貿易課長 乘杉 研壽  
 統計課長 菱沼 勇  
 検査課長 鹽谷 狩野吉  
 ○保險局長 大貝 晴彦  
 局長 永田 彦太郎  
 生命保険課長 妹川 武人  
 損害保険課長 妹川 武人  
 ○特許局(麹町區三年町)局長 竹内 可吉  
 總務部長 石井 銀彌  
 審判部長 杉山 正雄  
 意匠商標部長 野村 信孝  
 化學電氣部長 淺見 起平  
 機械部長 三根 繁太  
 陳列館長 關本 賢治  
 △總務部 出願課長 豐田 雅孝  
 庶務課長 中村 幸八  
 調査課長 楠瀬 常猪  
 登録課長 山口 喬  
 △審判部 書記課長 本郷 壽次  
 △意匠商標部 商標課長事務取扱(兼) 野村 信孝  
 意匠課長 衣川 毅夫

△化學電氣部 電氣課長 東條 喜一  
 無機化學課長 堀川 冬弘  
 有機化學課長 中林 朝吉  
 △機械部 第四課長 吉見 義明  
 第一課長 小川 潤次郎  
 第三課長 日下 繁  
 第二課長 家永 文彦  
 第五課長 八木 靜一郎  
 ○東京工業試驗所(澁谷區幡ヶ谷本町) 所長 小寺 房治郎  
 第一部長 西村 常吉  
 第二部長 伊藤 亮  
 第三部長 井上 春成  
 第四部長 北脇 市太郎  
 第五部長(兼) 澁川 區  
 第六部長 莊司 市太郎  
 第七部長 片山 徹吉  
 第八部長 高松 亨  
 第九部長 篠崎 英之助

第五部長 池下 守清  
 ○網業試驗所(橫濱市神奈川區) 所長(兼) 吉田 直當  
 第一部長 角替 利策  
 第二部長 丸山 善樹  
 第三部長 三平 文  
 ○陶磁器試驗所(京都市伏見區) 所長 平野 耕輔  
 ○工藝指導所(仙臺市) 所長 國井 喜太郎  
 ○東京鐵山監督局(麹町區永田町) 局長 東 榮二  
 鐵政課長 諸井 桃二  
 分析課長 大野 起  
 鐵政課長 森田 正見  
 ○仙臺鐵山監督局(仙臺市) 局長 立花 俊一  
 鐵政課長 白井 義三  
 鐵政課長 佐分利 輝一  
 ○大阪鐵山監督局(大阪市東成區) 局長 黑田 鴻五  
 鐵政課長 高井 孝藏  
 鐵政課長 菅野 健三郎  
 分析課長 村瀬 竹次郎

○福岡鐵山監督局(福岡市土手町) 局長 原田 幾造  
 鐵政課長 細川 政之助  
 鐵政課長 瀨尾 健二  
 ○札幌鐵山監督局(札幌市南一條) 局長 關口 滿三郎  
 鐵政課長 阿部 豊  
 鐵政課長 竹井 清  
 ○燃料研究所(川口市) 所長 伴 義定  
 第一部長(事務取扱) 伴 義定  
 第二部長 新村 唯治  
 ○花菱検査所(神戸市灘區泉通) 所長 蜂谷 徳三郎  
 ○輸出絹織物検査所 京都(京都市左京區吉田下阿達町) 所長 武富 喬  
 大阪(大阪市西區) 所長 田部 永次  
 橫濱(橫濱市中區山下町) 所長 牧 厚  
 神戸(神戸市林田區) 所長 厚

所長 松井 隆  
 桐生(桐生市永樂町) 所長 大類 徳一郎  
 足利(足利市巴町) 所長 牧 厚  
 名古屋(名古屋西區) 所長 若狭 源藏  
 岐阜(岐阜市大字本莊) 所長 高木 頼三  
 福島(福島縣伊達郡川俣町) 所長 過足 國治  
 鶴岡(鶴岡市家中新町) 所長 齋藤 辰五郎  
 福井(福井縣足羽郡木田村) 所長 岡本 善之  
 金澤(金澤市長町河岸) 所長 中村 林治  
 富山(富山縣上新川郡堀川町) 所長 萩原 博  
 ○臨時産業合理局(商工省構内) 長官商工大臣 小川 郷太郎  
 第一部長 後藤 保清  
 第二部長(兼) 岸 信介  
 會計課長 新倉 利廣  
 庶務課長 菅波 稱事  
 ○工藝審査委員會

委員長商工次官吉野 信次  
 ○工業規格統一調査會 會長商工大臣 小川 郷太郎  
 副會長商工次官吉野 信次  
 ○瓦斯事業委員會 會長商工大臣 小川 郷太郎  
 ○國產振興委員會 會長商工大臣 小川 郷太郎  
 ○製鐵事業評價審査委員會 會長商工大臣 小川 郷太郎  
 ○不當廉賣審査委員會 會長商工大臣 小川 郷太郎  
 ○統制委員會 會長商工大臣 小川 郷太郎  
 ○發明獎勵委員會 會長商工大臣 小川 郷太郎  
 ○石油業委員會 會長商工大臣 小川 郷太郎  
 ○度量衡制度調査會 會長商工大臣 小川 郷太郎  
 ○商工組合中央金庫設立委員 委員長商工大臣小川 郷太郎  
 大臣 賴母木 桂吉  
 政務次官 前田 房之助

次官 富安 謙次  
 ○大臣官房 參事官 多田 滿長  
 秘書官(兼) 手島 榮  
 秘書課長 阿部 勇  
 文書課長 手島 丈助  
 保健課長 安田 丈助  
 監察課長 中村 松次郎  
 遞信官吏練習所長(兼) 飯野 毅夫  
 遞信博物館長(兼) 平澤 要  
 ○郵務局 局長 伊勢谷 次郎  
 外國郵便課長 岡崎 誠一  
 業務課長 出塚 祐助  
 規畫課長 中山 次郎  
 ○電務局 局長 平澤 要  
 業務課長 平田 耕造  
 規畫課長 渡邊 晉二郎  
 外國電信課長 小林 武治  
 無線課長 鈴木 恭一  
 ○工務局 局長 梶井 剛

庶務課長 平生 壬午郎  
 線路課長 淺見 親  
 機械課長 大森 丙  
 無線課長 荒川 大太郎  
 日滿電話建設課長 石井 淺八  
 ○電氣局 局長 大和田 悌二  
 検査課長 大野 勝三  
 監理課長 藤井 崇治  
 業務課長 有田 喜一  
 水力課長 野口 寅之助  
 技術課長 森 秀  
 ○管船局 局長 小野 猛  
 海員課長 田倉 八郎  
 監理課長 新谷 寅三郎  
 庶務課長 米田 富士雄  
 船舶課長 重光 磨  
 船舶試驗所長 湊 一  
 ○航空局 局長 片岡 直道  
 監理課長 中尾 國次郎  
 技術課長 新井 三郎  
 總務課長 福原 敬次  
 東京飛行場長 福士 善治郎  
 大阪飛行場長 玉宮 善治郎







改良課長 後藤 宇太郎  
 建築課長 坂本 鎮雄  
 ○工作局  
 局長 朝倉 希一  
 工場課長 紀伊 壽次  
 車輛課長 德永 晋作  
 機械課長 千谷 虎雄  
 ○電氣局  
 局長 森田 重彦  
 電力課長 永田 盛三  
 電化課長 坂元 常樹  
 通信課長 魚住 朝治  
 ○經理局  
 局長 工藤 義男  
 會計課長 長崎 惣之助  
 倉庫課長 玉置 善雄  
 購買第一課長 手塚 操  
 購買第二課長 益子 梓  
 調查課長 三輪 清一郎  
 被服工場長 中村 橋男  
 木材防腐工場長 數賀山 兼寬  
 ○東京鐵道病院(澁谷區千駄ヶ谷)  
 院長 阿部 資夫  
 副院長 櫻井 久一  
 ○建設事務所長

北海道 菊池 清  
 熊本 上山 經亮  
 東京 高井 信一  
 米子 宮本 嘉吉  
 岡山 出島 貞嘉  
 山口 足立 貞嘉  
 熱海 星野 茂樹  
 盛岡 岡田 實  
 秋田 佐藤 忠三郎  
 長岡 瀧淵 實烈  
 岐阜 小川 紫朗  
 東京改良事務所長 井上 隆根  
 大阪改良事務所長 佐藤 鼎  
 東京電氣事務所長 鈴木 愉之助  
 信濃川電氣事務所長 倉田 玄二  
 ○國際觀光局  
 局長 田 誠  
 庶務課長 河崎 精一  
 事業課長 高田 寬  
 鐵道會議 前田 米藏  
 議長鐵道大臣 前田 米藏  
 ○國際觀光委員會

會長鐵道大臣 前田 米藏  
 ○鐵道運賃審議會  
 會長 結城 豐太郎  
 ○東京鐵道局(麹町區丸の内)  
 局長 坂口 忠次  
 總務部長 坪内 直文  
 運輸部長 吉川 美男  
 運輸部長 福井 國男  
 運輸部長 沖野 政次  
 運輸部長 小坂 狷二  
 運輸部長 石井 直  
 運輸部長 錫村 審  
 ○名古屋鐵道局(名古屋區西區)  
 局長 池井 啓次  
 總務部長 穴澤 貞利  
 運輸部長 中井 元一  
 運輸部長 淺野 英次  
 運輸部長 柳ヶ瀬 正哉  
 運輸部長 甲斐 久三郎  
 運輸部長 重信 四郎  
 運輸部長 湯本 昇  
 ○大阪鐵道局(大阪府北區)  
 局長 鈴木 清秀  
 總務部長 堀木 惟保  
 運輸部長 堀木 謙三  
 運輸部長 高桑 謙三

工務部長 青山 秀雄  
 工務部長 盛口 敬太郎  
 電氣部長 落合 嘉五郎  
 經理部長 野中 春三  
 ○廣島鐵道局(廣島市)  
 局長 山田 新十郎  
 總務部長 伊藤 信之  
 運輸部長 三輪 眞吉  
 運輸部長 關田 友吉  
 運輸部長 山口 繁  
 運輸部長 三宅 靜一  
 運輸部長 平田 猷雄  
 運輸部長 松尾 喜一  
 ○門司鐵道局(門司市大字門司)  
 局長 島岡 浩一郎  
 總務部長 田中 巖  
 運輸部長 高木 正夫  
 運輸部長 濱野 信一郎  
 運輸部長 山中 良樹  
 運輸部長 佐藤 源之助  
 ○新潟鐵道局(新潟縣新潟市)  
 局長 森本 義夫  
 總務部長 高須 俊一  
 運輸部長 野田 筍一  
 運輸部長 馬場 檢吉

工務部長 三浦 義男  
 工作部長 兼坂 高三郎  
 經理部長 山本 頼雄  
 ○仙臺鐵道局(仙臺市清水小路)  
 局長 平山 復二郎  
 總務部長 齋藤 義八  
 運輸部長 藤原 久信  
 運輸部長 木村 英太郎  
 運輸部長 志賀 靖  
 運輸部長 今井 修  
 運輸部長 波多 敏夫  
 經理部長 山下 雅實  
 局長 川井 健太郎  
 運輸部長 原 清武  
 運輸部長 三富 秀夫  
 運輸部長 岡崎 信雄  
 運輸部長 中村 健吾  
 運輸部長 原 弘  
 運輸部長 大澤 保次郎  
 運輸部長 船橋部長  
 運輸部長 運轉部長  
 運輸部長 工作部長  
 運輸部長 工務部長  
 運輸部長 總務部長  
 運輸部長 經理部長  
 運輸部長 局長  
 ○札幌鐵道局(札幌市北五條)  
 局長 山下 雅實  
 運輸部長 川井 健太郎  
 運輸部長 原 清武  
 運輸部長 三富 秀夫  
 運輸部長 岡崎 信雄  
 運輸部長 中村 健吾  
 運輸部長 原 弘  
 運輸部長 大澤 保次郎  
 運輸部長 船橋部長  
 運輸部長 運轉部長  
 運輸部長 工作部長  
 運輸部長 工務部長  
 運輸部長 總務部長  
 運輸部長 經理部長  
 運輸部長 局長  
 ○拓務省(麹町區西目比谷町)  
 大臣 永田 秀次郎  
 政務次官 稻田 昌植  
 次官 入江 海平  
 參與官 林 路一

○大臣官房  
 秘書官(兼) 植場 鐵三  
 同 柳 瀨  
 秘書課長 植場 鐵三  
 文書課長 菅川 恭三郎  
 會計課長 小川 正儀  
 會計課長 杉田 芳郎  
 朝鮮部 入江 海平  
 ○管理局  
 局長 萩原 彦三  
 管理課長 今吉 敏雄  
 地方課長 本多 保太郎  
 警務課長 赤木 親之  
 ○殖産局  
 局長 北島 謙次郎  
 農林課長(兼) 植場 鐵三  
 農工課長(兼) 江口 親憲  
 商工課長 副島 勝  
 理財課長  
 ○拓務局  
 局長 高山 三平  
 東亞課長 大野 季夫  
 南洋課長 武田 寬一  
 移住教養所 島田 昌勢  
 △神戸(神戸市山本通三丁目)

所長 長嶺 昇  
 △長崎(長崎市梅香崎町)  
 所長 德永 俊雄  
 ○海外殖産委員會  
 會長 拓務大臣 永田 秀次郎  
 ○會計検査院(麹町區三年町)  
 院長 河野 秀男  
 院長官房 東谷 傳次郎  
 總務科長 內 藤 照  
 調查科長  
 ○第一部長 河本 文一  
 ○第二部長 木村 精一  
 ○第三部長 武藤 榮治郎  
 ○第四部長 近藤 榮一  
 ○第五部長 清原 德次郎  
 ○第六部長 岡 今朝雄  
 ○第七部長 廣瀬 正一  
 ○第八部長 大山 常藏  
 ○第九部長 岡島 貞一  
 ○第十部長 井上 綾太郎

第一課長 市川 要四郎  
 第二課長 水島 房吉  
 第三課長 津屋 幸右衛門  
 第四課長 高島 彌三  
 ○行政裁判所(麹町區紀尾井町)  
 部長 二上 兵治  
 部長 遠藤 源六  
 書記官長 長 世吉  
 書記官長 瀨古 保次  
 書記官長 小林 次郎  
 書記官長 近藤 英明  
 書記官長 角倉 志朗  
 書記官長 石橋 德作  
 ○衆議院事務局  
 書記官長 田口 彌一  
 書記官長 大木 操  
 書記官長 大木 操  
 書記官長 大木 操  
 書記官長 中御門 經民  
 書記官長 中御門 經民  
 書記官長 大池 眞  
 書記官長 大池 眞  
 書記官長 西澤 哲四郎



守衛長 西村 千代作

文官高等懲戒委員會

委員長

樞密顧問官 原 嘉道

會計検査官懲戒裁判所

委員長

樞密顧問官 原 嘉道

行政裁判所長官評定官懲戒裁判所

委員長

樞密顧問官 原 嘉道

朝鮮總督府(京城府)

總督 南 次郎

政務總監 大野 祿一郎

秘書官(兼) 鹽田 正洪

同 矢野 義男

同 池田 政帳

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

同 齋藤 岩藏

職員錄——朝鮮總督府

人事課長 新見 肇

外事課長 相川 勝六

文書課長 鹽田 正洪

會計課長 藤本 修三

臨時國勢調査課長 鹽田 正洪

○內務局 大竹 十郎

局長 西岡 芳次郎

地方課長 榎葉 孝平

土木課長 榎葉 孝平

△土木出張所長

京城 川澤 章明

仁川 福井 軍次郎

麗水 武居 軍次郎

平壤 佐々木 大策

元山 待山 義雄

○財務局 長島 義二

局長 野方 寅吉

○司計課長 林 繁藏

理財課長 水田 直昌

○殖産局 村山 道雄

局長 穂積 眞六郎

製造課長 山地 靖之

京城地方專賣局長 陣内 利夫

全州地方專賣局長 橋原 弘

大邱地方專賣局長 宇野 友八

平壤地方專賣局長 朝倉 昇

○仁川稅關 小田 正義

稅關長 大河原 重信

○釜山稅關 瀨戶 道一

稅關長 古庄 逸夫

○京城稅務監督局 國分 重慶

局長 土屋 傳作

○大邱稅務監督局 芳賀 文三

局長 阿部 明治郎

○平壤稅務監督局

局長 阿部 明治郎

○咸興稅務監督局

局長 阿部 明治郎

○高等法院

局長 阿部 明治郎

○京山稅關

局長 阿部 明治郎

○新義州稅關

局長 阿部 明治郎

○京城稅務監督局

局長 阿部 明治郎

○大邱稅務監督局

局長 阿部 明治郎

○平壤稅務監督局

局長 阿部 明治郎

○咸興稅務監督局

局長 阿部 明治郎

○高等法院

局長 阿部 明治郎

局長 阿部 明治郎

鑛山課長 石田 千太郎

商工課長 碓井 忠平

水産課長 木野 藤雄

商工獎勵館長(兼) 碓井 忠平

燃料選鑛研究所長(事務取扱)(兼) 碓井 忠平

地質調査所長 碓井 忠平

○農林局 矢島 杉造

局長 山澤 和二郎

農産課長 岸 勇一

土地改良課長 景山 宜景

農政課長 鈴木 壽男

林政課長 伊藤 重次郎

林業課長 橋本 左太郎

水利課長 橋本 左太郎

○法務局 增永 正一

局長 大原 龍三

○法務課長(兼) 森浦 藤郎

行政課長 富永 文一

○學務局 大野 謙一

局長 金 大羽

○社會課長 岩下 雄三

編輯課長 國富 信一

○觀測所長 國富 信一

○警務局 三橋 孝一郎

局長 丹下 郁太郎

保安課長 伊藤 泰吉

警務課長 柳生 繁雄

圖書課長 西龜 三圭

衛生課長 西龜 三圭

○中樞院 大野 祿一郎

議長政務總監 大野 祿一郎

副議長 侯 朴 泳 孝

書記官長(兼) 大野 祿一郎

○朝鮮關稅訴訟審査委員會 大野 祿一郎

會長政務總監 大野 祿一郎

○朝鮮關稅訴訟審査委員會 大野 祿一郎

會長政務總監 大野 祿一郎

○朝鮮關稅訴訟審査委員會 大野 祿一郎

會長政務總監 大野 祿一郎

○朝鮮關稅訴訟審査委員會 大野 祿一郎

會長政務總監 大野 祿一郎

○朝鮮關稅訴訟審査委員會 大野 祿一郎

會長政務總監 大野 祿一郎

○朝鮮關稅訴訟審査委員會 大野 祿一郎

會長政務總監 大野 祿一郎

○朝鮮關稅訴訟審査委員會 大野 祿一郎

會長政務總監 大野 祿一郎

○朝鮮關稅訴訟審査委員會 大野 祿一郎

會長政務總監 大野 祿一郎

○朝鮮關稅訴訟審査委員會 大野 祿一郎

會長政務總監 大野 祿一郎

○朝鮮關稅訴訟審査委員會 大野 祿一郎

會長政務總監 大野 祿一郎

○朝鮮關稅訴訟審査委員會 大野 祿一郎

會長政務總監 大野 祿一郎

職員錄——朝鮮總督府

八四九

○海州地方法院 矢本 正平

院長 石川 鶴吉

○大邱覆審法院 原 正鼎

院長 河村 靜水

○大邱地方法院 長谷部 光雄

院長 里見 寛二

○釜山地方法院 森田 秀治郎

院長 玉名 友彦

○光州地方法院 吉田 平治郎

院長 橋本 恒五郎

○全州地方法院 五味 逸平

院長 酒井 越夫

○濟生院(京城府) 富永 文一

院長學務局長 富永 文一

○穀物検査所(京城府) 石塚 峻

所長 石塚 峻

○種馬牧場(咸鏡北道雄基邑) 油井 堡治

場長 油井 堡治

○種羊場 坂卷 海三郎

場長 坂卷 海三郎







總務課長 堀田 鼎  
 道路港灣課長 平 輝雄  
 鐵道部長事務取扱(兼) 松本 虎太  
 遞信部長 堀田 鼎  
 專賣局長 堀田 鼎  
 局長 田端 幸三郎  
 庶務課長 赤堀 鐵吉  
 鹽課長 佐々波 外七  
 煙草課長 堀口 友光  
 酒課長 樋口 友光  
 ○基隆稅關(基隆市) 川副 龍雄  
 稅關長 山本 正一  
 監視部長 山本 正一  
 庶務課長(兼) 西村 信一  
 檢查課長 西村 信一  
 ○高雄稅關(高雄市) 中田 榮次郎  
 稅關長 今田 卓爾  
 監視部長 坂田 國助  
 檢查課長 今田 卓爾  
 ○臺北帝國大學 幣原 坦  
 總務課長 幣原 坦  
 文政學部長 今村 完道  
 理農學部長 山根 甚信  
 醫學部長 三田 定則

附屬農林專門部主事 八谷 正義  
 ○臺北高等商業學校 切田 太郎  
 學校長 切田 太郎  
 ○臺南高等工業學校 若槻 道隆  
 學校長 若槻 道隆  
 ○臺北高等學校 谷本 清心  
 學校長 谷本 清心  
 ○臺北第一師範學校 濱武 元次  
 學校長 濱武 元次  
 ○臺北第二師範學校 藤谷 芳太郎  
 學校長 藤谷 芳太郎  
 ○臺中師範學校 松谷 治平  
 學校長 松谷 治平  
 ○臺南師範學校 本田 乙之進  
 學校長 本田 乙之進  
 ○警察官及司獄官練習所 倉治  
 所長 倉治  
 ○圖書館 山中 樵  
 館長 山中 樵  
 ○成德學院(臺北州七星郡) 杵淵 義房  
 院長 杵淵 義房  
 ○松山療養所(臺北州七星郡) 新免 勝  
 所長 新免 勝  
 ○樂生院(臺北州新莊郡) 上川 豐

○養神院 高橋 秀人  
 院長事務取扱 高橋 秀人  
 ○中央研究所(臺北市幸町) 廣義  
 所長 總務長官平塚 廣義  
 ○農林部 澁谷 紀三郎  
 農林部長 澁谷 紀三郎  
 ○工業部長 關 文彦  
 工業部長 關 文彦  
 ○衛生部長 加福 均三  
 衛生部長 加福 均三  
 ○糖業試驗所(臺南市竹篙厝) 安達 左京  
 所長 安達 左京  
 ○臺北州(臺北市) 岡出 幸生  
 知事 岡出 幸生  
 ○內務部長 今川 淵  
 內務部長 今川 淵  
 ○港務部長(兼) 三輪 幸助  
 港務部長(兼) 三輪 幸助  
 ○臺北市尹 石川 定俊  
 臺北市尹 石川 定俊  
 ○基隆市尹 桑原 政夫  
 基隆市尹 桑原 政夫  
 ○新竹州(新竹市) 增田 秀吉  
 知事 增田 秀吉  
 ○內務部長 佐治 孝德  
 內務部長 佐治 孝德  
 ○警務部長 高木 健一  
 警務部長 高木 健一  
 ○新竹市尹 青木 健一  
 新竹市尹 青木 健一  
 ○臺中市(臺中市) 日下 辰太  
 知事 日下 辰太  
 內務部長 鶴友 彦

警務部長 細井 英夫  
 △臺中市尹 藤田 淳敬  
 △彰化市尹 小山 政太郎  
 ○臺南市(臺南市) 藤田 俱治郎  
 知事 藤田 俱治郎  
 內務部長 林田 正治  
 警務部長 佐々木金太郎  
 △臺南市尹 古澤 勝之  
 △嘉義市尹 川添 修平  
 ○高雄州(高雄市) 內海 忠司  
 知事 內海 忠司  
 內務部長 廣谷 致員  
 警務部長 宮尾 五郎  
 港務部長(兼) 宮尾 五郎  
 △高雄市尹 松尾 繁治  
 △屏東市尹 伊藤 完二  
 ○臺東廳 大磐 誠三  
 廳長 大磐 誠三  
 ○花蓮港廳 藤村 寬太  
 廳長 藤村 寬太  
 ○澎湖廳 福元 岩吉  
 廳長 福元 岩吉  
 總務課長 米內山 震作  
 庶務課長 笹川 辰治  
 農事試驗場 森岡 謹一郎  
 場長 中富 貞夫  
 水產試驗場 中富 貞夫  
 場長 中富 貞夫  
 鹽業試驗場 中富 貞夫  
 場長 中富 貞夫  
 植物檢查所 松田 信吉  
 所長 松田 信吉  
 ○種馬所 中富 貞夫  
 所長 中富 貞夫  
 ○旅順博物館 岩朝 庄作  
 館長 岩朝 庄作  
 ○關東體育研究所 蟻川 久太郎  
 所長 蟻川 久太郎  
 ○旅順工科大学 蟻川 久太郎  
 所長 蟻川 久太郎  
 ○旅順師範學校 野田 清一郎  
 校長 野田 清一郎  
 ○旅順女子師範學校 板倉 操平  
 校長 板倉 操平  
 ○旅順女子師範學校 丸山 英一  
 校長 丸山 英一  
 樺太廳(豐原町) 今村 武志

秘書課長 三浦 直彦  
 文書課長 御厨 信市  
 ○司政部 武部 六藏  
 部長事務取扱 武部 六藏  
 經理課長 高瀬 武寧  
 財務課長 杉村 正  
 行政課長(兼) 三浦 直彦  
 殖產課長 山中 德二  
 ○警務部 東條 英機  
 部長陸軍少將 東條 英機  
 警務課長 青木 重信  
 警備課長 青木 重信  
 步兵中佐 鹽澤 清宣  
 高等警察課長(兼) 鹽澤 清宣  
 衛生課長 青木 重臣  
 衛生課長 小坂 隆雄  
 ○監理部 田中 信良  
 部長 田中 信良  
 交通課長事務取扱 田中 信良  
 (兼) 田中 信良  
 遞信課長 伊藤 敏行  
 ○關東州廳(旅順市) 御影池 辰雄  
 長官 御影池 辰雄  
 △長官官房 大和田 彌一  
 庶務課長 大和田 彌一  
 會計課長 荒木 和成

△內務部 白石 喜太郎  
 部長 白石 喜太郎  
 殖產課長 田中 稔  
 殖產課長 田中 稔  
 財務課長 石原 次郎  
 財務課長 石原 次郎  
 地方課長(兼) 蟻川 久太郎  
 地方課長(兼) 蟻川 久太郎  
 學務課長 蟻川 久太郎  
 學務課長 蟻川 久太郎  
 土木課長 清水 本之助  
 土木課長 清水 本之助  
 △警察部 田邊 秀雄  
 部長 田邊 秀雄  
 警務課長 淺子 英  
 警務課長 淺子 英  
 高等警察課長(兼) 淺子 英  
 高等警察課長(兼) 淺子 英  
 保安課長 石橋 美之介  
 保安課長 石橋 美之介  
 衛生課長(兼) 石橋 美之介  
 衛生課長(兼) 石橋 美之介  
 ○旅順民政署 安永 登  
 署長 安永 登  
 ○大連民政署 米內山 震作  
 署長 米內山 震作  
 ○金州民政署 山口 倭太郎  
 署長 山口 倭太郎  
 ○普蘭店民政署 林田 龍喜  
 署長 林田 龍喜  
 ○貔子窩民政署 互 元 啓  
 署長 互 元 啓  
 ○警察官練習所 互 元 啓

所長(兼) 青木 重臣  
 ○高等法院 青木 重臣  
 院長 青木 重臣  
 ○檢察官長 鹿島 鶴之助  
 檢察官長 鹿島 鶴之助  
 ○地方法院 下田 勝久  
 院長 下田 勝久  
 ○檢察官長(兼) 中里 龍  
 檢察官長(兼) 中里 龍  
 ○海務局 渡邊 浩  
 局長 渡邊 浩  
 ○海軍課長 松岡 太郎  
 海軍課長 松岡 太郎  
 ○港務課長 江原 幹三  
 港務課長 江原 幹三  
 ○庶務課長 河合 務  
 庶務課長 河合 務  
 ○觀測所 草間 茂登  
 所長 草間 茂登  
 ○刑務所 宮崎 德安  
 所長 宮崎 德安  
 ○遞信局 伊藤 敏行  
 局長 伊藤 敏行  
 ○總務課長 大久保 武雄  
 總務課長 大久保 武雄  
 ○監督課長 靱 勉  
 監督課長 靱 勉  
 ○經理課長 近藤 儀一  
 經理課長 近藤 儀一  
 ○電氣課長 中里 末雄  
 電氣課長 中里 末雄  
 ○大連貯金管理所 石田 英  
 所長 石田 英  
 ○大連飛行場長 立松 芳次郎  
 大連飛行場長 立松 芳次郎  
 ○專賣局 石田 英

局長(兼) 米內山 震作  
 業務課長 笹川 辰治  
 庶務課長 森岡 謹一郎  
 農事試驗場 中富 貞夫  
 場長 中富 貞夫  
 水產試驗場 中富 貞夫  
 場長 中富 貞夫  
 鹽業試驗場 中富 貞夫  
 場長 中富 貞夫  
 植物檢查所 松田 信吉  
 所長 松田 信吉  
 ○種馬所 中富 貞夫  
 所長 中富 貞夫  
 ○旅順博物館 岩朝 庄作  
 館長 岩朝 庄作  
 ○關東體育研究所 蟻川 久太郎  
 所長 蟻川 久太郎  
 ○旅順工科大学 野田 清一郎  
 所長 野田 清一郎  
 ○旅順師範學校 板倉 操平  
 校長 板倉 操平  
 ○旅順女子師範學校 丸山 英一  
 校長 丸山 英一  
 樺太廳(豐原町) 今村 武志



職員録—南洋廳・警視廳

○長官官房 山田容義
○秘書課長 武藤公平
○農林部 厚地法人
○警務部 中村鷹祐
△支廳長 北村得三
○支廳長 堀安次郎
○支廳長 伊藤英吉
○支廳長 河井智茂
○支廳長 古川武二郎
○支廳長 坂本只次
○支廳長 薄木席二郎
○鐵道事務所 大島忠康
○觀測所 重富剛策
○中央試驗所 三宅康次

書記官 堂本貞一
長官官房秘書課長 依光重親
長官官房文書課長(兼) 依光重親
地方課長 黒部重親
財務課長(事務取扱) 齊藤彌太郎
警務課長 工藤幸定
殖産課長 蘆澤安平
水産課長 上野省三
土木課長 田吹行雄
交通課長 高坂喜一
○パラオ支廳 森直太郎
○サイパン支廳 向井昌治
○ボナエ支廳 田中茂
○觀測所 川崎英男
○高等法院 石川音次
○高等法院檢察局 江崎政行

院長(兼) 石川音次
○パラオ地方法院檢察局 江崎政行
○サイパン地方法院 柳田太郎
○サイパン地方法院檢察局 吉永廣衛
○ボナエ地方法院 牧野三好
○ボナエ地方法院檢察局 江崎政行
○パラオ醫院 井關鼎
○アングアル醫院 中尾正雄
○ヤップ醫院 長崎協三
○サイパン醫院 藤井秀旭
○トラツク醫院 最上泰
○ボナエ醫院 藤井保
○ヤルット醫院 村田帶雲

所長 池田良介
○産業試驗場 栗野龜藏
○産業試驗場ボナエ分場 星野守太郎
警視廳 (麴町區外櫻田町)
○官房 石田馨
○官房主事 今松治郎
○文書課長(警部) 岸本太郎
○情報課長(兼) 今松治郎
○會計課長(警部) 根本英治
○監察官 岩城梯
○第一方面擔當 山下豐
○第二方面擔當 中村清
○警務部 留岡幸男
○警務課長 增原惠吉
○警備隊長 石原虎好
○特別高等警察部 岡崎英城
○特別高等警察部 上田誠一

職員録—地方廳

外事課長 小川喜一
特高第一課長 高橋庸彌
特高第二課長 毛利基
勞働課長 北村隆
内鮮課長 榎本三郎
檢閱課長 尾崎來七
調停課長 伊能芳雄
○刑事部 高野原進
○庶務課長(警部) 小津留之助
○家出人收容課(警部) 小津留之助
○捜査第一課長 浦川秀吉
○捜査第二課長 堀隆三
○鑑識課長 高木保三
○防犯課長(警部) 小津留之助

○保安部 服部直彰
○庶務課長 (缺員)
○保安課長 國鹽耕一郎
○交通課長 吉江勝保
○工場課長 鈴木宗正
○建築課長 石井桂
○健康保險課長 佐藤新
○衛生部 藤新
○衛生課長 中村四郎
○衛生課長(奏待) 岸本太郎
○醫務課長 加藤寬二郎
○防疫課長 井口幸海
○獸醫課長 池上幸健
○衛生検査課長 柿沼三郎
○細菌検査課長 大坪五也
○消防部 重田忠保
○消防課長 水野忠保
○監察課長(兼) 重田忠保
○機械課長 金子保太郎
○警察練習所 留岡幸男
○所長(兼) 留岡幸男
○消防練習所 重田忠保

△支廳長 能木善七
石狩 小林董
渡島 佐熊宏平
檜山 石川志一
後志 永山政能
空知 八卷耕三
上川 森本正雄
留萌 高尾善次
網走 岡田佐市
膽振 御村長太郎
日高 前田豐次郎
十勝 齋藤修三
釧路國 山田三義
根室 福原政二郎
○東京府(麴町區丸の内) 横山助成
○東京府(京都市上京區) 鈴木敬一

○警務部 留岡幸男
○警務課長 增原惠吉
○警備隊長 石原虎好
○特別高等警察部 岡崎英城
○特別高等警察部 上田誠一
○警務部 留岡幸男
○警務課長 增原惠吉
○警備隊長 石原虎好
○特別高等警察部 岡崎英城
○特別高等警察部 上田誠一
○警務部 留岡幸男
○警務課長 增原惠吉
○警備隊長 石原虎好
○特別高等警察部 岡崎英城
○特別高等警察部 上田誠一



**長崎縣(長崎市)**  
 知事 田中 廣太郎  
 總務部長 赤土 正強  
 學務部長 上原 參良  
 警察部長 平井 章  
 經濟部長 早川 元  
 警察部長 原田 實文  
 警察部長 末永 靖  
 警察部長 原口 寅吉  
 警察部長 關屋 延之助  
 警察部長 安原 舜一  
 警察部長 熊野 周二  
 警察部長 梁井 淳二  
 警察部長 荒木 榮二  
 警察部長 土肥 米之  
 警察部長 本間 要  
 警察部長 川西 實三  
 警察部長 玉田 昇次郎  
 警察部長 和田 寬  
 警察部長 遠山 信一郎  
 警察部長 泉 守紀  
 警察部長 君島 清吉  
 警察部長 安井 章一

**群馬縣(前橋市)**  
 知事 安井 章一  
 總務部長 君島 清吉  
 學務部長 泉 守紀  
 警察部長 遠山 信一郎  
 警察部長 和田 寬  
 警察部長 玉田 昇次郎  
 警察部長 川西 實三  
 警察部長 本間 要  
 警察部長 土肥 米之  
 警察部長 荒木 榮二  
 警察部長 梁井 淳二  
 警察部長 熊野 周二  
 警察部長 安原 舜一  
 警察部長 關屋 延之助  
 警察部長 原口 寅吉  
 警察部長 末永 靖  
 警察部長 原田 實文  
 警察部長 早川 元  
 警察部長 平井 章  
 警察部長 上原 參良  
 警察部長 赤土 正強  
 警察部長 田中 廣太郎

**茨城縣(水戸市)**  
 知事 安藤 狂四郎  
 總務部長 山本 秋廣  
 學務部長 山崎 隆義  
 警察部長 柴山 博  
 警察部長 生悅住 求馬  
 警察部長 松村 光廣  
 警察部長 小山 三郎  
 警察部長 相野田 彌平  
 警察部長 星子 政雄  
 警察部長 久安 博忠  
 警察部長 一戸 二郎  
 警察部長 竹田 武男  
 警察部長 中原 啓造  
 警察部長 乾 武

**栃木縣(宇都宮市)**  
 知事 松村 光廣  
 總務部長 小山 三郎  
 學務部長 相野田 彌平  
 警察部長 星子 政雄  
 警察部長 久安 博忠  
 警察部長 一戸 二郎  
 警察部長 竹田 武男  
 警察部長 中原 啓造  
 警察部長 乾 武

**群馬縣(前橋市)**  
 知事 安井 章一  
 總務部長 君島 清吉  
 學務部長 泉 守紀  
 警察部長 遠山 信一郎  
 警察部長 和田 寬  
 警察部長 玉田 昇次郎  
 警察部長 川西 實三  
 警察部長 本間 要  
 警察部長 土肥 米之  
 警察部長 荒木 榮二  
 警察部長 梁井 淳二  
 警察部長 熊野 周二  
 警察部長 安原 舜一  
 警察部長 關屋 延之助  
 警察部長 原口 寅吉  
 警察部長 末永 靖  
 警察部長 原田 實文  
 警察部長 早川 元  
 警察部長 平井 章  
 警察部長 上原 參良  
 警察部長 赤土 正強  
 警察部長 田中 廣太郎

**山梨縣(甲府市)**  
 知事 土屋 正三  
 總務部長 久保田 貞  
 學務部長 和久 貞  
 警察部長 山内 逸造  
 警察部長 西 義一  
 警察部長 多湖 實夫  
 警察部長 刀福 有秋  
 警察部長 安倍 源基  
 警察部長 齋藤 樹  
 警察部長 齋藤 樹  
 警察部長 永井 浩  
 警察部長 松崎 謙二  
 警察部長 山口 十一郎  
 警察部長 岩上 夫美雄

**愛知縣(名古屋市)**  
 知事 篠原 英太郎  
 總務部長 足立 收  
 學務部長 永井 浩  
 警察部長 松崎 謙二  
 警察部長 山口 十一郎  
 警察部長 岩上 夫美雄

**三重縣(津市)**  
 知事 富田 愛次郎  
 總務部長 關野 英  
 學務部長 關口 勳  
 警察部長 石建 國次郎  
 警察部長 井田 完二  
 警察部長 加藤 誠一

**滋賀縣(大津市)**  
 知事 二見 直三  
 總務部長 中村 茂  
 學務部長 木村 政司  
 警察部長 福光 正義  
 警察部長 山田 俊介

**岐阜縣(岐阜市)**  
 知事 坂 千秋  
 總務部長 宮村 才一郎  
 學務部長 高野 長春  
 警察部長 田中 進  
 警察部長 町村 金五  
 警察部長 前名 三藏

**長野縣(長野市)**  
 知事 近藤 駿介  
 總務部長 田中 修  
 學務部長 野間 正秋  
 警察部長 八田 三郎  
 警察部長 土肥 憲二  
 警察部長 加々美 輝

**宮城縣(仙台市)**  
 知事 菊山 嘉男  
 總務部長 永安 百治  
 學務部長 水谷 秀雄

**山口縣(山口市)**  
 知事 小菅 芳次  
 總務部長 戶塚 九一郎  
 學務部長 辻野 三郎  
 警察部長 川井 章知  
 警察部長 菊池 盛登

**和歌山縣(和歌山市)**  
 知事 吉永 時次  
 總務部長 中島 知道  
 學務部長 小田 成就  
 警察部長 廣田 増太郎  
 警察部長 中村 良三

**德島縣(德島市)**  
 知事 清水 良策  
 總務部長 後藤 耕造  
 學務部長 湯本 二郎  
 警察部長 工藤 鐵太郎  
 警察部長 森本 克己

**香川縣(高松市)**  
 知事 佐藤 正俊  
 總務部長 稻垣 潤太郎  
 學務部長 岡 利和  
 警察部長 沖森 源一  
 警察部長 宮脇 參三

**福島縣(福島市)**  
 知事 伊藤 武彦  
 總務部長 出石 於克彦  
 學務部長 諸橋 襄  
 警察部長 迫 靜吾  
 警察部長 小田 光伴  
 警察部長 水谷 平吉

**岩手縣(盛岡市)**  
 知事 石黒 英彦  
 總務部長 柳井 義男  
 學務部長 伊藤 謹二  
 警察部長 小山 知一  
 警察部長 堀田 健男  
 警察部長 大森 新陸

**青森縣(青森市)**  
 知事 小林 光政  
 總務部長 渡 正監  
 學務部長 高辻 武邦  
 警察部長 中村 元治  
 警察部長 池田 長吉

**山形縣(山形市)**  
 知事 荒山 隆  
 總務部長 金森 太郎  
 學務部長 山形 隆  
 警察部長 荒山 隆

**秋田縣(秋田市)**  
 知事 兒玉 政介  
 總務部長 久慈 學  
 學務部長 伊藤 久松  
 警察部長 酒井 榮吉  
 警察部長 高橋 寅治

**福井縣(福井市)**  
 知事 羽生 雅則  
 總務部長 松崎 陽一  
 學務部長 奥田 久七郎  
 警察部長 高橋 一郎  
 警察部長 福本 柳一

**石川縣(金澤市)**  
 知事 生駒 高常  
 總務部長 麻生 亮藏  
 學務部長 山口 乾治  
 警察部長 中川 剛毅  
 警察部長 山田 武雄

**富山縣(富山市)**  
 知事 土岐 銀次郎  
 總務部長 小早川 貞登  
 學務部長 遠藤 直人  
 警察部長 松岡 四郎

**鳥取縣(鳥取市)**  
 知事 立田 清辰  
 總務部長 末原 貫一郎  
 學務部長 高橋 三郎  
 警察部長 篠山 千之  
 警察部長 桂 定治郎

**島根縣(松江市)**  
 知事 兒玉 九一  
 總務部長 崎山 省吾  
 學務部長 加藤 初夫  
 警察部長 崎田 義雄  
 警察部長 重成 格

**岡山縣(岡山市)**  
 知事 多野 兼三  
 總務部長 矢野 兼三  
 學務部長 並川 義隆  
 警察部長 長谷川 公一  
 警察部長 廣瀬 永造

**廣島縣(廣島市)**  
 知事 早川 三郎  
 總務部長 安岡 正光  
 學務部長 鈴木 信藏  
 警察部長 長谷川 勝伍

**山口縣(山口市)**  
 知事 小菅 芳次  
 總務部長 戶塚 九一郎  
 學務部長 辻野 三郎  
 警察部長 川井 章知  
 警察部長 菊池 盛登

**和歌山縣(和歌山市)**  
 知事 吉永 時次  
 總務部長 中島 知道  
 學務部長 小田 成就  
 警察部長 廣田 増太郎  
 警察部長 中村 良三

**德島縣(德島市)**  
 知事 清水 良策  
 總務部長 後藤 耕造  
 學務部長 湯本 二郎  
 警察部長 工藤 鐵太郎  
 警察部長 森本 克己

**香川縣(高松市)**  
 知事 佐藤 正俊  
 總務部長 稻垣 潤太郎  
 學務部長 岡 利和  
 警察部長 沖森 源一  
 警察部長 宮脇 參三



愛媛縣(松山市)

知事 大場 鑑次郎  
 總務部長 白井 博  
 學務部長 猪股 博  
 經濟部長 關外 余男  
 警察部長 網島 覺左衛門  
 △宇和支廳長 宮本 平八  
 高知縣(高知市)  
 知事 泊 武治  
 總務部長 山内 義文  
 學務部長 上村 靖  
 經濟部長 渡邊 廣  
 警察部長 橋本 政實  
 △幡多支廳長 高原 早雄  
 福岡縣(福岡市)  
 知事 畑山 四男美  
 總務部長 平 敏孝  
 學務部長 辻 利吉  
 經濟部長 郡山 義夫  
 土木部長 坂本 一平  
 警察部長 畠田 昌福  
 大分縣(大分市)  
 知事 白松 篤樹  
 總務部長 淵上 房太郎  
 學務部長 菅澤 肇  
 經濟部長 越野 菊雄  
 警察部長 村田 五郎  
 知事 佐賀縣(佐賀市)  
 總務部長 古川 靜夫  
 學務部長 竹崎 米吉  
 經濟部長 奥田 茂造  
 警察部長 桃井 直美  
 今井 久  
 熊本縣(熊本市)  
 知事 藤岡 長和  
 總務部長 小西 竹次郎  
 學務部長 西岡 廣吉  
 經濟部長 小泉 梧郎  
 警察部長 長船 克己  
 北田 正重  
 宮崎縣(宮崎市)  
 知事 三島 誠也  
 總務部長 眞崎 長年  
 學務部長 稻内 清二  
 經濟部長 弘田 重夫  
 警察部長 沖野 悟  
 △西臼杵支廳長 西澤 喜義  
 鹿兒島縣(鹿兒島市)  
 知事 中村 安二郎  
 總務部長 田島 義士  
 學務部長 緒方 幸三郎  
 經濟部長 阿部 邦一

東京市役所

警察部長 坂 信彌  
 △熊毛支廳長 江口 義昭  
 △大島支廳長 幸田 一雄  
 沖繩縣(那覇市)  
 知事 藏 重久  
 總務部長 清水 谷徹  
 學務部長 佐藤 幸一  
 經濟部長 森下 重格  
 警察部長 西井 一孝  
 市役所  
 市長 牛塚 虎太郎  
 助役 大久保 留次郎  
 助役 中野 邦一  
 助役 近 新三郎  
 助役 缺 新三郎  
 收入役 平野 義貞  
 收入役 西川 武雄  
 收入役 樋口 專之輔  
 監查局長事務取扱 前田 賢次  
 財務局長 平山 泰  
 產業局長 荒木 孟  
 教育局長 伊藤 昌庸  
 社會局長 澤 逸興  
 保健局長 宮川 宗徳  
 品川區(定員五)  
 石原 永明  
 松原 傳吉  
 目黒區(定員三)  
 神山 錠五郎  
 荏原區(定員三)  
 伊藤 武七郎  
 大森區(定員四)  
 松尾 永次郎  
 蒲田區(定員二)  
 田中 彌次右衛門  
 世田谷區(定員三)  
 河野 惣八  
 澁谷區(定員五)  
 平川 進市郎  
 石原 勘右衛門  
 澁橋區(定員四)  
 佐藤 榮志  
 小針 孫太郎  
 中野區(定員三)  
 小池 長太郎  
 杉並區(定員三)  
 高橋 德三郎  
 豐島區(定員六)  
 鍋島 由七郎  
 瀧澤 龍太郎  
 大橋 清太郎  
 中島 勝五郎  
 仲澤 芳朗  
 須田 銅治  
 加藤 榮助  
 山口 直  
 鍋木 小平次  
 横溝 直也  
 平林 次郎  
 吉田 直治  
 鈴木 堅次郎  
 廣川 弘  
 辰野 保  
 川田 友之  
 萩島 茂留  
 市倉 兼吉  
 森 俊成  
 花村 四郎  
 内田 秀五郎  
 中村 梅吉  
 山口 玉造  
 笠井 重治  
 水道局長 原 全路  
 土木局長 衣斐 清香  
 電氣局長 後藤 梯次  
 港灣部長 鈴木 榮一郎  
 養育院長 大倉 喜七郎  
 中央卸賣市場事務取扱 近 新三郎  
 電氣研究所長 太田 原俊  
 文書課長 吉山 眞棹  
 秘書課長事務取扱 栗原 彦太  
 職員課長 大野 定男  
 區長  
 麴町 天矢 景光  
 神田 宮尾 時司  
 日本橋 川口 寛三  
 芝 荳場 順治  
 麻布 筒井 茂也  
 赤坂 眞田 義治  
 四谷 藤田 文之助  
 牛込 佐藤 傳四郎  
 小石川 市川 守吉  
 本郷 井上 桂  
 下谷 岡崎 榮松  
 淺草 神谷 秀吉  
 本所 穴澤 藤作  
 深川 三好 毅

市參事會員

品川區(定員五)  
 工藤 隆治  
 千葉 胤次  
 上田 房吉  
 正木 虎藏  
 加藤 守道  
 岡野 民徳  
 岸本 千秋  
 大迫 元繁  
 野中 富三郎  
 増田 穆  
 石森 勳夫  
 服部 鶴五郎  
 田淵 義雄  
 守屋 正二  
 兒玉 益治  
 三村 鶴太郎  
 竹内 竹丸  
 石黒 良縁  
 高橋 徳太郎  
 矢田部 美佐保  
 須藤 喜三郎  
 森 兼道  
 神山 錠五郎  
 池田 清秋  
 田代 義徳  
 川口 壽  
 荒川區(定員五)  
 畔高 定行  
 山口 玉造  
 杉野 善作  
 東京市會議員(定員四)  
 (昭和十年八月末日現在)  
 議長 子爵 森 俊成  
 副議長 松永 東  
 麹町區(定員二)  
 池田 清秋  
 深澤 豊太郎  
 鈴木 正之助  
 渡邊 秀雄  
 野波 淳  
 日本橋區(定員四)  
 大野 菊三  
 河端 義三郎  
 京橋區(定員五)  
 早川 庄太郎  
 中南 定太郎  
 芝區(定員六)  
 川手 忠義  
 中塚 榮次郎  
 西澤 喜三郎  
 麻布區(定員三)  
 村松 恒一郎  
 赤坂區(定員二)  
 中西 敏二  
 四谷區(定員三)  
 本田 義成  
 牛込區(定員四)  
 菊池 民一  
 溝口 信  
 小石川區(定員五)  
 化川 榮次郎  
 川口 壽  
 本郷區(定員五)  
 杉ノ原 英太郎  
 高崎 高次郎  
 下谷區(定員六)  
 森 富太  
 田代 義徳  
 中林 軍平  
 淺草區(定員八)  
 松崎 權四郎  
 鈴木 慶四郎  
 結貝 昌藏  
 松崎 孫太郎  
 本所區(定員八)  
 森 兼道  
 井田 友平  
 赤羽 彌吾司  
 深川區(定員六)  
 一又 安平  
 廣瀬 新平  
 中西 雄洞  
 島田 辰太郎  
 横井 春野  
 松永 東  
 田中 忠左衛門  
 森脇 源三郎  
 友成 四郎  
 安部 利七  
 豐島 茂一  
 長野 高一  
 倉持 忠助  
 小野 利三郎  
 茂木 太市  
 伊藤 仁太郎  
 加藤 榮助  
 有竹 雅己  
 糟谷 磯平  
 杉野 善作  
 瀧澤 七郎  
 阿部 茂夫  
 淺沼 稻次郎  
 本多 市郎  
 宮村 龜一  
 品川區(定員五)  
 大橋 清太郎  
 中島 勝五郎  
 仲澤 芳朗  
 須田 銅治  
 加藤 榮助  
 山口 直  
 鍋木 小平次  
 横溝 直也  
 平林 次郎  
 吉田 直治  
 鈴木 堅次郎  
 廣川 弘  
 辰野 保  
 川田 友之  
 萩島 茂留  
 市倉 兼吉  
 森 俊成  
 花村 四郎  
 内田 秀五郎  
 中村 梅吉  
 山口 玉造  
 笠井 重治



















# 活字印刷機械

各種製造販賣

宋朝活字長體方體  
最新の正楷書活字

各號全部完成

名古屋市東區鶴重町

津田三省堂

名古屋私書函一二〇號  
電話東二〇九五番  
振替名古屋七二〇番

書風見本定價表  
申越次第贈呈

中綿のよこ

# 西川のふとん

東京日本橋角

西川

創業永祿九年 三十七百一前年

優良品廉價

衣具、さぶとん、か、モスリン、めいせん、各種  
毛布、寝臺、セ、ネ、婦人コート  
上布、麻糸、婦人子供洋服  
箆筒、鏡臺

本支店	東京日本橋角	西川商店
同	通三	西川商店
大阪本町	西川商店	豊後津野町
京都寺町	西川商店	近江龍登川
	西川商店	近江八幡町
	西川商店	西川商店
	西川商店	西川商店
	西川商店	西川商店





リすど水だん進歩一に療治と防豫

# アセモ香水

薬用

あせも  
くさ  
にきび

面白いほど  
ヨクキク  
ぬりぐすり  
薬價 三十銭・五十銭

# ネオザロサン

りん病  
重症用



眞に「ヨクキク」  
高級治淋新薬  
「りん病」に「せうかち」に  
スグ試みよ！

◎淋病と治療法の小冊子進呈  
薬價 二圓、三圓、五圓

大貝誠進堂

大坂九條中通一

## 營業種目

揮發油 機油 石油 重油 輕油  
マシントイン油  
ターペンタイン油  
ワックス  
シエルトックス

發售

營業所

名古屋市中區新榮町一ノ二

電話東 (4)

三三三六六番  
三三三六六番  
六七七九五番

倉庫

名古屋市南區千代田町一ノ七九

電話南 (6) 二四五八番

中川運河油槽所

名古屋市南區清川町二丁目  
電話南 (6) 二八七七番

ライジングサン石油株式會社代理店

## 會社名 名古屋貝印揮發油發賣所





輪轉機・原紙・インキ

本店

株式 阪田商會 會社

大阪市此花區上福島北一丁目一四  
電話 福島 (45) 2351・2352

- 支店 ・ 東京市芝區金杉濱町七十一
- 同 ・ 名古屋市西區六旬町二丁目
- 同 ・ 門司市小森江矢筈町一丁目
- 同 ・ 福岡市博多瓦町 停留所前
- 特約店 盛文堂 京城府長谷川町九十一
- 同 平安堂 京都市河原町竹屋町上
- 同 喜音堂 廣島市段原東浦
- 同 岩崎商工社 山口縣柳井町新町
- 愛媛縣販賣所 愛媛縣八幡濱市棧橋通

### 國民新聞社發行圖書

東京市京橋銀座西四七丁目  
振替口座東京三六六三番

誰にもわかる **人相と手相**

四六判美裝 定價十錢 (送料二錢)  
人相手相は運命を豫知するに比較的根拠があり判断が容易である。本書は觀相の大家田畑大右氏が三十年の實踐を基礎として最も平易に説いたもの。一讀直ちに應用ができる。

入學試験問題及答案集

四六倍判 定價二十錢 (送料二錢)  
東京府市官公立中等學校三十五校の十一年度入學試験問題と模範答案及び受験の参考事項、合格のユツなどが満載されてゐる。受験児童や父兄になくてならぬ参考書である。

衆議院議員名鑑

四六判美本 定價十錢 (送料二錢)  
昭和十一年二月に行はれた總選挙に當選せる新代議士の官職、政派別、富、回数、年齢、職業、経歴等が一目瞭然、末尾には著者の一覽表が添付してある。

東京近郊の行樂

四六判美本 定價十五錢 (送料二錢)  
春の花、夏の綠蔭、秋の紅葉、四季の温泉にハイキングに適地として何處を遊ぶべきか、之等の希望に對しその行先と行程を説明せる日歸り行樂の上き案内書である。

腕一本開運術

四六判百八十頁定價六十錢 (送料不要)  
本書は前本社經濟部次長鈴木萬造氏の著、腕一本、腰一本の熱と力を傾倒して、自己の運命を開拓するにはどうすればよいか、人世修業あの手、この手を詳述したものである。

法然上人

四六判美裝 定價十錢 (送料二錢)  
本社主催佛敎講演會に於ける淨土宗の權威者井智海管長、中村兼康師、佐山學庵師、石井敬道師等の講演を収録したもので淨土宗早わかりと云ふべきものである。

卸賣市場の常識

四六判美本 定價十錢 (送料二錢)  
中央卸賣市場が開場された當時、が社は卸賣市場に關する座談會を主催した。本書はその機構及び利用法等に就て權威者の豊富な座談の内容である。一讀利用せられよ。

裁かれる人生

四六判美本 定價十錢 (送料二錢)  
近代文化の發達に伴ひ犯罪の内容が著しく複雑化して來た之等犯罪中社會と關係の深い特に感興多きもの數篇を選びて讀物としたものである。



專攻 業商・理計・律法・濟經

總長

男爵 法學博士

阪谷芳郎

創立 明治十三年

晝夜

豫門 學部

部部科

專修大學

募集

呈送内案學入

經濟學部長 法學部長 商學計理學部長

道家齊一 須賀喜三郎 小泉嘉章

町保神區田神市京東

公爵議員

岩倉具榮(火) 伊藤博精(火) 一條實孝(火) 德川家達(火) 德川順(火) 德大寺公弘(火) 大司柏(無) 鷹司信輔(火) 九條道秀(火) 山縣有道(火) 西園寺公望(無) 三條公輝(火) 島津忠承(火) 島津忠重(火) 毛利元昭(無)

職員錄 貴族院

侯爵議員

井上三郎(火) 池田仲博(火) 池田宣政(火) 蜂須賀正氏(火) 細川護立(火) 東郷彪(火) 德川賴貞(火) 德川義親(火) 大久保利武(研) 大隈信常(火) 華頂博信(無) 伊達宗彰(火) 醍醐忠重(無) 筑波藤磨(火) 鍋島直映(火) 中山輔親(火) 中御門經恭(火) 野津鎮之助(火) 黒田長成(研) 山内豊景(火) 山階芳麿(火) 前田利爲(火) 松平康昌(火) 久我常通(火) 小松輝久(無) 小村捷治(火)

伯爵議員

淺野長勳(無) 西郷從德(火) 嵯峨公勝(火) 佐竹義春(火) 佐佐木行忠(火) 木戸幸一(火) 菊亭公長(火) 四條隆愛(火) 廣幡忠隆(火) 林博太郎(研) 橋本實斐(研) 堀田正恒(研) 川村鐵太郎(研) 樺山愛輔(研) 黒木三光(研) 柳原義光(研) 副島道正(研) 山田英夫(研) 松木宗隆(研) 二荒芳德(研) 後藤一藏(研) 兒玉秀雄(研) 有馬頼寧(研) 酒井忠克(研) 酒井忠正(研) 溝口直亮(研)

子爵議員

岩城隆德(研) 伊東二郎(丸) 井上勝純(研) 井上匡四郎(研) 今城定政(研) 池田政時(研) 伊集院兼知(研) 西大路吉光(研) 西尾忠方(研) 西四辻公堯(研) 保科正昭(研) 豐岡圭資(研) 戶澤正己(研) 土岐章(研) 富小路隆直(研) 大岡忠綱(研) 大河内輝耕(研) 大久保立景(研) 岡部長景(研) 織田信恒(研) 渡邊千冬(研) 加藤泰通(研) 片桐貞央(研) 米倉昌達(研) 米津政賢(研) 吉田清風(研)







職員錄——貴族院

米田國臣(研) 立花種忠(研) 高橋是賢(研) 高木正得(研) 立見豐丸(研) 高倉篤磨(研) 谷儀一(研) 冷泉為勇(研) 曾我祐邦(研) 鍋島直繩(研) 裏松友光(研) 梅園篤彦(研) 梅小路定行(研) 植村家治(研) 野村益三(研) 增山正興(研) 前田利定(研) 松平忠壽(研) 松平直平(研) 松平乘統(研) 松平康春(研) 松平保男(研) 松平廣城(研) 薛田清賢(研) 舟橋秀磨(研) 近衛光(研) 青木信光(研)

男爵議員

綾小路護(研) 秋田重季(研) 秋元春朝(研) 安藤信昭(研) 實吉純郎(研) 清岡長言(研) 京極高修(研) 水無瀬忠政(研) 三室戶敬光(研) 三島通陽(研) 白川資長(研) 新庄直知(研) 毛利元恒(研) 岩倉道俱(研) 岩村一木(研) 伊藤文吉(研) 伊藤磐楠(研) 井田昌植(研) 稻田清純(研) 今井國貞(研) 今枝直規(研) 伊江朝助(研) 飯田精太郎(研) 原田熊雄(研)

橋元正輝(公) 東郷喜安(公) 德川喜連(公) 長基太郎(公) 小畑大太郎(公) 大井成元(公) 大藏公望(公) 大寺純藏(公) 大森佳一(公) 沖貞男(公) 奧田剛郎(公) 渡邊汀(公) 渡邊修二(公) 加藤成之(公) 金子有道(公) 鄉誠之助(公) 高崎弓彦(公) 高木喜寬(公) 園田武彦(公) 辻太一郎(公) 鍋島直明(公) 中村謙一(公) 中島久萬吉(無) 黑田長和(公) 山根健男(公) 矢吹省三(公)

安場保健(公) 松岡均平(公) 松尾義夫(公) 松平外與磨(公) 松田正之(公) 深尾隆太郎(公) 福原俊丸(公) 近藤滋彌(公) 有地藤三郎(公) 赤松範一(公) 足立豐(公) 淺田良逸(公) 安保清種(公) 佐藤達次郎(公) 坂谷芳郎(公) 坂本俊篤(公) 紀俊秀(公) 北河原公平(公) 北島貴孝(公) 菊池武夫(公) 肝付兼英(公) 三須精一(公) 東久世秀雄(公) 關義壽(公) 千日嘉平(公) 千秋季隆(公)

勅選議員

周布兼道(公) 杉溪由言(公) 岩田宙造(和) 市來乙彦(研) 大塚勝太郎(交) 磯村豐太郎(研) 稻畑勝太郎(和) 今井五介(研) 今井清德(和) 伊澤多喜男(同) 馬場鏞一(研) 八田嘉明(研) 原保太郎(和) 橋本圭三郎(交) 坂西利八郎(研) 仁井田益太郎(和) 西野元(研) 堀啓次郎(研) 堀切善次郎(研) 朴泳孝(無) 出淵勝次(和) 德富猪一郎(和) 小幡西吉(和) 大橋新太郎(研) 大川平三郎(交) 大谷尊由(研)

太田政弘(研) 大塚惟精(研) 大島健一(和) 大橋八郎(和) 岡田文次(和) 岡喜七郎(交) 織田萬(和) 小倉正恒(研) 小原直(和) 若林養藏(研) 若尾璋八(交) 若槻禮次郎(和) 渡邊暢(無) 和田彦次郎(交) 川上親晴(同) 川村竹治(交) 樺山資英(無) 河田烈(無) 加藤政之助(同) 門野幾之進(和) 各務鎌吉(和) 嘉納治五郎(和) 金杉英五郎(研) 芳澤謙吉(交) 田所美治(和) 高田早苗(同)

武富時敏(同) 竹越與三郎(交) 田澤義鋪(無) 塚本清治(同) 次田大三郎(同) 根津嘉一郎(研) 內藤久寬(研) 長岡隆一郎(交) 中川小十郎(交) 中村秀次郎(和) 永田純九郎(交) 中村健藏(和) 室田義文(交) 內田重成(交) 鶴澤聰明(交) 宇佐美勝夫(和) 潮惠之輔(研) 野村德七(和) 黑田英雄(無) 黑崎定三(研) 倉知鐵吉(和) 山岡萬之助(研) 山本端夫(研) 丸山達雄(交) 松井慶四郎(無)

松井茂(和) 松村義一(公) 松村眞一郎(研) 松浦鎮次郎(和) 松本丞治(無) 松本學(研) 眞野文二(和) 藤原銀次郎(研) 藤沼庄平(研) 藤山雷太(研) 二上兵治(無) 福永吉之助(無) 木場貞長(研) 後藤文夫(無) 小久保喜七(交) 小山松吉(無) 幸顯榮(和) 古島一雄(交) 江口定條(和) 遠藤柳作(研) 阿部房次郎(和) 有吉忠一(和) 有賀光豐(研) 青木周三(同) 赤池濃(和) 安立綱之(和)

職員錄——貴族院



佐藤 三吉(交)  
佐藤 鐵太郎(和)  
菊池 恭三(同)  
三井 清一郎(研)  
光永 星郎(和)  
水野 鍊太郎(交)  
南 弘(交)  
宮田 光雄(研)  
宮尾 舜治(研)  
三宅 秀(同)  
柴田 善三郎(同)  
勝田 主討(研)  
幣原 喜重郎(和)  
白根 竹介( )  
土方 寧(無)  
土方 久徵(無)  
平生 夙三郎(無)  
關屋 貞三郎(研)  
菅原 通敬(同)  
鈴木 喜三郎(交)  
小野塚喜平次(無)  
田中館 愛橋(無)  
三上 參次(無)  
長岡 半太郎(無)

宮崎 岩崎 清行(交)  
島根 絲原 武太郎(研)  
北海道 板谷 宮吉(研)  
山口 石川 三郎(研)  
千葉 濱口 儀兵衛(研)  
長崎 橋本 辰二郎(研)  
和歌山 西本 健次郎(研)  
東京 細田 安兵衛(研)  
同 小野 耕一( )  
石川 本多 政樹(公)  
香川 大西 虎之介(交)  
茨城 大和田 健三郎(同)  
福岡 太田 清藏(交)  
同 大藪 守治(研)  
京都 大澤 德太郎(研)  
北海道 金子 元三郎(研)  
福島 金成 通(研)  
富山 金岡又左衛門(同)  
神奈川 上郎 清助(研)  
京都 風間八左衛門(研)  
鳥取 米原 章三(研)  
滋賀 吉田 羊治郎(交)  
新潟 高島 順作(研)  
埼玉 田中 徳兵衛(交)  
兵庫 田村 新吉(同)

長野 武井 覺太郎(同)  
秋田 辻 兵吉(研)  
山梨 名取 忠愛(研)  
愛媛 仲田 傳之松(研)  
靜岡 中村 圓一郎(研)  
熊本 長野 忠次(研)  
鹿兒島 上野喜左衛門(研)  
岐阜 上松 泰造(研)  
青森 宇野 勇作(交)  
高知 野村 茂久馬(研)  
栃木 久保 市三郎(研)  
鹿兒島 久米田新太郎(研)  
岡山 山上 岩二(交)  
熊本 山隈 康(研)  
奈良 山本 米三(同)  
兵庫 松岡 潤吉(研)  
愛知 松澤 清次郎(研)  
廣島 松本 勝太郎(和)  
埼玉 松本 眞平(研)  
三重 小林 嘉平治(和)  
長野 小坂 順造(同)  
茨城 青木 才次郎(交)  
岡山 坂野 鉄次郎(同)  
大阪 佐々木八十八(和)  
福島 油井 徳藏(和)  
千葉 三橋 彌(交)

八六八  
廣島 水野 甚次郎(交)  
山形 三浦 新七(和)  
徳島 三木 與吉郎(研)  
新潟 西勢 春三(研)  
群馬 澁澤 金藏(交)  
愛知 下出 民義(交)  
神奈川 平沼 亮三(同)  
沖繩 平尾 喜三郎(研)  
大分 久恒 貞雄(交)  
大阪 森 平兵衛(研)  
岩手 瀨川彌右衛門(無)  
靜岡 鈴木 幸作(研)  
人名の下括弧内、又は火曜會、研は研究會、公は公友會、和は同和會、同は同成會、交は交友會、無は無所屬の略

衆議院 (昭和一九二七現在)  
議長 富田 幸次郎(無)  
副議長 岡田 忠彦(無)  
東京府 第一區(五人)  
河野 密(第一)  
渡邊 鍊藏(民)  
原 玉重(民)  
橋本 祐幸(民)  
第二區(五人)  
安部 磯雄(第一)  
中島 彌關次(民)

鳩山 一郎(政)  
駒井 重次(民)  
長野 高一(民)  
第三區(四人)  
頼母木 桂吉(民)  
安藤 正純(政)  
田川 大吉郎(第三)  
小坂 梅吉(民)  
第四區(四人)  
淺沼稻次郎(第一)  
眞鍋 儀十(民)  
森 兼道(民)  
太田 信治郎(民)  
第五區(五人)  
加藤 勘十(第一)  
麻生 久(第一)  
斯波 貞吉(民)  
牧野 賤男(政)  
伊藤 武七郎(民)  
第六區(五人)  
中村 梅吉(民)  
鈴木 文治(第一)  
前田 米藏(政)  
佐藤 正(民)  
田中 源(政)  
第七區(三人)

八並 武治(民)  
津雲 國利(政)  
山口 久吉(昭)  
神奈川縣 第一區(三人)  
岡崎 憲(第一)  
戸井 嘉作(民)  
飯田 助夫(民)  
第二區(四人)  
小泉 又治郎(民)  
片山 哲(第一)  
川口 義久(政)  
野田 武夫(民)  
第三區(四人)  
岡崎 久治郎(民)  
平川 松太郎(民)  
胎中楠右衛門(政)  
河野 一郎(政)  
埼玉縣 第一區(四人)  
松永 東(民)  
宮崎 一(政)  
高橋 泰雄(政)  
鈴木 康太郎(民)  
第二區(四人)  
高橋 守平(民)

横川 重次(政)  
石坂 養平(政)  
綾川 武治(昭)  
第三區(三人)  
野中 徹也(國)  
出井 兵吉(政)  
山森 利一(民)  
群馬縣 第一區(五人)  
中島 知久平(政)  
青木 精一(昭)  
飯塚 春太郎(民)  
清水 留三郎(民)  
生方 大吉(民)  
第二區(四人)  
最上 政三(民)  
畑 桃作(政)  
木村 三四郎(民)  
篠原 義政(政)  
千葉縣 第一區(四人)  
多田 滿長(民)  
篠原 陸朗(民)  
川島 正次郎(政)  
本多 貞次郎(政)  
第二區(三人)

八六九  
吉植 庄亮(政)  
今井 健彦(政)  
鶴澤 宇八(民)  
第三區(四人)  
岩瀬 亮(政)  
土屋 清三郎(民)  
池田 清秋(民)  
小高 長三郎(政)  
茨城縣 第一區(四人)  
内田 信也(昭)  
豊田 豊吉(民)  
中崎 俊秀(民)  
宮古 啓三郎(政)  
第二區(三人)  
中井川 浩(民)  
石川 三郎(昭)  
山崎 猛(政)  
第三區(四人)  
風見 章(國)  
飯村 五郎(昭)  
山本 余吉(民)  
佐藤 洋之助(政)  
栃木縣 第一區(五人)  
船田 中(政)



宮城縣  
第一區(五人)  
高田 耘平(民)  
大門 恒作(民)  
岡田 喜久治(民)  
坪山 德彌(政)  
第二區(四人)  
松村 光三(政)  
木村 淺七(民)  
高松 長三(民)  
森下 國雄(民)

宮城縣

第一區(五人)  
内ヶ崎作三郎(民)  
守屋 榮夫(昭)  
菅原 傳(政)  
宮澤 清作(政)  
佐々木家壽治(政)  
第二區(三人)  
小山 倉之助(民)  
村松 久義(民)  
大石 倫治(政)

福島縣

第一區(三人)  
栗山 博(民)  
堀切 善兵衛(政)  
菅野善右衛門(政)  
第二區(五人)

北 吟 吉(第二)  
松井 郡治(民)  
第二區(四人)  
小柳 牧衛(民)  
松木 弘(政)  
佐藤 與一(民)  
高岡 大輔(國)

第三區(五人)  
大竹 貫一(國)  
内藤 久一郎(民)  
三宅 正一(第二)  
山田 又司(政)  
佐藤 謙之輔(民)

第四區(三人)  
川合 直次(政)  
増田 義一(民)  
武田 德三郎(政)

長野縣

第一區(三人)  
松本 忠雄(民)  
田中 邦治(民)  
田中 彌助(政)  
小山 邦太郎(民)  
小山 亮(第二)  
春日 俊文(政)  
第三區(四人)

八田 宗吉(政)  
仲西 三良(民)  
助川 啓四郎(政)  
湊 季松(民)  
林 平馬(民)  
第三區(三人)  
比佐 昌平(民)  
氏家 清(民)  
鈴木 辰三郎(政)

岩手縣

第一區(三人)  
田子 一民(政)  
八角 三郎(政)  
菊池長右衛門(政)  
第二區(四人)  
松川 昌藏(政)  
鶴見 祐輔(民)  
志賀 和多利(政)  
三鬼 鑑太郎(昭)

青森縣

第一區(三人)  
工藤 鐵男(民)  
小笠原八十美(政)  
藤井 達二(政)  
第二區(三人)  
兼田 秀雄(昭)

宮澤 胤勇(民)  
木下 信(民)  
北原阿智之助(民)  
中原 謹司(第二)  
第四區(三人)  
畔田 明(第二)  
植原 悦二郎(政)  
百瀬 渡(民)

山梨縣

全縣一區(五人)  
笠井 重治(第二)  
田邊 七六(政)  
堀内 良平(民)  
平野 力三(第二)  
今井新造(第二)

静岡縣

第一區(五人)  
平野 光雄(民)  
山口 忠五郎(政)  
深澤 豐太郎(政)  
小久江美代吉(民)  
宮本 雄一郎(政)  
第二區(四人)  
高木 余太郎(民)  
春名 成章(昭)  
勝又 春一(政)

工藤 十三雄(政)  
菊池 良一(民)

秋田縣

第一區(四人)  
町田 忠治(民)  
信太儀右衛門(民)  
中川 重春(民)  
中田 儀直(政)  
第二區(三人)  
川俣清音(第二)  
小山田 義孝(政)  
土田 莊助(民)

山形縣

第一區(四人)  
高橋 熊次郎(政)  
西方 利馬(政)  
木村 武雄(東)  
佐藤 啓(國)  
第二區(四人)  
松岡 俊三(政)  
熊谷 直太(政)  
清水 德太郎(民)  
奥山 龜藏(民)

北海道

第一區(四人)  
一柳 仲次郎(民)

澤田 利吉(民)  
山本 厚三(民)  
岡田 伊太郎(政)

東 武(政)  
林 路一(昭)  
淺川 浩(民)  
坂東 幸太郎(民)  
第三區(三人)  
大島 寅吉(民)  
渡邊 泰邦(東)  
登坂 良作(政)

第四區(五人)  
手代木 隆吉(民)  
岡田 春夫(民)  
南條 德男(政)  
深澤 吉平(民)  
北 勝太郎(第二)

第五區(四人)  
南雲 正朔(民)  
東條 貞(政)  
尾崎 天風(政)  
三井 德寶(政)

新潟縣

第一區(三人)  
山本 悌二郎(政)

岐阜縣

第一區(三人)  
鈴木 正吾(國)  
大口 喜六(政)  
杉浦 武雄(東)  
第二區(三人)  
木村 作次郎(政)  
伊藤 東一郎(民)  
加藤 賢司(政)

第三區(三人)  
牧野 良三(政)  
日比野 民平(民)  
古屋 慶隆(民)

福井縣

全縣一區(五人)  
福田 耕(第二)  
添田 敬一郎(民)  
猪野毛 利榮(政)  
齋藤 直橋(民)  
熊谷五右衛門(昭)

石川縣

第一區(三人)  
永井 柳太郎(民)



職員錄——衆議院

第一區(三人)  
箸本 太吉(政)  
神保 重吉(政)

第二區(三人)  
櫻井 兵五郎(民)  
益谷 秀次(政)  
喜多 壯一郎(民)

富山縣

第一區(三人)  
野村 嘉六(民)  
寺島 權藏(民)  
石坂 豐一(政)

第二區(三人)  
松村 謙三(民)  
島田七郎右衛門(政)  
土倉 宗明(政)

京都府

第一區(五人)  
水谷 長三郎(第一)

第二區(三人)  
川崎 末五郎(民)  
田中 好(政)  
池本 甚四郎(民)

第三區(三人)  
津原 武(民)  
村上 國吉(民)  
芦田 均(政)

京都府

第一區(三人)  
田万 清臣(第一)  
榊谷 寅吉(民)  
一松 定吉(民)

第二區(三人)  
紫安 新九郎(民)  
山本 芳治(政)  
木村 吉太郎(民)

第三區(四人)  
池崎 忠孝(第三)  
內藤 正剛(民)  
塚本 重藏(第二)

第四區(四人)  
杉山 元治郎(第一)  
勝田 永吉(民)  
田中 萬逸(民)

第六區(三人)  
岩崎 幸治郎(政)  
松田 竹千代(民)  
井阪 豐光(昭)

兵庫縣

第一區(五人)  
河上 丈太郎(第一)  
濱野 徹太郎(民)  
中井 一夫(政)

第二區(四人)  
前田 房之助(民)  
蔭山 貞吉(政)  
原 淳一郎(民)

第三區(三人)  
小林 絹治(政)  
柏木 清治(民)  
青木 雷三郎(政)

第五區(三人)  
齋藤 隆夫(民)  
若宮 貞夫(政)  
植村 嘉三郎(民)

和歌山縣

第一區(三人)  
西田 郁平(民)  
松山 常次郎(政)  
玉置 吉之丞(政)

奈良縣

全縣一區(五人)  
江藤 源九郎(第三)  
松尾 四郎(民)  
八木 逸郎(民)

三重縣

第一區(五人)  
加藤 久米四郎(政)  
片岡 恒一(民)  
川崎 克(民)

香川縣

第一區(三人)  
小西 和(民)  
戶澤 民十郎(民)  
宮脇 長吉(政)

愛媛縣

第一區(三人)  
武智 勇記(民)  
大本 貞太郎(政)  
松田 喜三郎(民)

高知縣

第一區(三人)  
大石 大(東)  
富田 幸次郎(民)

廣島縣

第一區(四人)  
古田 喜三太(民)  
荒川 五郎(民)  
名川 侃市(政)

第二區(四人)  
望月 圭介(昭)  
田中 貢(民)  
山道 襄一(民)

第三區(五人)  
土屋 寬(民)  
作田 高太郎(民)  
永山 忠則(昭)

第四區(四人)  
三好 菊次郎(民)  
山榊 儀重(民)  
豐田 收(昭)

鳥取縣

全縣一區(四人)  
由谷 義治(東)

島根縣

第一區(三人)  
原 夫次郎(民)

第二區(四人)  
服部 米次郎(政)  
尾崎 行雄(第三)

第三區(三人)  
長井 源(民)  
濱田 國松(政)  
角 源 泉(民)

滋賀縣

全縣一區(五人)  
堤 康次郎(民)

青木 亮貫(民)  
森 幸太郎(政)  
田中 養達(東)

岡山縣

第一區(五人)  
久山 和之(政)

岡田 忠彦(政)  
片山 一男(民)  
行吉 角治(政)

第二區(五人)  
西村 丹治郎(民)

犬養 健(政)  
小川 郷太郎(民)  
星島 二郎(政)

職員錄——衆議院



職員録—衆議院

- 田村 實(政)
第二區(三人)
佐竹晴記(第)
尾崎 重美(民)
福岡縣
第一區(四人)
中野 正剛(東)
原口 初太郎(政)
松本 治一郎(第)
前田 幸作(第)
第二區(五人)
龜井貫一郎(第)
田島 勝太郎(民)
高野 喜六(民)
石井 徳久次(政)
田尻 生五(政)
第三區(五人)
山崎 達之輔(昭)
岡 幸三郎(第)
鶴 惣市(政)
沖 藏(政)
野田 俊作(政)
第四區(四人)
勝 正憲(民)
末松 借一郎(民)

- 片山 秀太郎(政)
末次 虎太郎(政)
佐賀縣
第一區(三人)
池田 秀雄(民)
中野 邦一(民)
田中 亮一(政)
第二區(三人)
中村 又一(民)
藤生 安太郎(政)
愛野 時一郎(民)
長崎縣
第一區(五人)
西岡 竹次郎(政)
倉成 庄八郎(政)
馬場 元治(東)
中村 不二男(民)
本田 英作(民)
第二區(四人)
牧山 耕藏(民)
森 肇(昭)
富田 等平(民)
佐藤 畢雄(政)
熊本縣
第一區(五人)
安達 謙藏(國)

- 木村 正義(政)
松野 鶴平(政)
大野 唯男(民)
石坂 繁(國)
第二區(五人)
中野 猛雄(政)
上塚 司(政)
三善 信房(政)
藏原 敏捷(國)
伊豆 富人(國)
大分縣
第一區(四人)
一宮 房治郎(民)
金光 庸夫(政)
小野 廉(政)
朝倉 每人(民)
綾部 健太郎(政)
清瀬 規矩雄(政)
重松 重治(民)
宮崎縣
全縣一區(五人)
三浦 虎雄(東)
伊東 岩男(政)
田尻 藤四郎(政)
佐澤 定二(民)

- 陣 軍吉(昭)
鹿兒島縣
第一區(五人)
松方 幸次郎(第)
藏園 三四郎(昭)
井上 知治(政)
今給黎 誠吾(昭)
中村 嘉壽(政)
第二區(四人)
東郷 實(政)
寺田 市正(政)
富吉 榮二(第)
岩元 榮治郎(政)
第三區(三人)
金井 正夫(政)
永田 良吉(政)
小林 三郎(民)
沖繩縣
全縣一區(五人)
漢那 憲和(民)
伊禮 肇(國)
盛島 明長(政)
仲井間 宗一(民)
花城 永渡(政)

主要銀行會社役員録

株は株式會社
社名は合名會社
資本金は合
は相互會社
何れも附

- 安曇電氣(株) 長野縣大町
社長 高橋 保
常務取締役 岩本 庸也
取締役 高橋 正雄
平林 秀吾 大和 壽雄
福島 幸重 轟 亨
内山 昇 折井仲三郎
監査役 薄井左馬次
藤森 馨 百瀬彦一郎
増田 留吉
安治川土地(株) 大阪市港區八幡屋元町三ノ一四三
社長 辰馬勇治郎
常務取締役 河田 了三
取締役 外村鐵三郎
田中 貞藏 吉田喜一郎
日吉 平吉 外村 英郎
山縣 勝見
監査役 西村久次郎
岡部新太郎 駒田 行雄
城周 彦一

主要銀行會社役員録

【ア】

- 會津電力(株) 福島縣若松市
常務取締役 高瀬 八郎
取締役 河野善九郎
八田 宗吉
高橋 喜一
監査役 林 平八郎
田代與三久 矢部善兵衛
愛知銀行(株) 名古屋市中區區御幸本町通八ノ一八
頭取 渡邊 義郎
常務取締役 青木 英作
山浦 護
取締役 各務幸一郎(兼支)久保寺良吉
監査役 岡田良右衛門
松平 義為 伊藤次郎左衛門
高橋 龍造 鈴木 信吉
愛知生命保險(株) 麴町區有樂町一ノ一二ノ三
社長 原 邦造
專務取締役 睡道 文藝

- 取締役 岸本兼太郎 根津嘉一郎
森岡 忠尙 布田 典雅
監査役 矢内 榮次 駒井 久吉
愛知織物(株) 名古屋市中區千種町高見三五ノ一
代表取締役 瀧 信四郎
專務取締役 瀧 秀之助
青山 庄三郎 奥田喜太郎
監査役 王山通五ノ一八
愛知興業(株) 名古屋市中區區覺王山通五ノ一八
代表取締役 八木 保三
專務取締役 平野 勇平
取締役 荒川 伸也 松澤清次郎
監査役 荒川 伸也 伊藤豐太郎
愛知時計電機(株) 名古屋市中區區千手字船方
社長 青木謙太郎
常務取締役 増本敏三郎
取締役 伊藤次郎左衛門 岡谷 惣助
柴田 秀生 鈴木 惣一郎

- 監査役 神野金之助 渡邊 義郎
顧問 小栗 信一
青梅電氣鐵道(株) 東京府青梅町青梅一九二
社長 小澤 太平
取締役 平岡久左衛門 山崎文五郎
金子喜代太 大島 三橋
監査役 淺野總一郎
指田茂九郎 中村半左衛門
秋田木材(株) 秋田縣能代港町御指南町
社長 相澤治一郎
常務取締役 大岩 岬
木場 貞二 大倉喜七郎
取締役 式村 儀市 白井 兵庫
井坂 健男 安岡長四郎
監査役 根本 瑞男 麴町區丸ノ
淺野雨龍炭礦(株) 內一ノ六
社長 淺野總一郎
常務取締役 前川 益次
馬杉 秀



主要銀行會社役員錄

【ア】

八七六

取締役 淺野 良三 監査役 鈴木紋次郎	林 安繁 坪内 三郎 藤堂 大藏	潮田町末廣町二丁目一 社 長 專務取締役 常務取締役 小松 隆 大村 正篤	淺野總一郎 鈴木紋次郎 末兼 要 正木 壽郎	監査役 羽野 友二 旭ベンベルグ絹絲(株) 北區宗一	大山 五郎 加藤 武男 大阪市	旭電化工業(株) 三ノ一〇 社 長 專務取締役 取締役 山口喜三郎 浦野 三朗 近藤 眞一	麴町區丸ノ内 鈴木市之助 礎部倫一郎 浦山助太郎 棚橋寅五郎 藤堂 良讓
淺野スレート(株) 七ノ三 會 長 專務取締役 取締役 金子喜代太 監査役 宮地 茂秋	瀧山米太郎 柴田 潤藏 淺野總一郎 小林 昶 淺野 良三	取締役 淺野 八郎 清宮 岳壽 齋藤 順三 橋本梅太郎	淺野 良三 金子喜代太 黒田 琢磨 淺野 義夫	旭石油(株) 六 社 長 常務取締役 取締役 青木 一葉 竹内 寛 監査役 長久伊勢吉	堀 啓次郎 金田榮太郎	旭紡績(株) 會長兼專務 常務取締役 取締役 後藤友五郎 監査役 太田 茂雄	日本橋區室町三ノ四 渡邊 周 市川 濟一 奥村 辰三 林 哲磨
淺野セメント(株) 町一ノ八 社 長 副社 長 專務取締役 取締役 白石元治郎 田中榮八郎 監査役 尾高 豊作 徳川 誠	淺野總一郎 淺野 良三 金子喜代太 乙竹 茂郎 大川平三郎 濫澤武之助 阪谷 芳郎 安田善五郎 鈴木紋次郎	淺野同族(株) ノ六 社 長 取締役 鈴木紋次郎 淺野 八郎 監査役 穂積 重威 旭硝子(株) 麴町區丸ノ内二ノ 六	淺野總一郎 白石元治郎 淺野 良三 淺野 義夫 馬杉 秀	旭石油(株) 六 社 長 常務取締役 取締役 青木 一葉 竹内 寛 監査役 長久伊勢吉	長崎 英造 幸松 文太 岡本 勸 飛上 重利 成瀬 正行	足利紡績(株) ノ二ノ六 社 長 常務取締役 取締役 根津嘉一郎 荻野萬太郎 監査役 坂井 隆三	(欠) 内田 清三 大橋新太郎 芳川 寛治 鈴木紋次郎
梓川電力(株) ノ二 社 長 取締役 花岡 俊夫 諏訪部庄左衛門 小坂 武雄 加藤 農夫 監査役 岸 義男 相談 役 尼崎築港(株) ノ二	麴町區丸ノ内二 小坂 順造 丸山 盛雄 高橋 保 飯島 正一 名取 和作 小田切馨太郎 鈴木雄次郎 藤原銀次郎 麴町區丸ノ内一	區丸ノ内一ノ二 取締役社長 取締役 池田 新一 木暮武太夫 監査役 鈴木 實 伊勢電氣鐵道(株) 田三、六九八 專務取締役 常務取締役 取締役 名坂 彌市 監査役 長谷川重太郎	内藤正太郎 田幡鐵太郎 田邊 武次 鈴木 國彦 二神 駿吉 四日市市濱 半田 貢 岡本 勝雄 伊坂秀五郎 小川彌太郎 小池 一	伊藤忠商事(株) 土町二ノ五一 社 長 專務取締役 取締役 井上 富三 藤野 三一 淵田 太郎 小菅宇一郎 監査役 伊藤孝太良 麴町區丸ノ 内一ノ六	大阪市東區安 伊藤忠兵衛 伊藤竹之助 中村信太郎 田中 靖郎 功力 寅次 伊藤茂八郎	伊勢丹(株) 四谷區新宿三ノ八 社 長 常務取締役 取締役 小菅千代市 取締役 達藤 宗六 廣田 種雄 監査役 天野 省三 池貝鐵工所(株) 町二	武智 鼎 井上 要 仲田傳之助 露口悦次郎 清家 俊三 山中 義貞 小菅 丹治 林田 操 小菅 正造 小菅 金重 安田 與一 相澤光五郎 廣瀬 廣 芝區三田四國 池貝庄太郎 千葉恒次郎 今井 四郎 池貝 杉二 千葉 胤吉

主要銀行會社役員錄

【イ】

八七七

伊香保ケーブル鐵道(株) 麴町	麴町	伊東屋(株) 京橋區銀座三ノ 一	伊藤勝太郎 伊藤 義孝 立川 貞吉 龜山 貞二	伊藤鐵道電氣(株) 五ノ一三 社 長 副社 長 阿部秀太郎	太宰 孫九 大本貞太郎	池貝鐵工所(株) 町二 取締役社長 取締役副社長 常務取締役 寺井 雄一 監査役	池貝 杉二 千葉 胤吉
--------------------	----	------------------------	----------------------------------	---	----------------	--	----------------



主要銀行會社役員錄

イ・ウ

八七八

池貝 秀雄 千葉龍太郎  
飯山町 長野縣下水内郡  
飯山鐵道(株) 長野縣下水内郡  
社 長 河西豊太郎  
專務取締役 氣駕 高次  
取締役 小林 一三  
牧野 長藏 八卷 彌一  
綾部健太郎 佐野 精一  
監査役 佐野 精一  
岩井商店(株) 大阪市東區北濱  
四ノ四三  
社 長 岩井勝次郎  
取締役 岩井雄二郎  
平野 亮平 太田富三郎  
下田伊三郎 尾上梅太郎  
外山 登三 千田 棠  
監査役 岩井 豊治  
岩井文一郎 神戸市海岸  
石原産業海運(株)  
通一丁目三〇  
取締役社長 石原廣一郎  
專務取締役 石原新三郎  
常務取締役 高田儀三郎  
取締役 山下 留吉  
監査役 田所 久吾

石川島飛行機製作所(株) 麴町  
區丸ノ内海上ビル新館  
社 長 澁澤武之助  
專務取締役 横山虎三郎  
取締役 澁谷 澄  
中村爲三郎 山田馬次郎  
松村 菊男 田中榮八郎  
監査役 後藤 幸三  
後藤 幸三 京橋區銀座三  
入山探炭(株) 島岡亮太郎  
社 長 渡邊寛一郎  
專務取締役 門野重九郎  
取締役 岩瀬 徳藏 大崎 新吉  
昌山 藏六 本宿 家全  
監査役 出雲電氣(株) 松江市母衣町  
社 長 櫻内 幸雄  
專務取締役 中谷 秀  
常務取締役 本間 學  
取締役 佐々田 懋 野口 遠  
江角 興義 山本 權七  
島 兵藏 絲原武太郎  
常任監査役 山野 茂  
監査役 鈴木 隆三  
板倉 隆治

增野 正 堀 藤十郎  
細川朝一郎 麴町區丸ノ  
磐城セメント(株) 内二ノ二  
社 長 岩崎 清七  
常務取締役 高木 百行  
取締役 根津嘉一郎  
岡野利兵衛 吉永 仁藏  
安部政次郎 南 俊二  
小室萬五郎 長瀬菊次郎  
監査役 佐藤 照治  
木村 清治 泉山岩次郎  
平林 三郎 泉山岩次郎  
磐城炭礦(株) 麴町區丸ノ内一  
社 長 淺野總一郎  
專務取締役 渡邊 六藏  
前川 益以 白石元治郎  
取 締 役 石井駒次郎 阪谷 芳郎  
淺野 良三 小坂 梅吉  
岡部 正樹 渡邊 得男  
監査役 河合 潔 内山吉五郎  
宇治川電氣(株) 大阪市北區宗

是町一 林 安繁  
社 長 影山銑三郎  
副社 長 欠  
常務取締役 淺見 又藏  
取締役 野口 遵 永井 專三  
岸 國次郎 石澤 四郎  
監査役 的場順一郎 大倉喜七郎  
雨龍電力(株) 麴町區有樂町一  
社 長 藤原銀次郎  
專務取締役 田中 治朗  
取締役 足立 正 高島菊次郎  
濱田 東稻 松本 弘造  
監査役 加藤藤太郎 寺田 省歸  
浦賀船渠(株) 麴町區丸ノ内一  
社 長 寺島 健  
取締役 竹内 正三  
取締役 足立 盛夫  
近藤昇次郎 椿 宣次  
監査役 山下 太郎  
西園寺龜次郎 南波 禮吉

主要銀行會社役員錄

エ・オ

八七九

早部窒素工業(株) 宇部市小串  
第一九七八  
代表取締役 渡邊 剛二  
專務取締役 俵田 明  
取締役 高良 宗七 國吉 省三  
村田 義夫 岡 和  
藤本 磐雄  
監査役 藤本 磐雄  
宗像 英一 西村 宇吉  
金野 藤衛 加藤 亮吉  
相談 役 鮎川 義介  
鹽水港製糖(株) 臺灣臺南州新  
營郡新營街新營六五  
社 長 橫 哲  
常務取締役 羽鳥 精一  
岡田幸三郎 勝 又獎  
取 締 役 黒田 秀博 内々崎良平  
沖 光次郎 横 武  
常務監査役 長谷川貞成  
遠州銀行(株) 濱松市田町二七  
頭 取 高林 泰虎

常務取締役 中山 均  
平野繁太郎 神谷八太郎  
取 締 役 竹山 純平 藤田彌三郎  
高橋誠太郎 内山 茂藏  
山口忠五郎 津倉 龜作  
監査役 名切牛太郎 鈴木 幸作  
榮養と育兒の會(株) 芝區芝公  
園一號地 長尾 敏彌  
代表取締役 久保田 弘  
取 締 役 上田 良一 利根川 圭介  
監査役 上田 良一 古谷 伴  
川田又次郎  
小倉石油(株) 日本橋區小舟町  
二ノ二 小倉彦四郎  
社 長 取 締 役 小倉 一來  
中原 延平 鈴木 一  
高草 朴介 土田 保三  
監査役 小田原急行鐵道(株) 澁谷區千  
駄ヶ谷五ノ八六二

利光 鶴松  
池邊 稻生  
栗崎康太郎  
山口市太郎  
小久保喜七  
利光 學一  
廣瀬 健吉  
星 光  
山口  
笠井 眞三  
狩野 宗三  
朝枝信太郎  
田中清次郎  
國吉 喜一  
野村 正七  
大分セメント(株) 大分市大字  
大分一五五〇  
專務取締役 田上爲次郎  
常務取締役 山本 義人  
伊藤傳右衛門  
小野田セメント製造(株) 山口  
縣厚狹郡小野田町  
社 長 笠井 眞三  
專務取締役 狩野 宗三  
常務取締役 朝枝信太郎  
河内 通祐 田中清次郎  
取 締 役 赤羽 克己 國吉 喜一  
土屋 政三 野村 正七  
監査役 高木 平治  
大分セメント(株) 大分市大字  
大分一五五〇  
專務取締役 田上爲次郎  
常務取締役 山本 義人  
伊藤傳右衛門

狩野 宗三  
河野 晉治  
田淵榮次郎  
大川 平三郎  
大川 鐵雄  
田邊タカ子  
中山 多滿  
京橋區銀座二ノ  
大倉組(合名) 京橋區銀座二ノ  
頭 取 大倉喜七郎  
副頭 取 門野重九郎  
監 取 大倉 象馬  
理事 玉木誠次郎  
今井 修二 山田馬次郎  
島岡亮太郎 松田登三郎  
本宿 家全 脇 道譽  
大倉鑛業(株) 京橋區銀座三ノ  
四 島岡亮太郎  
會 長 大崎 新吉  
常務取締役 島山 藏六  
取 締 役 高橋岩太郎 梶山 又吉  
監査役 速水篤治郎 本宿 家全  
平木 泰治



主要銀行會社役員錄

【才】

大倉火災海上保險(株) 京橋區

銀座二ノ二 代表取締役社長 大倉 直介 常務取締役 伊藤 孫作 名取 幸二 取締 大倉喜七郎 門野重九郎 監査 林 安繁 武田 正巳 今井 修二 大倉商事(株) 京橋區銀座二ノ二

大倉製紙工場(株) 京橋區

銀座二ノ二 會 長 大倉喜七郎 常務取締役 飯塚 茂 取締 玉木誠次郎 監査 本宿 家全 鈴木 百一 武田 正巳 監査 治 速水篤治郎 大倉製業セメント(株) 大阪市 北區堂島濱通二ノ一四

大阪瓦斯(株) 大阪市東區平野

町五丁目一番地 會 長 專務取締役 片岡 直方 取締 野村 徳七 外山 捨造 下村孝太郎 梶原 仲治 清水 太郎 常任監査役 松方 正雄 監査 大倉喜七郎 大倉スマトラ農場(株) 京橋區 銀座二ノ二

大倉土木(株) 京橋區銀座二ノ二

監査 矢野修二郎 會 長 專務取締役 門野重九郎 常務取締役 武富 英一 取締 加藤 眞利 龍田 定憲 佐野三千三 小松五郎衛 寺島 昇 藤江醇三郎 大西 進 監査 大谷 清記 小林 英彦 池野 敏夫 大坂海上火災保險(株) 麴町區 丸ノ内二ノ一六ノ二

大坂株式取引所(株) 大阪市東區北濱二ノ八五ノ一

理事 長 柴山 鷲雄 常務理事 櫻木航五郎 押木 政治 大坂アルカリ土地(株) 大阪市 西淀川區大野町八二

大坂商船(株) 大阪市北區宗是

町一 會 長 村田 省藏 副社長 太田丙子郎 專務取締役 岡田永太郎 堀 新 宮田武太郎 取締 阿部彦太郎 深尾隆太郎 小倉 正恒 安宅 彌吉 渥美 育郎 監査 末永 一三 中橋 武一

大坂アルカリ土地(株) 大阪市

西淀川區大野町八二 會 長 田中榮八郎 專務取締役 二神 駿吉 常務取締役 石川 一郎 阪田愉三郎 進藤千之助 取締 常任監査役 吉米地義三 松永兼三郎 山下 三郎 大坂信託(株) 大阪市東區備後町二ノ四ノ一

大坂鐵道(株) 大阪府南河內縣 富田林町毛人谷五二一 會 長 佐竹 三吾 專務取締役 石田義太郎 取締 山岡 倭 北野 忠治 本所 又次 種田 虎雄 野田吉兵衛 監査 村井善四郎 木村 教俊 木口 貞藏 大阪電氣軌道(株) 大阪市天王寺區上本町六ノ一 寺區上本町六ノ一 監査 長 金森又一郎 專務取締役 種田 虎雄 常務取締役 三好 萬次 取締 鍵田忠次郎 片岡 直方 森 平藏 大戶 武之 瀧川伊之助 監査 五島 慶太 林 市藏 瀧川市北 大阪ビルヂング(株) 區宗是町一 區宗是町一 會 長 中橋 武一 專務取締役 駒田 萬二 取締 村田 省藏 林 安繁 池尾 芳藏 渥美 育郎

大坂北港(株) 大阪市此花區恩貴島南之町七三ノ一 會 長 小倉 正恒 常務取締役 山本 五郎 取締 川田 順 清海復三郎 八代 則彦 田島房太郎 水野鶴之助 取締 支配人 今村 幸男 監査 松本 順吉 加納友之介 大島製鋼所(株) 城東區大島町四ノ一三 會 長 大川平三郎 副社長 長谷川太郎 專務取締役 石田 直吉 取締 田中榮八郎 白石元治郎 門野重九郎 津田藤左衛門 大倉彦一郎 監査 淺野 良三 大田信義藥房(株) 川下町五七 社長 太田 信義 大坂本店(株) 日本橋區本町三ノ九 頭 取 大橋新太郎 取締 大橋 進一 吉谷 專吉 大橋 勇吉 監査 王子製紙(株) 王子區王子町六

○ 會 長 藤原銀次郎 副社長 高島菊次郎 專務取締役 井上 憲一 足立 正 松本 弘造 田中 治朗 大橋新太郎 取締 阿部房次郎 井上 鐵雄 井上 周 大川 鐵雄 監査 貞吉 眞島幸次郎 小池厚之助 益田 信世 小西喜兵衛 小西厚之助 原 邦造 井坂 孝 王子電氣軌道(株) 鴨三ノ九六五 豐島區西巢

主要銀行會社役員錄

【才】

取締役會 長 野村元五郎

常務取締役 廣瀬安太郎 取締 片岡 吾吾 柴山 鷲雄 松島 準吉 廣岡松三郎 山内 貢 常務監査役 中島 俊郎 監査 八代祐太郎 野村 徳七 中尾 健治 大阪灣土地(株) 大阪市東區和泉町二ノ一 代表取締役 平林 甚輔 取締 平林 光治 出島好三郎 玉置正三郎 監査 櫻島南之町一七 大阪市此花區

大坂鐵工所(株)

會 長 小平 浪平 社 長 六角 三郎 常務取締役 公莊 惟篤 取締 勝部 勝吉 金子 俊一 磯邊 助一 下河邊建二 小澤 貞二 出田 孝行 伊藤 文吉 淺原 源七 福田 貞助 監査 山田 敬亮 藤原 藤藏

大坂鐵工所(株)

會 長 區宗是町一 專務取締役 中橋 武一 取締 駒田 萬二 林 安繁 池尾 芳藏 渥美 育郎

大坂北港(株)

會 長 小倉 正恒 常務取締役 山本 五郎 取締 川田 順 清海復三郎 八代 則彦 田島房太郎 水野鶴之助 取締 支配人 今村 幸男 監査 松本 順吉 加納友之介

大島製鋼所(株)

會 長 大川平三郎 副社長 長谷川太郎 專務取締役 石田 直吉 取締 田中榮八郎 白石元治郎 門野重九郎 津田藤左衛門 大倉彦一郎 監査 淺野 良三

大田信義藥房(株)

社長 太田 信義

王子電氣軌道(株)

鴨三ノ九六五 豐島區西巢



主要銀行會社役員錄

【才】

社 長 本間 利雄  
 常務取締役 小平 保藏  
 取締役 河西 豐太郎  
 新井 章治 佐々田 懋  
 松永安左衛門 後藤 閑彦  
 金光 義邦 宇都宮政市  
 監査役 藤原銀次郎  
 王子證券(株) 麴町區有樂町一  
 〇  
 社 長 藤原銀次郎  
 專務取締役 足立 正  
 取締役 高島菊次郎  
 村地久治郎 田中 傳太  
 常務監査役 松本 弘造  
 監査役 滿洲安東縣六  
 鴨綠江製紙(株) 道講乙第三號  
 社 長 大川平三郎  
 副社長 長谷川太郎吉  
 專務取締役 足立 正  
 常務取締役 牟田吉之助  
 河原 三郎 速水篤次郎  
 監査役 大倉 象馬  
 藤田好三郎 高島菊次郎  
 岡崎總本店(合資) 神戸市神戸

區浪花町五六  
 無限社員 岡崎 忠雄  
 有限社員 岡崎 眞一  
 岡崎 君 岡崎 艶  
 岡谷(合資) 名古屋市中區鐵砲  
 町一〇七  
 代表 岡谷 惣助  
 無限社員 岡谷 喜三郎  
 有限社員 岡谷 正男  
 岡谷 重雄 岡谷 融  
 沖ノ山炭礦(株) 宇部市大字小  
 串一九八〇  
 代表取締役 渡邊 剛二  
 取締役 俵田 明  
 名和田哲郎 金野 藤衛  
 高良 宗七 西野嘉四郎  
 笠井 良介 村田 義夫  
 國木 省三 大石 榮作  
 監査役 林 昌亮  
 松永 勝藏 上田 久  
 高良 四郎 大林 義雄  
 大林組(株) 大阪市東區橋三  
 〇七五

專務取締役 白杉 龜造  
 專務取締役 植村 克己  
 鈴木 甫 近藤 博夫  
 中村寅之助 本田 登  
 取締役 石田 信夫  
 高橋 誠一 本田 信夫  
 久保彌太郎 大林 龜松  
 監査役 小原 孝平 中島 茂義  
 沖電氣(株) 芝區田町三〇二  
 會 長 淺野總一郎  
 常務取締役 小瀬 虎  
 鈴木紋次郎 阪谷 芳郎  
 取締役 安田善五郎 清水 釘吉  
 押田 三郎 戶澤 芳樹  
 監査役 白石喜太郎 馬場 辰熊  
 貝島炭礦(株) 下關市唐戸町第  
 二番  
 取締役社長 貝島 太市  
 取締役 玉井 磨輔  
 石原 才助 草場 義夫  
 監査役 森本邦治郎

山口奎平次 京橋區京橋  
 三〇二〇四  
 會 長 片倉兼太郎  
 社 長 今井 五介  
 副社長 片倉 勝衛  
 常務取締役 尾澤福太郎  
 武井覺太郎 片倉 武雄  
 片倉 直人 尾澤福太郎  
 取締役 森谷彦太郎  
 野崎熊次郎 片倉 方平  
 根橋 清二 山中 遜  
 中澤 正英 小口 友龜  
 常務監査役 黑澤 剛  
 監査役 勝田 よし  
 代表取締役 加藤喜太郎  
 取締役 木本 末吉  
 勝田 よし 松本 博邑  
 鐘淵紡績(株) 向島區隅田町  
 社 長 津田 信吾  
 常務取締役 城戸 季吉  
 三宅 郷太 名取 和作

主要銀行會社役員錄

【力】

中村 庸 丸山 幸藏  
 平賀恒次郎 井上 潔  
 賀集和三郎 野崎 廣太  
 室田 義文 中上川三郎治  
 前山 久吉 染谷 寛治  
 樺太鐵道(株) 樺太榮濱郡落合  
 町  
 取締役會長 藤原銀次郎  
 專務取締役 足立 正  
 取締役 大川平三郎  
 田中榮八郎 田中 治朗  
 光澤 義男 山内 幾馬  
 梅澤 源吉 野依 次郎  
 松本 弘造 高島菊次郎  
 監査役 田中 傳太  
 中村金太郎  
 井上 憲一  
 釜石鑛山(株) 日本橋區室町二  
 會 長 木瀬 和吉  
 取締役 西村小次郎  
 香村 小録 牧田 環  
 監査役 富田 太郎  
 神岡水電(株) 日本橋區室町二  
 社 長 牧田 環  
 常務取締役 田川正二郎

取締役 增田 次郎  
 大野 徳風 永松 利熊  
 尾形 次郎 藤波 收  
 有村慎之助 村瀬 末一  
 川崎汽船(株) 神戸市神戸區海  
 岸通八  
 取締役社長 鑄谷 正輔  
 取締役 川崎 芳熊  
 監査役 松村 守一  
 川崎第百銀行 日本橋區通一ノ  
 二  
 頭 取 關根 善作  
 常務取締役 河合 鐵二  
 吉田 良三 川崎 肇  
 取締役 川崎 眞平  
 原 邦造 渡邊 眞直  
 小島兼次郎 八杉 文藝  
 監査役 八杉 文藝  
 鳴 芳藏 神戶市林田區和  
 川崎車輛(株) 神戶市林田區和  
 田山通  
 專務取締役 下田 文吾  
 川崎 芳熊 鑄谷 正輔  
 監査役 松村 守一

關西共同火力發電(株) 大阪市  
 北區宗是町一  
 社 長 林 安繁  
 專務取締役 牧野 實一  
 取締役 池尾 芳藏 增田 次郎  
 田中 廣 內藤 熊喜  
 藤波 收 影山洗三郎  
 田邊 隆二 岸田 幸雄  
 監査役 宮寺 敏雄 石澤 四郎  
 石川芳次郎  
 關西信託(株) 大阪市東區北濱  
 四ノ二六  
 社 長 山口謙四郎  
 專務取締役 小林儀三郎  
 常務取締役 丹羽 俊彦  
 取締役 佐々木駒之助 山口吉郎兵衛  
 上田 寧 菅谷 元治  
 監査役 森川 清  
 山口竹治郎 森信 敬二  
 關西土地(株) 大市府東區今橋  
 二ノ一十  
 常務取締役 橫江萬治郎  
 取締役

竹原友三郎 林 市藏  
 藤井 善助 後藤 幸三  
 寺田元之助 國枝 謹  
 監査役 池尾 芳藏 竹中 治  
 關東水力電氣(株) 麴町區丸ノ  
 内一ノ六一  
 社 長 淺野總一郎  
 副社長 淺野 八郎  
 常務取締役 野村 孝  
 山崎林太郎 淺野 良三  
 取締役 中野寅次郎 廣瀬 爲久  
 太刀川平治 鶴田 勝三  
 杉本好太郎 金子喜代太  
 監査役 利光 定一 藤堂 大藏  
 淺野 義夫 鈴木紋次郎  
 加能合同銀行 金澤市下提町四  
 頭 取 米谷 半平  
 常務取締役 金子 幹男  
 本仁桑次郎 濱野太三郎  
 中川 正範 松村長五郎  
 取締役 中島德太郎 南 吉郎



主要銀行會社役員錄

【力】

八木又右衛門 三宅伊右衛門  
佐竹彌八郎 植田 忠平  
中野佐太郎 岡村 舜三  
金谷 與平 松田吉三郎  
常務監查役 小林 直次  
監查役 府波八太郎  
石田 精作 青木友三郎  
貝島(合名) 下關市唐戸町二  
代表社員 貝島 太市  
貝島 榮一  
貝島 健次  
川崎造船所(株) 神戸市湊東區  
東川崎町二  
社 長 鑄谷 正輔  
專務取締役 川崎 芳熊  
吉岡 保貞 大久保賢治郎  
取締役 岩倉 道俱  
三輪 小十郎 皆川多三郎  
松村 守一 岩崎恒二郎  
監查役 坂田 幹太  
寺田 甚吉 日本橋  
花王石鹼長瀬商會(株) 日本橋  
區馬喰町二ノ一二  
代表取締役 長瀬 富郎  
副社長 山崎 高晴  
取締役 秋元 直

長瀬 篤郎 長瀬 六郎  
常任監查役 長瀬 常一  
監查役 長瀬宮太郎  
鹿島組(株) 京橋區橫町二ノ三  
社 長 鹿島 精一  
專務取締役 鹿島 新吉  
取締役 鹿島 龍藏  
菅野忠五郎 眞田三千藏  
高石 庫治 湖松 茂吉  
監查役 山田虎之助  
難波多津二 魏町區丸ノ内三  
海外興業(株) 魏町區丸ノ内三  
社 長 渥美 育郎  
取締役 大志摩孫四郎  
野村 徳七 原 邦造  
大谷 登 堀 新  
渡邊水太郎 渡邊 忍  
開墾鹽業(株) 日本橋區本町二  
ノ五  
社 長 小野 耕一  
取締役 窪田 四郎  
丹治 經三 中原 延平  
高草 朴介 橋 良貴  
中村圓一郎

板谷 順助 栖原 啓藏  
片倉(合名) 長野縣諏訪郡川岸  
代表社員 片倉兼太郎  
片倉 勝衛  
出資社員 片倉 武雄  
今井 五介 林 敏子  
今井 眞平 林 清夫  
片倉 直人 片倉 三平  
片倉 方平 今井 五六  
片倉 耕介 片倉 五郎  
片倉 亮平 片倉 幸平  
神谷傳兵衛商店(株) 淺草區雷  
門二ノ一六  
社 長 神谷傳兵衛  
取締役 久松源次郎  
神谷 傳彌 神谷 愷  
監查役 可兒 信夫  
京橋區京橋  
片倉生命保險(株) 京橋區京橋  
三ノ二  
社 長 片倉兼太郎  
專務取締役 今井 五介  
取締役 片倉 五郎  
片倉 武雄 武井覺太郎  
片倉 清夫 片倉 直人  
町田 喬造

八八四  
監查役 宇治 光治  
尾澤福太郎 長野縣諏訪郡川  
岸村  
社 長 片倉 勝衛  
常務取締役 小口 源一  
取締役 尾澤福太郎  
武居哲太郎 片倉 耕介  
監查役 片倉 武雄  
林 清夫  
樺太汽船(株) 魏町區有樂町一  
ノ一〇  
社 長 大川平三郎  
代表取締役 小田桐忠治  
取締役 吉川小三郎  
立田 義一 關 信止  
一松 政二 船越申二郎  
監查役 松本 弘造  
白石元治郎 加藤藤太郎  
田幡鐵太郎 吉田寅五郎  
樺太電氣(株) 樺太豊原町大通  
社 長 藤原銀次郎  
專務取締役 光澤 義男  
常務取締役 杉本 孝作  
取締役 高島菊次郎

主要銀行會社役員錄

【力・キ】

田中 治朗 山内 幾馬  
櫻井久我治 寺田 省歸  
監查役 加藤藤太郎  
沖島 謙三  
梅澤 源吉  
川崎信託(株) 京都市下京區四  
條通柳馬場角  
社 長 川崎 肇  
常務取締役 大塚 良治  
大川又三郎 大澤徳太郎  
取締役 宮島清次郎 生明市太郎  
監查役 奥田亮太郎 田中 一馬  
渡邊 眞平 松本 丞治  
川崎定徳(合資) 日本橋區通三  
ノ二ノ一  
代表社員 川崎八右衛門  
川崎守之助 川崎 茂子  
有限社員 川崎 靜子  
川崎 肇 川崎 芳太郎  
加倉井謙吉 川崎 芳男  
伊東秀之介 川崎 なか  
川崎カズ子 川崎 なか  
川島屋商店(株) 日本橋區兜町  
二ノ一四

社 長 遠山 元一  
常務取締役 山下 經治  
取締役 神田 萬吉  
永井 仙吉 高橋義四郎  
戶田新太郎 吉野 岳三  
監查役 鈴木 庸三  
堀田 達夫  
川島洋紙店(株) 日本橋區小傳  
馬町一ノ三ノ一  
專務取締役 川島庄之助  
常務取締役 小倉 清助  
取締役 國貞 善一  
監查役 足立 正  
井上 憲一  
關西電力(株) 大阪市北區宗是  
町一  
取締役社長 池尾 芳藏  
專務取締役 内藤 熊喜  
監查役 武藤 嘉門  
關東運輸(株) 芝區芝浦一ノ二  
社 長 淺野 織一郎  
副社長 東郷 正作  
專務取締役 水谷長次郎  
取締役 淺野 良三  
淺野 八郎 金子喜代太

長井 喜平 成富 養六  
監查役 鈴木 源次  
宮地 茂秋  
關東瓦斯(株) 芝區田村町一ノ  
一  
社 長 河西豐太郎  
常務取締役 佐々木恒太郎  
取締役 金丸 二郎 小林 啓吉  
鎮目 泰甫 根津 啓吉  
監查役 吉田 義輝 山田 昌吉  
木津川土地運河(株) 大阪市西  
成區津守町四一二  
取締役 白山善五郎  
早瀬太郎三郎 青野 竹一  
吉川吉郎兵衛 野田吉兵衛  
鬼怒川水力電氣(株) 澁谷區千  
駄ヶ谷五ノ八六二  
取締役社長 利光 鶴松  
同 副社長 中野寅次郎  
利光 學一 白杉次郎太郎

八八五  
石川 貢 利光 永松  
小菅小之助 吉村 惠吉  
上杉松太郎 藤江 周輔  
監查役 藤野 正年  
須田 宜 井上敬次郎  
池邊 稻生 基隆市旭町三ノ  
一二  
副會長 顏 國年  
代表取締役 藤岡 淨吉  
常務取締役 井上 定祐  
取締役 木村久太郎  
顏 窓吟 廣岡信三郎  
顏 猛 顏 徳 潤  
顏 徳 修 顏 欽 賢  
常任監查役 阿部吟次郎  
監查役 橫濱市鶴見區生  
麒麟麥酒(株) 橫濱市鶴見區生  
社 長 伊丹 二郎  
專務取締役 磯野 長藏  
取締役 松本新太郎 平沼 亮三  
大河原太郎 淺野 敏郎  
監查役 濱口 擔 山岸慶之助



主要銀行會社役員錄 (キ)

九州勸業(株)

福岡市上吳服町 一五 社長 太田新吉 取締役 岸田恒太郎 監査役 太田凱夫 太田勘太郎 太田儀平 福岡市大字

九州炭礦汽船(株)

内二ノ四 常務取締役 村上伸雄 取締役 神谷傳兵衛 池田龜三郎 監査役 村田敏

北樺太鑛業(株)

岡田光治 取締役 緒方清 監査役 紫藤章 大原雅一 縣左吉 坂内義雄 高橋利喬 常務取締役 坂内義雄 取締役 近藤鏡次

共同火災保險(株)

大田市北區 曾根崎上二ノ四八 會長 佐々木駒之助 專務取締役 廣瀬誠太郎 小倉誠介 取締役 田所美治 柴山住四郎 杉山喬 柴山住四郎 久野春之助 監査役 大塚和三郎 廣海三三郎 原邦造

九州電力(株)

福岡市東區 常務取締役 木村平右衛門 八塚秀二郎 取締役 村上巧兒 大藪守治 永井菅治 大屋敦 野田勢次郎 黒木佐久馬 江藤甚三郎 監査役 麻生益良 上野山重太夫 麴町區丸ノ内三

北樺太石油(株)

麴町區丸ノ内 取締役 左近司政三 伊藤文吉 河手捨二 松村松次郎 藤岡淨吉 倉知鐵吉 崎川才四郎

共同信託(株)

大阪市東區今橋 三ノ一 取締役會長 菊池恭三 副社長 志波鷹治 常務取締役 門脇正

協榮生命再保險(株)

麴町區丸ノ内二ノ六 取締役 田中弟稻 玉木爲三郎 麻生義一郎 鈴木敏一 野坂竹太郎 高田他家雄 渡邊定 監査役 八木逸郎 宇佐美辰五郎

主要銀行會社役員錄 (キ)

京都瓦斯(株)

京都市下京區中堂寺坊城町二三 取締役社長 隅田保 取締役副社長 奥主一郎 取締役 内貴清兵衛 津田榮太郎 平井仁兵衛 小泉修 岡善吉 監査役 田中一馬 下郷傳平

京都電燈(株)

京都市中京區河原町通蛸薬師下ル備前島町 社長 田中博 副社長 田邊隆二 常務取締役 山本和七 石川芳次郎 曾野作太郎 取締役 藤井善助 大澤德太郎 佐々木富造 田中一馬 監査役

近海郵船(株)

麴町區丸ノ内二ノ二〇郵船ビル内 會長 大谷登 專務取締役 安田繁三郎 取締役 櫻木幹雄 渡邊水太郎 清水安治 林友作 渡部知直 監査役 河村金五郎 堀田勝吉

木村屋總本店(株)

京橋區銀座 四ノ二 取締役 木村榮三郎 田中久義 木村茂 木村榮一 小國修平 監査役 小國修平

汽車製造(株)

大阪市此花區島屋町四〇六 取締役會長 島安次郎 專務取締役 出羽政助 常務取締役 的場啓藏 佐々木和三郎 今村繁三 取締役 大倉喜七郎 林雅之助 監査役 中川友次郎 山本信夫

共同證券(株)

日本橋區通二ノ一ノ八 取締役會長 池邊龍一 取締役 今井又治郎 遠山元一 玉塚榮次郎 太田圭助 篠原花實 監査役 高橋義四郎 京橋區銀座四ノ三

金福鐵路公司(株)

大連市山縣通八八 社長 藤原銀次郎 取締役 大川平三郎 井上憲一 松本弘造 監査役 加藤藤太郎 田中傳太

錦華紡績(株)

金澤市下大豆田 社長 門野重九郎 副社長 和野平三郎 取締役 大川平三郎 栗原卯之助 小倉正恒 堤長述 根津嘉一郎 安川雄之助 安立賢 監査役 盧元喜 錦華紡績(株)

新町一

佐藤曆治郎 加藤正人 倉知鐵吉 杉道助 中島理一 望月軍四郎 高島伊作 西野幸作 大阪市東區 瓦町二ノ五五 錦華人絹(株) 社長 佐藤曆治郎 專務取締役 藤岡郊二 取締役 酒井宗吉 加藤正人 野瀨清嗣 監査役 野林清次郎 西野幸作 北川大藏 杉道助 佐藤曆治郎 錦華毛糸(株) 社長 佐藤曆治郎 代表取締役 酒井宗吉 取締役 野瀨清嗣 川畑恒二 竹村信一 加藤正人 安本吉次郎 監査役

八八七



主要銀行會社役員錄

久原本店(合名)

中島 理一 城田 鐵吉 久原房之助 久原 光夫

久原用地区(株)

代表社員 久原 光夫 久原 キヨ

熊本電氣(株)

取締役社長 熊本市紺屋今町 四六 林 市藏 赤星 典太 中島 爲喜 上妻 博 大川平三郎 長谷川太郎吉 糸山準太郎 坂内 義雄 緒方 清 杉原 惟敬 高木第四郎

倉敷網織(株)

倉敷市倉敷九四 七ノ四 大原孫三郎 山内 顯 藥師寺主計 菊池 寅七 原 澄治 吉井 仲助 三村 起一 大原 五一 川口儀一郎

倉敷紡績(株)

倉敷市倉敷四九 七ノ四 大原孫三郎 神田 柳吉 原 澄治 石井 熊夫 永瀬 又七 伊藤忠兵衛 井上 富三 泉 彌市

吳羽紡績(株)

大阪市東區安土 町二ノ五一 長 伊藤忠兵衛 井上 富三 泉 彌市

豐島 久七

小島 逸平 豐田利三郎 古橋 林司 萩原 清彦 伊藤竹之助 大林 義雄 富山市櫻橋通

黒部川電力(株)

富山市櫻橋通 山田 昌作 神吉 英三 福田 俊 小林 正直 谷 欽太郎 近藤 鏡次 樋爪讓太郎 新田 與一

郡是製絲(株)

京都府河鹿郡綾部町宇野野六二 平野吉左衛門 波多間 林一 宅間 藤馬 小野 藏三 奥村鹿太郎 鹽見孫四郎

群馬水電(株)

日本橋區吳服橋 三ノ七 田島 達策 佐竹 義文 本間 利雄 宮口 竹雄 淺見 章吾 丹治 經三

九曜社(株)

麴町區大手町二ノ二 望月軍四郎 望月 六ノ 田中 百畝 望月 乙彦

京王電氣軌道(株)

澁谷區幡ヶ谷 谷笹塚町一〇四五 澁谷區幡ヶ谷 澁谷 正吉 井上篤太郎 金光 庸夫 渡邊 孝 磯田 正朝

京城電氣(株)

朝鮮京城府南大門通二ノ五 大橋新太郎 武者 鍊三 石坂 泰三 吉谷 專吉 澁澤 敬三 福島 行信 木本 倉二

京成電氣軌道(株)

本所區向島 押上町二〇三 本多貞次郎 後藤 因彦 上原 鹿造 望月軍四郎 津田 績 高梨 博司 井上敬次郎 八木 逸郎

京阪電氣鐵道(株)

大阪府北河內郡枚方町岡六〇四 大坂府北河 後宮信太郎 大塚 尙 監 查 役 八木 逸郎

主要銀行會社役員錄

副社長

太田 光熙 有田 邦敬 大原孫三郎 松島寛三郎 小澤喜之助 田中 博 三浦英太郎 麴町區丸ノ

京濱電氣鐵道(株)

芝區田村町一 廣瀨 爲久 上野吉二郎 本間 利雄 山田康太郎 佐々木久二 木場貞一郎 橋本 龍一 伊藤 昌一 柳生 昌三 伊藤 薰三 金田榮太郎 井上 隆一 延藤吉兵衛

京濱電力(株)

芝區田村町一 廣瀨 爲久 上野吉二郎 本間 利雄 山田康太郎 佐々木久二 木場貞一郎 橋本 龍一 伊藤 昌一 柳生 昌三 伊藤 薰三 金田榮太郎 井上 隆一 延藤吉兵衛

【ケ・コ】

江商(株)

大阪市北區中之島二 常務取締役 竹内 利治 阿部市太郎 阿部房次郎

神戸網崎銀行(株)

神戸市神戶 區浪花町五六 岡崎 忠雄 前田 一雄 橋本 重幸 合原 正雄 石丸 英一

神戸瓦斯(株)

神戸市葦合區北 本町二ノ一 小曾根貞松 篠崎 昇 川西清兵衛 長尾 良吉 辰馬 悅藏



主要銀行會社役員錄 (三)

松葉 恭助  
神戸海上火災保險(株) 神戸市

神戶區明石町一九  
社 長 岡崎 忠雄  
常務取締役 芥川 順治  
取締役 伊藤長次郎  
辰馬吉左衛門 岩本兼太郎  
加納友之介 三木 三郎  
小島 豊俊 三雲勝治郎  
監査役 八馬 兼介  
菊池 吉藏 山内卯之助  
石丸 忠實 佐藤勇太郎  
川島 稅  
神戸製鋼所(株) 神戸市葦合區  
脇濱町一ノ三一  
社 長 田宮嘉右衛門  
常務取締役 森本 準一  
淺田 長平  
取 締 役 土屋 行藏  
酒井重之助 和田 信房  
川上 義弘 曾我 祐邦  
監査役 佐々木義彦  
鴻池(合名) 大阪市東區今橋二  
代表社員 鴻池善右衛門  
無限社員 鴻池 ミチ

鴻池 幸武  
鴻池 幸清  
鴻池 幸久  
鴻池 政忠

鴻池信託(株) 大阪市東區北濱  
五ノ三一  
社 長 鴻池善右衛門  
常務取締役 前田 忠  
取 締 役 岸本五兵衛  
小西新右衛門 森本啓太郎  
和田久左衛門 鴻池新十郎  
監査役 岸本鑑之助  
江崎 政忠 下山 元一  
合同毛織(株) 大阪市東區川區  
中津濱通一ノ九  
代表取締役 鷺尾 僊三  
取 締 役 廣澤 耕作  
荒井 伊助 賀集 益藏  
監査役 河崎英次郎  
合同油脂(株) 麴町區丸ノ内一  
取 締 役 田中榮八郎  
專務取締役 二神 駿吉  
常務取締役 苦米地義三  
取 締 役 久保田四郎  
大橋 退治 持田 由孝  
長郷 幸治

常任監査役  
石川 一郎  
小西 艶太

國際汽船(株) 關町區丸ノ内一  
社 長 黒川新次郎  
取 締 役 荒木 忠雄  
住田 正一 小田 精吉  
丸山 直次 作道 宗作  
監査役 佐々木新之助  
淺野 良三  
國際信託(株) 京橋區京橋一  
會 長 前田 青彦  
常務取締役 齋藤恒次郎  
龍岡 榮吉 清岡邦之助  
監査役 中野金次郎  
社 長 村上 義一  
副社 長 吉村 佐平  
專務取締役 吉田秀次郎  
取 締 役 村田 省藏  
岩倉 具光 安座 上眞  
神山 政良 築島 信司  
恩田 銅吉 山口 壽  
監査役 山本吉五郎 富永 福司  
金剛山電氣鐵道(株) 朝鮮江原

主要銀行會社役員錄 (三・サ)

柳川精四郎  
國華徵兵保險(株) 京橋區銀座  
西五丁目二ノ一

監査役 山田 敬亮  
取 締 役 川崎甲子男  
專務取締役 高梨慶三郎  
取 締 役 菅田 英久  
藤山愛一郎 川崎大次郎  
齋藤 眞平 川崎 肇  
近藤利兵衛  
國際運輸(株) 大連市山縣通  
專務取締役 築島 信司  
常務取締役 白井 喜一  
剛崎 虎雄 中野金次郎  
取 締 役 小川 亮一  
村田 省藏 三輪 環  
川村 龍雄  
監査役 山口 十助  
國際觀光ホテル(株) 麴町區平  
河町二ノ六ノ九  
取 締 役 佐藤 萬平  
武田 明 飯塚重五郎  
佐藤 太郎 新井 雄吉  
監査役

大塚 宗三  
國際電話(株) 麴町區内幸町

取 締 役 樺山 資英  
常務取締役 香西 俊雄  
取 締 役 龜島 廣吉  
阿部房次郎 澁谷米太郎  
中上 豊吉 有田 邦敬  
監査役 島村 幡彦 井坂 孝  
舊屋(株) 大阪市東區住吉町  
社 長 鳥井信治郎  
副社 長 鳥井吉太郎  
取 締 役 鳥井 喜藏  
監査役 工藤嘉一郎  
近藤商事(株) 日本橋區室町二  
ノ一五ノ六  
社 長 近藤利兵衛  
取 締 役 伊藤 伊八  
土肥 尙義 小山 佳兄  
諸橋 心一  
監査役 清水 時松  
小林商店(合資) 日本橋區小網  
町三ノ五  
代表社員 笹田傳左衛門  
無限社員 中野榮三郎  
中井半三郎 高梨仁三郎

高梨兵左衛門  
有限社員  
神島人造肥料(株) 高崎德之助  
中之島二ノ二五

取 締 役 茂木順三郎  
專務取締役 宮原 清  
取 締 役 苦米地義三  
田中榮八郎 二神 駿吉  
日野 平吉 村松 孝宜  
監査役 西村圭太郎  
半那 文民  
鴻池組(株) 大阪市西區傳  
法町北三ノ六七  
社 長 鴻池忠三郎  
專務取締役 鴻池 小六  
取 締 役 福永佐和吉  
監査役 三池貞一郎  
佐賀炭礦(株) 麴町區大手町二  
ノ四  
代表取締役 古宇田 巖  
取 締 役 大塚源次郎  
服部久三郎 中野 正永  
監査役 日本橋區室町二ノ二  
三共(株) 鹽原 又策

常務取締役  
福井源次郎  
取 締 役 湯淺 武孫  
鹽原 又策 植村澄三郎  
監査役 室田 義文  
田口 一太 鈴木梅太郎  
學術顧問 姫路市中吳服

三十八銀行(株)  
頭 取 伊藤長次郎  
專務取締役 麻生政一郎  
常務取締役 野々上喜藏  
取 締 役 川口木七郎  
尾上作兵衛  
山本 眞藏 尾上 次郎  
常任監査役 山口 環  
監査役 大路 環  
三信鐵道(株) 麴町區丸ノ内一  
ノ六  
社 長 吉原 重成  
取 締 役 櫻木 亮三  
杉山 榮 進藤 甲兵  
矢部 和作 爪生 卓爾  
神野 三郎 吉川 亮夫  
野原文四郎 村瀬 末一  
監査役







主要銀行會社役員錄



社務取締役 長 大川平三郎  
 取締役 加藤子郎  
 千明賢治 小西喜兵衛  
 淺野良三 宮口竹雄  
 田邊文之助 淺野八郎  
 監査役 長谷川太郎  
 鈴木實 田島達策  
 杉本好太郎 石毛竹治郎  
 日本橋區通一ノ九  
 社務取締役 長 大村彦一郎  
 取締役 山田忍三  
 大橋新太郎 西野惠之助  
 片岡隆起 下郷傳平  
 陶清藏 梅田健次郎  
 監査役 鏡山忠雄  
 澤田文之助 福島行信  
 白石殖産(株) 大阪市西成區津  
 守町一四二  
 社務取締役 長 白山善木郎  
 取締役 白山茂次郎  
 池内源吉 江上彦助  
 富田朴民 奥村松之助  
 平瀨市五郎

信濃電氣(株) 長野縣須坂町  
 社務取締役 長 小坂順造  
 取締役 丸山盛雄  
 西澤喜太郎 飯島正一  
 名取和作 諏訪部庄左衛門  
 兒玉衛一 越六郎  
 監査役 小田切磐太郎  
 横田文五郎 小田切磐太郎  
 小坂武雄  
 神樂生糸(株) 神戸市海岸通五  
 社務取締役 長 岡崎忠雄  
 取締役 勝山勝司  
 常務取締役 田代竹司  
 伊藤長次郎 川口木七郎  
 取締役 齋藤力  
 佐伯新太郎 川島稅  
 監査役 新田喬雄  
 新田電氣興業(株) 秋田信太郎  
 町一ノ七九 宮崎市上野  
 取締役 長 太田黒重五郎  
 取締役 永井菅治  
 取締役 鈴木憲太郎  
 塚本貞次郎 木村平右衛門  
 佐藤長太郎 織田啓治

玉繁 岩切章太郎  
 眞貫一 金子義憲  
 監査役 村上巧兒  
 小野原弘 山本彌右衛門  
 黒木佐久馬 池田常二  
 新大阪土地(株) 大阪市東成區  
 大今里町六八六  
 取締役 丸山郁三  
 專務取締役 中本豊三  
 取締役 小堤健雄  
 監査役 小堤健雄  
 淺野禮二 福村富三  
 資生堂(株) 京都區銀座八ノ二  
 社務取締役 長 福原信三  
 取締役 松本信昇  
 常務取締役 末川清香  
 取締役 伊藤隆男  
 土橋信太郎 福原信辰  
 若山孝二 伊藤定次郎  
 伊與田光男 小西喜兵衛  
 監査役 石田公四郎  
 若山三郎 福原信義  
 自動車工業(株) 京橋區新佃島  
 西町三ノ五 加納友之介  
 取締役 長 新井源水

取締役 村上義謙  
 村上正輔 大田黒静生  
 栗田金太郎 石井信太郎  
 監査役 三木秀治  
 大澤佳郎  
 常陽銀行 龜山甚  
 取締役頭取 佐藤五郎  
 常務取締役 武川守藏  
 取締役 酒井爲太郎  
 三宅亮一 渡邊眞平  
 常任監査役 中島正敏  
 坂井與兵衛 今井惟明  
 監査役 川崎友之介  
 昭和大火災保險(株) 麴町區丸ノ  
 社務取締役 長 根津嘉一郎  
 取締役 篠本至剛  
 淺野總一郎 永橋邦造  
 吉田義輝 片岡安  
 山本爲三郎 佐竹次郎  
 監査役 山本爲三郎  
 小林中 東文藝  
 四國銀行(株) 高知市浦戸町一

主要銀行會社役員錄



五〇 頭取 安田善五郎  
 常務取締役 中島武寛  
 取締役 大脇順路  
 山本源三郎 池田直積  
 監査役 片山頼三  
 長尾傳藏 川崎清男  
 顧問 安田善次郎  
 相談役 安田友四郎  
 山本忠秀  
 濠洲倉庫(株) 日本橋區茅場町  
 一ノ三ノ三  
 取締役會長 杉田富  
 常務取締役 林彌一郎  
 取締役 澁澤義一  
 井上徳治郎 島崎直幹  
 監査役 野口弘毅  
 渡邊得男  
 昭和生命(株) 京橋區京橋二丁  
 取締役社長 八木逸郎  
 取締役 北島多一  
 取締役 武末祐三郎  
 仲宗根玄愷 林曄  
 賀來與次郎 實吉純郎

常任監査役 大塚健治  
 監査役 中山壽彦  
 前田青彦 麴町區丸ノ内三  
 昭和田地(株) 宇都宮政市  
 專務取締役 河西豐太郎  
 取締役 小林中  
 吉田義輝 吉野傳治  
 監査役 京橋區寶町一ノ  
 昭和肥料(株) 郷誠之助  
 取締役會長 森瀛昶  
 取締役社長 高橋保  
 專務取締役 白勢量作  
 取締役 鍵和田良平  
 鈴木忠治 本間利雄  
 安田益四郎 五十嵐直三  
 監査役 小林一三  
 浦山助太郎 佐野精一  
 曄道文藝 岡部榮一  
 上海紡績(株) 上海四川路第一  
 八五號  
 取締役會長 戸川濱男  
 常務取締役 黒田慶太郎  
 取締役 權野健三

前田良夫 圓城寺規  
 野田洋一 蔭山寅一  
 納富桓三郎 塚田公太  
 監査役 己斐平二  
 己斐平二 イー・エス・ウイキンソン  
 上毛電氣鐵道(株) 群馬縣前橋  
 市一毛町二一五  
 社務取締役 長 大川平三郎  
 副社長 田中榮八郎  
 專務取締役 五十嵐小太郎  
 取締役 堀祐平  
 門野重九郎 勝山益太郎  
 田幡鐵太郎 永田甚之助  
 中野金次郎 森川抱次  
 杉立猛 西村四郎  
 監査役 村田龍司 澁谷正吉  
 村田龍司 本所區江東  
 橋四ノ二  
 取締役社長 大川平三郎  
 取締役 大倉發身  
 尾高豊作 木村雄次  
 石田友三郎 田幡鐵太郎  
 監査役 伊藤利三郎 石毛竹治郎

新大阪ホテル(株) 大阪市北區  
 中之島三ノ五  
 取締役會長 小倉正恒  
 常務取締役 加賀覺次郎  
 取締役 稻畑勝太郎 阿部房次郎  
 野村徳七 堀啓次郎  
 監査役 佐々木駒之助  
 高橋龍太郎 京橋區八丁堀  
 新興キネマ(株) 二ノ三ノ三  
 社務取締役 長 城戸四郎  
 副社長 堤友次郎  
 常務取締役 白井信太郎  
 取締役 山崎修一  
 田中周一 福井福三郎  
 吉村百太 高橋歳雄  
 常任監査役 宮川幸三郎  
 監査役 町田唯介  
 井上重正  
 新興毛織(株) 大阪市東淀川區  
 中津濱通一ノ九  
 社務取締役 長 河崎助太郎  
 取締役 伊藤竹之助 門野重九郎  
 平松徳三郎 高橋幸三  
 岡田彦治郎



主要銀行會社役員錄

【ス】

監査役 廣澤 耕作  
大橋新太郎 石井鐵太郎  
賀集 益藏  
新日本火災海上保險(株) 麴町  
區有樂町二ノ九  
社 長 金光 庸夫  
專務取締役 石川 國吉  
取 締 役 田村 周藏  
矢吹 健吾 長谷尾莞爾  
大川 義雄 金光 義邦  
監査役 横山 正射  
新井倅五郎 田幡鐵太郎  
仁壽生命保險(株) 麴町區内幸  
町一ノ一  
社 長 下郷 傳平  
專務取締役 吉澤鉦三郎  
常務取締役 瀧野多三郎  
下郷 義一 大川平三郎  
取 締 役 今村 奇男  
下出 民義 北河豊次郎  
監査役 松岡 潤吉  
田中榮八郎  
杉村倉庫(株) 大阪市港區北福  
崎西之町五  
社 長 飯尾 一二

常務取締役 山本 幸枝  
取 締 役 清水榮次郎  
菊池 文吾 南郷 三郎  
八代祐太郎 松原 務  
常任監査役 野村 徳七  
監査役 田中貞治郎  
鈴木商店味の素(株) 京橋區寶  
町一  
社 長 鈴木 忠治  
專務取締役 鈴木三郎助  
取 締 役 鈴木 六郎  
鈴木三千代 甘田誠三郎  
川口 福藏  
取 締 役 高梨新三郎  
取 締 役 井上 哲  
同副支配人 太田 惣七  
監査役 八代 則彦  
任友銀行 大阪市東區北濱五  
專務取締役 大平 賢平  
常務取締役 岡橋 林  
岡橋 盛次  
十龜 盛次  
取 締 役 住友吉左衛門  
堀 啓次郎 小倉 正恒  
今村 幸男 廣瀬助一郎  
常任監査役

監査役 植野繁太郎  
吉田 眞一 大阪市東區北濱五  
任友(合資) 住友吉左衛門  
社 長 小倉 正恒  
總 理 事 八代 則彦  
常務理事 松本 順吉  
理 事 今村 幸男 山本 信夫  
今村 幸男 古田俊之助  
國府 精一 古田俊之助  
任友金屬工業(株) 大阪市此花  
區島屋町五六  
取 締 役 小倉 正恒  
專務取締役 古田俊之助  
荒木 宏 古田俊之助  
常務取締役 田中 作二  
春田 弘 木下 亮吉  
取 締 役 川田 順  
山本 信夫 杉浦 稠三  
久島 精一 八代 則彦  
監査役 今村 幸男  
松本 順吉 淡輪 敏雄  
谷村徳太郎 大阪府東區北濱  
任友信託(株) 大阪府東區北濱  
五  
取 締 役 小倉 正恒  
專務取締役 今村 幸雄

常務取締役 今井 卓雄  
取 締 役 住友吉左衛門  
阿部彦太郎 吉田 眞一  
八代 則彦 齋藤 洲司  
監査役 岩田 宙造  
松本 順吉  
任友倉庫(株) 大阪市西區川口  
町  
取 締 役 小倉 正恒  
常務取締役 松井 孝長  
住友吉左衛門  
八代 則彦 川田 順  
監査役 松本 順吉  
今村 幸男 大阪市東區北濱  
任友炭礦(株) 大阪市東區北濱  
通五  
會 長 小倉 正恒  
常務取締役 古市 六三  
向野 美夫 郡島 正治  
坂 隆二 近藤宏太郎  
監査役 八代 則彦  
松本 順吉 山本 信夫  
任友電線製造所(株) 大阪市此  
花區恩貴島南之町六〇  
取 締 役 小倉 正恒  
專務取締役 小畑 忠良

八九六

住友化學工業(株)

常務取締役 別宮 貞俊  
取 締 役 山本 漢  
矢島 富造 秋山武三郎  
志田 文雄 ジー・フラム  
監査役 松本 順吉  
今村 幸男 大平 賢作  
北濱五ノ二二 大阪市東區  
住友化學工業(株)  
取 締 役 小倉 正恒  
專務取締役 大屋 敦  
常務取締役 矢崎 徳治  
羽室 廣一  
取 締 役 國府 精一  
山本 信夫 三村 起一  
續 任 八代 則彦  
監査役 松本 順吉  
村田 省藏 松本 順吉  
住友別子鑛山(株) 愛媛縣新居  
濱町  
取 締 役 小倉 正恒  
專務取締役 三村 起一  
常務取締役 荒川 英二  
取 締 役 住友吉左衛門  
川田 順 大屋 敦  
吉田 貞吉  
監査役 八代 則彦

住友生命保險(株)

村本 順吉 大阪市東區  
北濱五ノ二二  
取 締 役 小倉 正恒  
專務取締役 北澤敬二郎  
取 締 役 住友吉左衛門  
今村 幸男 八代 則彦  
橋本 重幸 松本 順吉  
監査役 植野繁太郎  
植野繁太郎 松本 順吉  
住友ビルディング(株) 大阪市  
東區北濱五ノ二二  
常務取締役 河井昇三郎  
取 締 役 小倉 正恒  
大平 賢作 川田 順  
日高 胖 八代 則彦  
監査役 松本 順吉  
松本 順吉 京橋區京橋  
スマトラ興業(株) 二ノ八  
社 長 相馬 半治  
專務取締役 有島 健助  
常務取締役 岩田 喜雄  
取 締 役 山本 叡  
監査役 稻見 忠  
井上 雅二

西武鐵道(株)

相談役 森村市左衛門  
支 配 人 小川 清  
西武鐵道(株) 淀橋區下落合二  
ノ二三五八  
社 長 山本 源太  
專務取締役 曾我 正雄  
取 締 役 根津嘉一郎  
大川平三郎 山崎覺太郎  
山崎 嘉七 増田 二郎  
佐藤 秀松 渡邊 甚吉  
岩瀬 悌 後藤 因彦  
監査役 齋藤 力 渡邊 新  
千秋社(合名) 千葉縣野田町  
代表社員 茂木七左衛門  
茂木順三郎 茂木佐平治  
高梨兵左衛門 茂木房五郎  
茂木勇右衛門 茂木啓三郎  
支 配 人 茂木 邦吉  
生保證券株式會社  
代表取締役 曄道 文藝  
取 締 役 藤助 讓  
堀田卯之助 朝吹 常吉  
木村 雄次 丹治 經三

大株代行(株)

太田 清藏 石坂 泰三  
監査役 成瀬 達  
大株代行(株) 大阪市東區北濱  
二ノ一  
社 長 黒川福三郎  
常務取締役 松崎勢太郎  
取 締 役 濱崎辨之介  
水野 重義 車谷馬太郎  
監査役 草川 求馬 片岡 音吾  
大東京鐵道(株) 麴町區内山下  
町二ノ一  
常務取締役 志村四方一  
取 締 役 前田 利彰  
島田純一郎 長田 馨  
中村 成秀  
監査役 長谷川猪三郎  
大同電力(株) 麴町區丸ノ内一  
ノ六ノ一  
社 長 増田 次郎  
常務取締役 藤波 收  
永松 利熊  
取 締 役 太田 光熙  
村瀬 末一 松永安左衛門

主要銀行會社役員錄

【ス・セ・タ】

八九七



主要銀行會社役員錄

【支】

宮寺 敏雄 師尾 誠治  
 田中 博 有村慎之助  
 杉山 榮 宮崎 彌作  
 寺田 甚吉 秋谷謙太郎  
 村瀬 末一 宇木 幸吉  
 常務監査役 下出 民義  
 監査役 伊丹 二郎  
 窪田 四郎 福澤 駒吉  
 萩原 拳吉

小野 耕一 矢島 富造  
 穴水嘉三郎 小野 連三  
 監査役 岡野喜太郎 八王子市横  
 山町  
 取締役頭取 安田善四郎  
 常務取締役 中原 哲夫  
 取締役 飯田 武也  
 安田 善彦 川島 貞造  
 監査役 兒島 健爾  
 支配人 佐藤 忠次  
 顧問 安田善次郎  
 大日本製紙(株) 麴町區飯田町  
 二ノ四 南 俊二  
 專務取締役 長野 芳英  
 常務取締役 堀 隆宗  
 監査役 海野 晋吉  
 高橋己之助 京橋區銀  
 多摩川水力電氣(株) 座西四ノ五  
 社 長 中島 守利  
 取締役 立川 太郎  
 村尾 重厚 山崎 龜吉  
 木村源兵衛

監査役 清水惠太郎 矢野 鉉吉  
 大日本セロイド(株) 堺市七  
 道西町二一七  
 取締役會長 森田 茂吉  
 取締役社長 西宗 茂二  
 專務取締役 小寺 新一  
 常務取締役 伊藤吉次郎  
 井上 逞吉 藤山 雷太  
 取締役 淺野 修一  
 平田篤太郎 淺野 修一  
 取締役 松本 五郎  
 監査役 昌谷 彰  
 安場 保健 岩井 豐治  
 矢井 惣治 麴町區丸ノ内  
 大日本製糖(株) 二ノ一八  
 社 長 藤山愛一郎  
 常務取締役 金澤冬三郎  
 藤山 九一 秋山孝之輔  
 取締役 庵地 佑吉  
 荒木 泰治 鷹見 五郎  
 月岡 一郎 永井 清次  
 監査役 小倉 敬止  
 田村藤四郎 二宮 貞  
 大日本炭礦(株) 京橋區京橋一

取締役會長 古賀 春一  
 常務取締役 館 香綠  
 取締役 松本孫右衛門  
 原安三郎 增田 侃  
 監査役 目黒區三田二  
 大日本麥酒(株) 四七  
 取締役會長 大橋新太郎  
 專務取締役 高橋龍太郎  
 常務取締役 渡邊 得男  
 山本爲三郎 高杉 晋  
 取締役 松丸 蔚  
 橋本卯太郎 根津 喧吉  
 大倉 象馬 柴田 清  
 常任監査役 辰馬 悅藏  
 植村 泰二 宮島清次郎  
 福島 茂富 小坂 順造  
 大日本紡績(株) 一ノ五〇  
 社 長 菊池 恭三  
 常務取締役 小寺 源吾  
 今村 奇男 倉田 敬三  
 田代 重三 松村 壽成

八九八

主要銀行會社役員錄

【支】

木咲利之助 大島 茂  
 野村菊之助 三村 和義  
 監査役 伊藤 萬助  
 岩田宗次郎 辰馬 悅藏  
 池田 科三 原田 忠雄  
 大日本蓄音器 西宮市今津  
 社 長 白山善五郎  
 取締役 泉 彌市  
 木村 精 内藤 武夫  
 武中 藤吉 細井 勇  
 白山茂次郎 上村長兵衛  
 監査役 西村齊次郎  
 大丸(株) 大阪市南區心齋橋筋  
 一ノ一八  
 社 長 下村正太郎  
 專務取締役 里見 純吉  
 常務取締役 下村昇之助  
 石本 音彦 森 八郎助  
 取締役 竹村清次郎  
 西村齊次郎 富尾 留雄  
 安田孝次郎 市田文次郎  
 小野 雄作 間坂松次郎  
 監査役 市川吉太郎  
 大連汽船(株) 大連市山縣通一

九五 長 安田 征  
 專務取締役 川村 龍雄  
 常務取締役 高木 磐雄  
 吉富 金一 高木 磐雄  
 取締役 築島 信司  
 吉富 金一 武部治右衛門  
 富濱 竹松 江崎 重吉  
 監査役 八木 開一  
 大連中央土地(株) 麴町區丸ノ  
 内二ノ一二  
 社 長 若尾 璋八  
 常務取締役 笠原 正二  
 取締役 田村 喧三  
 佐々木第吉 松下文太郎  
 監査役 大連市山  
 大連取引所信託(株)  
 縣通二二四  
 專務取締役 田村 羊三  
 取締役 福田顯四郎  
 村井啓太郎 鈴木茂兵衛  
 曲子 源 古澤 丈作  
 監査役 瓜谷 長造 相生常三郎  
 安 慈 民

大連農事(株) 大連市薩摩町一  
 五七  
 代表取締役 大藏 公望  
 取締役 柄内壬五郎  
 千葉 豐治 白濱多太郎  
 松島 鑑  
 太平洋炭礦(株) 日本橋區室町  
 二ノ一  
 取締役會長 木村久太郎  
 取締役 西 加二太  
 松方 正熊 間瀬 三郎  
 大東 藤吉  
 監査役 富田 太郎  
 古賀三千人 清水 源助  
 臺灣銀行(株) 臺北市榮町二ノ  
 一  
 頭取 保田 次郎  
 副頭取 吉田 勉  
 理事 荒木正次郎  
 近藤 清三 山本 健治  
 常任監査役 加藤榮一郎  
 監査役 曾我 祐邦  
 柳 悅 耳  
 本店支配人 土居 政次  
 臺灣製糖(株) 臺灣屏東市歸來  
 八七三

專務取締役 武智 直道  
 取締役 益田 太郎  
 取締役 草鹿砥祐吉  
 鳥井 信平 朝吹 常吉  
 監査役 丸田治太郎  
 臺灣電力(株) 臺北市書院町  
 社 長 松木幹一郎  
 副社 長 安達房次郎  
 理事 後藤 曠二  
 野口 敏治 野澤外茂吉  
 監 事 後宮信太郎  
 八條 正隆 明石 照男  
 第一銀行(株) 麴町區丸ノ内一  
 頭取 杉田 富  
 常務取締役 杉田 富  
 濫澤 敬三 田中 二郎  
 取締役 石井 健吾  
 加納友之介 尾上登太郎  
 佐々木修二郎 小平 省三  
 監査役 大澤 佳郎  
 野口 弘毅 永井 啓  
 第一生命保險(相互) 京橋區京  
 橋三ノ一  
 社 長 矢野 恒太

八九九



主要銀行會社役員錄

【多】

專務取締役 石坂 泰三  
 取締役 大橋新太郎  
 森村市左衛門 今村 繁三  
 服部 玄三  
 常任監査役 伊藤萬太郎  
 監査役 濱口吉兵衛  
 小林 一三  
 第五十九銀行(株) 弘前市親方  
 町一九  
 頭取 宇野 勇作  
 副頭取 佐々木嘉太郎  
 專務取締役 大原 胤夫  
 常務取締役 鹿俣徳四郎  
 西田 亮  
 取締役 宮川久一郎  
 渡邊 佐助 佐賀清太郎  
 監査役 工藤 惣助  
 宇野 善造 坂上五郎兵衛  
 安田 才助  
 第三銀行(株) 日本橋區兜町一  
 頭取 安田善四郎  
 專務取締役 大泉 哲  
 取締役 藤山 雷太  
 森脇 榮  
 取締役 北川 慶治  
 監査役 渡邊善十郎

飯田 武也  
 副支配人 安田善八郎  
 川越市 明石幸三郎  
 山崎 嘉七  
 淺野 捨治  
 第八十五銀行(株)  
 取締役頭取 綾部利右衛門  
 監査役 山田 房吉  
 新潟市東堀前通  
 第七番町  
 頭取 白勢 春三  
 池田 正平  
 田卷堅太郎  
 上田 弘毅  
 南部 虎造  
 藤田 簡吉  
 八木 孝助  
 第十銀行(株) 甲府市常磐町四  
 頭取 細田 武雄  
 矢島 榮助  
 山本 彦吉  
 牛山榮太郎  
 淺川 湖朗  
 寺田 七男  
 海新 祐六  
 監査役 寺田 七男  
 第二富士電力(株)  
 内一ノ六  
 取締役社長 廣岡 惠三  
 副社長 廣岡久右衛門  
 常務取締役 平澤 眞  
 取締役 松井 萬綠  
 加輪上勢七 増山 富次  
 入部 泰藏  
 監査役 廣岡松三郎  
 祇園清次郎 江見濱五郎  
 大日本自轉車(株)  
 橋一ノ二ノ一  
 社長 岡崎久次郎  
 常務取締役 江田 忠吉  
 取締役 大川平三郎  
 田中榮八郎 岡崎 進  
 監査役 澁谷 正吉  
 下村齊次郎 大西 良輔  
 大福海上火災保險(株)  
 東區淡路町三  
 取締役社長 鈴木 祥枝  
 專務取締役 太田 貞己  
 取締役 松方 正雄  
 松方 重平 大谷 順作  
 押本 重平  
 太平火災海上保險(株)  
 區吳服橋一ノ三ノ一四  
 取締役社長 南 莞爾

取締役會長 森村市左衛門  
 代表取締役 朝倉 每人  
 日比谷平左衛門  
 川崎 榮助 棚橋琢之助  
 山口喜三郎 關本 英作  
 素木 晃治 彭城嘉津馬  
 木村平右衛門 柳 莊太郎  
 監査役 佐佐木行忠  
 櫻井 好一 高橋 朴平  
 室伏 完 鹿兒島市  
 第四百七十七銀行(株)  
 金生町五四  
 頭取 湯池 定敏  
 常務取締役 大磯 岩熊  
 大坪岩次郎  
 取締役 海江田金次郎  
 島津 隼彦 岩元玄十郎  
 原田 耕夫  
 監査役 藤武 喜助  
 山元 修一 藤安新之助  
 高岡市守山町  
 高岡銀行(株)  
 頭取 高岡 次平  
 常務取締役 正村六之助  
 取締役 菅野傳右衛門  
 荒井 健三 宮林彦九郎  
 佐藤助九郎 米澤 元吉

米田元治郎 室崎 間平  
 監査役 櫻井宗一郎 蓑 彦九郎  
 荒木 文平 百塚庄太郎  
 高島屋(株) 京都市下京區烏丸  
 通高辻下ル因幡堂町六六一  
 社長 飯田 新七  
 專務取締役 飯田直次郎  
 取締役理事 橋爪 源吾  
 村松善次郎 細原 租一  
 林田猶次郎 飯田新太郎  
 大澤徳太郎 原 邦造  
 監査役 飯田藤二郎  
 片岡 鐵雄 竹田量之助  
 成瀬 達  
 高松百十四銀行  
 四六  
 專務取締役 高松市丸龜町  
 常務取締役 鹽田伊三郎  
 富山 玄七 里見 信三  
 取締役 品治 隆  
 今井 傳太 下津 撥一  
 大西虎之介  
 監査役 北村 苟吉  
 都崎發太郎 細溪宗次郎  
 玉川電氣鐵道(株) 澁谷區大和

九〇〇

主要銀行會社役員錄

【多】

田町一  
 社長 平沼 亮三  
 常務取締役 鶴飼 重雄  
 取締役 井上篤太郎  
 金光 庸夫 村瀬 末一  
 監査役 金澤冬三郎  
 後藤 園彦  
 大正海上火災保險(株) 麴町區  
 丸之内二ノ一六ノ二  
 取締役會長 飯沼 剛一  
 常務取締役 永井又二郎  
 取締役 齋藤 浩介  
 向井 忠晴 南條 金雄  
 北村兵四郎 丹羽 義次  
 監査役 津田 弘視  
 三上 勝  
 大正生命保險(株) 麴町區有樂  
 町二ノ九  
 社長兼專務取締役 金光 庸夫  
 取締役 植村 俊平  
 田村 周藏 金光 義邦  
 新井倬五郎 磯田 正朝  
 監査役 鈴木岩治郎  
 大同生命保險(株) 大阪市西區  
 土佐堀一ノ一

取締役社長 廣岡 惠三  
 副社長 廣岡久右衛門  
 常務取締役 平澤 眞  
 取締役 松井 萬綠  
 加輪上勢七 増山 富次  
 入部 泰藏  
 監査役 廣岡松三郎  
 祇園清次郎 江見濱五郎  
 大日本自轉車(株)  
 橋一ノ二ノ一  
 社長 岡崎久次郎  
 常務取締役 江田 忠吉  
 取締役 大川平三郎  
 田中榮八郎 岡崎 進  
 監査役 澁谷 正吉  
 下村齊次郎 大西 良輔  
 大福海上火災保險(株)  
 東區淡路町三  
 取締役社長 鈴木 祥枝  
 專務取締役 太田 貞己  
 取締役 松方 正雄  
 松方 重平 大谷 順作  
 押本 重平  
 太平火災海上保險(株)  
 區吳服橋一ノ三ノ一四  
 取締役社長 南 莞爾

常務取締役 安東 貫一  
 取締役 安田善五郎  
 田村 新吉 青木謙太郎  
 奧 主一郎 竹内瀧次郎  
 原 靜男 安田善八郎  
 監査役 望月軍四郎  
 望月軍四郎 安田善八郎  
 町一ノ三  
 社長 根津嘉一郎  
 專務取締役 吉田 義輝  
 取締役 福島 富茂  
 監査役 森 平兵衛  
 太陽產業(株) 麴町區丸ノ内二  
 一ノ八  
 社長 星野 錫  
 常務取締役 尾中 勝也  
 小田島 季吉  
 取締役 高橋熊次郎  
 檀野 禮助 坂井 正義  
 常任監査役 高木 秀夫  
 監査役 笠井愛次郎  
 大路生命保險(株)  
 戶橋二ノ八  
 社長 西脇濟三郎  
 專務取締役 清水文之輔

常務取締役 難波誠四郎  
 取締役 西脇 健治  
 監査役 伴野 乙彌  
 島 貢介 伴野 乙彌  
 臺灣肥料(株) 基隆市田寮町九  
 五  
 社長 二神 駿吉  
 常務取締役 竹田 義治  
 取締役 田中榮八郎  
 中辻喜次郎 石川 一郎  
 藤川 類藏 苦米地義三  
 監査役 後宮信太郎  
 古賀三千人 山下 三郎  
 第一製藥(株) 日本橋區江戶橋  
 三ノ一  
 社長 津村 重舍  
 專務取締役 池田 文次  
 取締役 篠田 淳三 星野 石松  
 監査役 遠山市郎兵衛  
 谷井千次郎  
 第一相互貯蓄銀行(株) 京橋區  
 京橋三ノ一  
 頭取 矢野 恒太  
 專務取締役 本間 好茂  
 取締役 後藤徳太郎

九〇一



主要銀行會社役員錄

【タ・チ】

九〇二

石川善太郎 監査役 鈴木六郎	桑原安二 濱口吉兵衛	萩原甲太郎 常任監査役 監査役	登倉源吾 吉田敬三 高橋熊三 川崎甲子男 京橋區京	中國銀行 岡山市内山下三〇ノ	深谷辰次郎 三輪善兵衛 監査役 渡邊得男	柿原龜吉 淺野總一郎 鈴木六郎
第一徵兵保險(株) 西三ノ三ノ一	京橋區銀座	千代田火災保險(株) 橋二ノ二一	京橋區京	中國合同電氣(株) 川町一五	秩父鐵道(株) 三	熊谷市熊谷一三
玉塚商店(株) 日本橋區江戸橋	玉塚榮次郎 鈴木次郎吉 水谷直吉 南謙吉 大原文次郎	中央電氣(株) 高田市大町二丁	今井五介 國友末藏	秩父セメント(株) 社内	朝鮮銀行 京城府南大門通三ノ	加藤敬三郎 松原純一 色部貢 小島誠 松平康春
千葉合同銀行(株) 六六五	千葉市千葉	朝鮮送荷(株) 二ノ一〇	京城府南大門通	朝鮮鐵道(株) 京城府古市町一	千歲火災海上再保險(株) 區京橋二ノ二ノ一	門野幾之進 樺山愛輔 成瀬正行 角利一 赤星鐵馬 山名次郎 京橋區京
安那天安邑 取締役會長 副社長 專務取締役 取締役 佐久間俊一 不破重兼 常務監査役 監査役	國澤新兵衛 藤川利三郎 澤崎修 深川奎三郎 松下榮 井上賢太郎 吉田道夫 韓翼致	朝鮮信託(株) 一ノ一十	京城府南大門通	朝鮮無煙炭(株) ノ五三	千代田證券投資(株) 橋一ノ二ノ七	赤星鐵馬 山名次郎 京橋區京
朝鮮石炭工業(株) 川郡西面三郷洞五〇〇	成鏡北道明	朝鮮窒素肥料(株) 南邑湖南里	成鏡南道興	朝鮮鐵道(株) 京城府本町一	千代田生命保險(互) 橋二ノ二	京橋區京
取締役社長 常務取締役 取締役 吉川貢 監査役 時安一郎	野口遼 工藤宏規 金田榮太郎 都野正一 大島英吉	取締役社長 常務取締役 取締役 市川誠次	野口宗城 桐島像一 永里高雄	大石武夫 萩生傳 長谷川太郎吉 常務取締役 取締役 賀田直治 野田董吉	大島英吉 堀啓次郎 金田榮太郎 東條正平 山本繁松 朴榮喆 金光庸夫	門野幾之進 樺山愛輔 成瀬正行 角利一 赤星鐵馬 山名次郎 京橋區京

主要銀行會社役員錄

【チ】

九〇三

安那天安邑 取締役會長 副社長 專務取締役 取締役 佐久間俊一 不破重兼 常務監査役 監査役	國澤新兵衛 藤川利三郎 澤崎修 深川奎三郎 松下榮 井上賢太郎 吉田道夫 韓翼致	朝鮮信託(株) 一ノ一十	京城府南大門通	朝鮮無煙炭(株) ノ五三	千代田證券投資(株) 橋一ノ二ノ七	赤星鐵馬 山名次郎 京橋區京
朝鮮石炭工業(株) 川郡西面三郷洞五〇〇	成鏡北道明	朝鮮窒素肥料(株) 南邑湖南里	成鏡南道興	朝鮮鐵道(株) 京城府本町一	千代田生命保險(互) 橋二ノ二	京橋區京
取締役社長 常務取締役 取締役 吉川貢 監査役 時安一郎	野口遼 工藤宏規 金田榮太郎 都野正一 大島英吉	取締役社長 常務取締役 取締役 市川誠次	野口宗城 桐島像一 永里高雄	大石武夫 萩生傳 長谷川太郎吉 常務取締役 取締役 賀田直治 野田董吉	大島英吉 堀啓次郎 金田榮太郎 東條正平 山本繁松 朴榮喆 金光庸夫	門野幾之進 樺山愛輔 成瀬正行 角利一 赤星鐵馬 山名次郎 京橋區京



主要銀行會社役員錄

監査役 麻生義一郎  
名取和作 銚子市若宮町二ノ五

社長 濱口吉兵衛  
常務取締役 濱口麟藏  
取締役 遠山市郎兵衛  
濱口録之助 篠木茂  
山崎善一 上野山重太夫  
監査役 木村平右衛門  
津村重舍 嵯峨實勝  
濱口久常 深井吉兵衛

中部共同火力(株)

社長 松永安左衛門  
専務取締役 三宅 稔一  
常務取締役 小山熊治郎  
小山 柳一 吉原隆之助  
取締役 池尾芳藏  
岸田幸雄 高石辨吉  
眞野正雄 宮川竹馬  
藤波收 清水收吉  
監査役 福澤 駒吉  
増田次郎 太田 光熙  
久留島政治

鶴見臨港鐵道(株)

麴町區九ノ

〔ツ・テ〕

内一ノ六  
社長 白石元治郎  
副社長 淺野 良三  
常務取締役 山田 胖  
關 毅 大川平三郎  
取締役 津下紋太郎  
石井 徹 山田三三郎  
監査役 田中 謙造  
鈴木紋次郎 正田貞一郎  
兒玉 國雄 杉本 甚藏

帝國火災保險(株)

町一ノ二  
社長 川崎甲子男  
副社長 大原 祥一  
常務取締役 辻 重治  
取締役 山崎 清  
橋本 龍一 佐藤龜八郎  
鈴木茂兵衛 河合 良成  
古莊四郎彦 川崎 肇  
監査役 久米 孝藏 生明市太郎  
久留島政治 麴町區九ノ

取締役 深尾 七郎  
有本 完 田林喜三郎  
監査役 磯部英一郎 長崎 英造  
帝國海上火災保險(株) 麴町區  
大手町一ノ六  
社長 阿部 壽準  
常務取締役 林 季彦  
専務取締役 戸倉光太郎  
菊池 文吾 安田善五郎  
取締役 安田 善衛 三宅龜三郎  
倉田 康太 南 莞爾  
監査役 佐々田三郎  
帝國人造絹糸(株) 大阪市北區  
中ノ島二江東ビル内  
社長 久村 清太  
常務取締役 永田 與  
秦 逸三 永野 護  
取締役 岡崎 旭 吉岡 豊  
岡崎 義房 間室 壽人  
東川 義房 宇田 成和  
監査役 宇田 成和  
帝國製糖(株) 臺中市高砂町一

帝國製麻(株)

社長 伊東 祐吉  
監査役 廣瀬徳次郎  
支配人 日本橋區室町一  
常務取締役 安田善次郎  
下河邊行一 河路 路三  
取締役 伊藤 忠三 大橋新太郎  
伊藤 善五郎 平塚 直治  
安田善五郎 玉木誠次郎  
監査役 蒲澤 安吉 飯田藤二郎  
塚越丘二郎 麴町區有樂  
電氣化學工業(株)  
町 小林 正直  
専務取締役 近藤 鏡次  
常務取締役 岡田 光治  
日比 勝治 大橋新太郎

羽村 協輔 伊東二郎丸  
柳 莊太郎 金子 武磨  
監査役 植村澄三郎  
間島 與喜 黒川福三郎  
帝都電鐵(株) 澁谷區千駄ヶ谷  
町五ノ八六二  
社長 利光 鶴松  
副社長 安東 龍五  
常務取締役 楠 熊治郎  
川又貞次郎 中川小十郎  
池邊 稻生 利光 學一  
宇井 孝三 井上敬次郎  
監査役 中野勇次郎

帝國生命保險(株)

内一ノ一  
社長 朝吹 常吉  
専務取締役 名取 夏司  
取締役 矢野 義弓  
福原 信三 古河 從純  
高木 喜寛 宇佐美辰五郎  
監査役 窪田隆次郎 小西喜兵衛  
帝國ホテル(株) 麴町區内山下

主要銀行會社役員錄

帝國人造肥料(株)

市大正區船町一〇  
社長 白石元治郎  
専務取締役 田中利喜三  
取締役 大川平三郎  
田中榮八郎 石川 一郎  
加島安治郎 中野 靜夫  
監査役 井上幸一郎 山下 市助

土左セメント(株)

五三四七  
社長 高知市潮江  
副社長 淺野總一郎  
常務取締役 増山 忠次  
入谷 春彦 下元鹿之助  
取締役 溝淵 辨助

〔テ・ト〕

土左電氣(株)

高知市本町三三  
社長 宇田 耕一  
取締役 森 淳太郎  
川崎庄五郎  
片岡 武雄  
中野常三郎

東京貯藏銀行(株)

一丁目五ノ八  
取締役頭取 原 邦造  
常務取締役 本城郡治郎  
取締役 野口 修三  
専任監査役 町田徳之助  
監査役 丸田 可平  
青木鐵太郎 奥田 操  
東亞興業(株) 麴町區九ノ内二

東亞殖産(株)

麴町區九ノ内  
社長 山口 治作  
専務取締役 坂井 正義  
取締役 大山斐瑛磨  
監査役 宮内 榮

東亞煙草(株)

麴町區九ノ内二  
社長 金光 庸夫  
専務取締役 富澤 充  
取締役 松尾 晴見  
取締役 井上 健彦 岩波藏三郎  
川村 桃吉 金光 秀文  
監査役 山本節次郎 秀村 得一  
東株代行(株) 日本橋區兜町  
取締役社長 遠山 元一



主要銀行會社役員錄

【下】

專務取締役 小山正之助  
 取締 鈴木圭三  
 渡邊善十郎 平野長藏  
 望月乙彦 山口富次郎  
 常任監査役 三上良兼  
 監査役 山中清兵衛  
 德田昂平 麴町區大手

東京火災保險(株)  
 町一ノ六  
 社長 南莞爾  
 常務取締役 菊池文吾  
 取締 安田善五郎  
 大橋新太郎 川西龍三  
 監査役 川崎清男  
 高橋是賢 林季彦  
 東京瓦斯(株) 麴町區丸ノ内一ノ六  
 社長 井坂孝  
 常務取締役 都留信郎  
 取締 太田半六  
 原邦造 橋本圭三郎  
 朝吹常吉 江口鶴雄  
 磯村豊太郎 神谷啓三  
 同兼支配人 岩村榮次郎  
 常任監査役 小山完吾

監査役 關谷兵助  
 松本蒸治 日本橋區  
 東京株式取引所(株) 兜町一ノ六  
 理事 杉野喜精  
 專理 坂三夫  
 常理 大串三夫  
 森孫一 松本孫右衛門  
 南波禮吉 望月軍四郎  
 藤山愛一郎 勝部兵助  
 常監 窪田四郎  
 監査役 窪田四郎  
 菅禮之助 窪田四郎

東京海上火災保險(株) 麴町區丸ノ内一ノ六  
 取締役會長 各務鎌吉  
 常務取締役 鈴木祥枝  
 取締 龜山俊藏 八卷連三  
 堀内泰吉 岩崎小彌太  
 取締 桐島像一 間島興喜  
 串田萬藏 小菅金造  
 監査 永原伸雄  
 加藤武男 小野十郎  
 東京製綱(株) 日本橋區吳服橋

三ノ五 專務取締役 赤松範一  
 常務取締役 戶村理順  
 取締 大倉象馬 深山正  
 濫澤信雄 藤田好三郎  
 監査役 野口彌三  
 東京建物(株) 日本橋區吳服橋  
 三ノ七ノ三 常務取締役 宮本繁次郎  
 取締 大倉象馬 安田善五郎  
 川崎清男 大橋新太郎  
 池田眞結 小山傳治  
 東京地下鐵道(株) 神田區須田  
 町一ノ一六 社長 根津嘉一郎  
 專務取締役 早川徳次  
 取締 大川平三郎 野村龍太郎  
 大川平三郎 増田義一  
 愛甲勇吉 星野錫  
 監査 穴水熊雄  
 東京電氣(株) 川崎市堀川町七  
 專務取締役社長 山口喜三郎

九〇六 專務取締役副社長 エツチ・ユー・ヒヤース  
 取締 津野應輔  
 津守豊治 立川龍  
 W・K・フアラ  
 森崎市左衛門  
 監査役 大塚榮吉  
 石井伍四郎 平田篤次郎  
 東京電燈(株) 芝區田村町一ノ一ノ二  
 取締役會長 郷誠之助  
 社長 小林一三  
 常務取締役 河西豊太郎  
 五十嵐直三 廣瀬爲久  
 取締 大橋新太郎 太刀川平治  
 本間利雄 松永安左衛門  
 鈴木忠治 田島達策  
 新井章治 伊東三郎  
 常任監査役 萩原拳吉  
 監査 戸澤芳樹  
 東京モスリン紡績(株) 向島區  
 吾嬬町西三ノ一 社長 鶴見左吉雄  
 常務取締役 楠本吉次郎

杉本徳三 白石徳三郎  
 取締 小松恒太郎 木村雄次  
 監査 犬塚勝之丞 金子良吉  
 東京横濱電鐵(株) 品川區上大崎四ノ二三九  
 專務取締役 五島慶太  
 常務取締役 篠原三千郎  
 取締 中川正左 緒明圭造  
 小宮次郎 丹羽武朝  
 常任監査役 澁澤秀雄  
 監査 守隨眞一郎  
 渡邊利二郎 麴町區丸ノ内一ノ六ノ一  
 東京灣埋立(株)  
 社長 淺野總一郎  
 專務取締役 大川平三郎  
 白石元治郎 淺野義夫  
 取締 關毅 阪谷芳郎  
 太田清藏 安田善五郎  
 淺野良三 乙竹茂郎  
 監査 渡邊利二郎  
 尾高豊作 淺井弘吉

東山農事(株) 麴町區丸ノ内二ノ一四  
 專務取締役 坂本正治  
 常務取締役 齋藤延  
 取締 岩崎隆彌 桐島像一  
 監査 前田幸太郎 深井三男  
 東信電氣(株) 京橋區寶町一ノ七  
 社長 鈴木忠治  
 專務取締役 森瀧之介  
 取締 高橋保 川崎友之介  
 浦山助太郎 廣瀬爲久  
 三野熊雄 白勢量作  
 石渡吉治 小坂順造  
 監査 宮口竹雄 高梨新三郎  
 宮口竹雄 鈴木三郎助  
 東神倉庫(株) 日本橋區箱崎町三ノ一二  
 會長 武村貞一郎  
 常務取締役 加藤直法  
 手島知健 島田勝之助  
 取締 高木清

監査 門野鍊八郎  
 三井高途 芝區田村町一ノ一  
 東電證券(株) 小林一三  
 社長 河西豊太郎  
 取締 五十嵐直三 太刀川平治  
 監査 本間利雄 新井章治  
 東武鐵道(株) 本所區小梅町一ノ一  
 社長 根津嘉一郎  
 專務取締役 吉野傳治  
 取締 前田利定 根津啓吉  
 中川正左 畑中四郎  
 常任監査役 須田宣  
 監査 宇都宮政市 正田貞一郎  
 東部電力(株) 京橋區銀座四ノ三ノ二  
 社長 橋本萬之介  
 常務取締役 堀内弟助  
 取締 江幡新 穴水熊雄  
 矢島富造 田中榮八郎

九〇七 監査 加納友之介  
 七島徳太郎 檜原啓藏  
 東邦瓦斯(株) 名古屋市中區御所町字高繩手三〇  
 社長 都留信郎  
 常務取締役 藤本憲治  
 池田増太郎 永瀧松之輔  
 取締 岡谷惣助 塚田實則  
 石黒英一 服部直吉  
 監査 大喜多寅之助 松永安左衛門  
 豐田利三郎 青木鎌太郎  
 東邦證券保有(株) 麴町區丸ノ内一ノ六ノ一  
 社長 井手徳一  
 取締 鈴木春 宮川竹馬  
 名取和作 田邊九萬三  
 中村庄吉 進藤甲兵  
 監査 竹岡陽一  
 東邦電力(株) 麴町區丸ノ内一ノ六ノ一  
 社長 松永安左衛門  
 專務取締役 海東要造

主要銀行會社役員錄

【上】



主要銀行會社役員錄

進藤 甲兵 宮川 竹馬
取締 岡本大右衛門
名取 和作 井手 徳一
堀 三太郎 西川 信一
監査 役 各務幸一郎
門野幾之進 大島小太郎
角田 正喬 豊本利三郎
東洋毛絲紡績(株) 大阪市東區
伏見町五ノ四二
社 長 河崎助太郎
取締 役 竹村清次郎
伊藤竹之助 田附政次郎
田村駒治郎 竹中 源助
岡田彦島郎 高津 忠
監査 役 伊藤 傳七
高橋 幸三
東洋拓殖(株) 麴町區川下町一
ノ一
總 裁 高川 長幸
理事 渡邊 忍
窪寺 勲 佐方文次郎
大志摩孫四郎
常任理事 小椋 長吾
監 事 福本元之助
石鎮 衛 大阪市北區堂島

濱通二ノ八
會 社 長 阿部房次郎
專務取締役 庄司 乙吉
種田 健藏 伊藤 傳七
取締 役 關 桂三
中川 秀一 谷口豊三郎
作川鐸太郎 土屋喜太郎
川口 正雄 澤 重保
監査 役 阿部彦太郎
齋藤 恒一 川邊 清亮
神野金之助 九鬼 紋七
東洋棉花(株) 大阪東區高麗橋
三ノ一
會 長(專) 權野 健三
常務取締役 塚田 公太
取締 役 石田 禮助
太田 靜男 笹倉貞一郎
戶川 演男 已斐 平二
仲谷 芳雄 國松祐次郎
監査 役 嶋 專吉
堤 祐三 永田 泰造
東洋レーヨン(株) 日本橋區室
町二ノ一
會 社 長 安川雄之助
專務取締役 辛島 淺彦

常務取締役 井上 治一
若林卯三郎 小澤 武
取締 役 南條 金雄 井上治兵衛
笹木 梢 平田篤次郎
監査 役 岡本 省胤 武村貞一郎
同興紡績(株) 上海楊樹浦路第
二〇八六號
社 長 飯尾 一二
常務取締役 立山 團三
取締 役 隅田 光藏
谷口豊三郎 秋田 久
鳥羽智加造
監査 役 坂田 幹太
竹中 源助 岸本勘左衛門
豐田紡績(株) 名古屋西區米
田町一七一六
社 長 豐田 佐助
常務取締役 豐田利三郎
取締 役 豐田喜一郎
西川 秋次 鈴木 利藏
岡本藤次郎 岡本藤次郎
取締 役 支配人 岡本藤次郎
監査 役 藤野勝太郎 竹内 賢吉

豐田紡績廠(株) 上海極司非而
路二〇〇號
社 長 豐田利三郎
專務取締役 西川 秋次
常務取締役 石黒 昌明
取締 役 豐田喜一郎
監査 役 藤野勝太郎 鈴木 利藏
東海鋼業(株) 麴町區丸ノ内一
ノ二ノ一
社 長 大川平三郎
取締 役 白石元治郎
田中榮八郎 片川謹一郎
岡崎久次郎 鈴木 柚藏
大橋不二雄 長谷川太郎吉
監査 役 岡崎 博
大西 良輔 赤坂區表町
東京高速鐵道(株) 二ノ一五
社 長 門野重九郎
專務取締役 脇 道譽
常務取締役 五島 慶太
取締 役 脇田 駿
金光 庸夫 井上敬次郎
井上篤太郎 鶴飼 重雄

根津嘉一郎 利光 鶴松
黑河内四郎
監査 役 堀井卯之助
松本 蒸治 小林 一三
芝區汐留沙
東京合同運送(株)
留驛構内
社 長 中野金次郎
專務取締役 三橋 豊吉
取締 役 羽田 和輔
宮川 庸三 井上 良平
大森辰三郎 中野都司男
監査 役 吉村 佐平
豐住輝日出

常務取締役 佐々木與一
取締 役 石井 健吾
田中 一馬 明石 照男
近藤 良顯
監査 役 白石喜太郎
田中 猛 白石喜太郎
東京動産火災保險(株) 日本橋
區通三ノ二
社 長 反町 茂作
常務取締役 伊原 全郎
取締 役 神谷 忠雄
岩崎 清七 三上 英夫
監査 役 大塚 健治
中島 伊平 黒田善太郎
東京汽船(株) 京橋區越前堀
一ノ三〇ノ三
社 長 林 甚之丞
專務取締役 鈴木富太郎
取締 役 井坂 孝
小田切忠治 永野 護
岩倉 具光 小林 中
吉野 傳治 山下 太郎
監査 役 田中榮八郎
伊藤忠兵衛 久保田正治
須田 宜 松下 榮
東京電氣(株) 芝區田村町一
敬三

代表取締役 河西豊太郎
取締 役 五十嵐直三
新井 章治 萩原 拳吉
監査 役 中澤謙之助
東京灣土地(株) 深川區東陽町
二ノ四
會 社 長 門野重九郎
專務取締役 高橋辰次郎
取締 役 太田 清藏
酒井 榮藏 松下外次郎
岡田金之助 大倉 余馬
監査 役 今井善八郎 河崎兵吉郎
東神火災保險(株) 日本橋區通
三ノ二
社 長 反町 茂作
常務取締役 三上 英夫
取締 役 岩崎 清七
神谷 忠雄 猪熊 忠次
黒田善太郎 中島 伊平
監査 役 伊原 全郎 大塚 建治
東邦火災保險(株) 京橋區銀座
西五ノ一

社 長 栗津 清亮
取締 役 白勢 二朔 吉田龜三郎
藤田 俊克 近藤 成虎
監査 役 吉田猪太郎 星野 錫
吉田猪太郎 井上市次郎
東京火災保險(株) 麴町區大手
町二ノ二
社 長 南 莞爾
常務取締役 松室 重生
取締 役 安田善五郎
安田善八郎 杉山岩三郎
監査 役 田中 信一郎 安田貞四郎
東洋汽船(株) 麴町區丸ノ内一
ノ六ノ一
社 長 淺野 良三
專務取締役 高橋 勇
取締 役 淺野總一郎
大川平三郎 白石元造裏
橋本梅太郎 倉田 庫太
監査 役 河合 潔 田中榮八郎
東洋高壓工業(株) 日本橋區室
町二ノ一
會 社 長 中井 四郎

員錄

東京寶塚劇場(株)
町一ノ二ノ二
代表取締役 小林 一三
專務取締役 吉岡重三郎
取締 役 岸本兼太郎
潤吉 鈴木三郎助
八馬 兼介 秦 豊吉
今村 信吉 日本橋區茅
日本橋區茅

東京電氣(株)
芝區田村町一
敬三

東京火災保險(株)
西五ノ一

東京高壓工業(株)
町二ノ一
會 社 長 中井 四郎